

**第3次田辺市男女共同参画プラン策定
に係るアンケート調査
結果報告書
(市民アンケート調査)**

**令和5年3月
田辺市**

目 次

I	市民アンケート調査の概要	1
1	調査の目的	1
2	調査概要	1
3	報告書の見方	1
II	市民アンケート調査結果のまとめ	2
III	市民アンケート調査結果	8
1.	あなたご自身のことについて	8
2.	男女平等について	9
3.	家庭内の役割分担や子育てについて	40
4.	社会活動・地域活動等について	84
5.	仕事について	112
6.	男女の人権について	133
7.	性的少数者の方の人権について	181
8.	これから必要な施策について	183
IV	自由回答	185
V	調査票	191

I 市民アンケート調査の概要

1 調査の目的

本調査は、「第2次田辺市男女共同参画プラン」の見直しにあたり、市民の皆さまのお考えをお聞かせいただくために実施しました。

2 調査概要

項目	市民アンケート調査
調査対象者	市内在住の18歳以上の方
調査期間	令和4年9月29日(木)～10月31日(月)
調査方法	郵送配布・郵送回収による本人記入方式 またはWEBによる回答方式
対象者数	2,000人(郵送配布)(無作為抽出男女各1,000人) 不特定多数(広報、報道依頼による呼びかけ)
有効回収数	672件
有効回収率(※)	33.6%(参考)

※有効回収率について、市民アンケート調査では調査票の郵送配布数を分母として計算しています。

3 報告書の見方

- ◇回答結果の割合「%」は有効サンプル数に対して、それぞれの回答数の割合を小数点以下第2位で四捨五入したものです。そのため、単数回答(複数の選択肢から1つの選択肢を選ぶ方式)であっても合計値が100.0%にならない場合があります。このことは、本報告書内の分析文、グラフ、表においても反映しています。
- ◇複数回答(複数の選択肢から2つ以上の選択肢を選ぶ方式)の設問の場合、回答は選択肢ごとの有効回答数に対して、それぞれの割合を示しています。そのため、合計が100.0%を超える場合があります。
- ◇図表中において「不明・無回答」とあるものは、回答が示されていない、または回答の判別が困難なものです。
- ◇図表中の「n (number of case)」は、集計対象者総数(あるいは回答者限定設問の限定条件に該当する人)を表しています。
- ◇本文中の設問の選択肢は簡略化している場合があります。
- ◇クロスグラフ(表組)については、「その他」「不明・無回答」を除き、回答の高いもの**第1位**、**第2位**、**第3位**に網掛けをしています。
- ◇集計対象者総数(n)が少ない(10件未満)クロス集計については、分析文の記載を省略しています。
- ◇その他の内容、自由回答については、要約したものとなっています。
- ◇県調査及び市の過去調査との比較のグラフにつきましては、設問や選択肢の言い回しが異なる場合は「(参考)」と記載しています。

Ⅱ 市民アンケート調査結果のまとめ

1. 男女平等について

男女の地位の平等について

- 分野別の男女の地位は平等になっていると思うかどうかについては、全体を通して、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」と回答した人が多くなっています。
- 学校教育の場、地域活動の場では、「平等」と回答した人は最も多く、家庭生活、職場では、「平等」と回答した人は2番目に多くなっており、特に学校教育の場においては、他の項目に比べて「平等」と回答した人が最も多くなっており、場面によっては、平等意識が高まっていることがうかがえます。
- 一方で、社会通念・慣習・しきたり、政治の場では「平等」と回答した人は少なく、社会全体でも男性が優遇されていると感じている人は多くなっており、和歌山県調査（令和2年度男女共同参画に関する県民意識調査）と比較しても田辺市では、男性が優遇されていると感じている人が多い傾向にあります。
- 政治に関しては、前回調査から「男性の方が優遇されている」と回答した方の割合が、男性、女性ともに上昇しています。

固定的な性別役割意識

- 「男は仕事、女は家庭」というような、性別によって男女の役割を決めるような考え方については、「少しある」も含めると、役割を決めるような考え方があると感じている人が多くなっています。
- どんな場面で男女の役割を決めるような考え方があるかについては、「家庭生活」、「職場」、「社会通念・慣習・しきたりなど」が多くなっており、問4の地位の平等の設問についての設問と合わせて考えると、「平等」と感じている人もいる中で、場面によっては男女の役割決めがあると感じている人も多くなっていることがわかります。中でも最も多くなっている「家庭生活」では、具体的な内容として家事（料理、掃除等含む）、育児と答えた人が多くなっており、家事や育児についての認識に違いが出ていることがうかがえます。

「ことば」の認知度について

- 「ことば」の認知度については、「ジェンダー」、「DV」、「デートDV」、「LGBTQ」、「生理の貧困」、「ダイバーシティ」は、メディアで目にする機会が多いことから認知度が比較的高くなっています。
- 一方で「女子差別撤廃条約」、「エンパワーメント」、「ポジティブ・アクション」、「アンコンシャスバイアス」、「リプロダクティブ・ヘルス/ライツ」の認知度は低く、ことばの理解が得られていない可能性があります。
- 近年、多くのことばが出ている中で、学校教育の場で取り上げられやすいことばについては、年齢層が若い方がことばの認知度が高く、理解促進が進んでいる可能性もあります。

2. 家庭内の役割分担や子育てについて

家庭生活における男女の役割(理想と現状)

- 日常的な家庭・仕事等の役割についての理想をみると、食事のしたくや後片付け、掃除等、全体を通して「男女共同・分担」が理想と回答している人が多くなっています。
- 一方で、現状をみると、食事のしたくや後片付け、掃除等のいわゆる「家事」については「主に女性」が行っていることが多く、理想と現実で乖(かい)離があることがわかります。
- 前回調査より、理想と現状ともに「男女共同・分担」の割合が男性、女性ともに増えています。が、日常的な家事については、「男女共同・分担」になっていると回答している割合が性別によって開きがあります。
- 男女別にみると、女性の方が「男女共同・分担」を理想とする割合が高くなっている傾向にあります。
- 「高齢者や病人の世話・介護」、「育児、子どもの勉強やしつけ」について、男性、女性ともに、「男女共同・分担」を理想とする一方で現状は「主に女性」が多くなっています。子育てと介護のダブルケアが問題となっている今日において女性への負担が多くなっている現状もうかがえます。

子育てに関する意識について

- 子育てについて、「子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい」と回答している一方で、「子どもの世話の大部分は、父親にもできる」と回答している人も多くなっていることから理想と現状での乖(かい)離があることがうかがえます。
- 「親が仕事のために、子育て支援サービスを活用してもよい」については、男性よりも女性の方が、活用してもよいと感じており、男女で違いがでています。
- 「男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」については、意見のばらつきがあり、男女別、年齢別で傾向が分かれており、男性の方が、「男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい」と回答している人が多くなっています。
- 前々回、前回調査より「男の子は男の子らしく、女の子は女の子らしくしつけるのがよい」と回答している人が少なくなっていることから、性別にとらわれない子育ての意識は浸透し始めていることが読み取れます。
- 「男性が家事、育児、介護に積極的に参加していくために必要なこと」は「夫婦や家族間でのコミュニケーションを図ること」と回答した人が多くなっています。

3. 社会活動・地域活動等について

仕事以外に行っている活動について

- 仕事以外に行っている活動について、「特になし」以外では、「趣味・スポーツ・教養に関する活動」、「町内会・PTA・子どもクラブ活動」と回答した人が多くなっています。
- 今後始めたい活動については、「特になし」以外では、「趣味・スポーツ・教養に関する活動」に次いで、「職業技術や資格の取得」と回答する人が多くなっています。
- 仕事以外の活動を行う上で問題となっているのは、全体を通して「時間の余裕がない」が多くなっており、理想と現状が乖(かい)離していることがわかります。

役職や公職について

- 役職や公職に「女性がもっと就いた方がよい」と思うかについては、全体を通して「思う」（「そう思う」「どちらかといえばそう思う」の合算）と回答した人が多くなっています。
- 現状、男性が多い「町内会長、区長、自治会長」、「県や市町村の審議会や委員会のメンバー」、「国会議員、県議会議員、市町村議会議員」等では、男性の方が「そう思う」と回答した人が多くなっています。
- 男性、女性ともに、「国会議員、県議会議員、市町村議会議員」に女性がもっと就いた方がよいと回答している方が前回より増加していることから、政治の場における女性の登用は引き続き求められています。
- 役職や公職への就任や立候補を依頼された場合については、全体を通して「ことわる」が多くなっています。

防災・災害復興における女性への配慮について

- 防災・災害復興における女性への配慮については、「防災に関する方針決定に女性の参画拡大を行う」をはじめとして、「女性消防職員・警察官を積極的に採用する」、「避難所の設置・運営に配慮する」等、全体を通して女性への配慮を望む声が多くなっています。
- 男性、女性ともに、前回調査に比べ「備蓄物資に配慮する」と回答した人が多くなっています。「女性の相談窓口を設置する」については、男性よりも女性の望む声が多くなっています。

4. 仕事について

職場における性別による待遇の違い

- 職場における性別による待遇の違いについて、「採用時」、「賃金」、「仕事の内容」等、全体を通して、「平等である」と回答した人が多くなっています。
- 「昇進・昇格」については、他の項目に比べ「男性のほうが優遇されている」と回答した人の割合が高くなっています。
- 「有給休暇や育児休業・介護休業の取得のしやすさ」、「結婚退職や出産退職などの慣習」については、他の項目に比べ「女性のほうが優遇されている」と回答した人の割合が高くなっています。

男女が対等に働くことについて

- 男女が対等に働くために必要なこととして、「賃金、昇給の男女の格差をなくす」、「男女ともに育児・介護休業など休暇を取りやすいようにする」、「男女ともに、能力を發揮できる配置を行う」と回答した人が多くなっています。
- 前回調査から比較すると、女性で「職場において男女が対等であるという意識を普及させる」、男性で「女性の能力、チャレンジ意欲を向上させるための教育・研修機会を充実する」と回答した人が増えており、性別に関わらず平等に仕事に向き合える環境の整備が必要です。
- 職場における待遇の違いでは平等に感じている人が多くなっている一方で、「昇進・昇格」については男性が、「有給休暇や育児休業・介護休業の取得のしやすさ」については女性の方が優遇されていると感じている割合が他の項目よりも高くなっていることを合わせて考えると職場における待遇については、今後も平等を保てるように取り組む必要があります。
- 働くことについて、「子どもが生まれたら、育児休業等を取得してから、収入を得る仕事に戻る」と回答した人が多くなっていることから、今後も仕事に戻りやすい環境の整備が重要です。

男性による育児休業や介護休業を取得できる制度の活用

- 男性による「育児休業」、「介護休業」、「時短勤務」の活用については、全体を通して取得した方がよいと回答した人が多くなっています。
- 前回調査と比較すると、男性による「育児休業」、「介護休業」を「積極的に取得した方がよい」と回答した人は増加傾向にあります。
- 職場における性別による待遇の違いについての設問では、「育児休業」、「介護休業」の活用については、「女性の方が優遇されている」と回答した人の割合が他の設問に比べ高くなっていることから今後は男性がこれらの制度を活用しやすい環境整備が求められています。

5. 男女の人権について

セクシュアルハラスメントやストーカーについての意識

- セクシュアルハラスメントについての意識については「性的な噂を立てたり、性的なからかいの対象とする」、「性的指向や性自認を本人の承諾なしに第三者に漏らす」等については「どんな場合でもセクハラにあたる」と回答した人が最も多くなっています。
- 一方で、「スリーサイズを聞くなど身体的特徴を話題にする」、「カラオケでのデュエットを強要する」等については、セクハラ認識はあるものの、判断に困っている様子がうかがえます。
- 年齢層が高い人に比べ、若い人ほど、セクハラとは違う場合もある割合が高くなっている事項もあります。
- セクシュアルハラスメント、ストーカー行為、配偶者や交際相手からの暴力について、相談できる窓口として「警察本部」、「弁護士」、「市役所の相談窓口」と回答した人が多くなっています。

夫婦や恋人の間の暴力(DV)について

- 夫婦や恋人の間の暴力(DV)について「刃物などを突きつけて、おどす」、「身体を傷つける可能性のある物で、なぐる」等については、暴力と認識している人が多くなっています。
- 全体を通して、「暴力にあたる」と回答している人が多い中で、「何を言っても、無視し続ける」、「交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する」、「実家や友人との付き合いを制限する」等にて、場合によっては暴力にあたらないと回答した人の割合が高く、判断に困っている様子がうかがえます。

配偶者や交際相手からの行為について

- これまでに配偶者や交際相手から暴力を受けたことがあるかについてみると、「何回もあった」、「1、2回あった」を合わせた、何らかの暴力を受けた経験が最も多かったものは、女性では、「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的暴力を受けた」で22.0%、「人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなどの精神的暴力を受けた」で21.0%となっており、女性の約5人に1人がそれぞれ身体的暴力、精神的暴力を受けた経験があることがわかります。一方、男性では「人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなどの精神的暴力を受けた」が14.1%となっており、男性の約7人に1人が精神的暴力を受けた経験があることがわかり、「なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的暴力を受けた」で9.3%となっています。
- 相談しなかった理由については、「相談しても無駄だと思ったから」、「相談するほどのことではないと思った」と回答した人が多く、相談の対応力の向上や相談先の周知などが課題となっている可能性があります。
- 配偶者や交際相手などからの暴力の防止や被害者支援については「加害者から逃げるための一時保護制度などの法的支援の情報提供を行う」、「被害者や悩んでいる人に対する相談体制を充実する」、「避難した被害者の移転先などの情報が加害者に伝わらないように情報の管理を

徹底する」と回答した人が多くなっています。

6. 性的少数者の方の人権とこれから必要な施策について

「LGBTQなどの性的少数者(セクシュアルマイノリティ)の方の人権」について

- 「LGBTQなどの性的少数者(セクシュアルマイノリティ)の方の人権」についての問題では、「理解や認識が不足している」、「侮辱やいやがらせがある」、「性的指向・性自認について悩みを抱えていることを公表できる社会になっていない」と回答する人が多くなっています。
- 相談・支援体制の不足をあげる人も多く、今後も理解促進を図る必要があります。

7. これから必要な施策について

今後、力をいれていくべき施策について

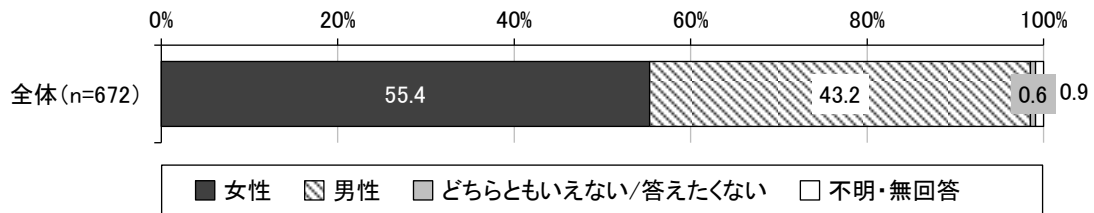
- 全体では「子育て、介護に対する多様な支援を充実する」、「男女の仕事と家庭との両立を支援する」、「男女共同参画の視点から、慣習の見直しや啓発をすすめる」と回答した人が多くなっています。
- 全国的な傾向から、共働き世帯が増加していることから、仕事と家庭との両立についての支援はさらなる拡充を求められており、支援する取組だけでなく、市民の理解促進や企業の協力などの環境整備が求められています。

Ⅲ 市民アンケート調査結果

1. あなたご自身のことについて

問1. あなたの性別をお答えください。(自認する性別1つに○)

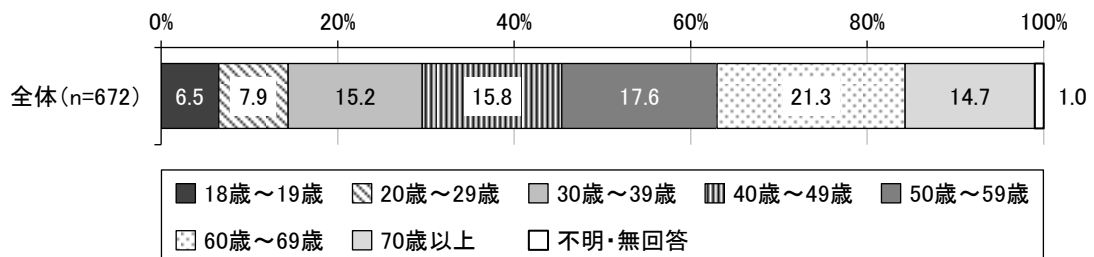
「女性」が55.4%と最も高く、次いで「男性」が43.2%、「どちらともいえない/答えたくない」が0.6%となっています。



問2. あなたの年齢をお答えください。

(令和4年10月1日現在の満年齢で、あてはまるもの1つに○)

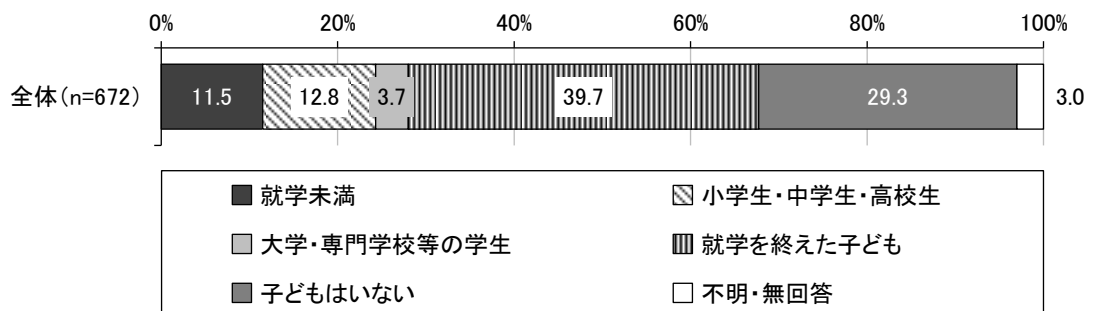
「60歳～69歳」が21.3%と最も高く、次いで「50歳～59歳」が17.6%、「40歳～49歳」が15.8%となっています。



問3. あなたの一番下のお子さんにあてはまるものは、次のどれですか。

(あてはまるもの1つに○)

「就学を終えた子ども」が39.7%と最も高く、次いで「子どもはいない」が29.3%、「小学生・中学生・高校生」が12.8%となっています。



2. 男女平等について

問4. あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。

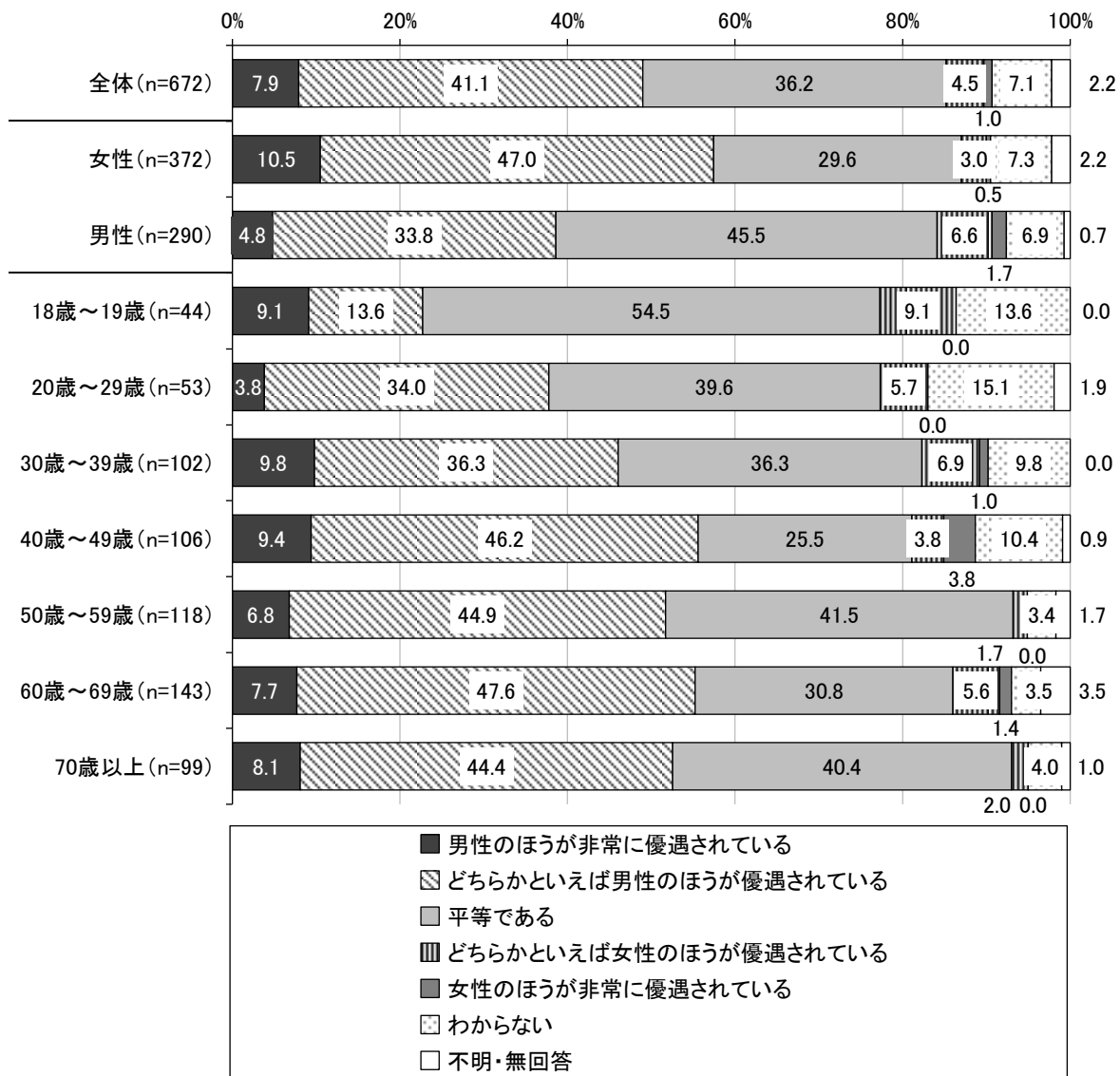
(ア～クそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ア. 家庭生活では

全体では「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が41.1%と最も高く、次いで「平等である」が36.2%、「男性のほうが非常に優遇されている」が7.9%となっています。

性別にみると、女性では「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」、男性では「平等である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、20歳代以下では「平等である」、30歳代では「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」「平等である」、40歳代以上では「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高くなっています。



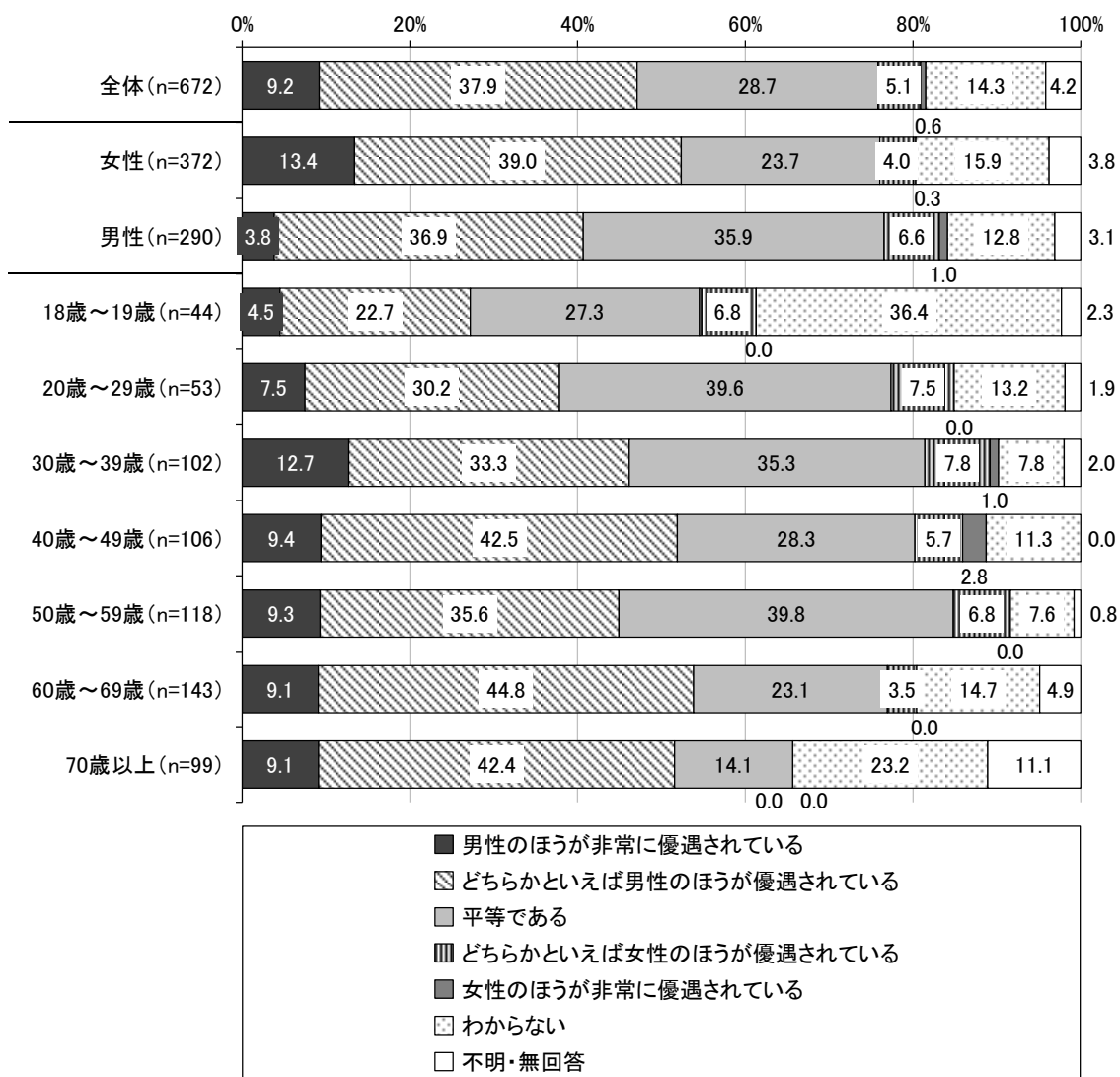
問4. あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 (ア～クそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

イ. 職場では

全体では「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が37.9%と最も高く、次いで「平等である」が28.7%、「わからない」が14.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳～19歳では「わからない」、20～30歳代、50歳代では「平等である」、それ以外の年代では「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高くなっています。



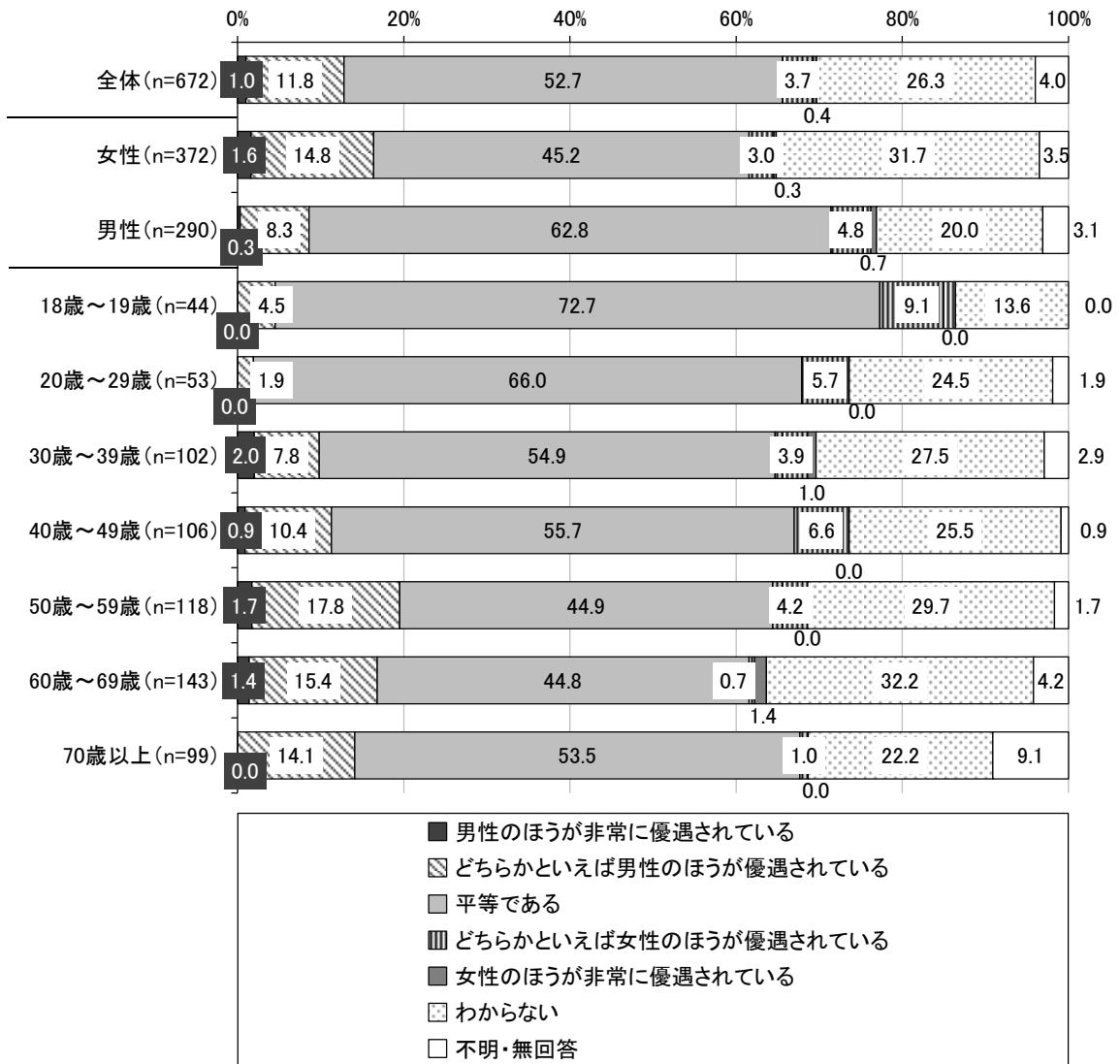
問4. あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 (ア～クそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ウ. 学校教育の場では

全体では「平等である」が52.7%と最も高く、次いで「わからない」が26.3%、「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が11.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「平等である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「平等である」が最も高くなっています。



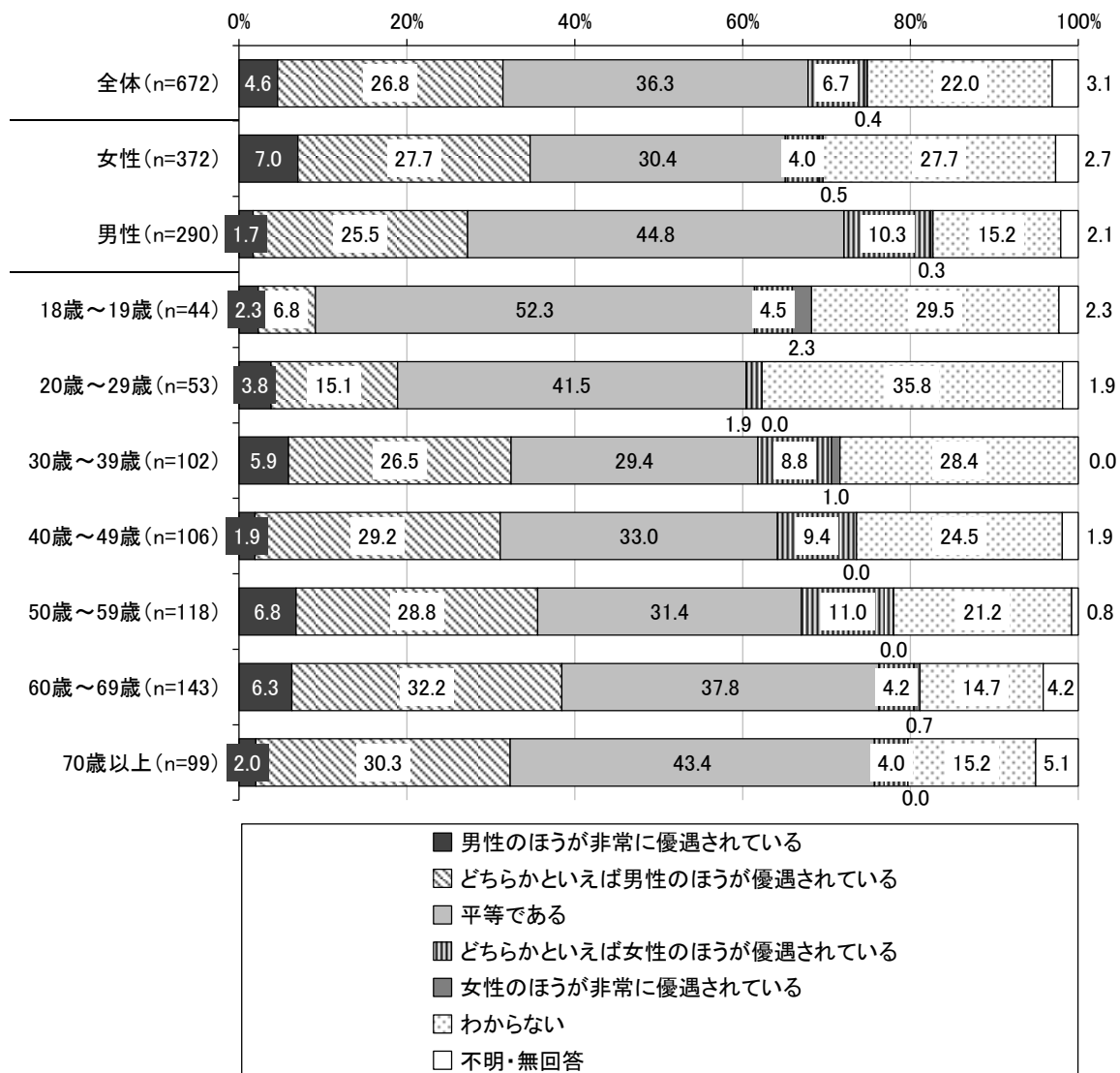
問4. あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 (ア～クそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

エ. 地域活動の場では

全体では「平等である」が36.3%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が26.8%、「わからない」が22.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「平等である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「平等である」が最も高くなっています。



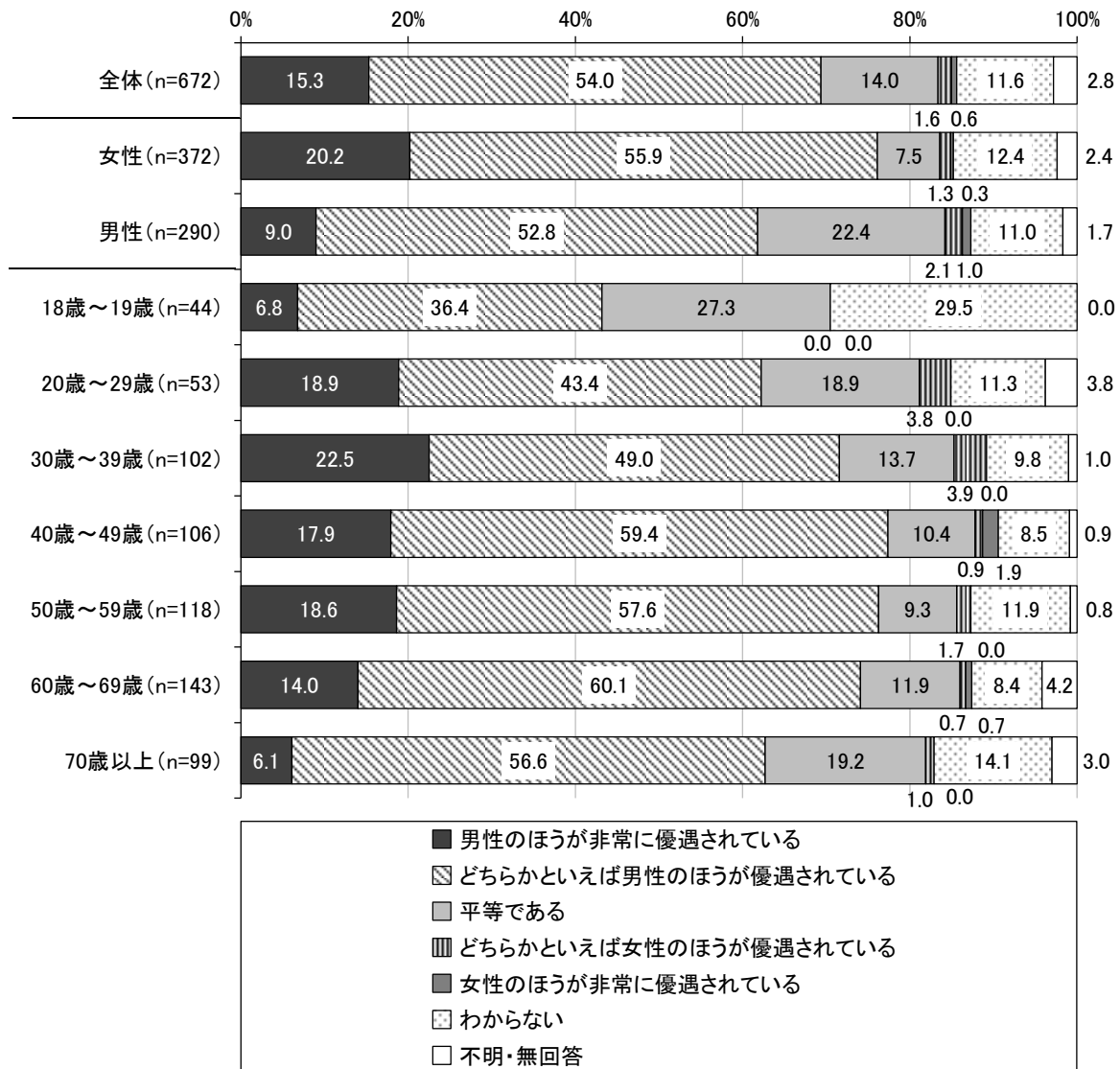
問4. あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 (ア～クそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

オ. 社会通念・慣習・しきたりなどでは

全体では「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が54.0%と最も高く、次いで「男性のほう非常に優遇されている」が15.3%、「平等である」が14.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高くなっています。



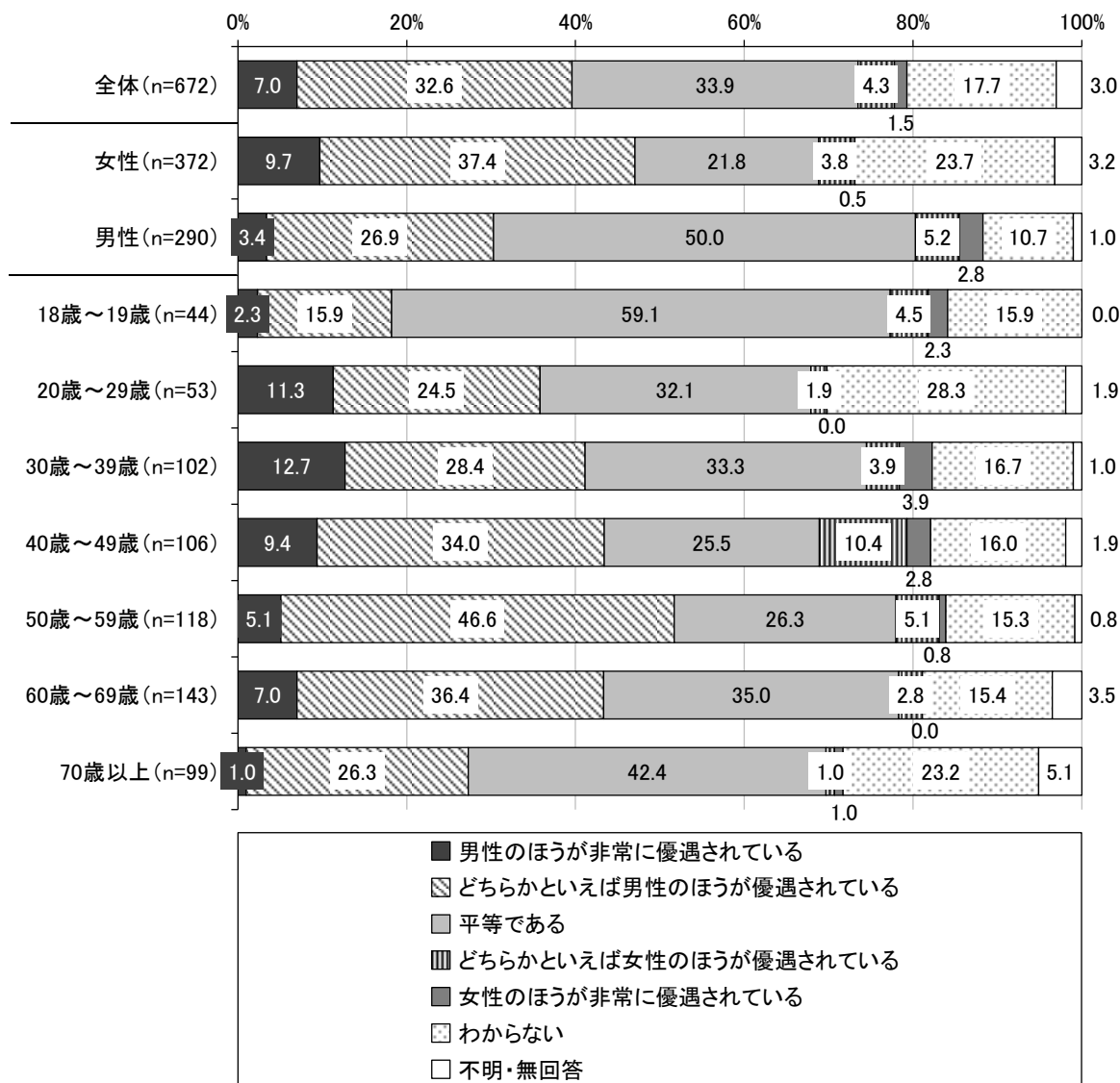
問4. あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 (ア～クそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

カ. 法律や制度のうえでは

全体では「平等である」が33.9%と最も高く、次いで「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が32.6%、「わからない」が17.7%となっています。

性別にみると、女性では「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」、男性では「平等である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、40～60歳代では「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」、それ以外の年代では「平等である」が最も高くなっています。



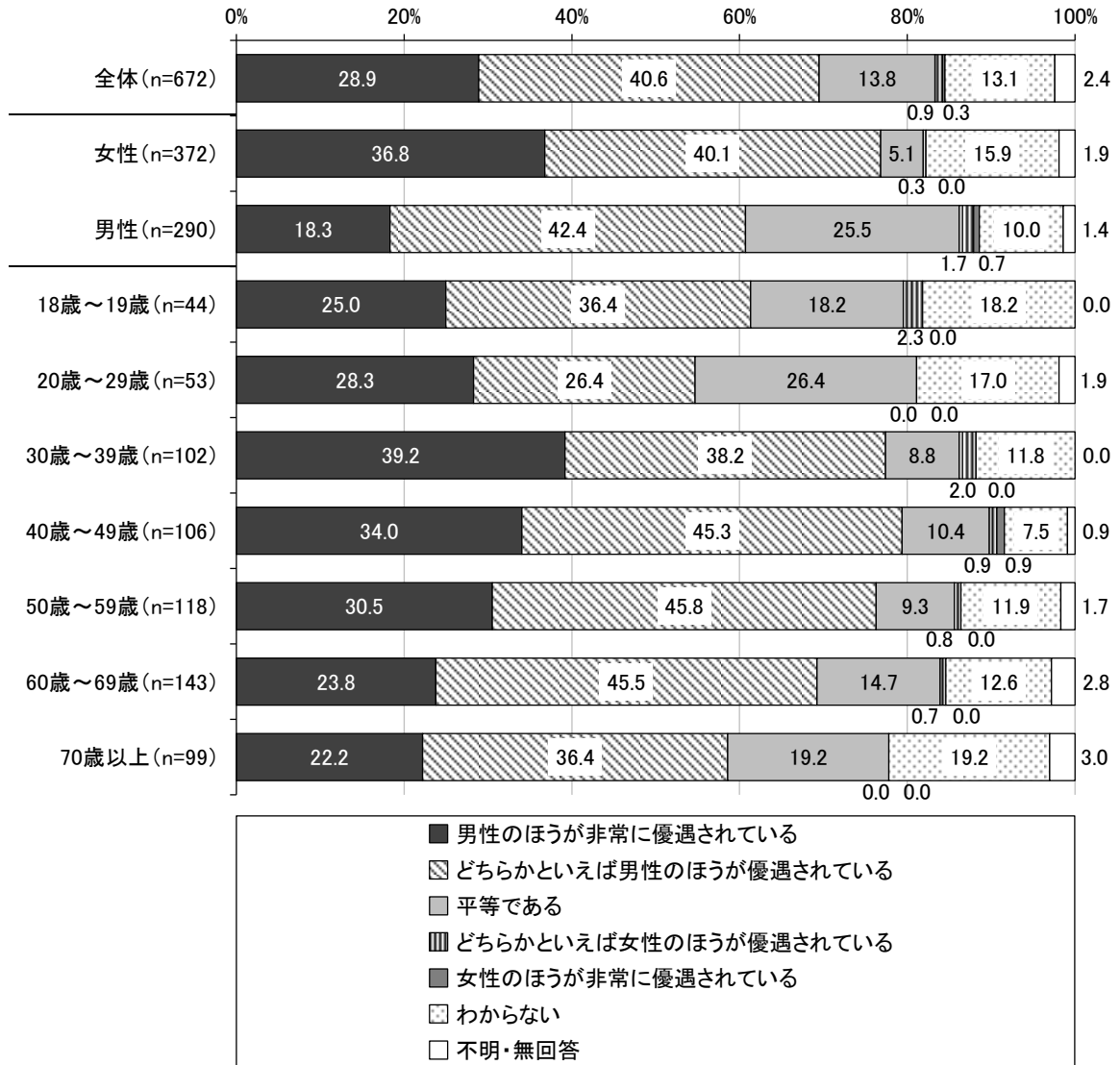
問4. あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
(ア～クそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

キ. 政治の場では

全体では「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が40.6%と最も高く、次いで「男性のほうが非常に優遇されている」が28.9%、「平等である」が13.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高くなっています。

年齢別にみると、20～30歳代では「男性のほうが非常に優遇されている」、それ以外の年代では「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高くなっています。



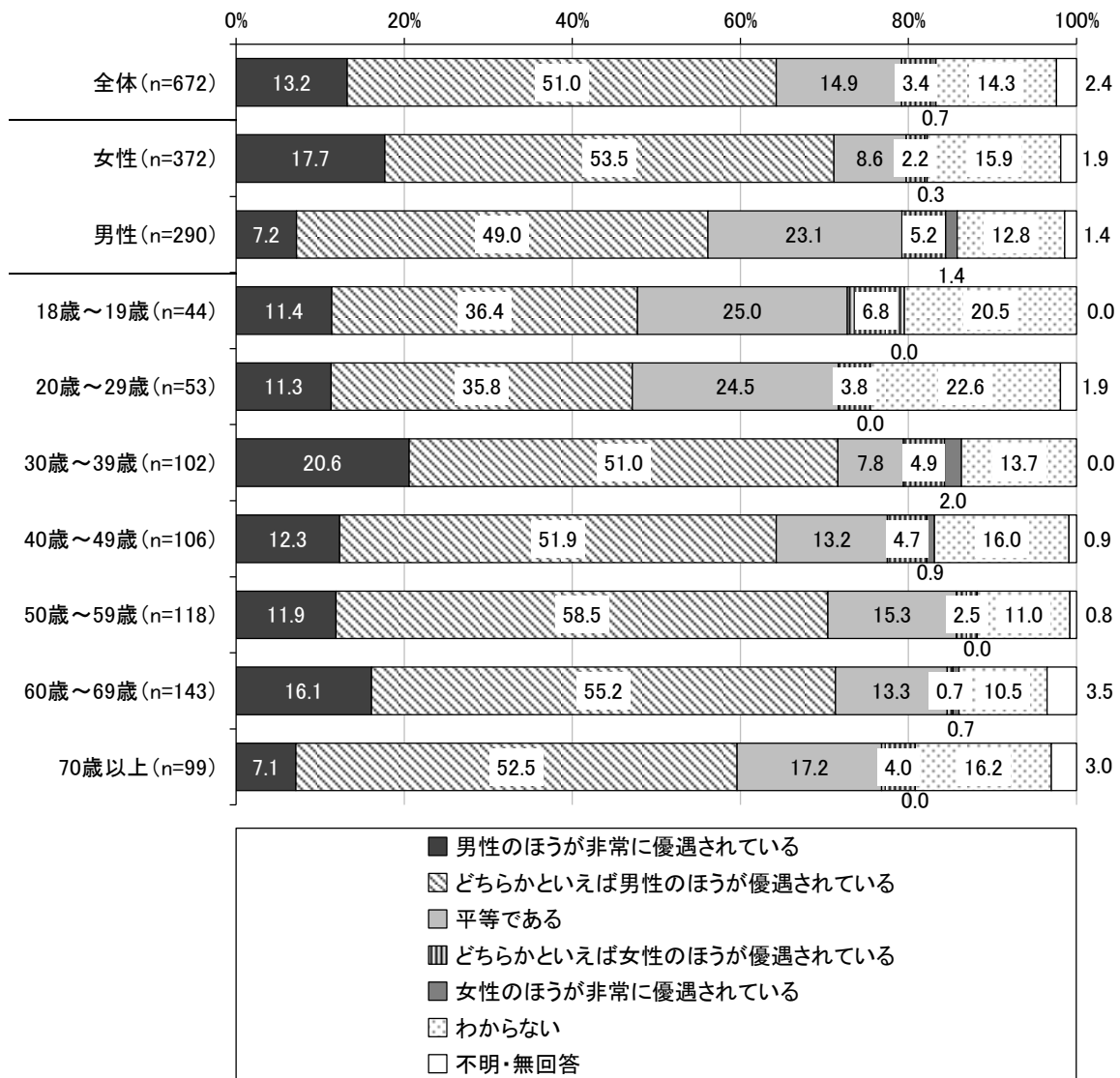
問4. あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 (ア～クそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ク. 社会全体では

全体では「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が51.0%と最も高く、次いで「平等である」が14.9%、「わからない」が14.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高くなっています。

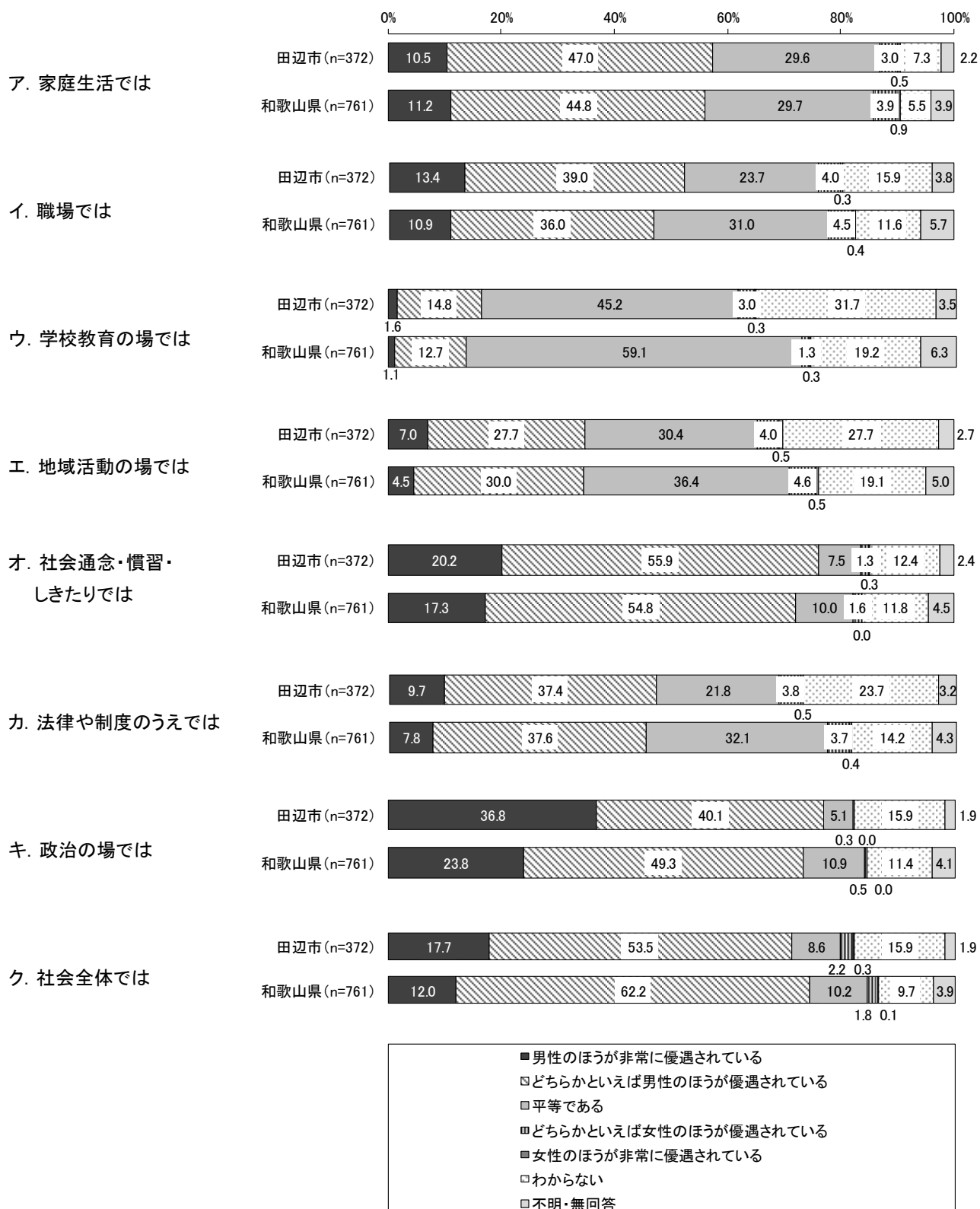
年齢別にみると、すべての年代で「どちらかといえば男性のほうが優遇されている」が最も高くなっています。



問4. あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 (ア～クそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

問4 和歌山県調査（令和2年度実施）との比較（参考）

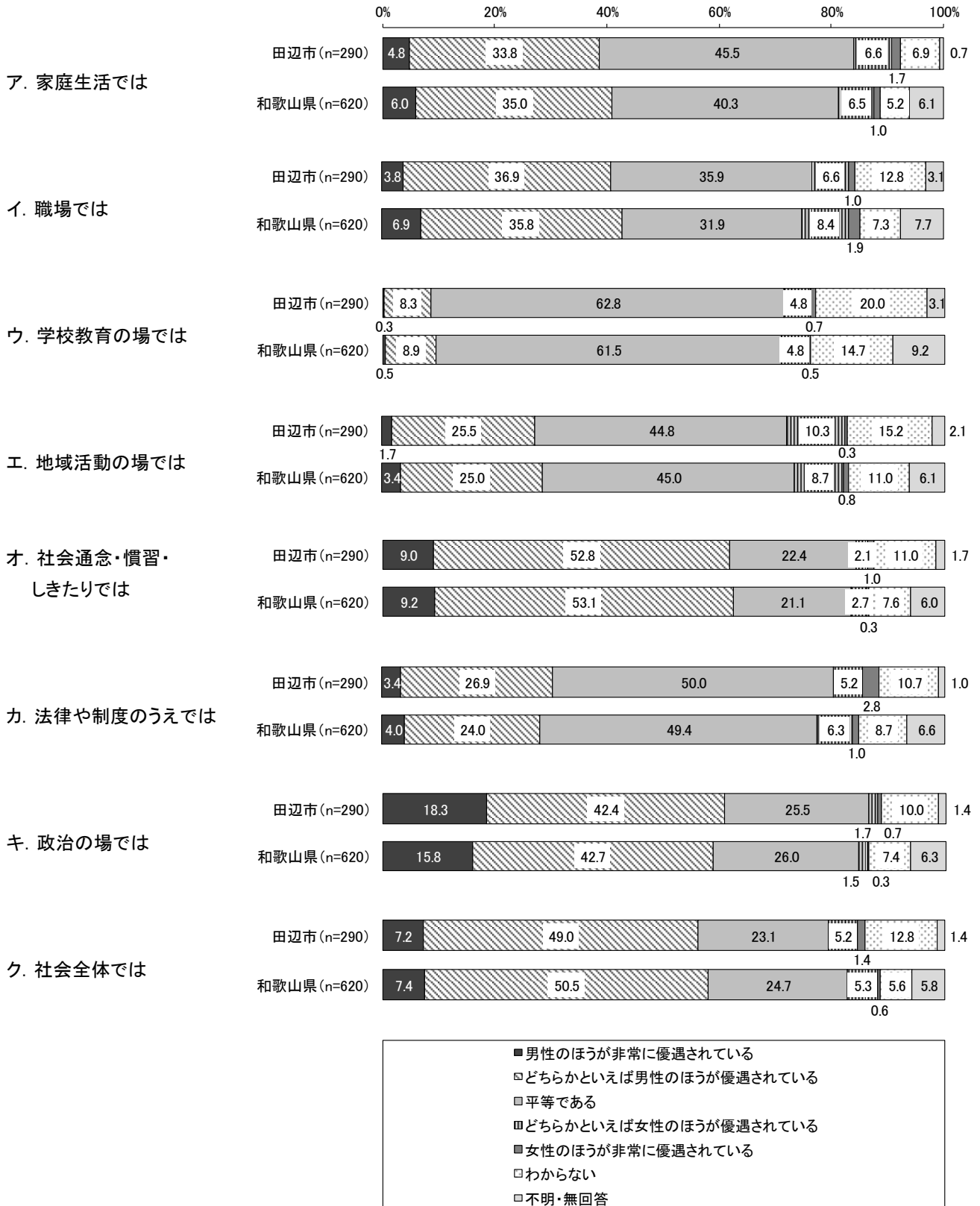
【女性】



男女の平等感について県調査と比較すると、田辺市の女性では、『学校教育の場では』について、「平等である」が13.9ポイント低くなっています。また、『政治の場では』について、「男性の方が非常に優遇されている」が13.0ポイント高くなっています。

問4. あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 (ア～クそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

【男性】

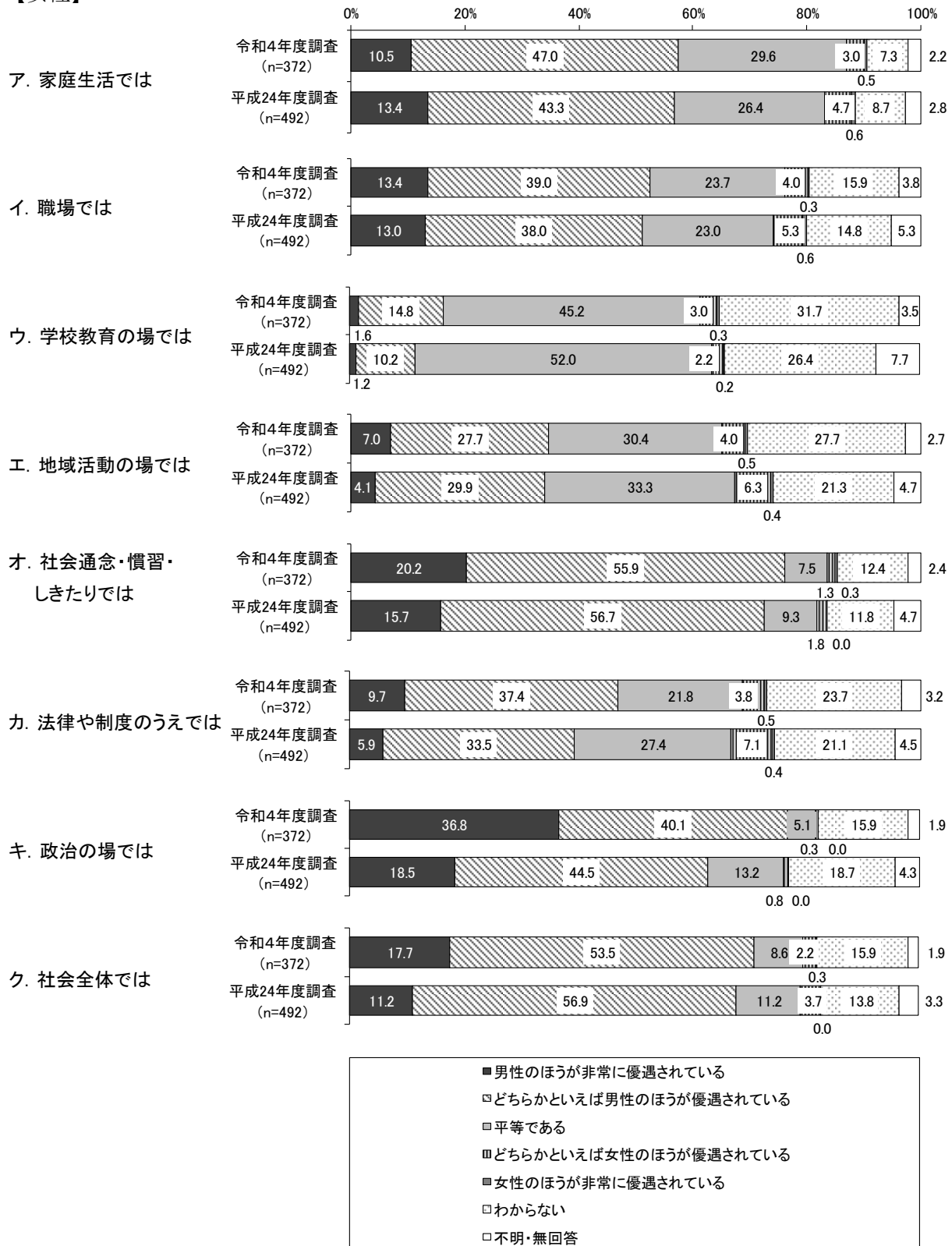


男女の平等感について県調査と比較すると、田辺市の男性では、『家庭生活では』について、「平等である」が5.2ポイント高くなっています。また、『職場では』について、「平等である」が4.0ポイント高くなっています。

問4. あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
(ア～クそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

問4 前回調査（平成24年度）との比較（参考）

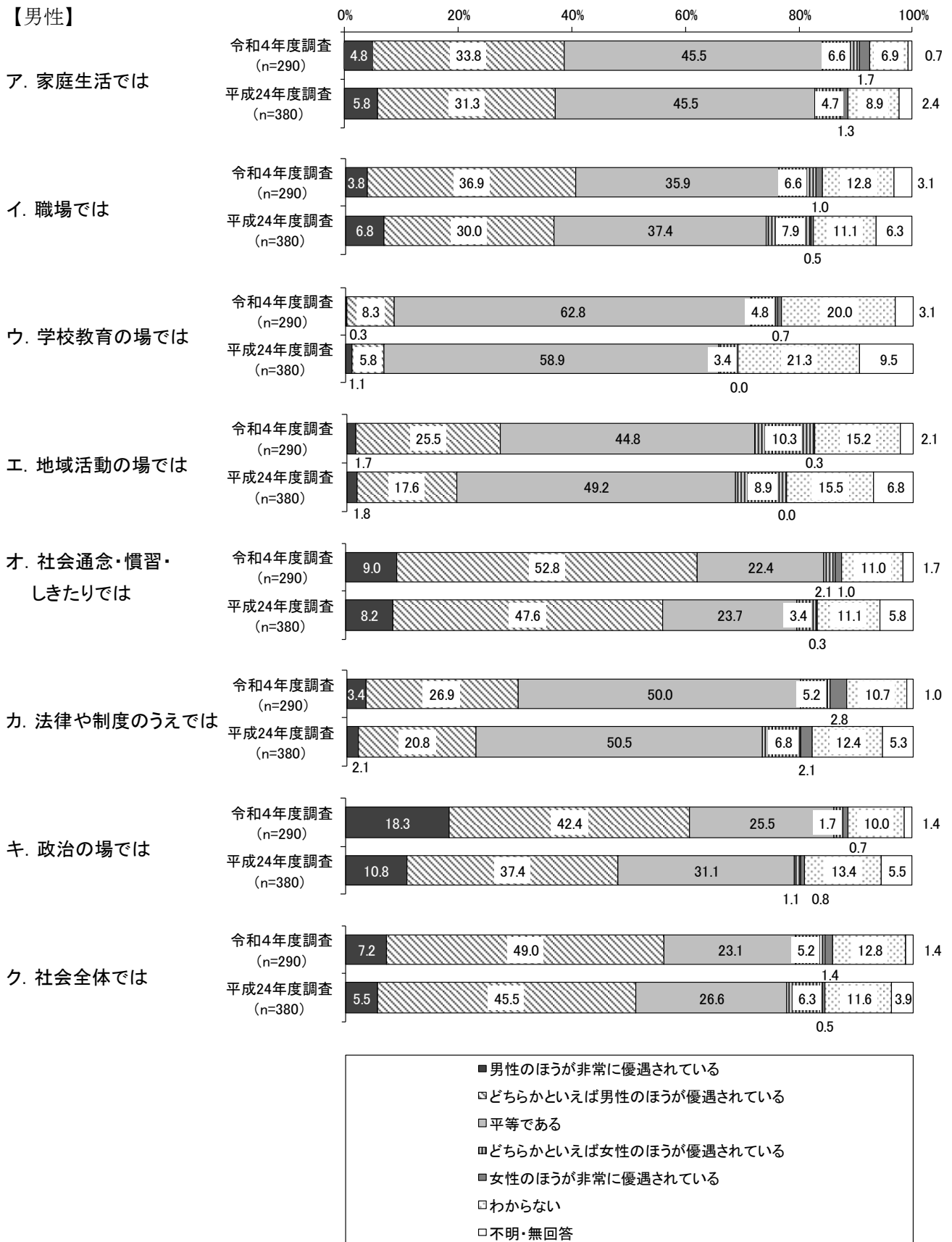
【女性】



男女の平等感について前回調査と比較すると、女性では、『政治の場では』について、「男性の方が非常に優遇されている」が18.3ポイント上昇しています。また、『社会全体では』について、「男性の方が非常に優遇されている」が6.5ポイント上昇しています。

問4. あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
 (ア〜クそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

【男性】



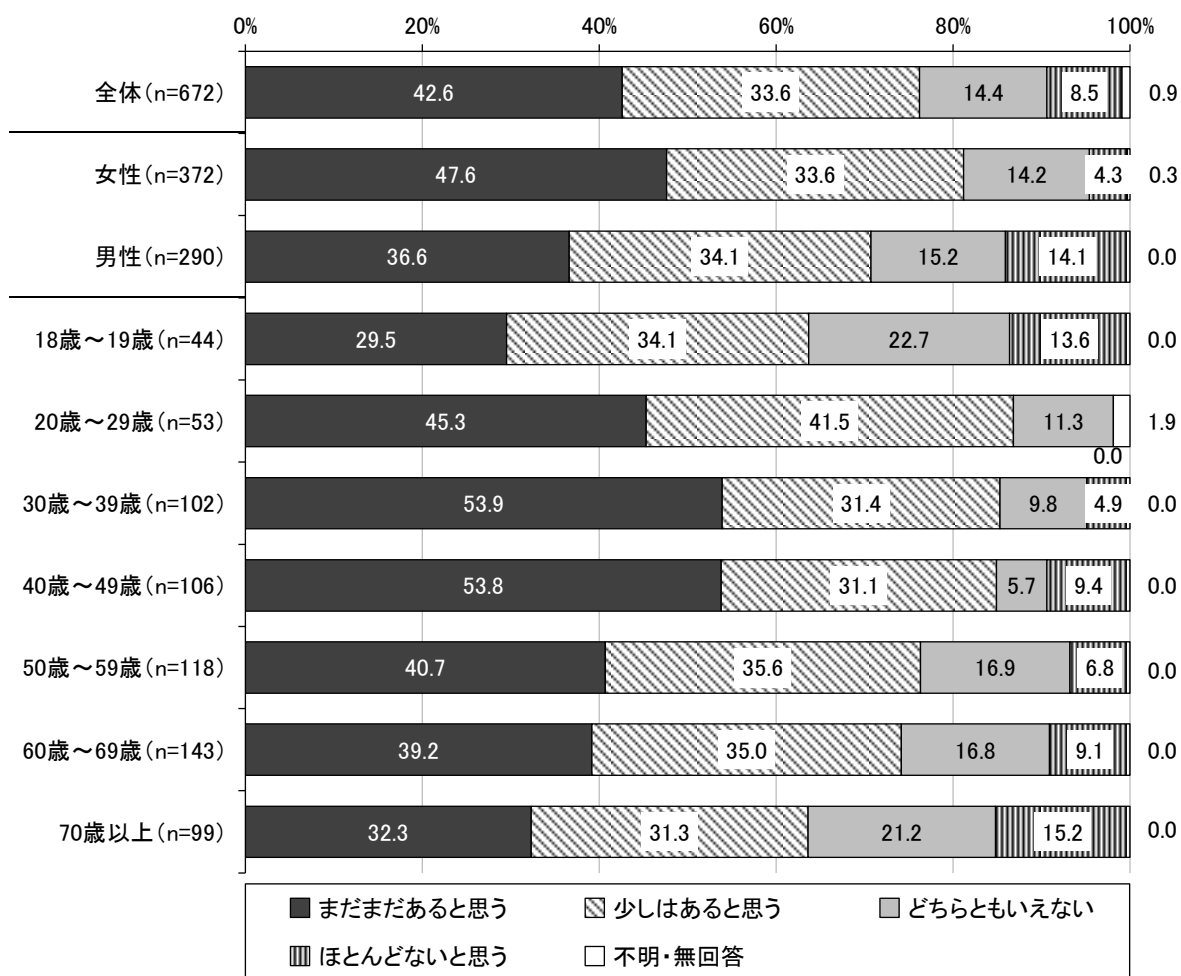
男女の平等感について前回調査と比較すると、男性では『地域活動の場では』について、「どちらかといえば男性の方が優遇されている」が7.9ポイント上昇しています。また、『政治の場では』について、「男性の方が非常に優遇されている」が7.5ポイント上昇しています。

問5. 「男は仕事、女は家庭」というような、性別によって男女の役割を決めるような考え方が社会の中にまだあると思いますか。(あてはまるもの1つに○)

全体では「まだまだあると思う」が42.6%と最も高く、次いで「少しはあると思う」が33.6%、「どちらともいえない」が14.4%、「どちらともいえない」が14.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「まだまだあると思う」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳～19歳では「少しはあると思う」、20歳代以上では「まだまだあると思う」が最も高くなっています。



問5で「まだまだあると思う」「少しはあると思う」と答えた方

問6. それは、どの分野ですか。

(あてはまるものすべてに○をつけ、具体的な内容をお書きください)。

全体では「家庭生活」が67.4%と最も高く、次いで「職場」が41.6%、「社会通念・慣習・しきたりなど」が39.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「家庭生活」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「家庭生活」が最も高くなっています。

単位：%		家庭生活	職場	学校教育の場	地域活動の場	社会通念・慣習・しきたりなど	その他	不明・無回答
全体(n=512)		67.4	41.6	10.2	16.4	39.6	6.1	9.8
性別	女性(n=302)	71.5	41.1	7.6	14.6	37.1	6.0	8.3
	男性(n=205)	62.0	42.4	14.1	19.5	44.4	6.3	11.2
年齢別	18歳～19歳(n=28)	67.9	21.4	14.3	10.7	17.9	0.0	7.1
	20歳～29歳(n=46)	65.2	32.6	2.2	4.3	19.6	2.2	15.2
	30歳～39歳(n=87)	56.3	47.1	9.2	11.5	39.1	8.0	19.5
	40歳～49歳(n=90)	76.7	48.9	11.1	16.7	35.6	7.8	7.8
	50歳～59歳(n=90)	73.3	45.6	8.9	13.3	43.3	8.9	3.3
	60歳～69歳(n=106)	67.0	36.8	11.3	22.6	43.4	2.8	11.3
	70歳以上(n=63)	61.9	39.7	12.7	27.0	58.7	7.9	3.2

問6. それは、どの分野ですか。
 (あてはまるものすべてに○をつけ、具体的な内容をお書きください。)

【1. 家庭生活】具体的な内容

具体的な内容	件数
家事（料理、掃除等含む）	189
育児	74
介護	9
産前産後休暇・休業、育児休暇・休業、時短勤務	9
収入	5
専業主婦	4
地域、近所付き合い・学校行事	3
子が休むときは、母親が休む	3
パート勤務	3
葬儀・法事	2
農作業・家の修繕等	2
物事の決定、立場	2
雑用	1
相続	1
言動	1
その他	17

※上記の具体的な内容は、記述をおおまかに分類したものです。



「その他」主な内容です。

- ・ 男は仕事、女は家庭
- ・ 共働きしにくい、意見を言える女性も少ないので、もっと自立すると良いと思う事柄が多い。
- ・ 個人差はあると思うが無意識下でそう思っていることがあるのでは
- ・ 昭和20年代とか以前に生まれている男性は、そういう考え方である。
- ・ 共働きが当たり前でなかった世代ではまだまだこういう考えが根本にあると思う

問6. それは、どの分野ですか。
 (あてはまるものすべてに○をつけ、具体的な内容をお書きください。)

【2. 職場】具体的な内容

具体的な内容	件数
役職・管理職	28
給与面	16
産前産後休暇・休業、育児休暇・休業	16
仕事の内容、役割	12
お茶入れ	11
昇給・昇格	9
地位、立場	7
掃除、雑用	7
子どもの体調不良による早退	7
上司の性別	6
男性社会	6
雇用の形態	5
労働時間	5
仕事と家庭のバランス	3
特になし	3
女性は結婚したら退職する	2
労働環境	2
人事異動	1
同役職であっても子有/子無では負担が多い異なる点	1
制服の色(性別で分けている)	1
その他	6



※上記の具体的な内容は、記述をおおまかに分類したものです。

「その他」主な内容です。

- ・妻は夫の扶養になっていることが当然と考える社員がいる。
- ・職場が社会とリンクしているから
- ・会議で男性が「女性の意見を聞きたい」などと言うのは、子育て、介護の経験を通じた意見を求めているような気がする。
- ・男性しかいなかった(漁師)

問6. それは、どの分野ですか。
 (あてはまるものすべてに○をつけ、具体的な内容をお書きください。)

【3. 学校教育の場】具体的な内容

具体的な内容	件数
役職・管理職（女性の校長は少ない）	6
学校教育・学校行事	5
特になし	3
PTA 会長・役員	2
体育での授業内容・評価	2
制服、体操服	2
給料	1
進路	1
子供に接する時間	1
養護教諭	1
裁縫や調理の役割	1
男女差による分野がある	1
大学受験で同じ点数なら男子が合格になる	1
母親だと先生になめられた態度を取られる	1
その他	9

※上記の具体的な内容は、記述をおおまかに分類したものです。



「その他」主な内容です。

- ・まじめに強く明るく努力する子どもを育てる事が大切。
- ・この職種は比較的に女性が活躍できている数少ないエリアである。
- ・これは、男性が減っている
- ・意見を言える女性も少ないので、もっと自立すると良いと思う事柄が多い。
- ・学校の役員になっても名前は父親だけど、実際活動しているのは母親が多いと思う。

問6. それは、どの分野ですか。
 (あてはまるものすべてに○をつけ、具体的な内容をお書きください。)

【4. 地域活動の場】具体的な内容

具体的な内容	件数
役員・会長等	15
性別による参画度	8
性別による役割	8
集まり等の準備、後片付け	5
男性を立てる風習、男性優位	4
祭り	3
特になし	2
子供の教室や子育て支援センターのイベント	1
女性が居なければ成り立たない	1
その他	6



※上記の具体的な内容は、記述をおおまかに分類したものです。

「その他」主な内容です。

- ・近所つきあいをよくし、ボランティア、福祉に力を入れる。
- ・昔からのしきたりなど男の人の方がよく体験し記憶している。
- ・意見を言える女性も少ないので、もっと自立すると良いと思う事柄が多い。

問6. それは、どの分野ですか。

(あてはまるものすべてに○をつけ、具体的な内容をお書きください。)

【5. 社会通念・慣習・しきたりなど】具体的な内容

具体的な内容	件数
性別による役割	11
高齢層が持つ「男性優遇、女性は家庭」の思考	9
社会全体的に（男性優性）	6
男性が先、女性が後	6
祭事、伝統行事	5
女人禁制	5
祭事や集まりの際の食事の準備など	4
結婚後の手続きについて（苗字の変更含む）	4
特になし	3
選挙活動等	3
男尊女卑	2
男らしく、女らしく	2
長男を優先	1
夜の外出	1
家事のできない男性が多い	1
子供の成長に母親は必要	1
“イクメン”という言葉	1
化粧しないと批判される。	1
「そんな人はお嫁に行けない」という言葉	1
嫁の立場で物言を計られる。個人名が出てこない。〇〇の嫁。	1
時間の制限、仕事など	1
食事代は男が出す。	1
無言の圧力のようなもの	1
その他	11



※上記の具体的な内容は、記述をおおまかに分類したものです。

「その他」主な内容です。

- ・ ありすぎる
- ・ 古い明治時代から受けつがれたものが人々の精神には
- ・ 昔からの考え方が私の中にもある。急には変わらない。
- ・ 老人の内は女性が多いため
- ・ 意見を言える女性も少ないので、もっと自立すると良いと思う事柄が多い。

問6. それは、どの分野ですか。
 (あてはまるものすべてに○をつけ、具体的な内容をお書きください。)

【6. その他】具体的な内容

具体的な内容	件数
政治	5
特になし	3
性別によって見下す言葉	2
女性天皇が認められていない。	1
交渉の場等で、女性は下に見られている。	1
家事の負担	1
育児休暇	1
昇進	1
給料	1
女性も子供のこと介護のことといえ簡単に仕事を休めるという考え	1
高齢者の「男尊女卑」の思考	1
名医と言えれば全ての人が男性を想像する。	1
全ての分野	1
その他	10



※上記の具体的な内容は、記述をおおまかに分類したものです。

「その他」主な内容です。

- ・ 基本的には役割の話と考える、男性だから女性だからではなく、やれる側がやればよいという認識。
本来公平を求めるべきところに平等を求めるから、歪みが生まれることは仕方ない
- ・ 同世代の女性は結構いいとこ取りしていると思う
- ・ 逆に、女性が権利を主張しすぎていると感ずることがある。
- ・ 平日の朝などに男性が買い物をしているとつい目がいつってしまう
- ・ 一般的にはそのように見えるが内容については巾が広いと思う

問7. あなたは、次の「ことば」をご存じですか。

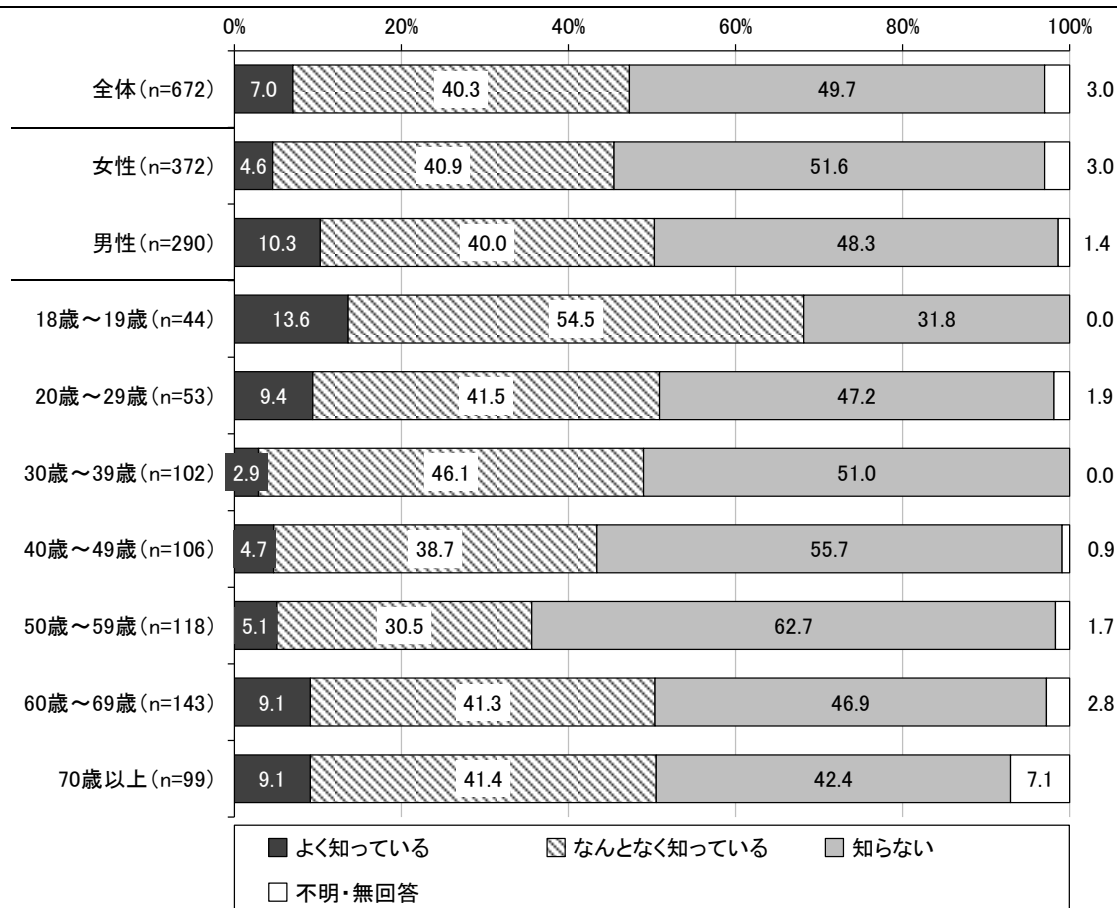
(ア～サそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ア. 女子差別撤廃条約

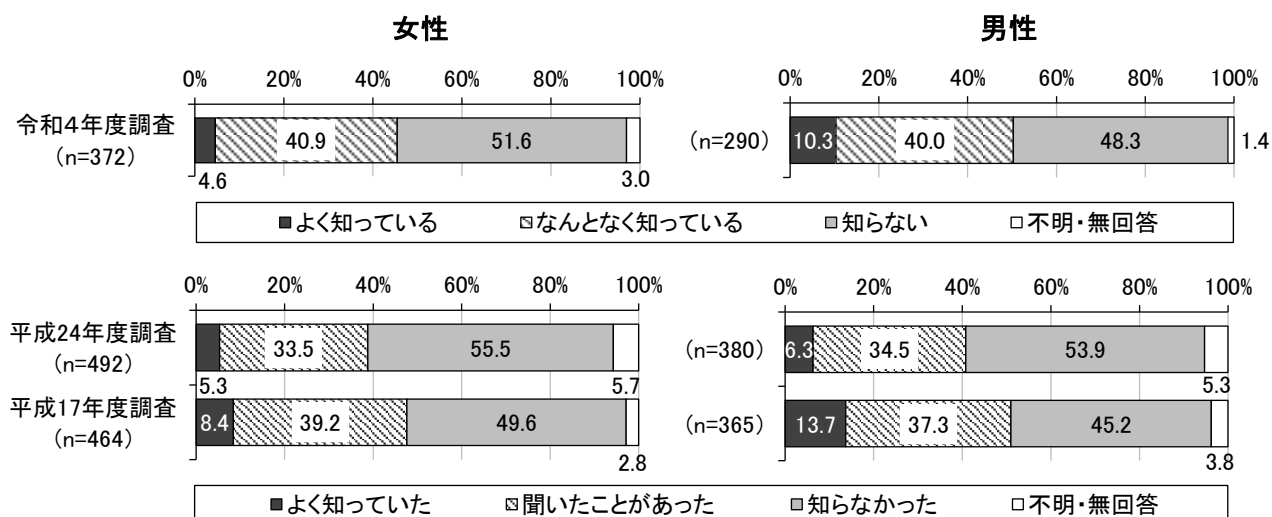
全体では「知らない」が49.7%と最も高く、次いで「なんとなく知っている」が40.3%、「よく知っている」が7.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳～19歳では「なんとなく知っている」、20歳代以上では「知らない」が最も高くなっています。



<前回調査（平成24年度、17年度）との比較（参考）>



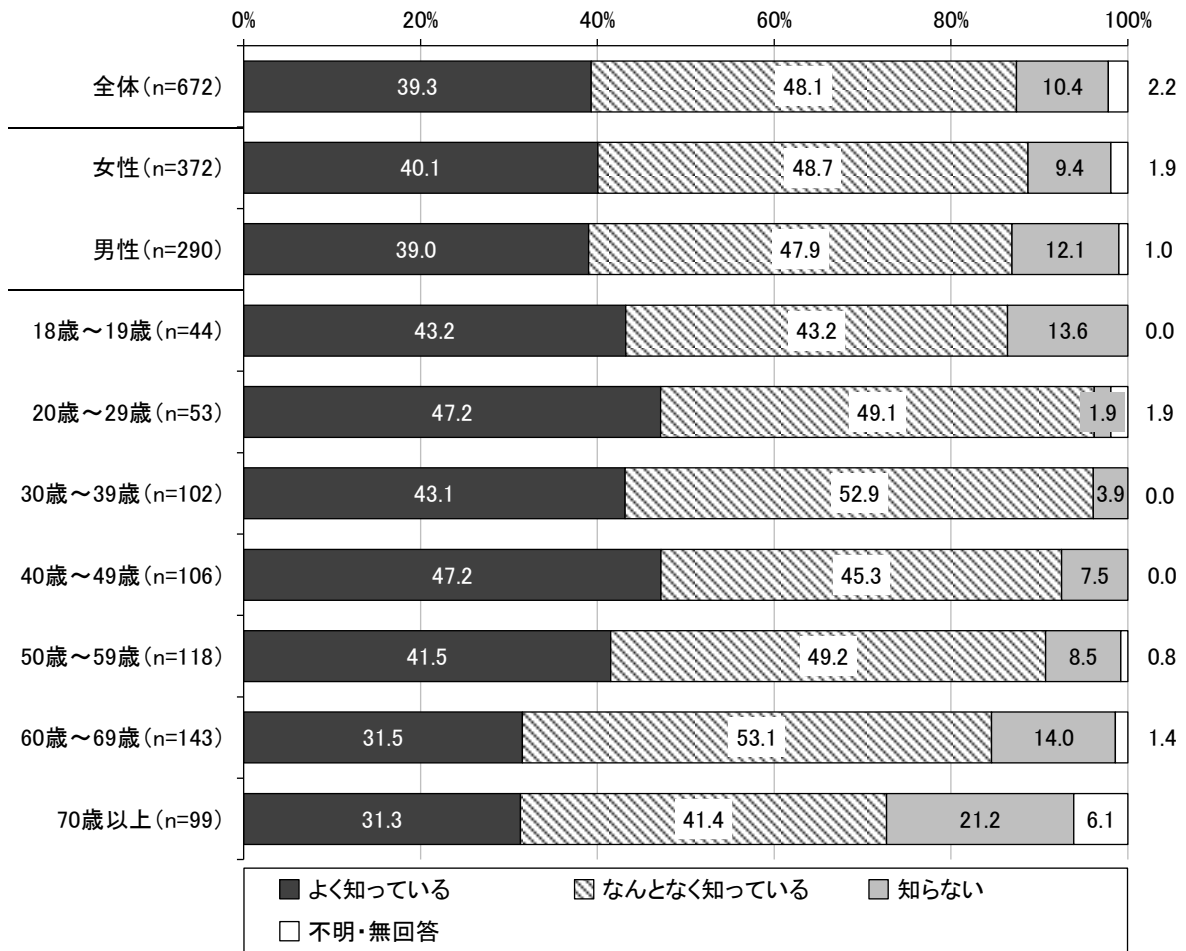
問7. あなたは、次の「ことば」をご存じですか。
 (ア～サそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

イ. ジェンダー（社会的・文化的につくられた性差）

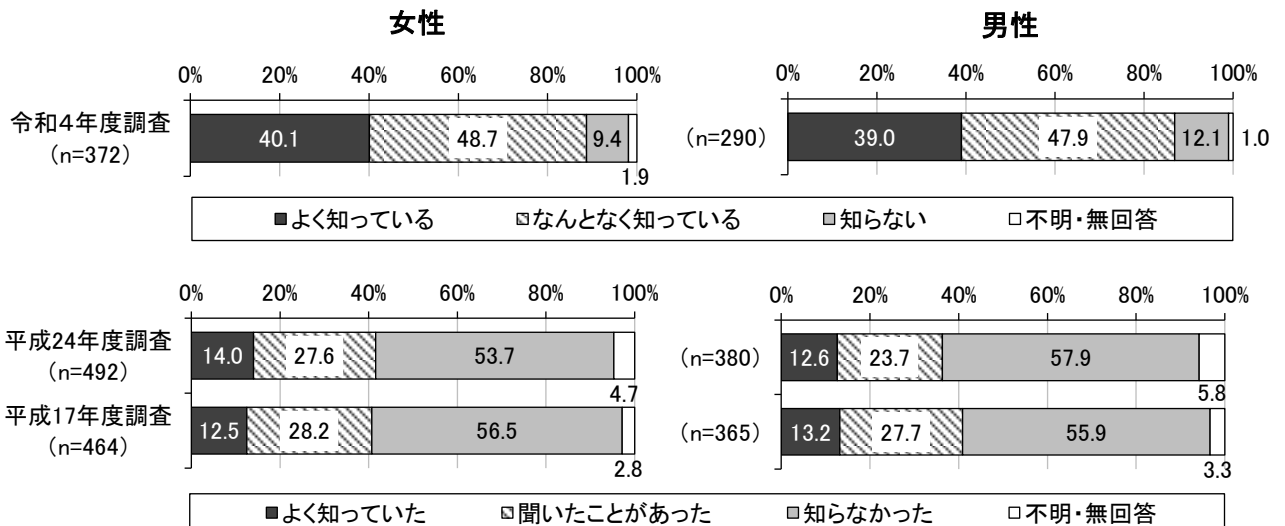
全体では「なんとなく知っている」が48.1%と最も高く、次いで「よく知っている」が39.3%、「知らない」が10.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「なんとなく知っている」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳～19歳では「よく知っている」「なんとなく知っている」、40歳代では「よく知っている」、それ以外の年代では「なんとなく知っている」が最も高くなっています。



<前回調査（平成24年度、17年度）との比較（参考）>



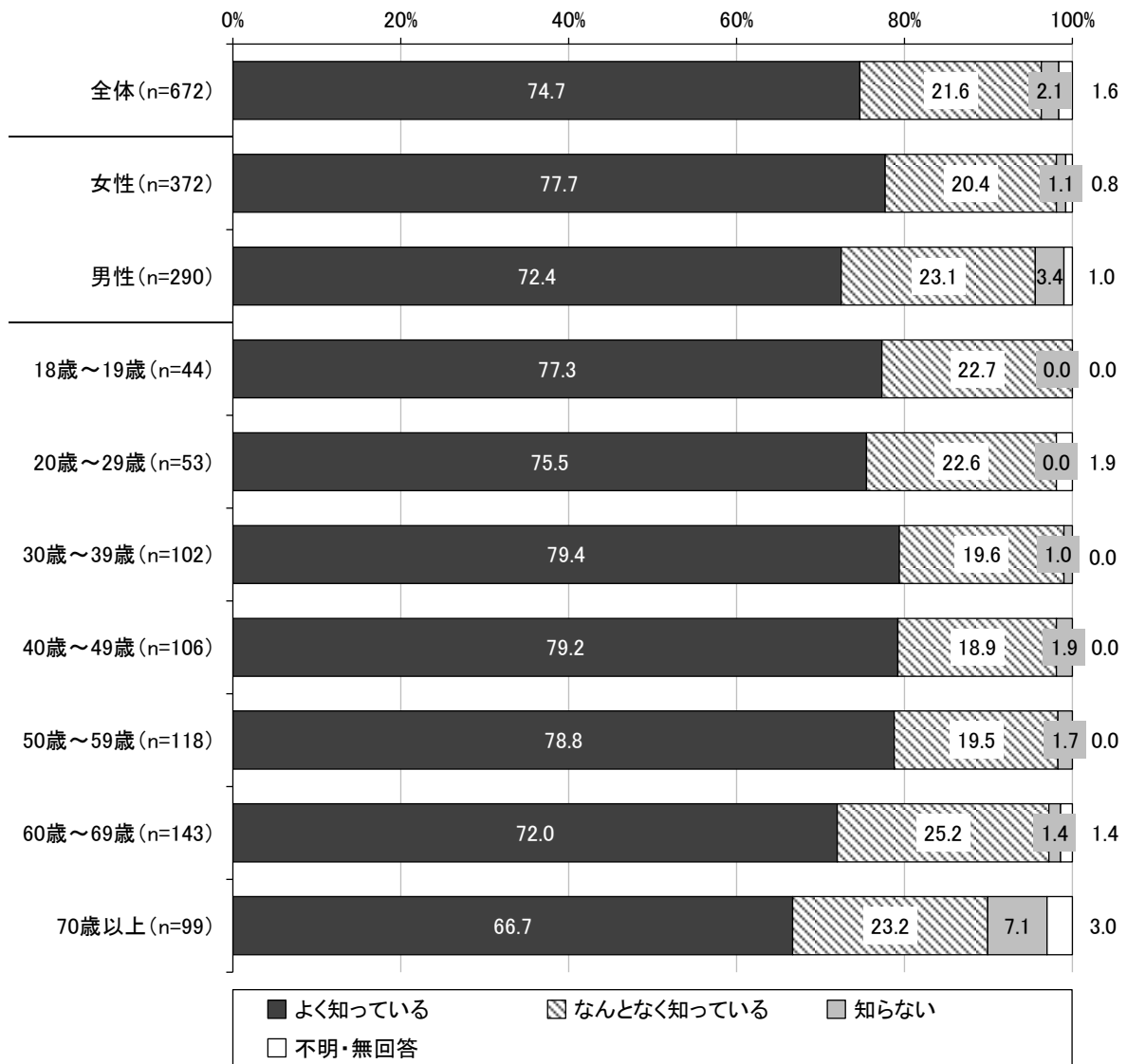
問7. あなたは、次の「ことば」をご存じですか。
 (ア～サそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ウ. DV (配偶者等からの暴力)

全体では「よく知っている」が74.7%と最も高く、次いで「なんとなく知っている」が21.6%、「知らない」が2.1%となっています。

性別にみると、男女ともに「よく知っている」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「よく知っている」が最も高くなっています。



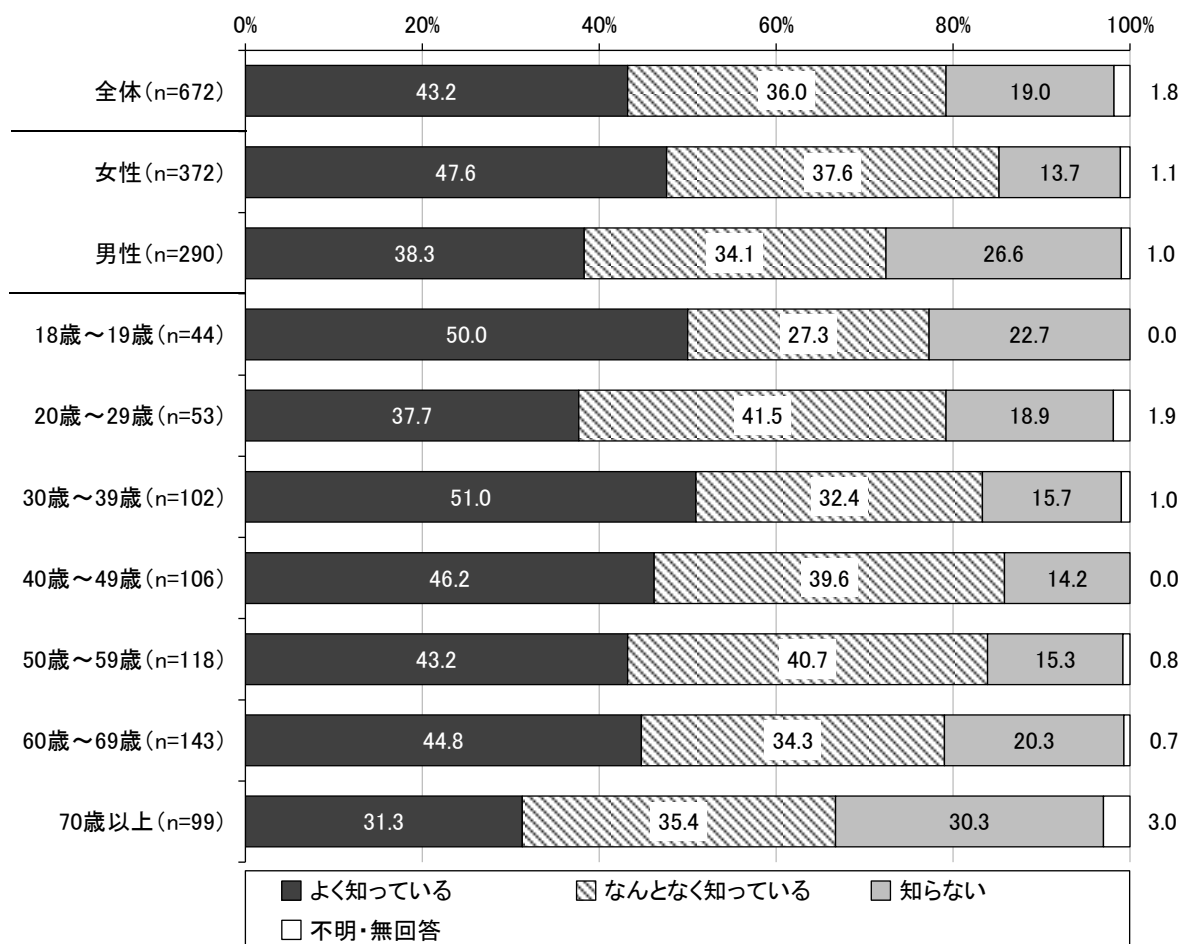
問7. あなたは、次の「ことば」をご存じですか。
 (ア～サそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

エ. デートDV (交際相手からの暴力)

全体では「よく知っている」が43.2%と最も高く、次いで「なんとなく知っている」が36.0%、「知らない」が19.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「よく知っている」が最も高くなっています。

年齢別にみると、20歳代、70歳以上では「なんとなく知っている」、それ以外の年代では「よく知っている」が最も高くなっています。



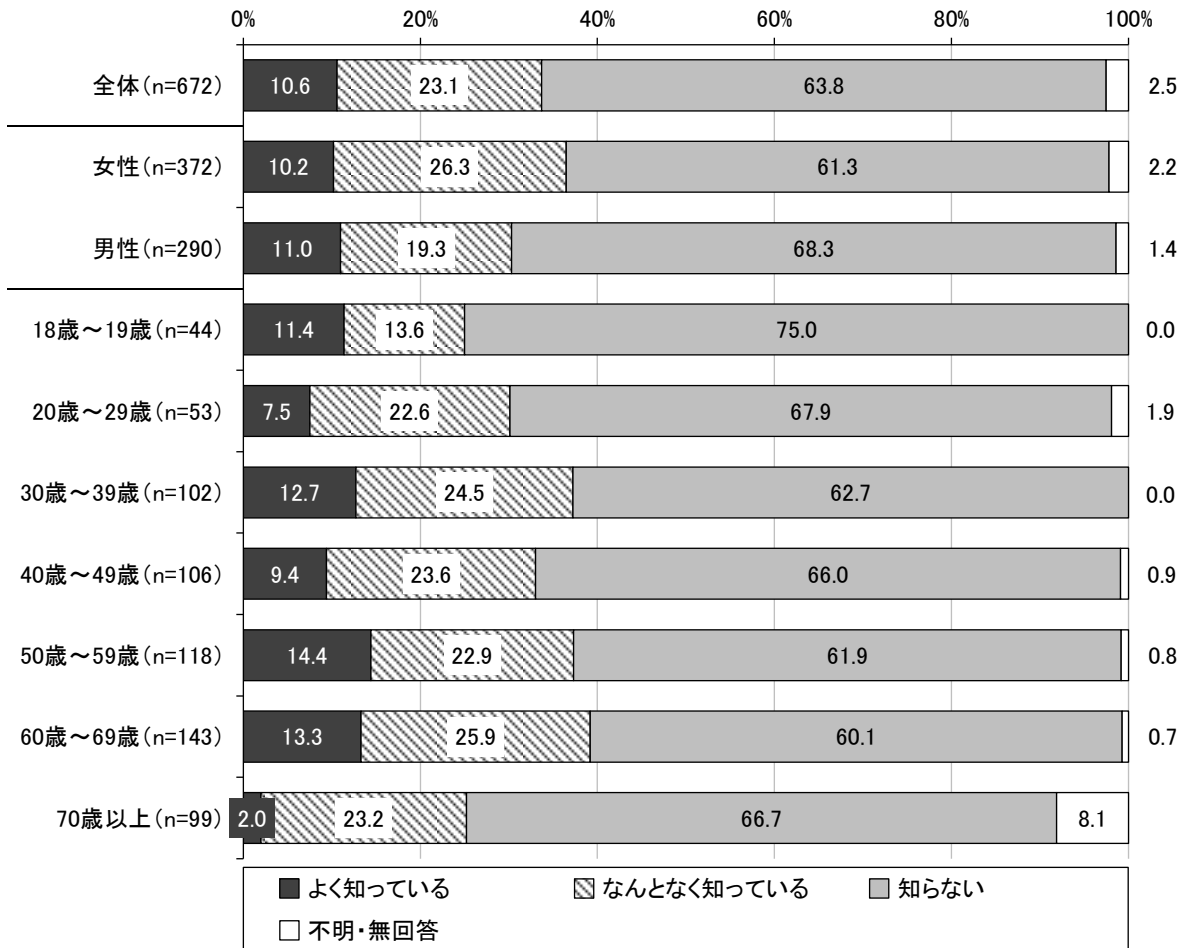
問7. あなたは、次の「ことば」をご存じですか。
 (ア～サそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

オ. エンパワーメント（本人の内にもっている個性、能力を引き出す）

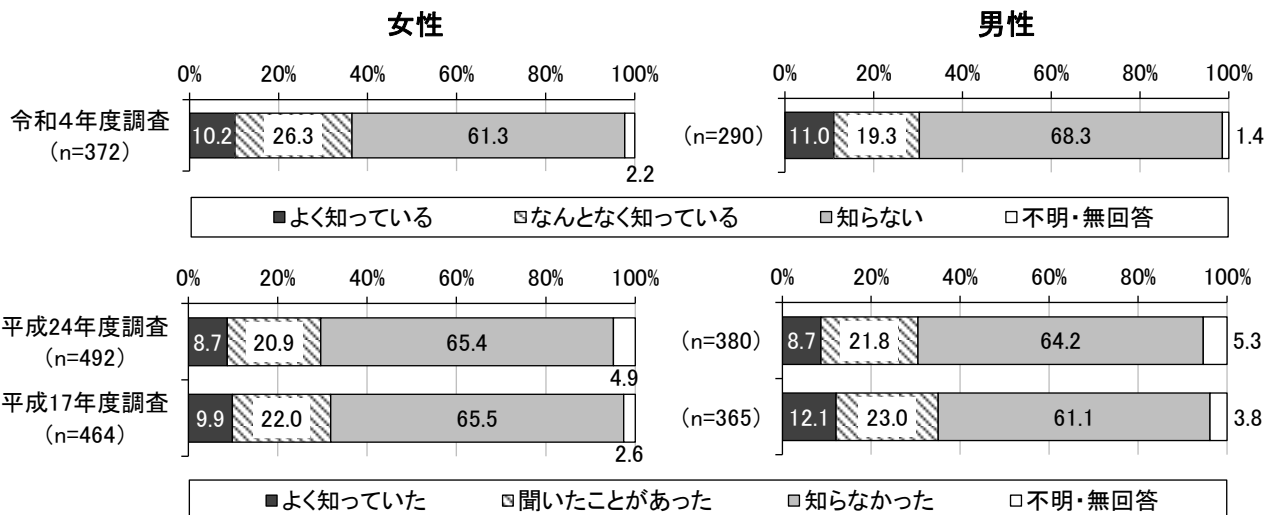
全体では「知らない」が63.8%と最も高く、次いで「なんとなく知っている」が23.1%、「よく知っている」が10.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「知らない」が最も高くなっています。



<前回調査（平成24年度、17年度）との比較（参考）>



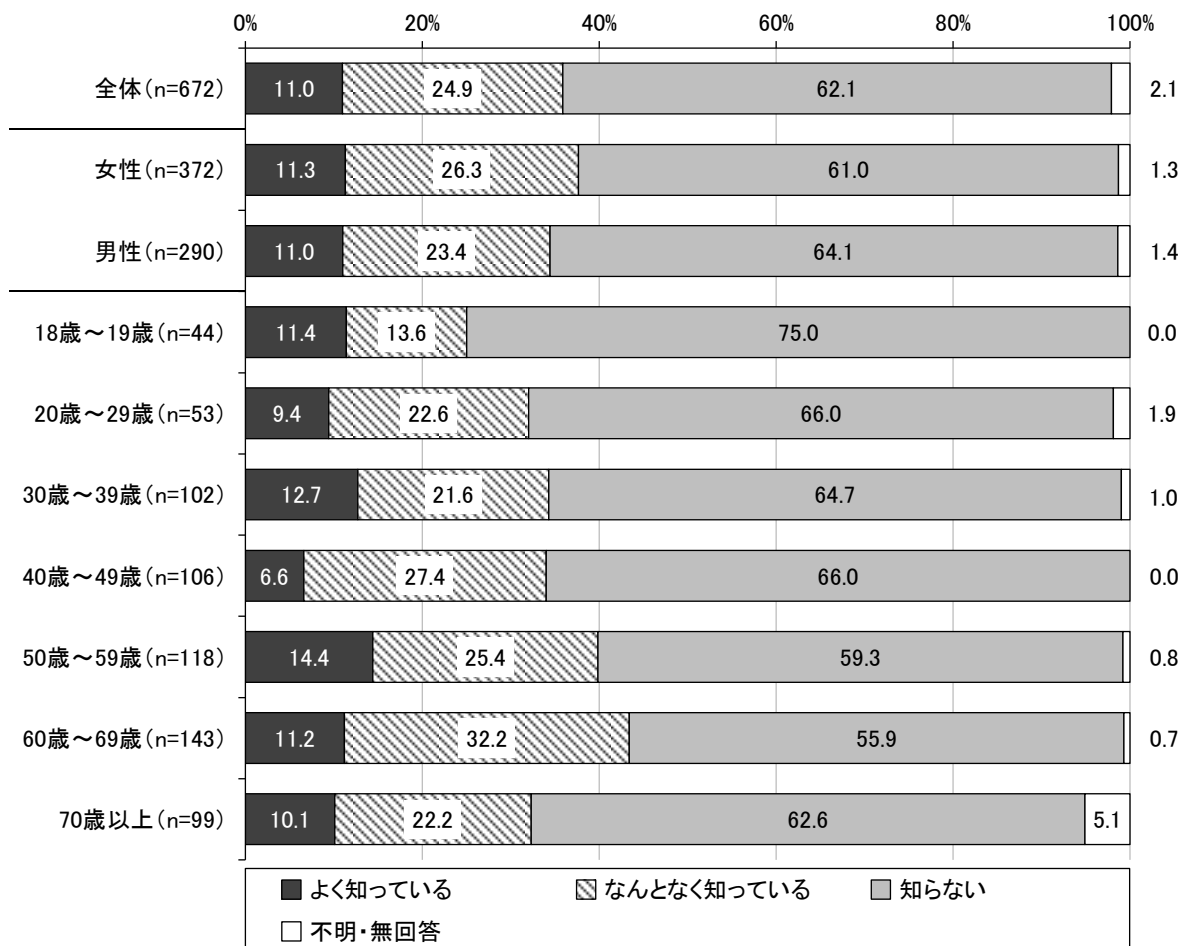
問7. あなたは、次の「ことば」をご存じですか。
 (ア～サそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

カ. ポジティブ・アクション (積極的改善措置)

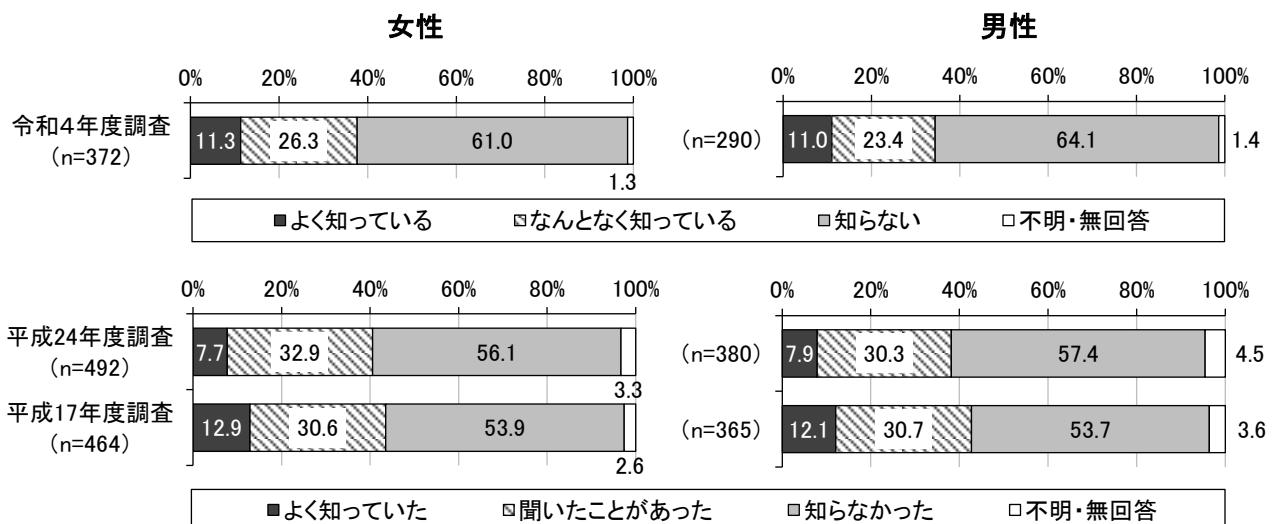
全体では「知らない」が62.1%と最も高く、次いで「なんとなく知っている」が24.9%、「よく知っている」が11.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「知らない」が最も高くなっています。



<前回調査 (平成24年度、17年度) との比較 (参考) >



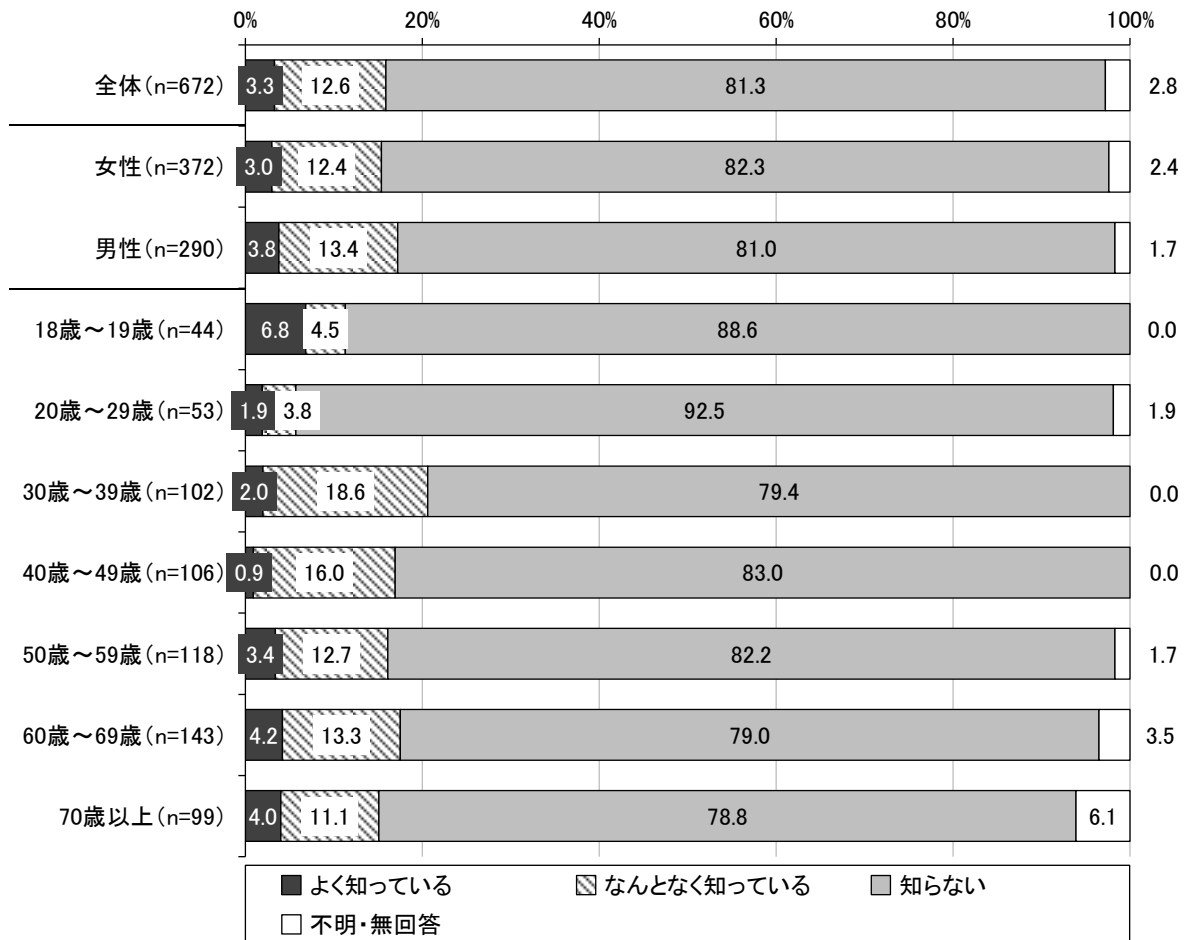
問7. あなたは、次の「ことば」をご存じですか。
 (ア～サそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

キ. アンコンシャスバイアス（無意識の偏ったモノの見方）

全体では「知らない」が81.3%と最も高く、次いで「なんとなく知っている」が12.6%、「よく知っている」が3.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「知らない」が最も高くなっています。



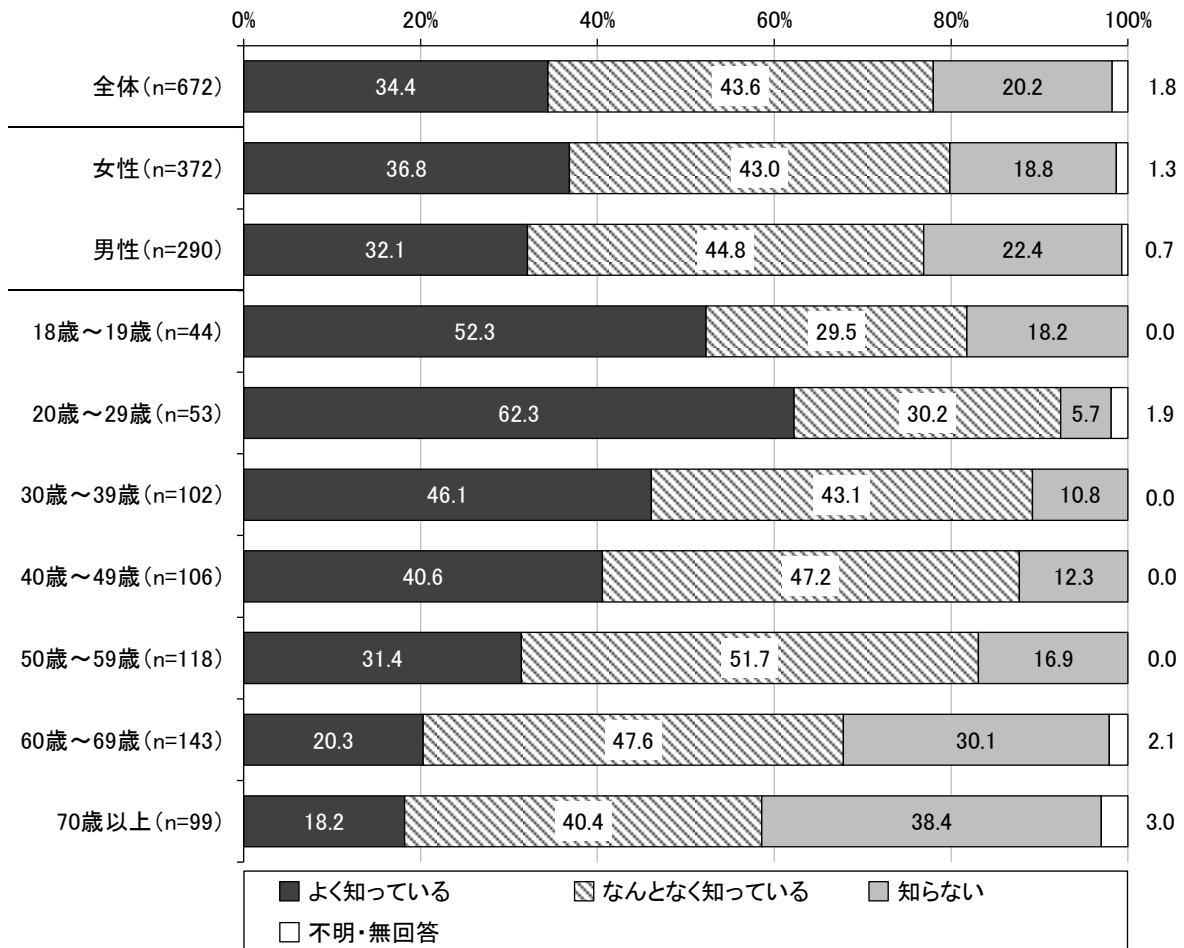
問7. あなたは、次の「ことば」をご存じですか。
 (ア～サそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ク. LGBTQ (レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クエスチョニング)の頭文字をとった言葉で、性的少数者(セクシュアルマイノリティ)を表す言葉の一つ

全体では「なんとなく知っている」が43.6%と最も高く、次いで「よく知っている」が34.4%、「知らない」が20.2%となっています。

性別にみると、男女ともに「なんとなく知っている」が最も高くなっています。

年齢別にみると、30歳代以下では「よく知っている」、40歳代以上では「なんとなく知っている」が最も高くなっています。



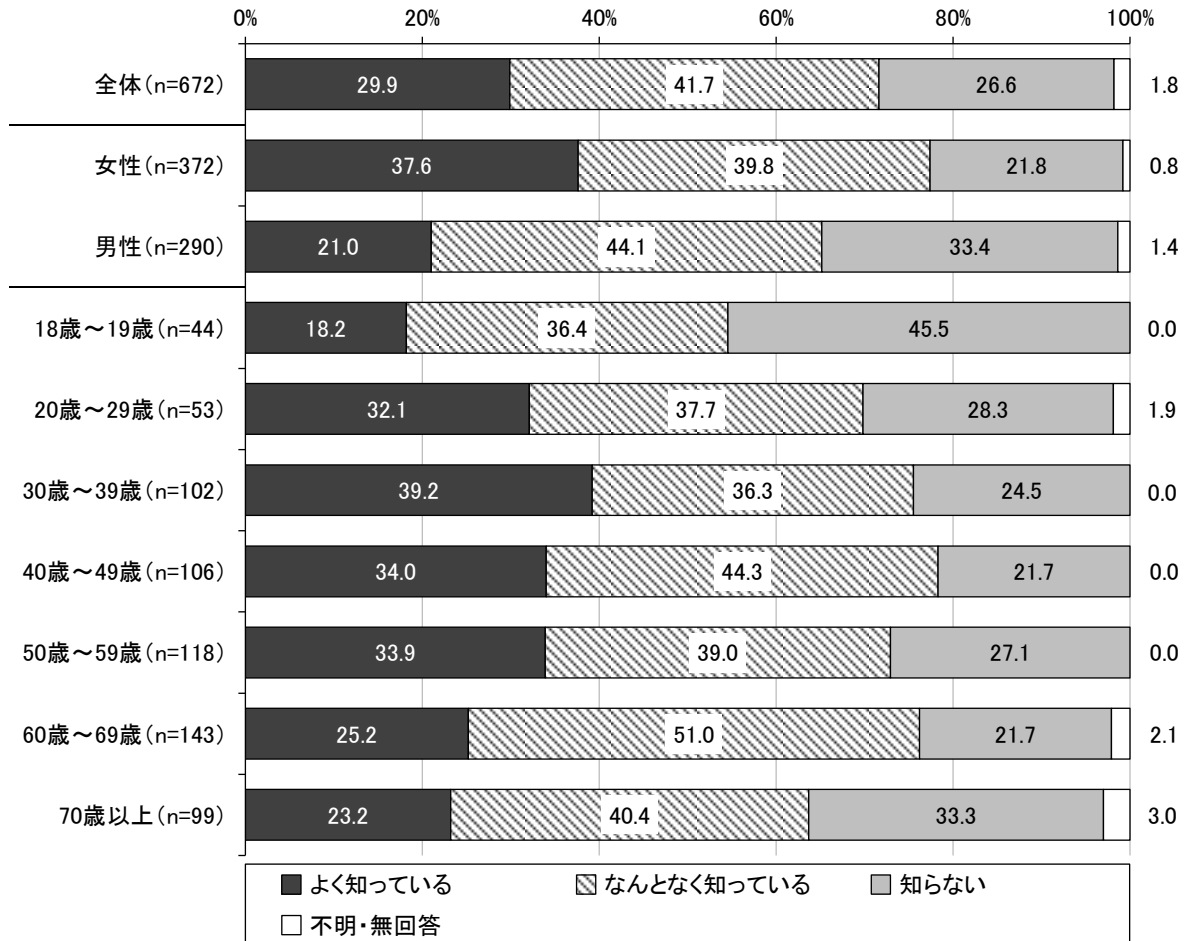
問7. あなたは、次の「ことば」をご存じですか。
 (ア～サそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ケ. 生理の貧困（経済的な理由で生理用品を購入できない女性や女の子がいるという問題）

全体では「なんとなく知っている」が41.7%と最も高く、次いで「よく知っている」が29.9%、「知らない」が26.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「なんとなく知っている」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳～19歳では「知らない」、30歳代では「よく知っている」、それ以外の年代では「なんとなく知っている」が最も高くなっています。



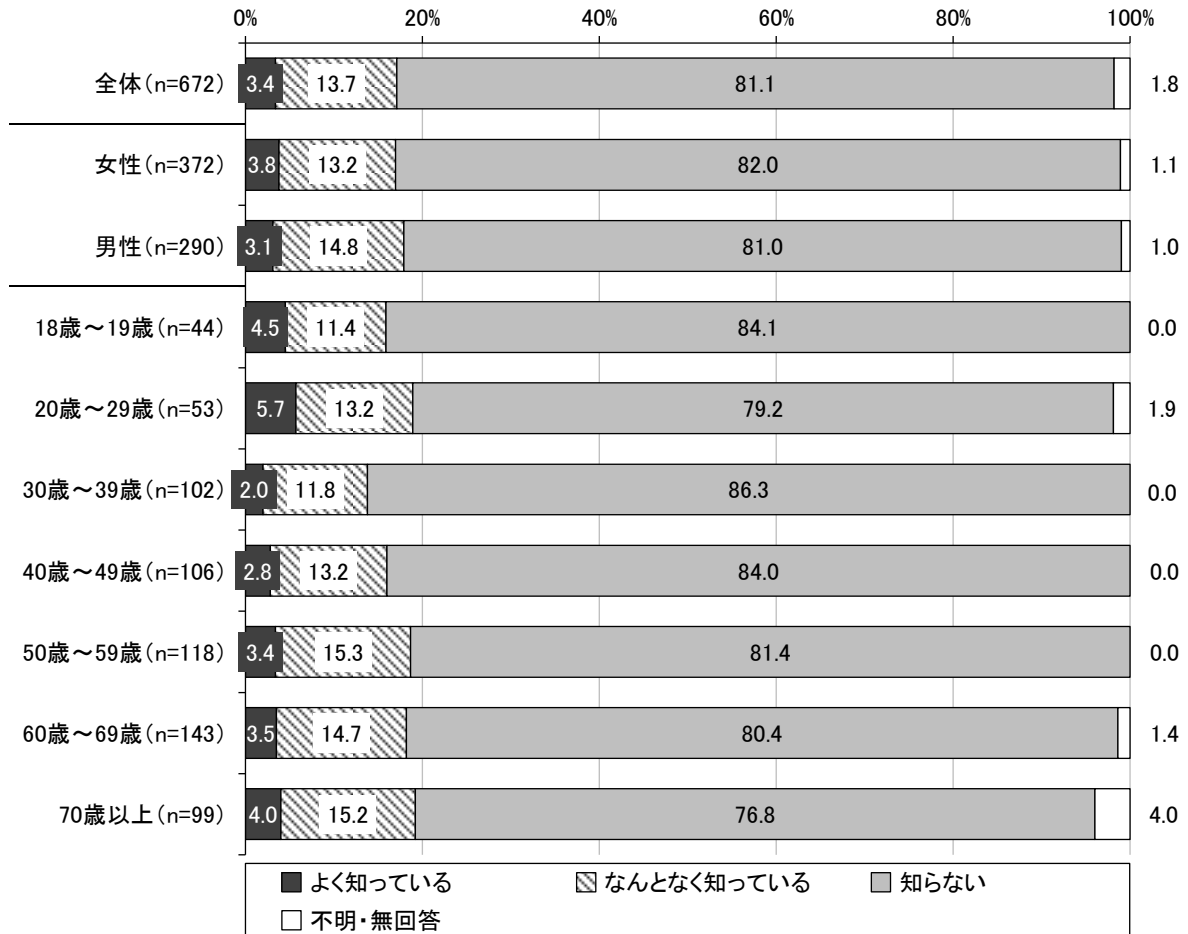
問7. あなたは、次の「ことば」をご存じですか。
 (ア～サそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

コ. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康と権利)

全体では「知らない」が81.1%と最も高く、次いで「なんとなく知っている」が13.7%、「よく知っている」が3.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「知らない」が最も高くなっています。



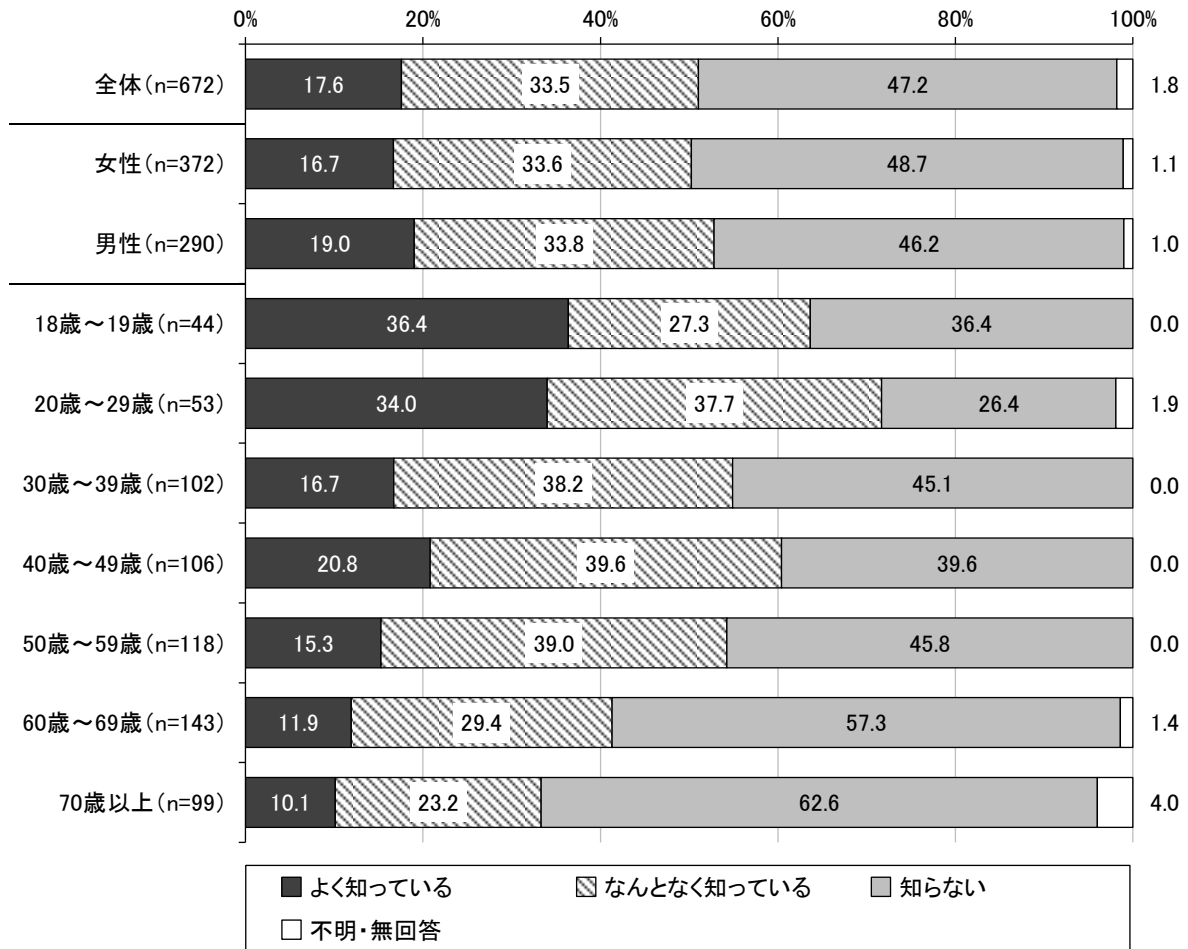
問7. あなたは、次の「ことば」をご存じですか。
 (ア～サそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

サ. ダイバーシティ (多様性)

全体では「知らない」が47.2%と最も高く、次いで「なんとなく知っている」が33.5%、「よく知っている」が17.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「知らない」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳～19歳では「よく知っている」「知らない」、20歳代では「なんとなく知っている」、40歳代では「なんとなく知っている」「知らない」、それ以外の年代では「知らない」が最も高くなっています。



3. 家庭内の役割分担や子育てについて

問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。

(ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

「A. 理想」は、すべての方がお答えください。「B. 現状」は、家族や配偶者（パートナー）と一緒に住まいの方のみお答えください。また、「B. 現状」の高齢者等の介護、子育てに関する項目（コ～シ）は、該当する方のみお答えください。

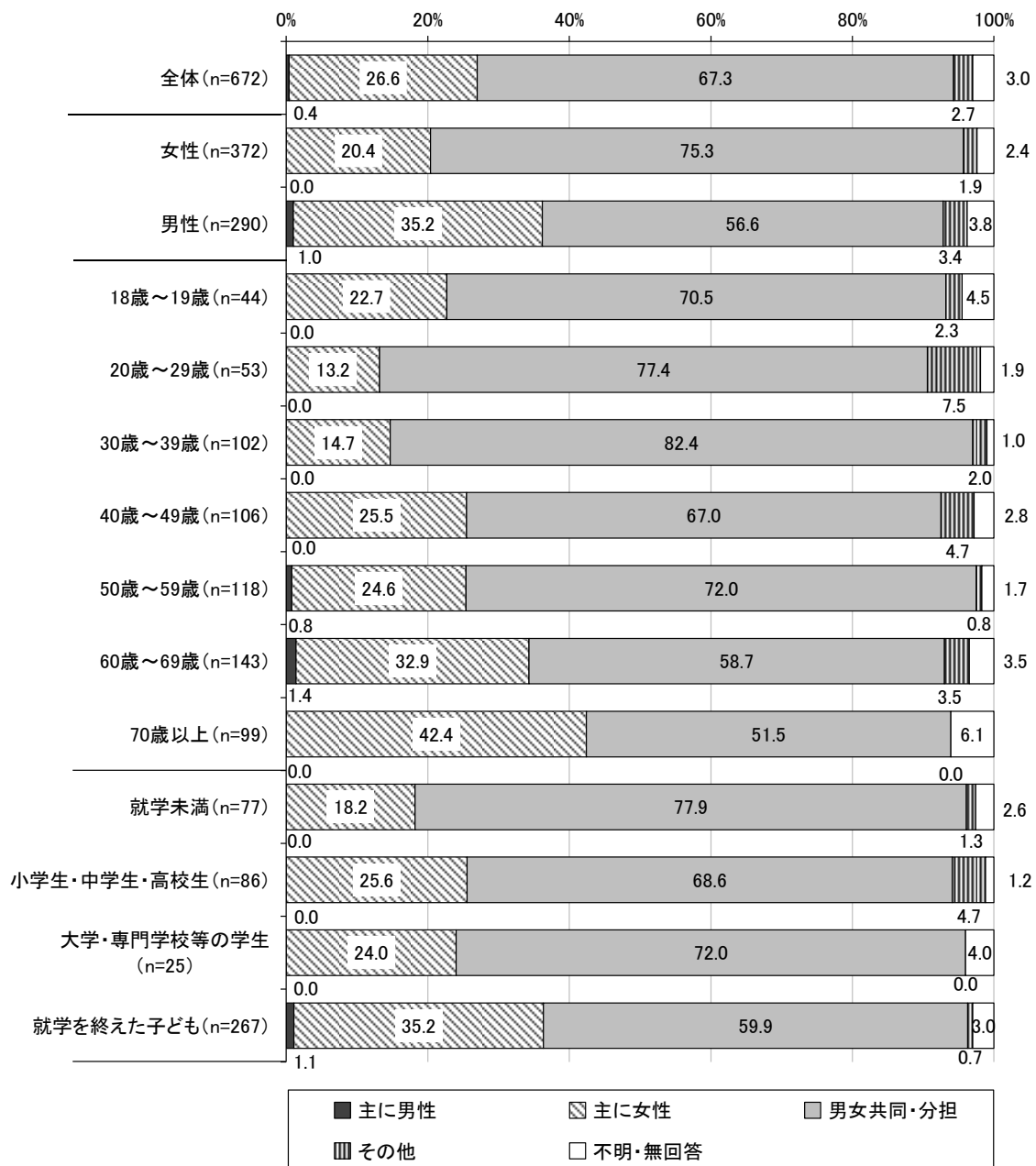
A. 理想／ア. 食事のしたく

全体では「男女共同・分担」が67.3%と最も高く、次いで「主に女性」が26.6%、「主に男性」が0.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「男女共同・分担」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「男女共同・分担」が最も高くなっています。

一番下の子どもの年齢別にみると、すべての年代で「男女共同・分担」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
 (ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

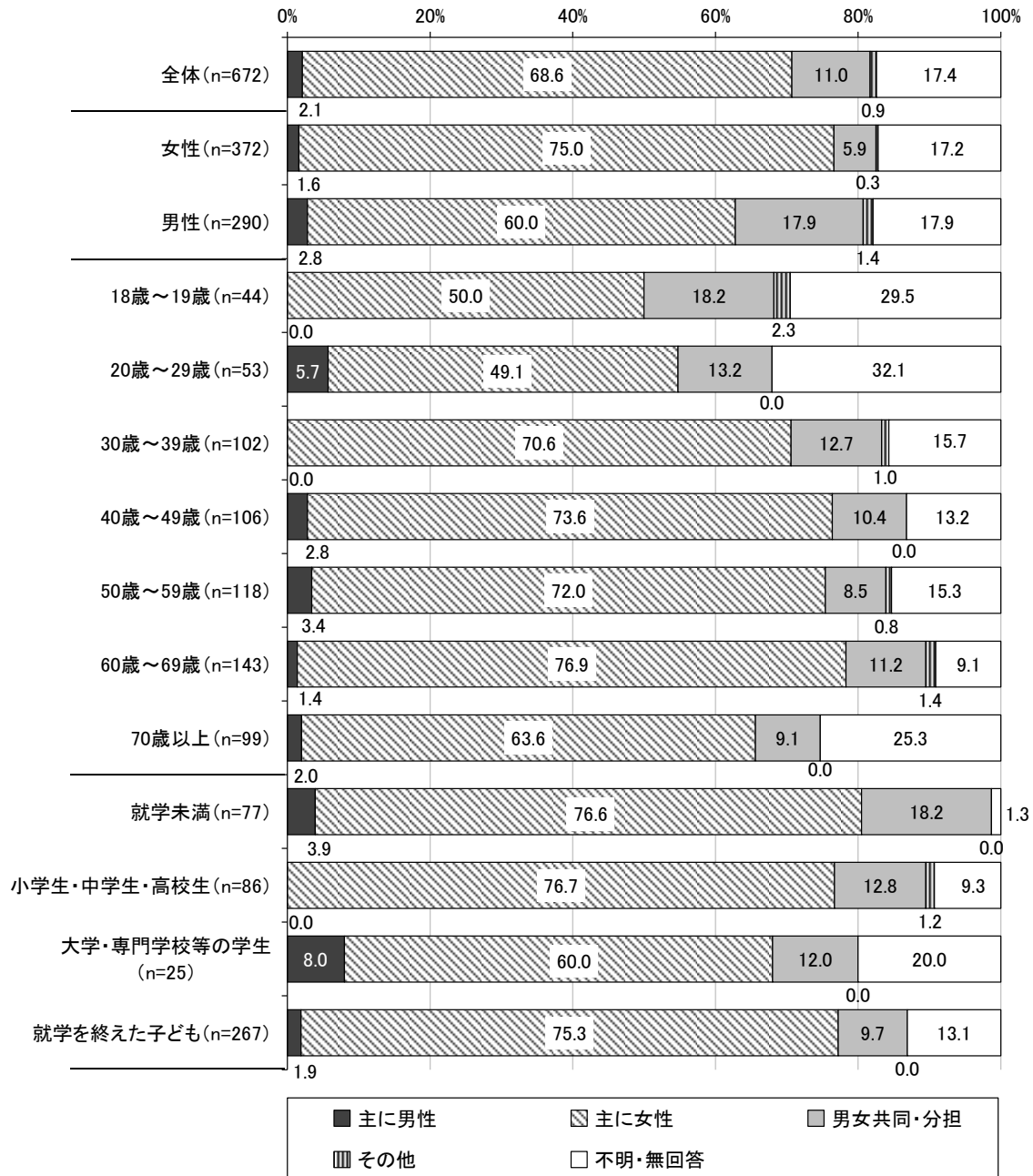
B. 現状／ア. 食事のしたく

全体では「主に女性」が68.6%と最も高く、次いで「男女共同・分担」が11.0%、「主に男性」が2.1%となっています。

性別にみると、男女ともに「主に女性」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「主に女性」が最も高くなっています。

一番下の子どもの年齢別にみると、すべての年代で「主に女性」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
 (ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

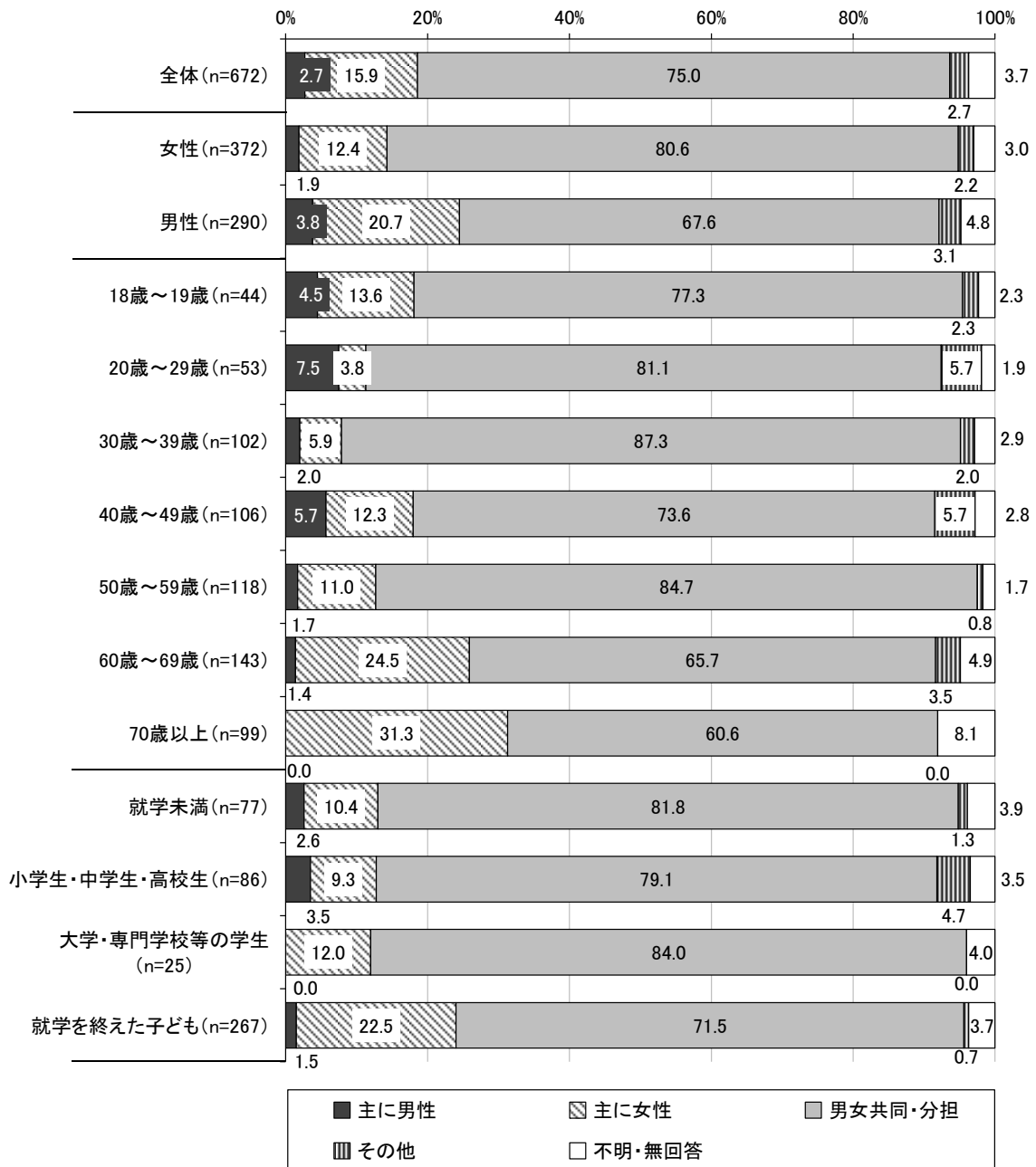
A. 理想／イ. 食事の後片付け

全体では「男女共同・分担」が75.0%と最も高く、次いで「主に女性」が15.9%、「主に男性」が2.7%となっています。

性別にみると、男女ともに「男女共同・分担」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「男女共同・分担」が最も高くなっています。

一番下の子どもの年齢別にみると、すべての年代で「男女共同・分担」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
 (ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

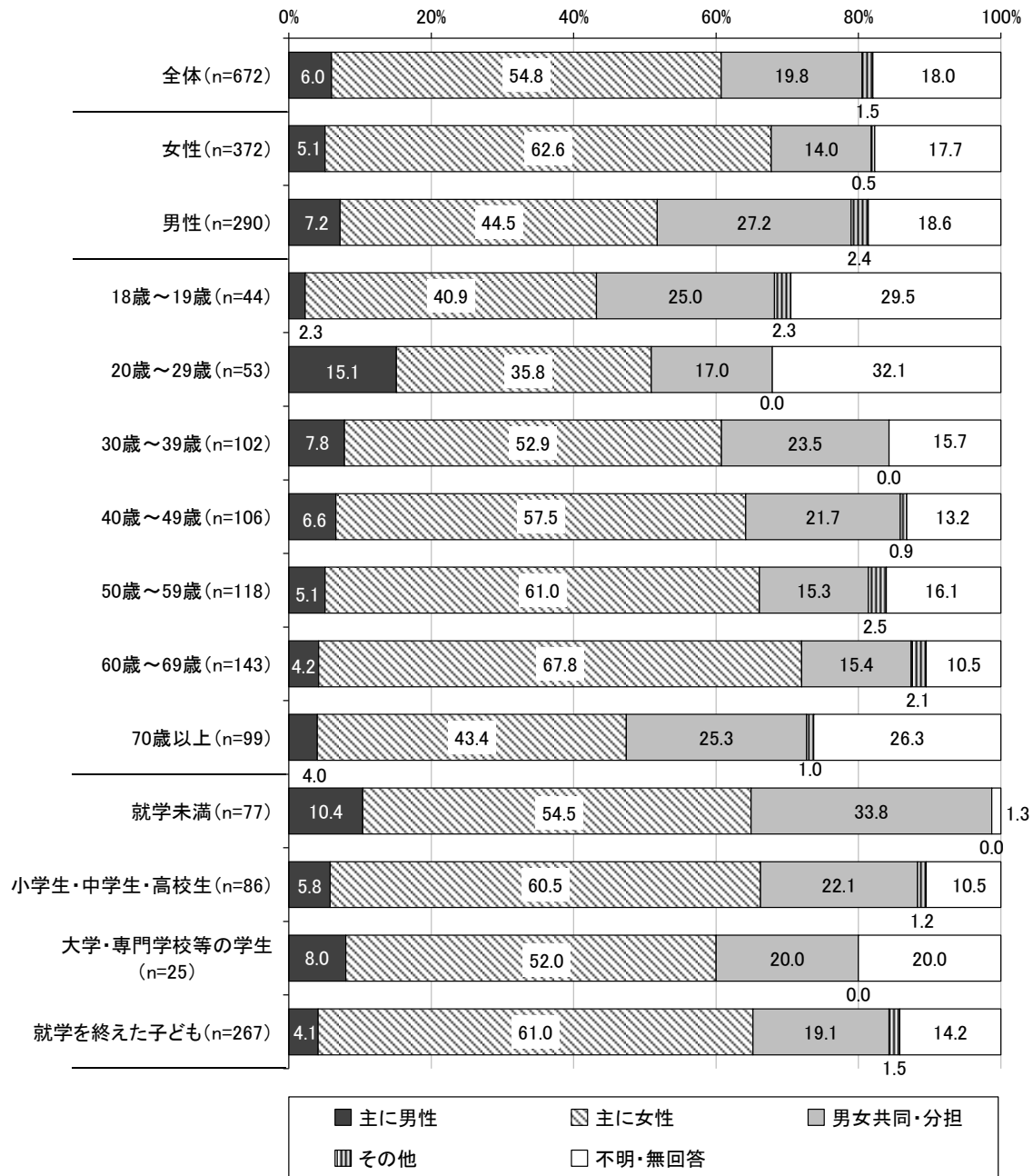
B. 現状／イ. 食事の後片付け

全体では「主に女性」が54.8%と最も高く、次いで「男女共同・分担」が19.8%、「主に男性」が6.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「主に女性」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「主に女性」が最も高くなっています。

一番下の子どもの年齢別にみると、すべての年代で「主に女性」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
 (ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

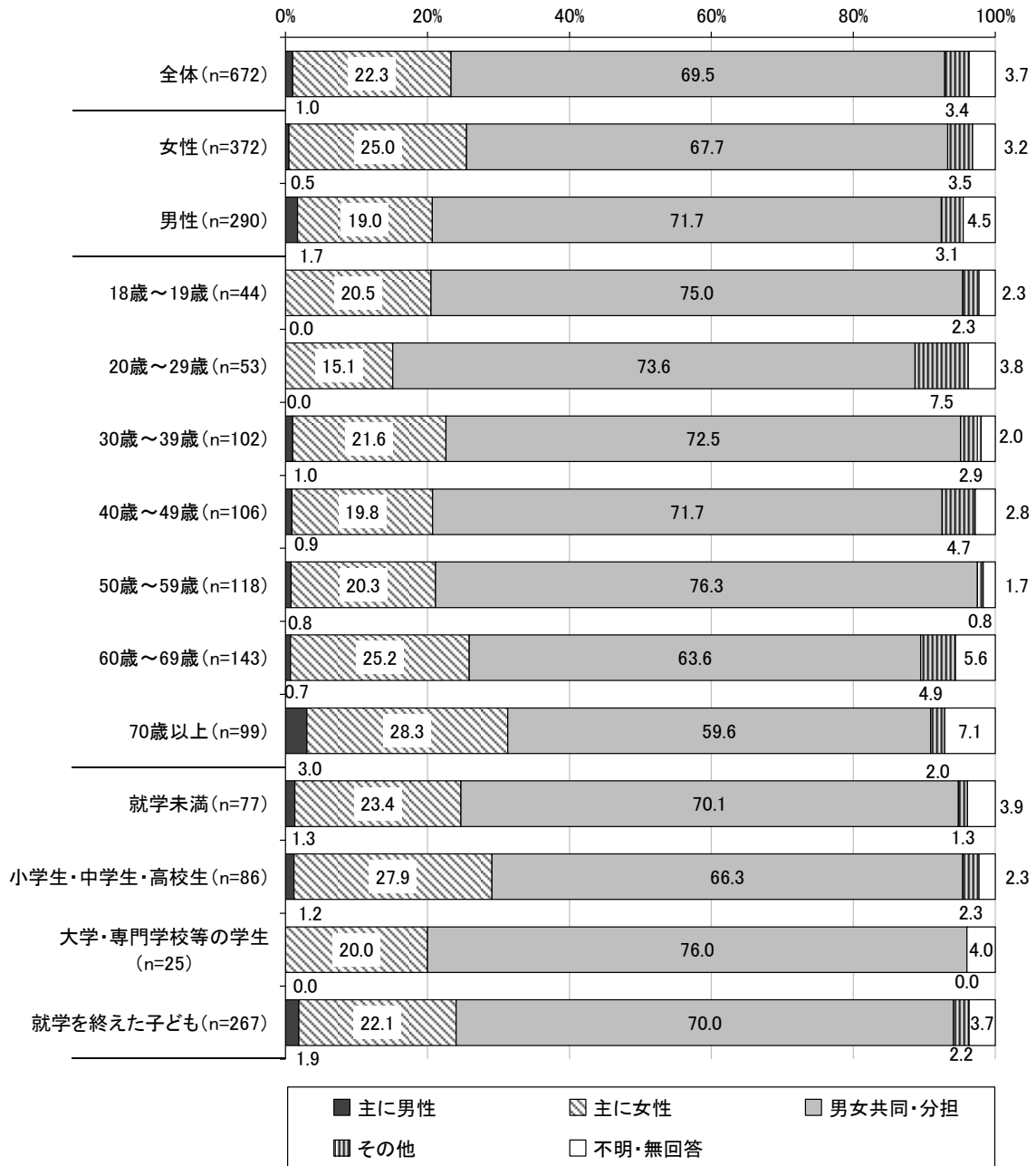
A. 理想／ウ. 日常の買い物

全体では「男女共同・分担」が69.5%と最も高く、次いで「主に女性」が22.3%、「主に男性」が1.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「男女共同・分担」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「男女共同・分担」が最も高くなっています。

一番下の子どもの年齢別にみると、すべての年代で「男女共同・分担」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
 (ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

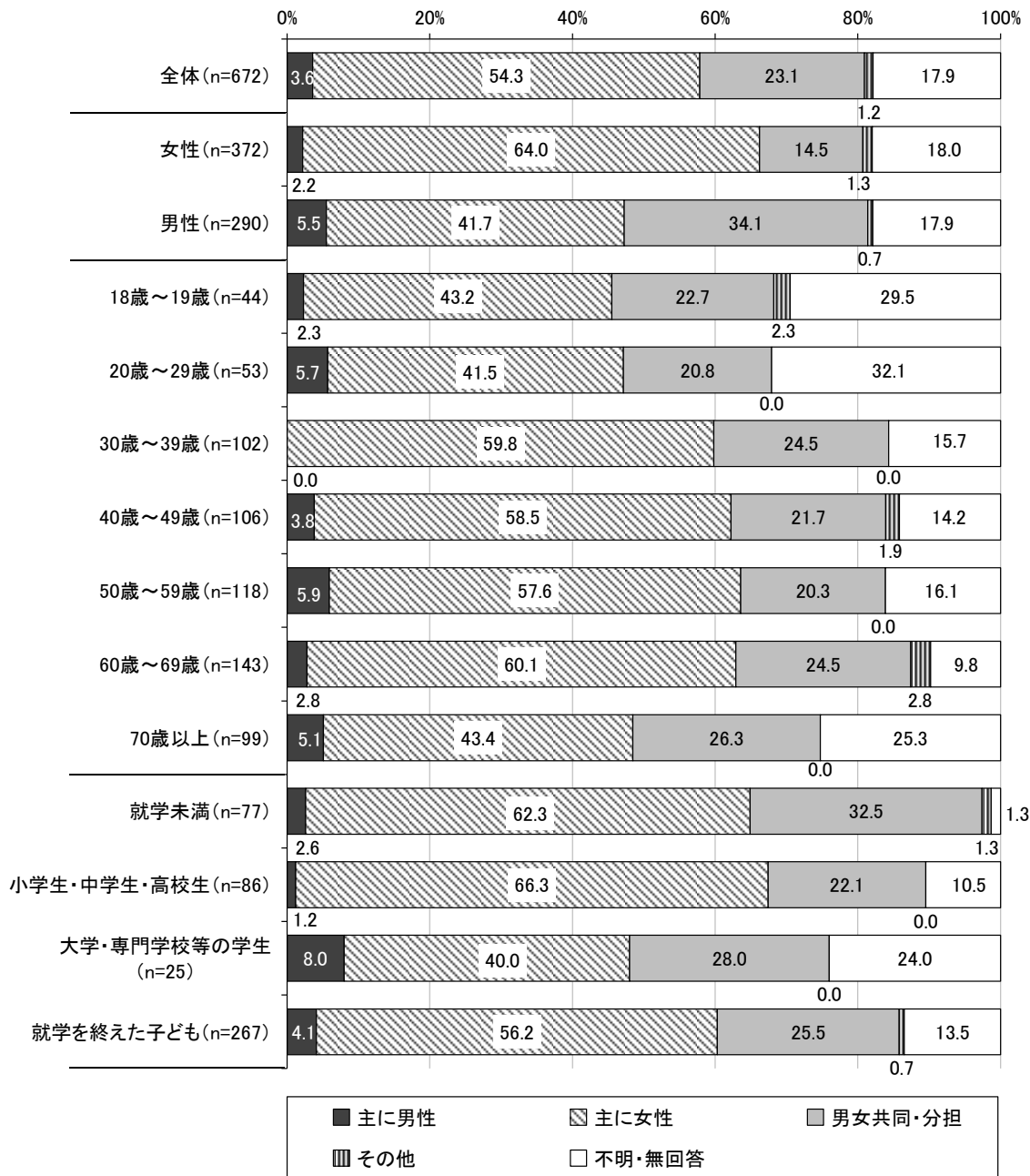
B. 現状／ウ. 日常の買い物

全体では「主に女性」が54.3%と最も高く、次いで「男女共同・分担」が23.1%、「主に男性」が3.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「主に女性」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「主に女性」が最も高くなっています。

一番下の子どもの年齢別にみると、すべての年代で「主に女性」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
 (ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

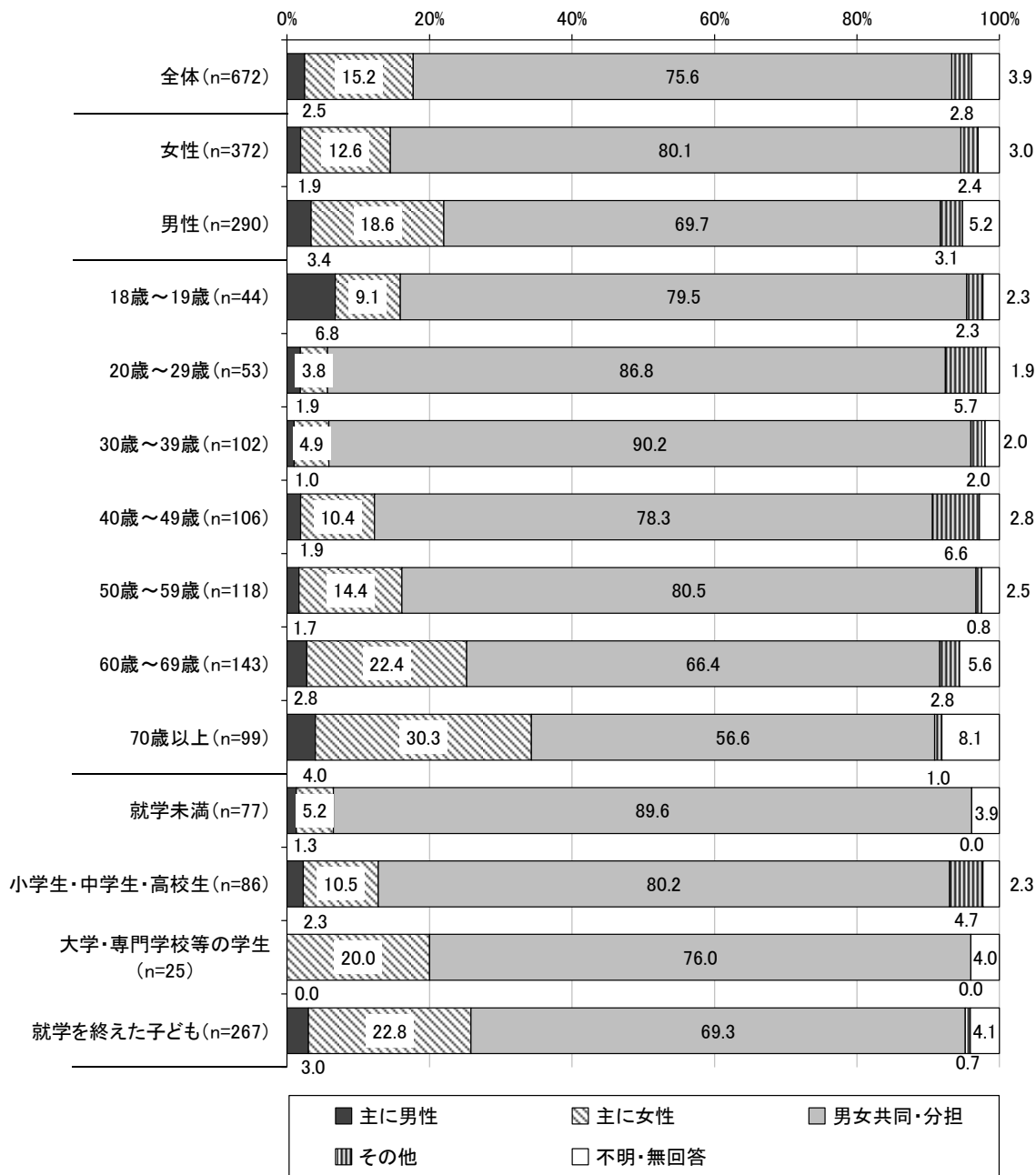
A. 理想／エ. 掃除

全体では「男女共同・分担」が75.6%と最も高く、次いで「主に女性」が15.2%、「主に男性」が2.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「男女共同・分担」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「男女共同・分担」が最も高くなっています。

一番下の子どもの年齢別にみると、すべての年代で「男女共同・分担」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
 (ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

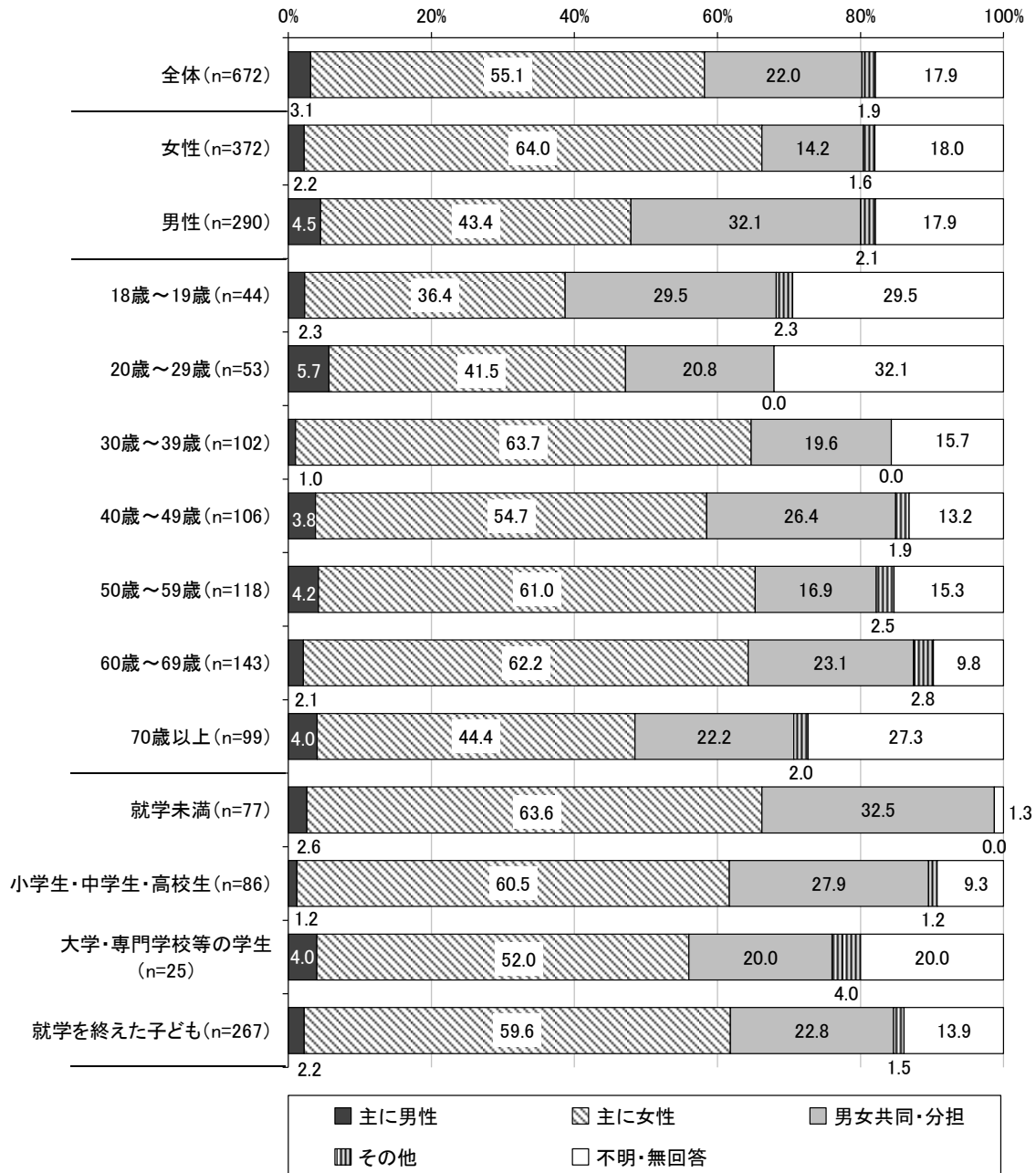
B. 現状／エ. 掃除

全体では「主に女性」が55.1%と最も高く、次いで「男女共同・分担」が22.0%、「主に男性」が3.1%となっています。

性別にみると、男女ともに「主に女性」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「主に女性」が最も高くなっています。

一番下の子どもの年齢別にみると、すべての年代で「主に女性」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
 (ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

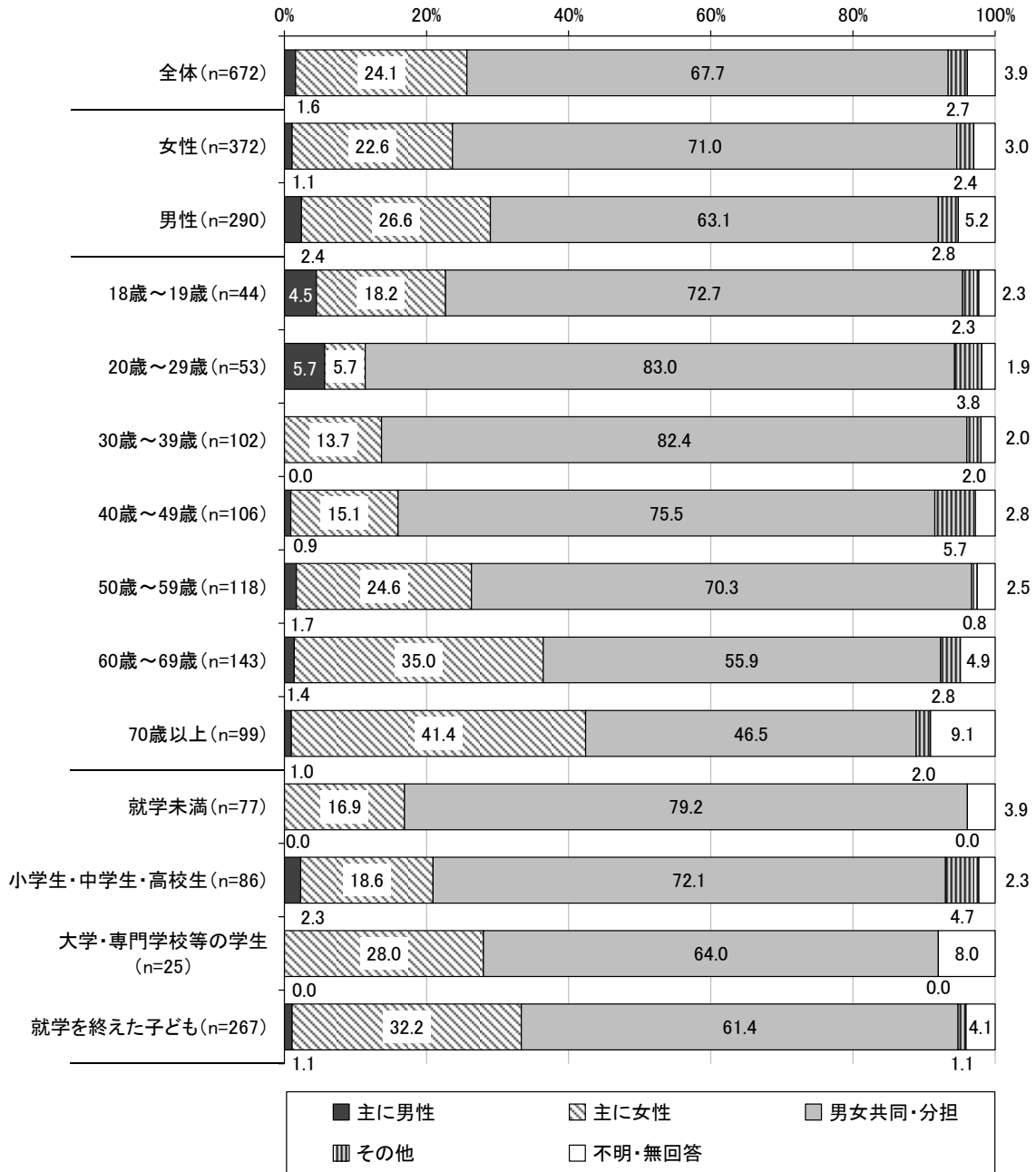
A. 理想／オ. 洗濯

全体では「男女共同・分担」が67.7%と最も高く、次いで「主に女性」が24.1%、「主に男性」が1.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「男女共同・分担」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「男女共同・分担」が最も高くなっています。

一番下の子どもの年齢別にみると、すべての年代で「男女共同・分担」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
 (ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

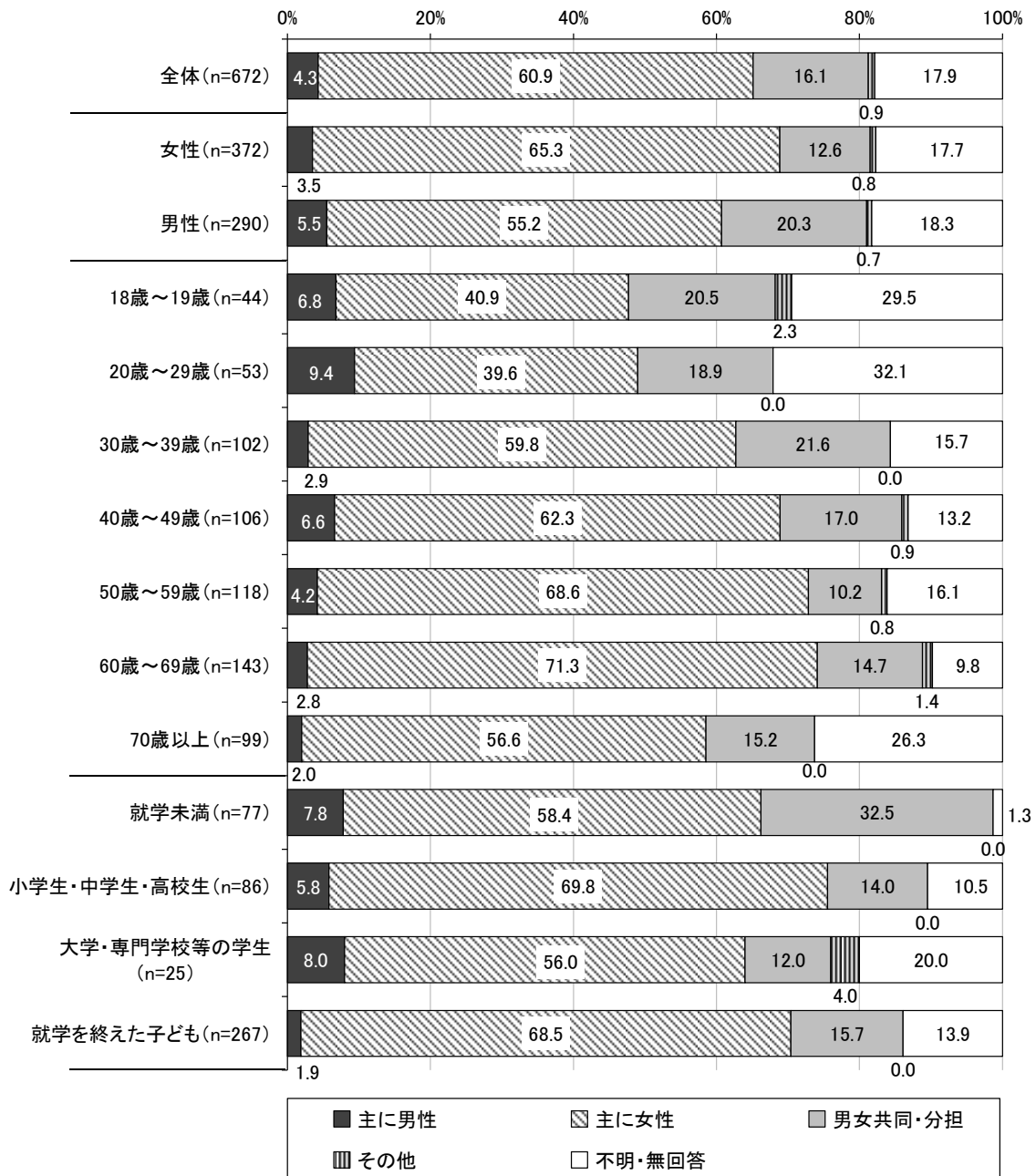
B. 現状／オ. 洗濯

全体では「主に女性」が60.9%と最も高く、次いで「男女共同・分担」が16.1%、「主に男性」が4.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「主に女性」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「主に女性」が最も高くなっています。

一番下の子どもの年齢別にみると、すべての年代で「主に女性」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
 (ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

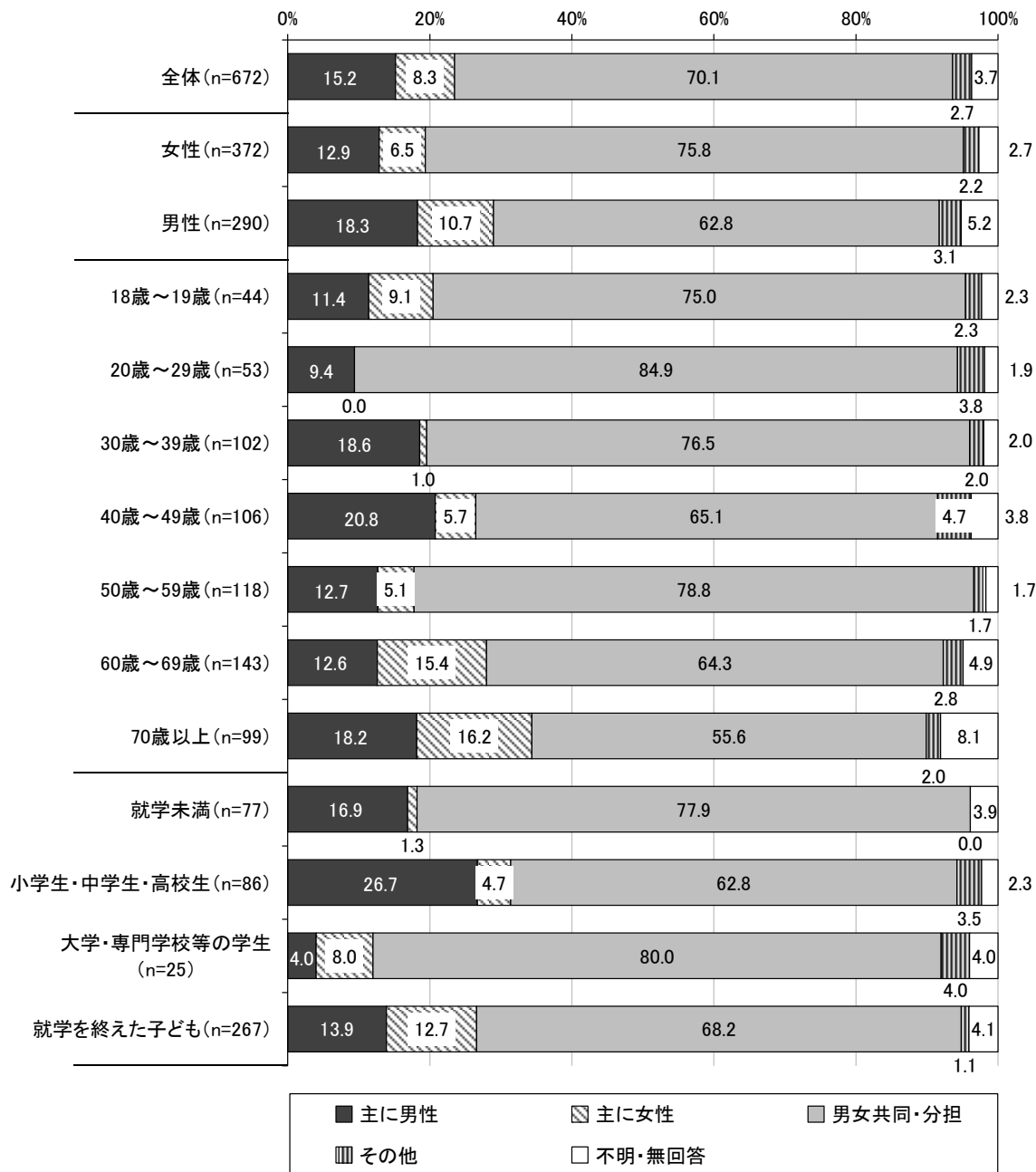
A. 理想/力. ゴミだし

全体では「男女共同・分担」が70.1%と最も高く、次いで「主に男性」が15.2%、「主に女性」が8.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「男女共同・分担」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「男女共同・分担」が最も高くなっています。

一番下の子どもの年齢別にみると、すべての年代で「男女共同・分担」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
 (ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

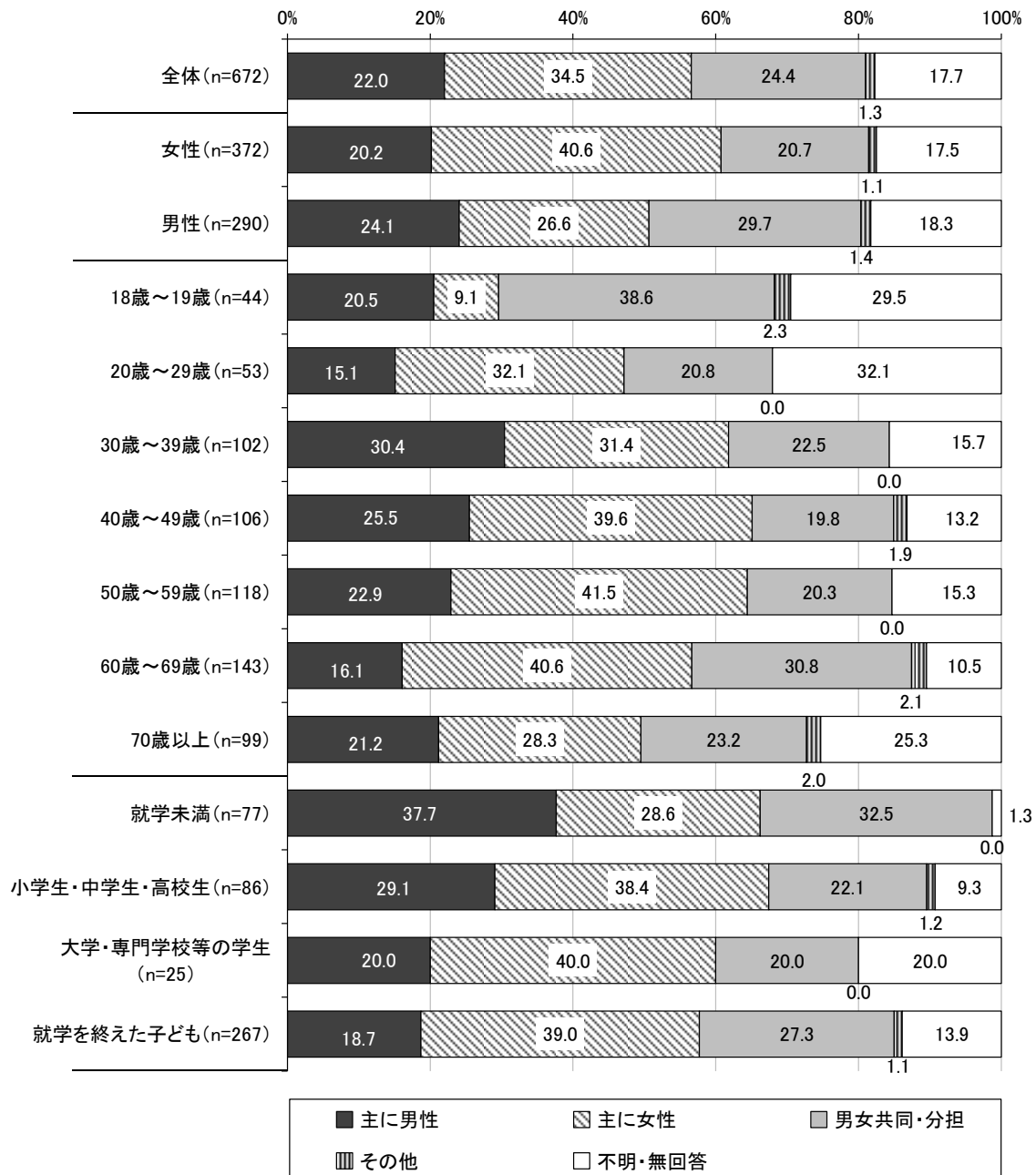
B. 現状／カ. ゴミだし

全体では「主に女性」が34.5%と最も高く、次いで「男女共同・分担」が24.4%、「主に男性」が22.0%となっています。

性別にみると、女性では「主に女性」、男性では「男女共同・分担」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳～19歳では「男女共同・分担」、20歳代以上では「主に女性」が最も高くなっています。

一番下の子どもの年齢別にみると、「就学未満」では「主に男性」、それ以外の年代では「主に女性」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
 (ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

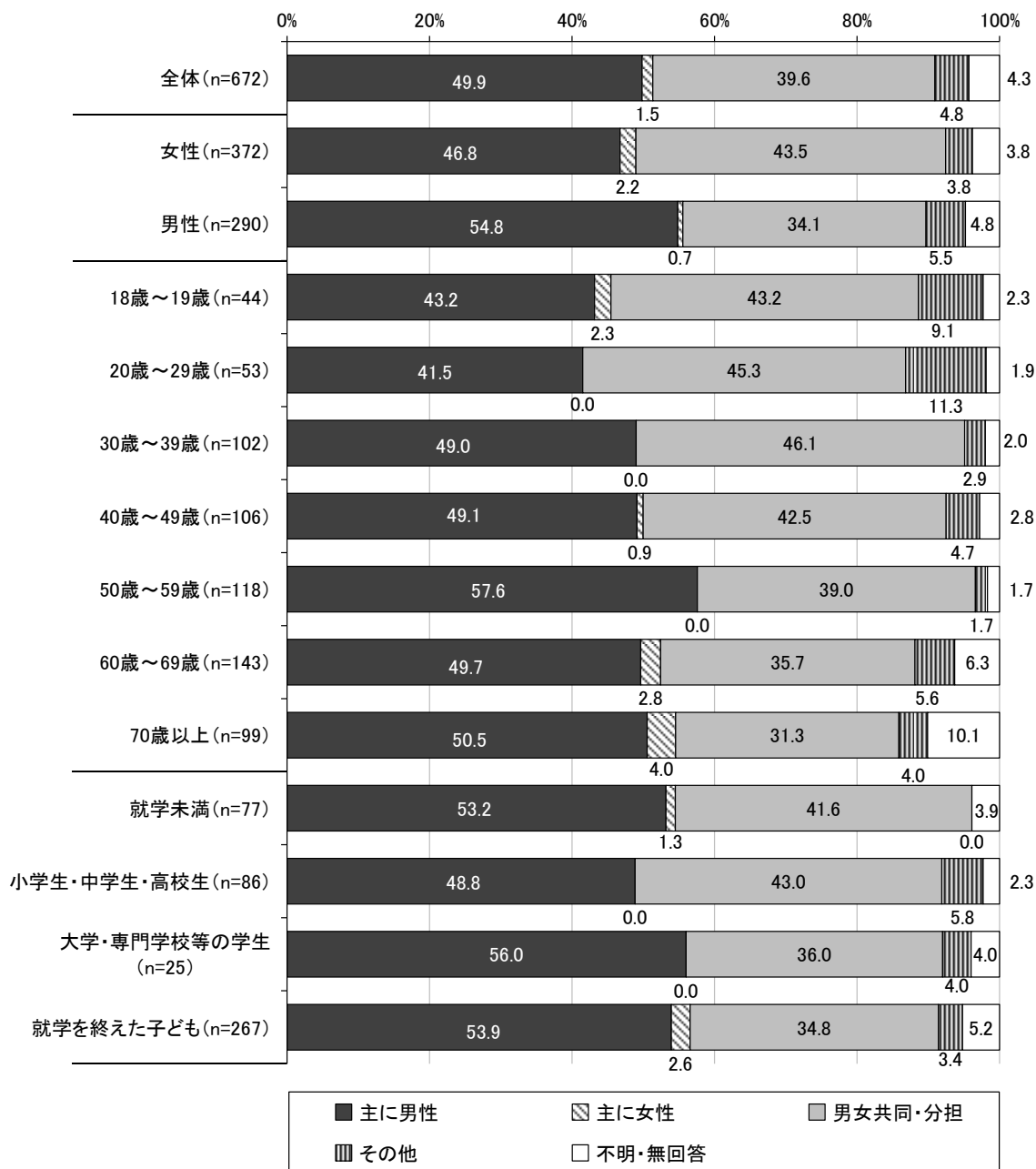
A. 理想／キ. 大工仕事や電気製品の管理

全体では「主に男性」が49.9%と最も高く、次いで「男女共同・分担」が39.6%、「主に女性」が1.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「主に男性」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳～19歳では「主に男性」「男女共同・分担」、20歳代では「男女共同・分担」、30歳代以上では「主に男性」が最も高くなっています。

一番下の子どもの年齢別にみると、すべての年代で「主に男性」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
(ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

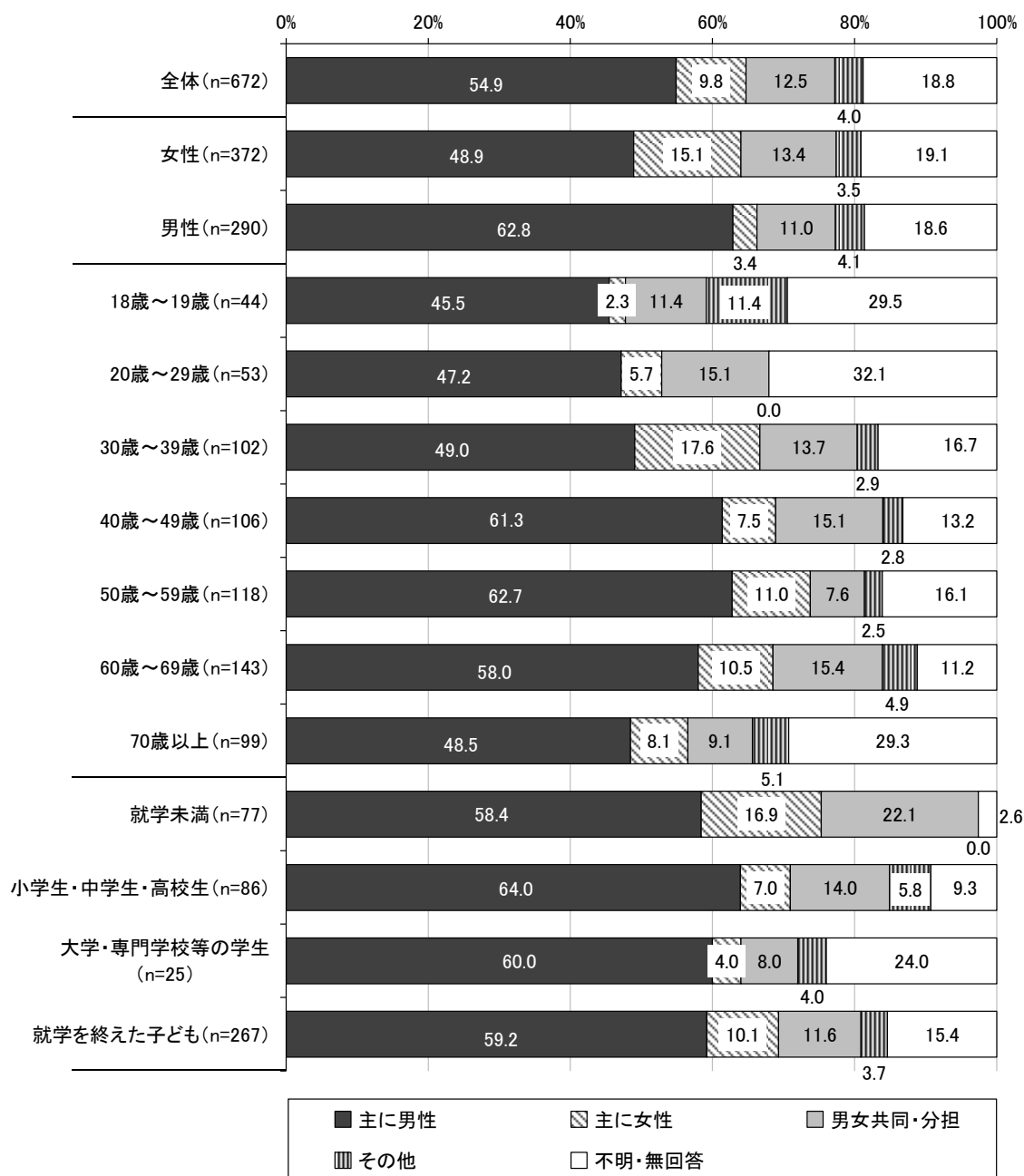
B. 現状／キ. 大工仕事や電気製品の管理

全体では「主に男性」が54.9%と最も高く、次いで「男女共同・分担」が12.5%、「主に女性」が9.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「主に男性」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「主に男性」が最も高くなっています。

一番下の子どもの年齢別にみると、すべての年代で「主に男性」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
 (ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

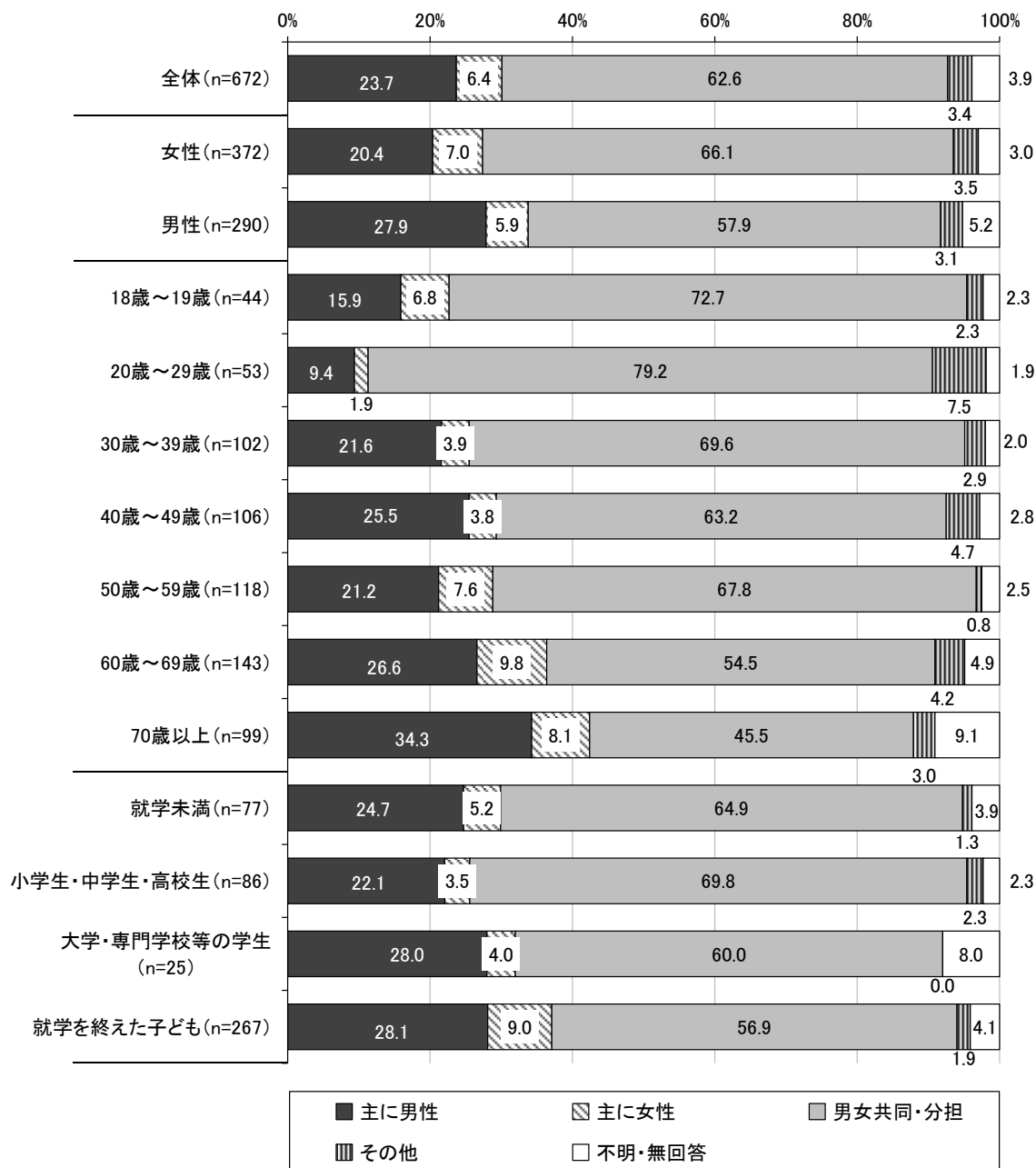
A. 理想／ク. 生活費の確保

全体では「男女共同・分担」が62.6%と最も高く、次いで「主に男性」が23.7%、「主に女性」が6.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「男女共同・分担」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「男女共同・分担」が最も高くなっています。

一番下の子どもの年齢別にみると、すべての年代で「男女共同・分担」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
(ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

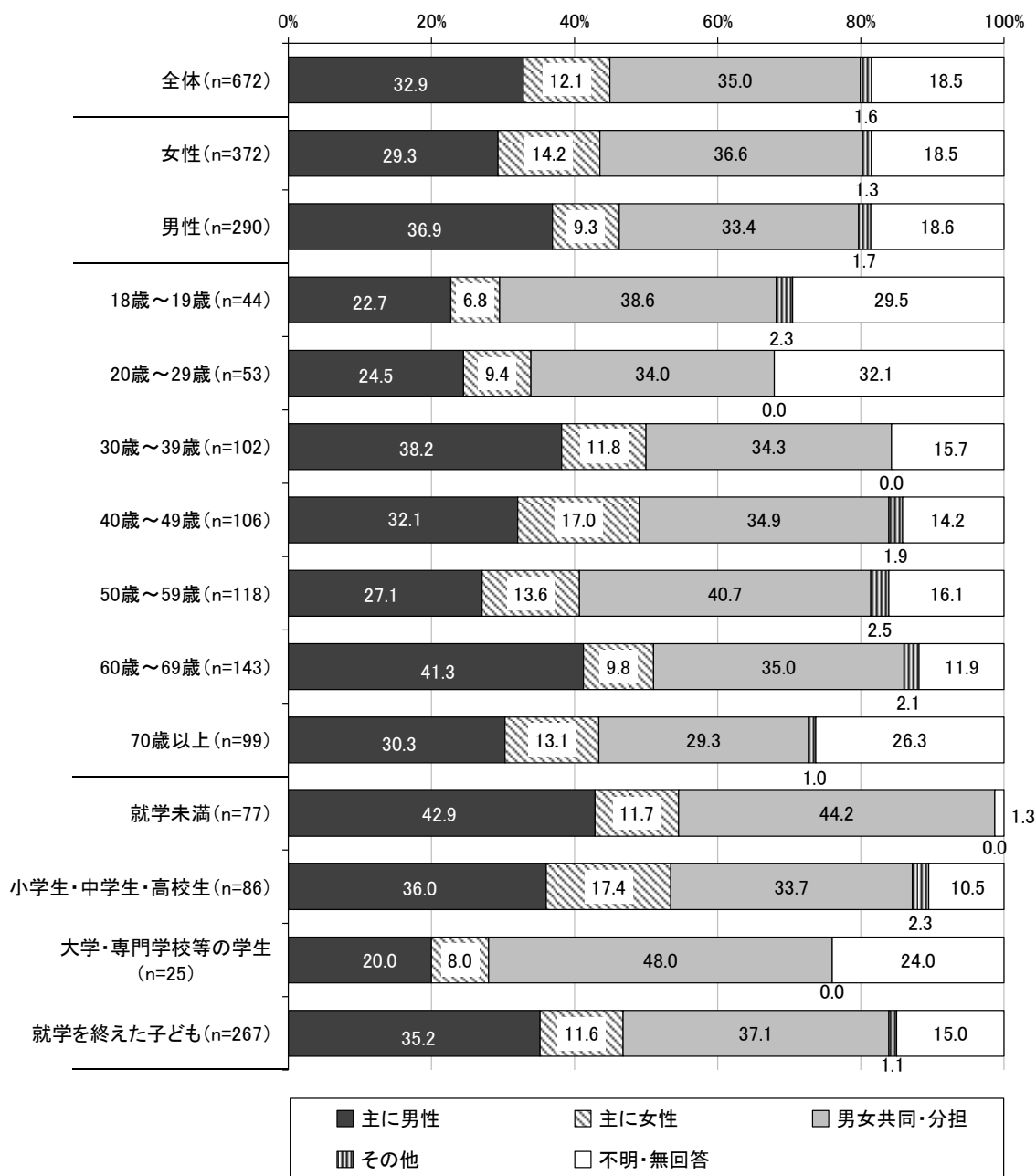
B. 現状／ク. 生活費の確保

全体では「男女共同・分担」が35.0%と最も高く、次いで「主に男性」が32.9%、「主に女性」が12.1%となっています。

性別にみると、女性では「男女共同・分担」、男性では「主に男性」が最も高くなっています。

年齢別にみると、30歳代、60歳代以上では「主に男性」、それ以外の年代では「男女共同・分担」が最も高くなっています。

一番下の子どもの年齢別にみると、〔小学生・中学生・高校生〕では「主に男性」、それ以外の年代では「男女共同・分担」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
 (ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

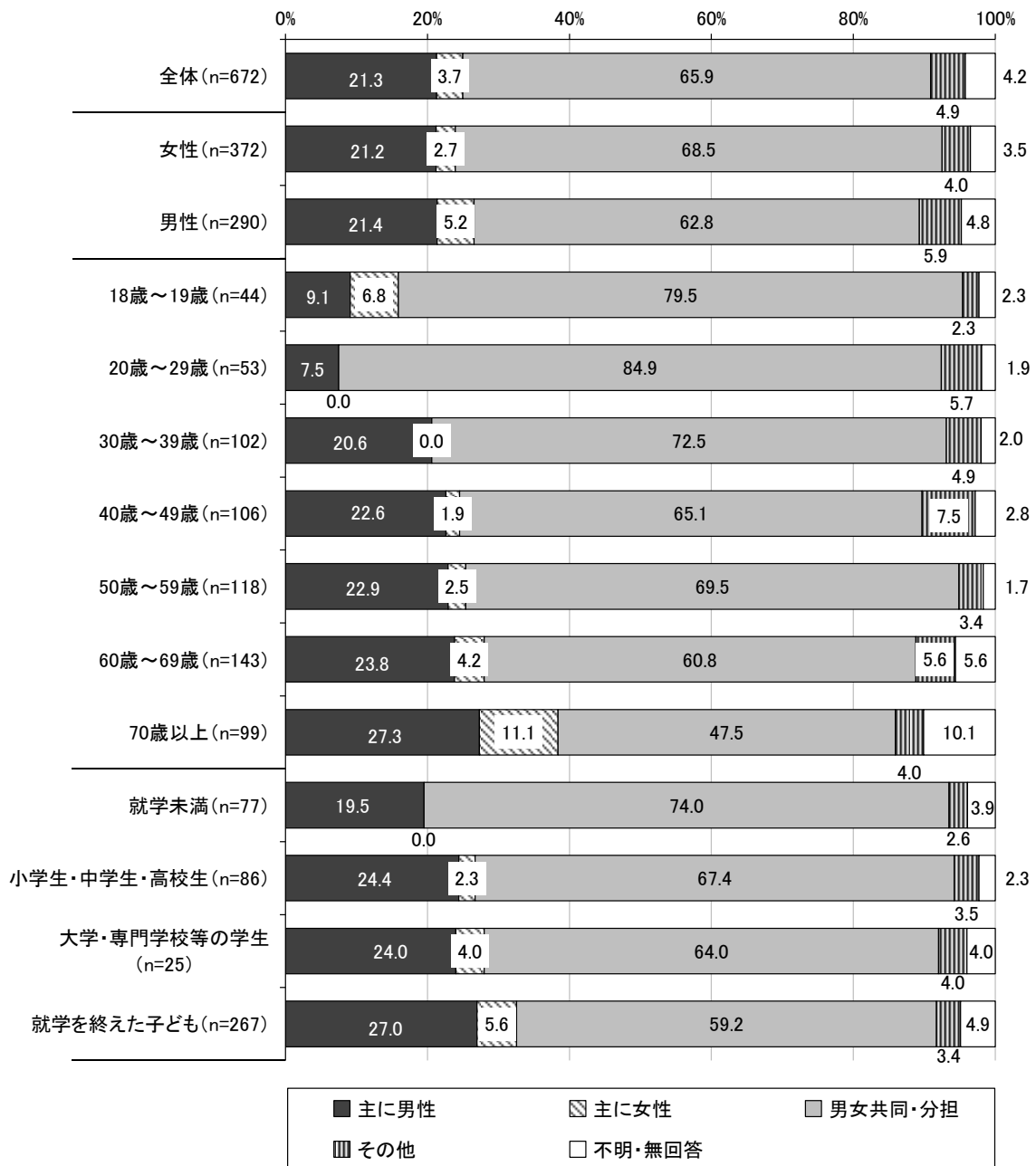
A. 理想/ヶ. 町内会や自治会への出席

全体では「男女共同・分担」が65.9%と最も高く、次いで「主に男性」が21.3%、「主に女性」が3.7%となっています。

性別にみると、男女ともに「男女共同・分担」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「男女共同・分担」が最も高くなっています。

一番下の子どもの年齢別にみると、すべての年代で「男女共同・分担」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
 (ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

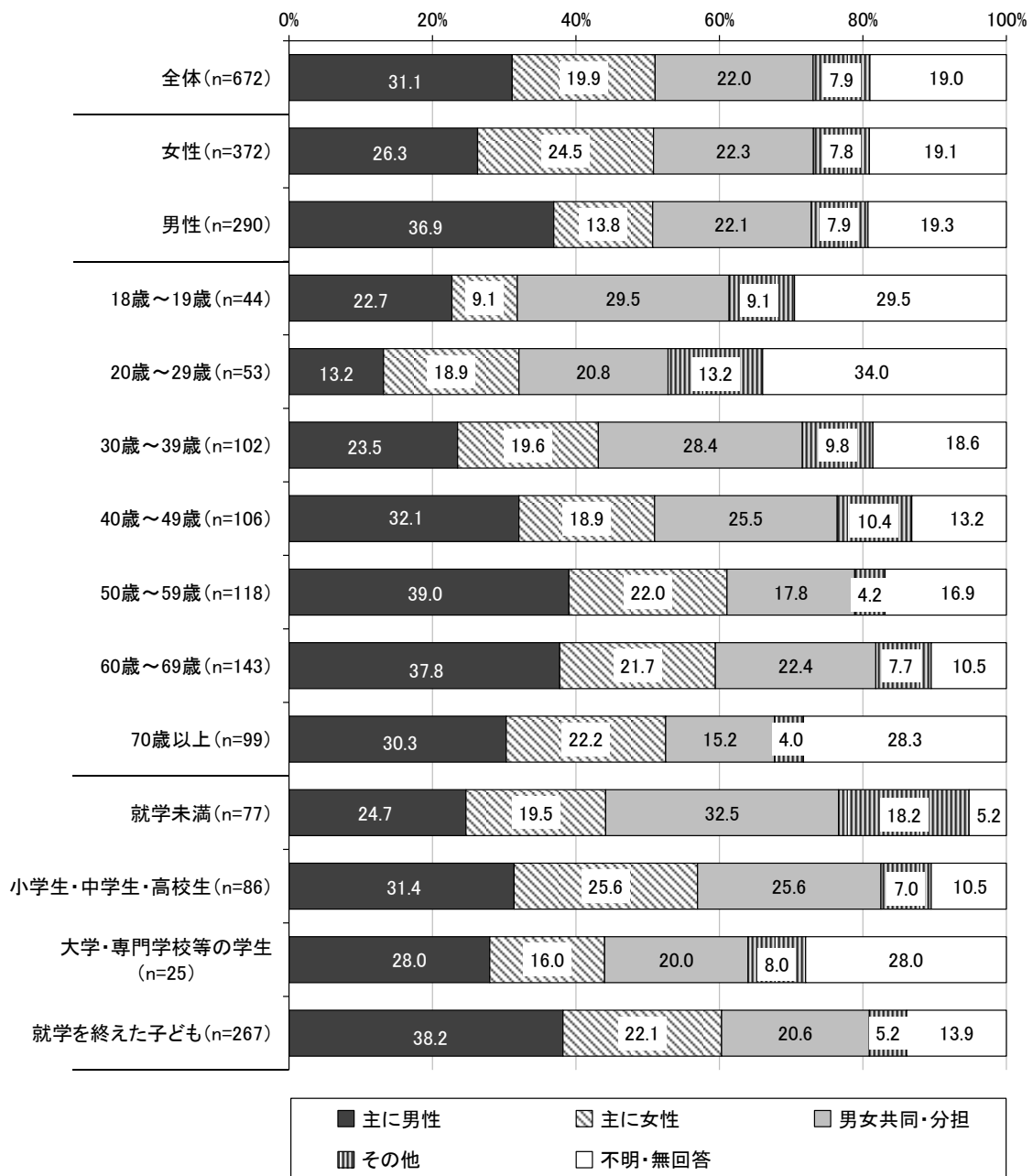
B. 現状/ケ. 町内会や自治会への出席

全体では「主に男性」が31.1%と最も高く、次いで「男女共同・分担」が22.0%、「主に女性」が19.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「主に男性」が最も高くなっています。

年齢別にみると、30歳代以下では「男女共同・分担」、40歳代以上では「主に男性」が最も高くなっています。

一番下の子どもの年齢別にみると、「就学未満」では「男女共同・分担」、それ以外の年代では「主に男性」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
 (ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

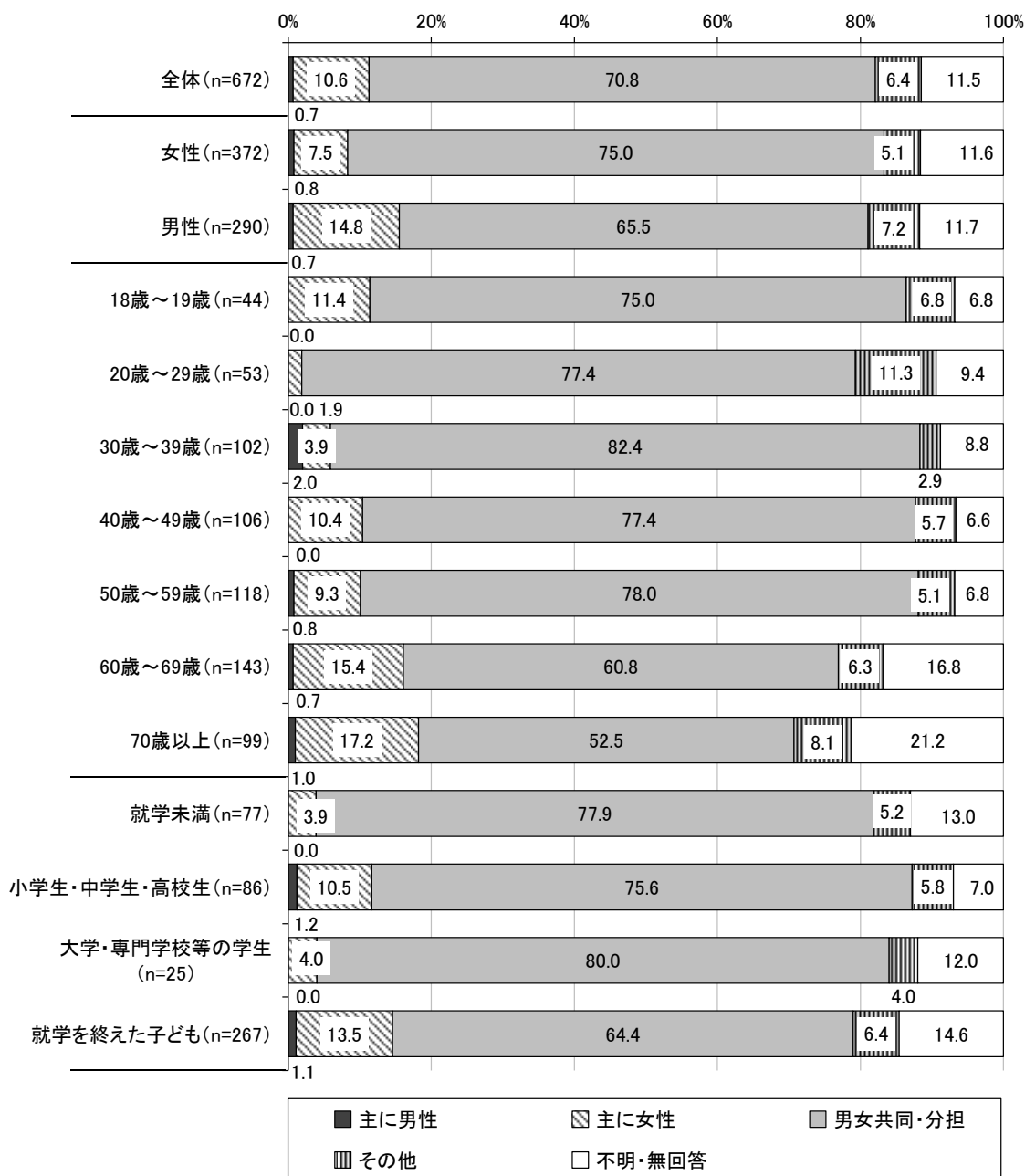
A. 理想／コ. 高齢者や病人の世話・介護

全体では「男女共同・分担」が70.8%と最も高く、次いで「主に女性」が10.6%、「主に男性」が0.7%となっています。

性別にみると、男女ともに「男女共同・分担」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「男女共同・分担」が最も高くなっています。

一番下の子どもの年齢別にみると、ともに「男女共同・分担」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
(ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

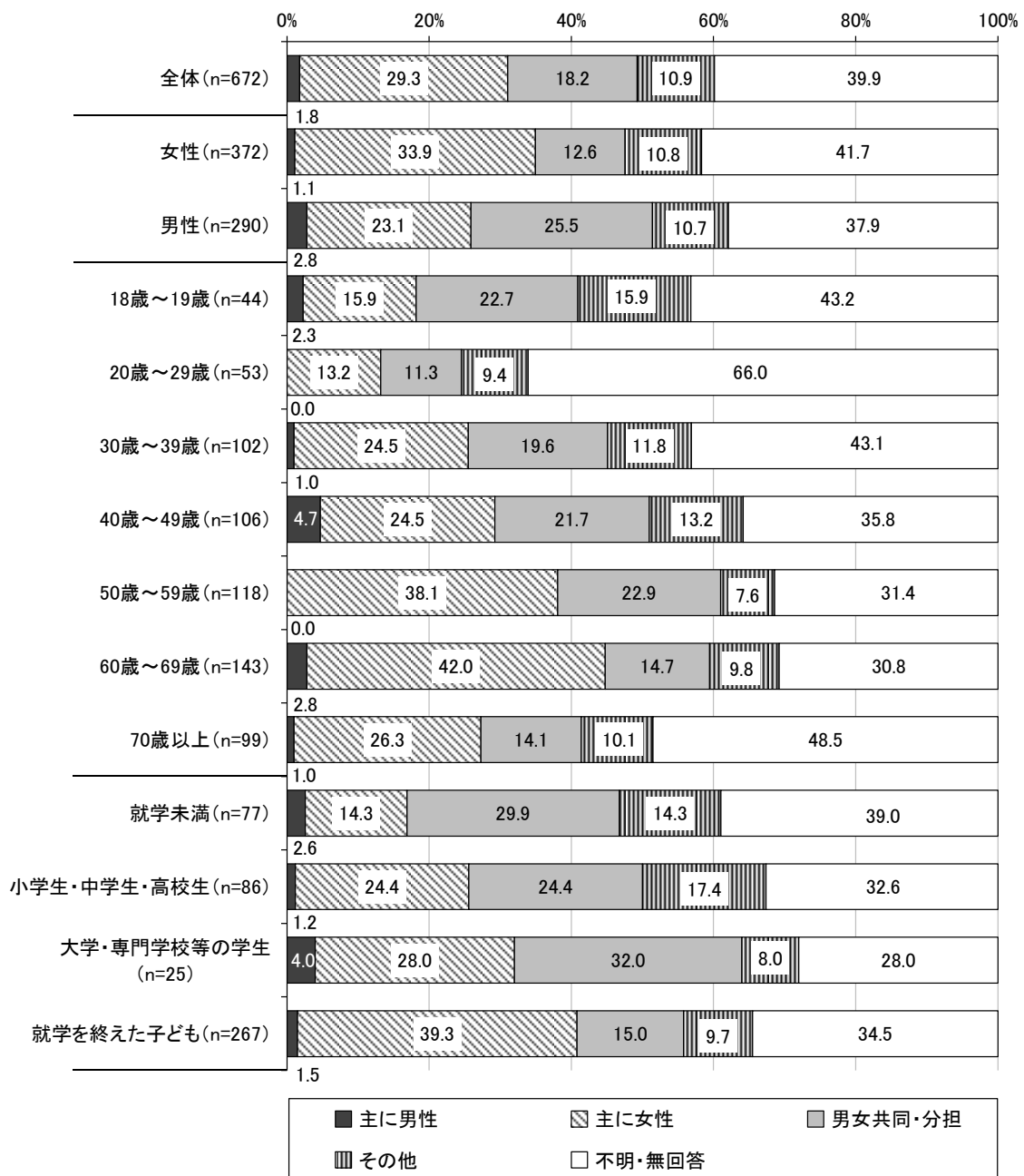
B. 現状／コ. 高齢者や病人の世話・介護

全体では「主に女性」が29.3%と最も高く、次いで「男女共同・分担」が18.2%、「主に男性」が1.8%となっています。

性別にみると、女性では「主に女性」、男性では「男女共同・分担」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳～19歳では「男女共同・分担」、20歳代以上では「主に女性」が最も高くなっています。

一番下の子どもの年齢別にみると、〔就学未満〕、〔大学・専門学校等の学生〕では「男女共同・分担」、〔小学生・中学生・高校生〕では「主に女性」「男女共同・分担」、〔就学を終えた子ども〕では「主に女性」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
 (ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

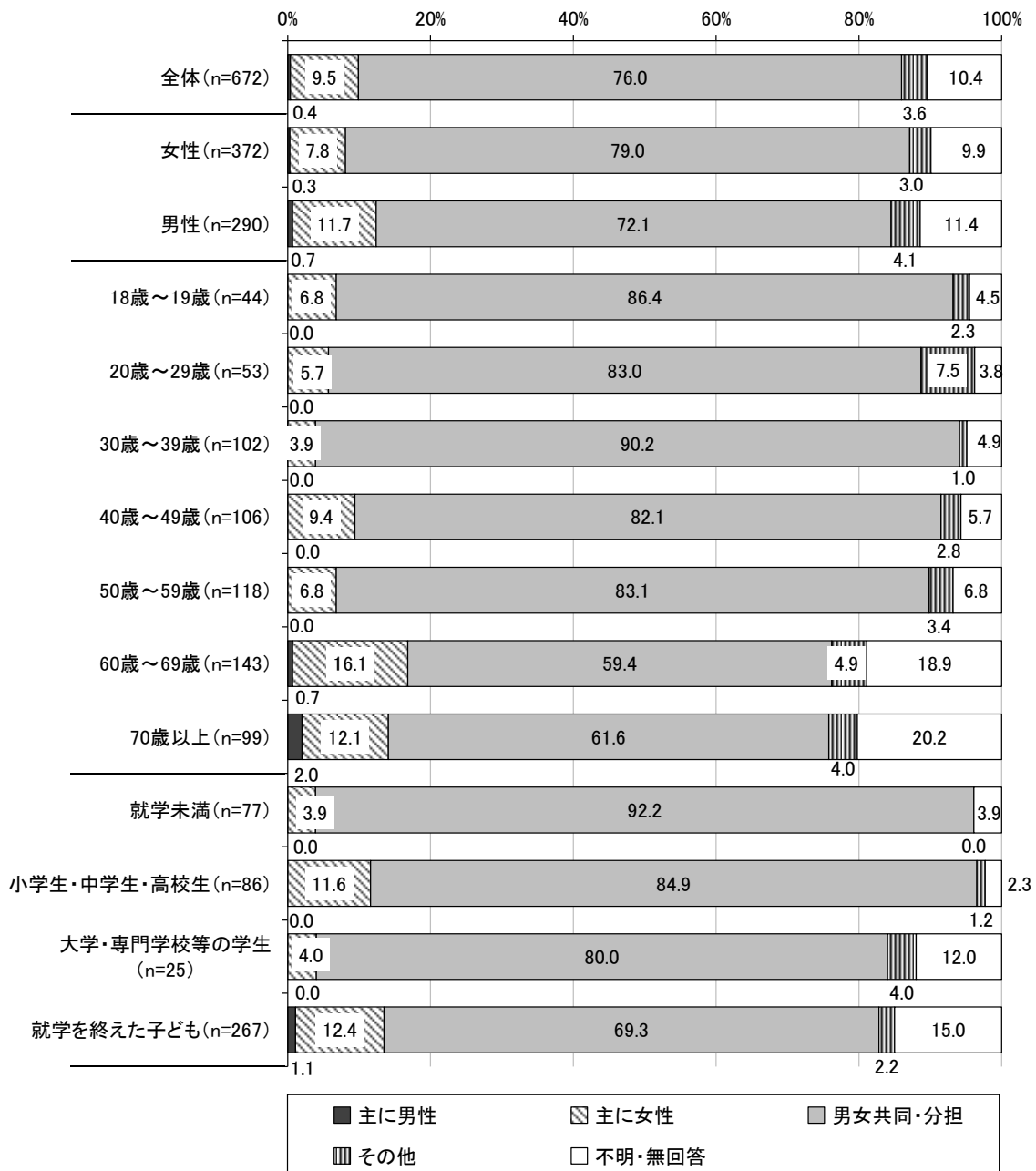
A. 理想/サ. 育児、子どもの勉強やしつけ

全体では「男女共同・分担」が76.0%と最も高く、次いで「主に女性」が9.5%、「主に男性」が0.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「男女共同・分担」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「男女共同・分担」が最も高くなっています。

一番下の子どもの年齢別にみると、すべての年代で「男女共同・分担」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
 (ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

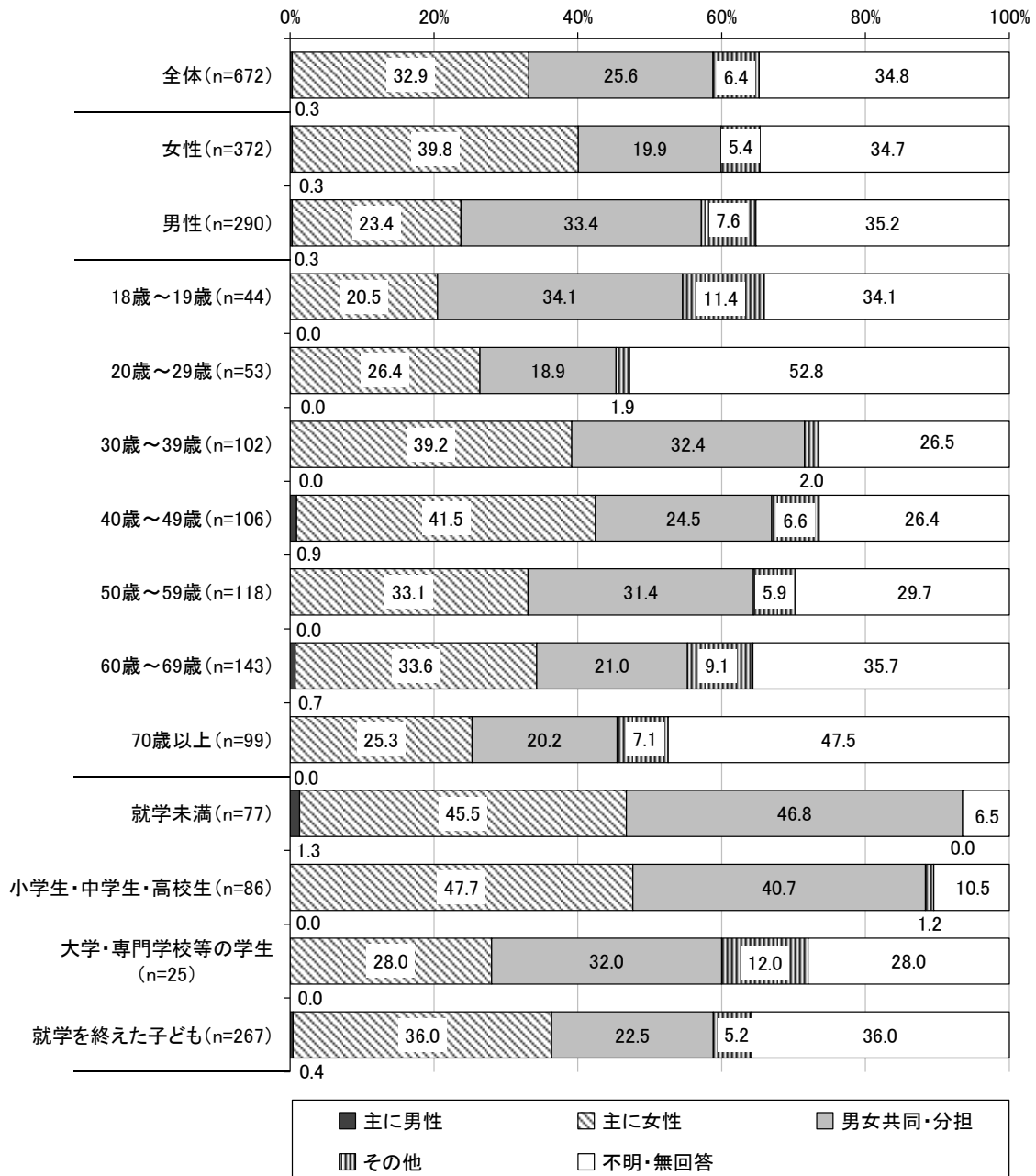
B. 現状/サ. 育児、子どもの勉強やしつけ

全体では「主に女性」が32.9%と最も高く、次いで「男女共同・分担」が25.6%、「主に男性」が0.3%となっています。

性別にみると、女性では「主に女性」、男性では「男女共同・分担」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳～19歳では「男女共同・分担」、20歳代以上では「主に女性」が最も高くなっています。

一番下の子どもの年齢別にみると、〔就学未満〕、〔大学・専門学校等の学生〕では「男女共同・分担」、〔小学生・中学生・高校生〕、〔就学を終えた子ども〕では「主に女性」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
 (ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

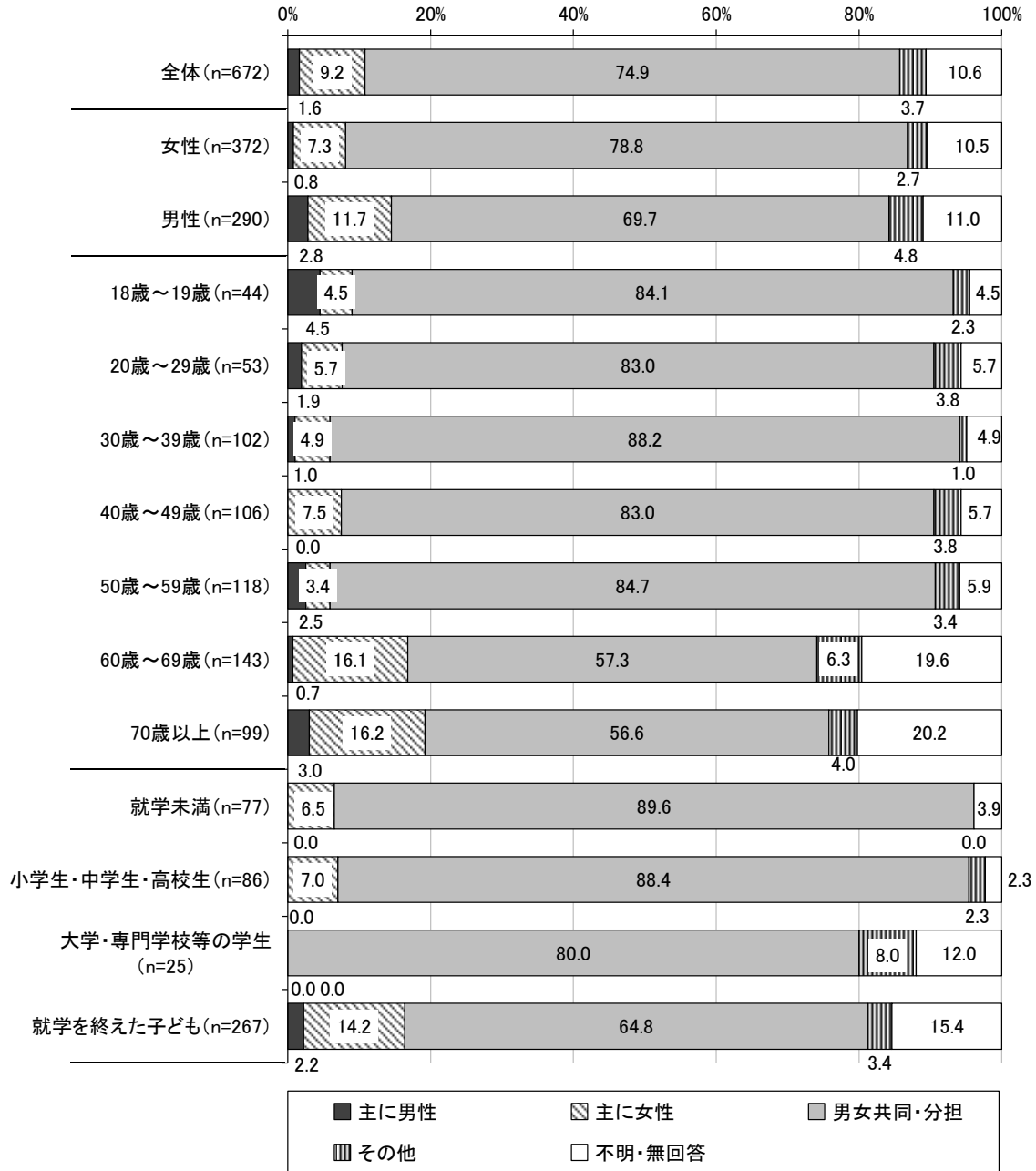
A. 理想／シ. 学校行事への参加

全体では「男女共同・分担」が74.9%と最も高く、次いで「主に女性」が9.2%、「主に男性」が1.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「男女共同・分担」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「男女共同・分担」が最も高くなっています。

一番下の子どもの年齢別にみると、すべての年代で「男女共同・分担」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
(ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

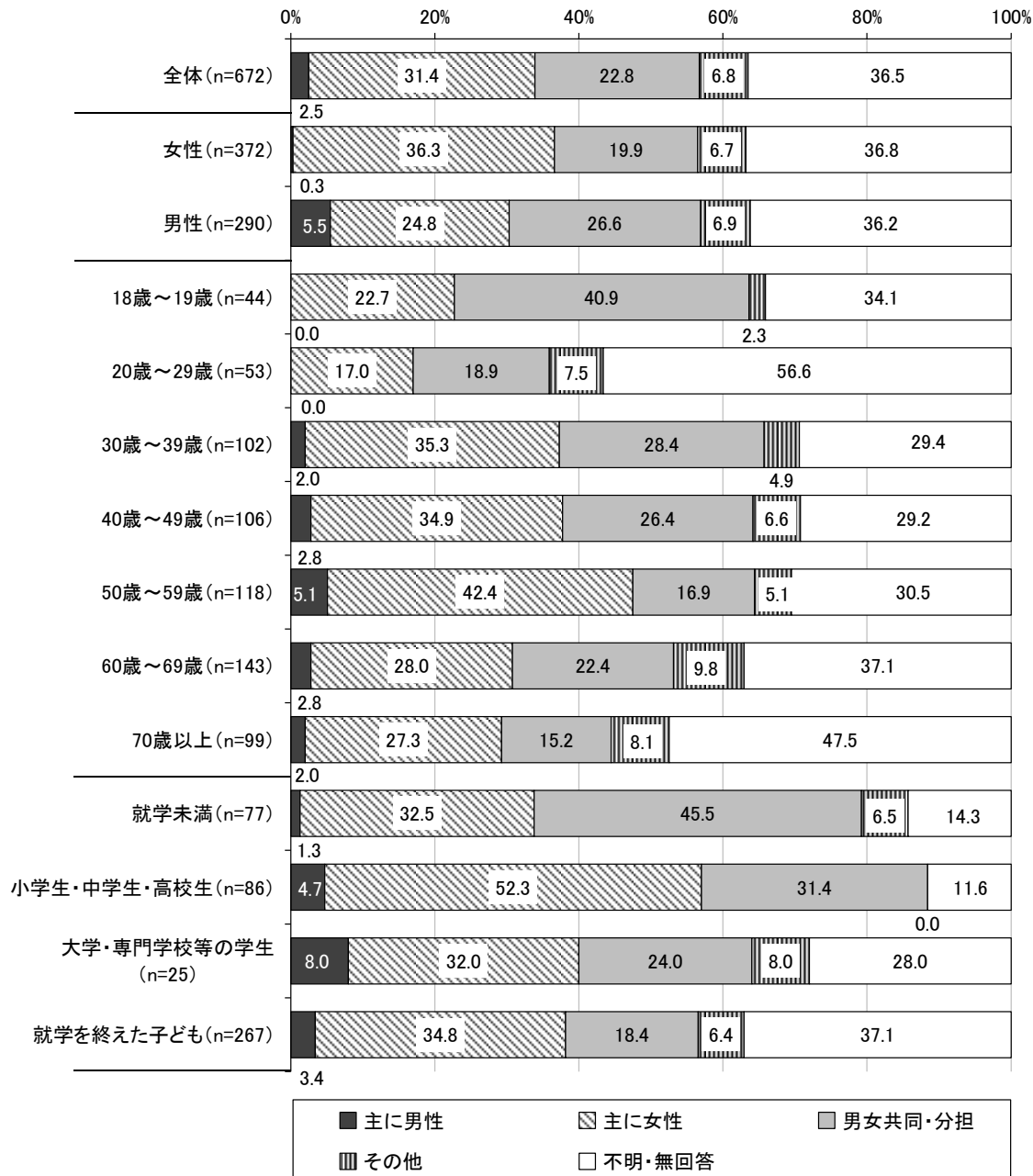
B. 現状／シ. 学校行事への参加

全体では「主に女性」が31.4%と最も高く、次いで「男女共同・分担」が22.8%、「主に男性」が2.5%となっています。

性別にみると、女性では「主に女性」、男性では「男女共同・分担」が最も高くなっています。

年齢別にみると、20歳代以下では「男女共同・分担」、30歳代以上では「主に女性」が最も高くなっています。

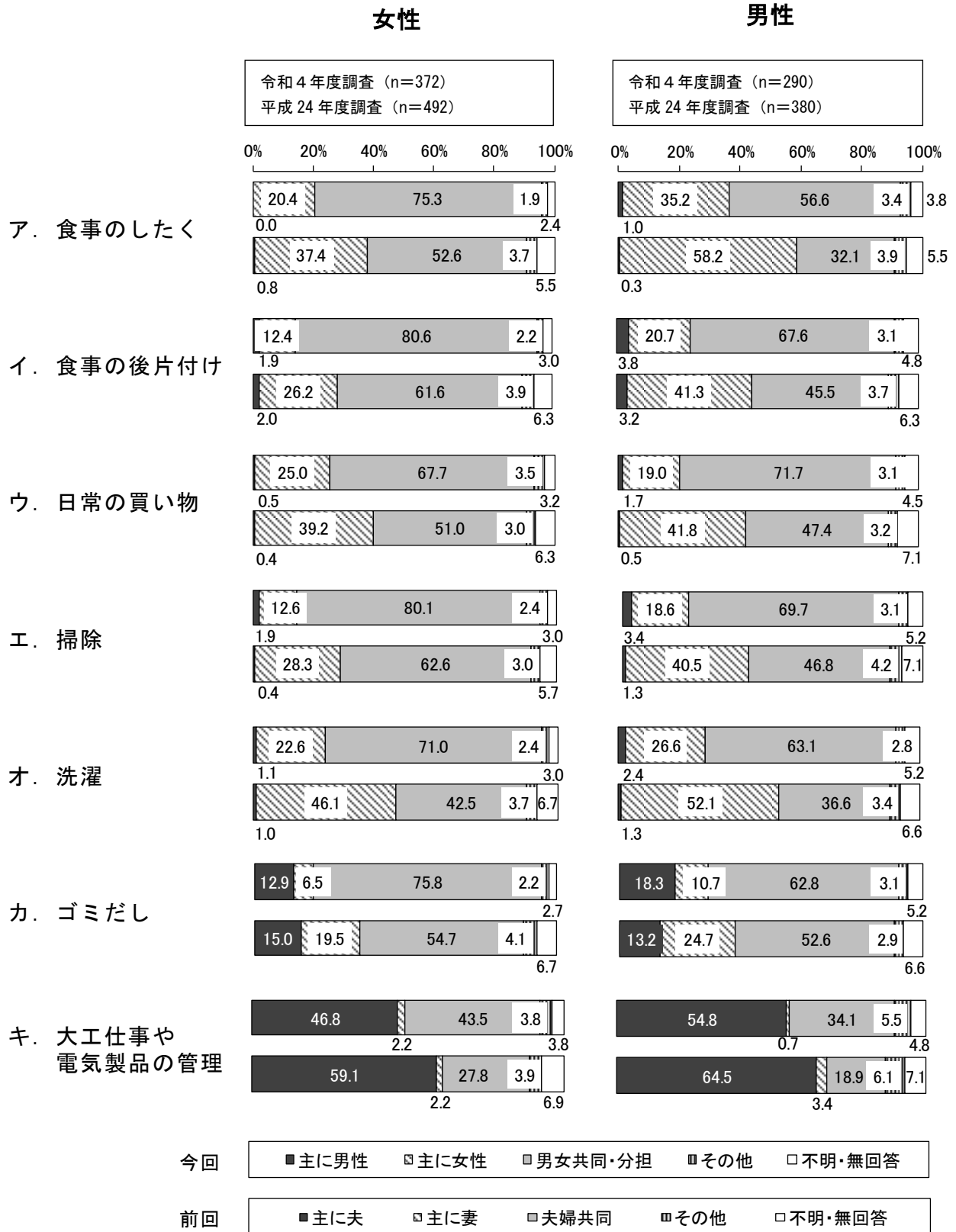
一番下の子どもの年齢別にみると、「就学未満」では「男女共同・分担」、それ以外の年代では「主に女性」が最も高くなっています。



問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
 (ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

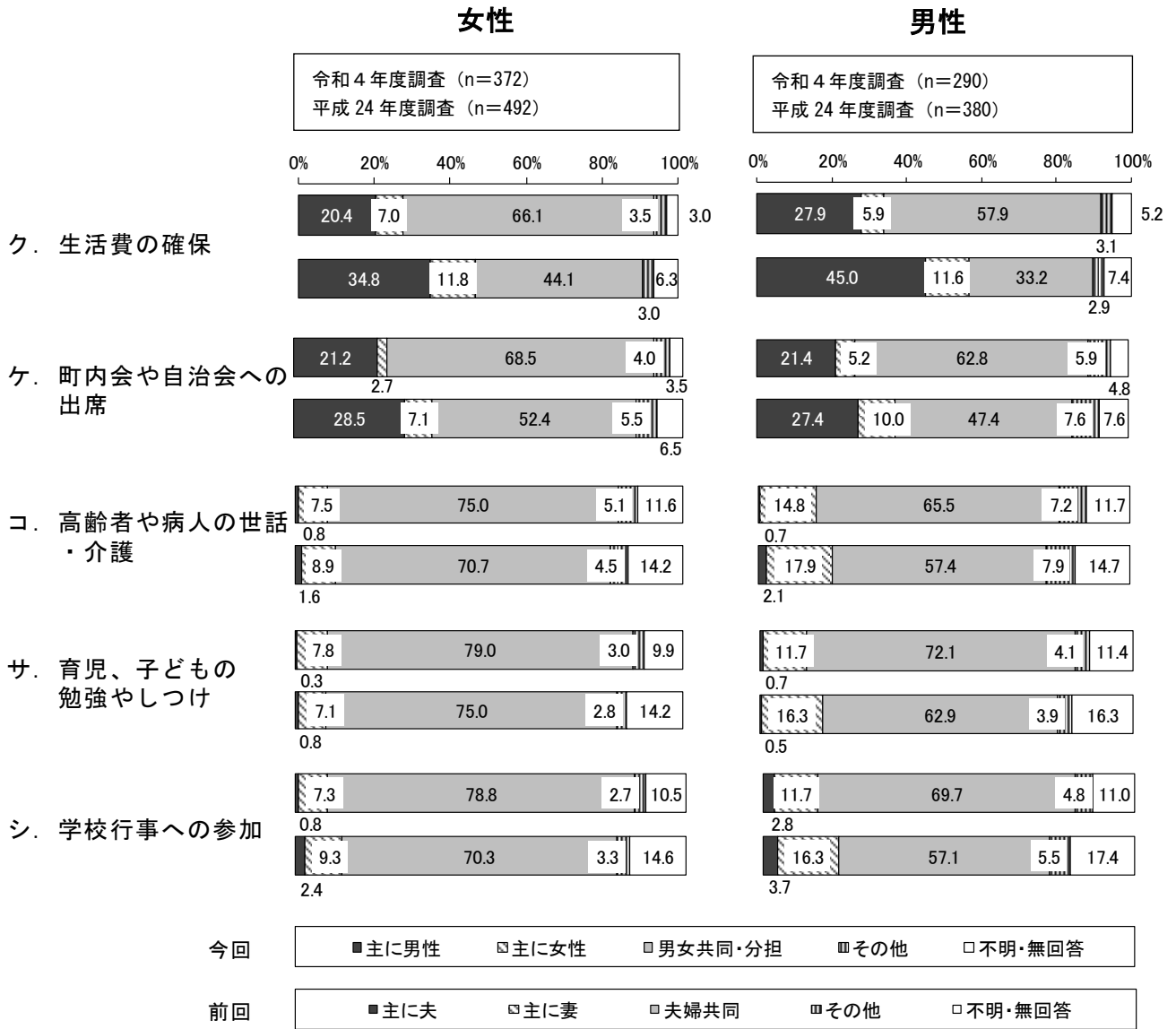
問8 前回調査（平成24年度）との比較（参考）

【理想】



※平成24年度調査時と選択肢が異なっているため、参考として掲載しています。

問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
(ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)



※平成24年度調査時と選択肢が異なっているため、参考として掲載しています。

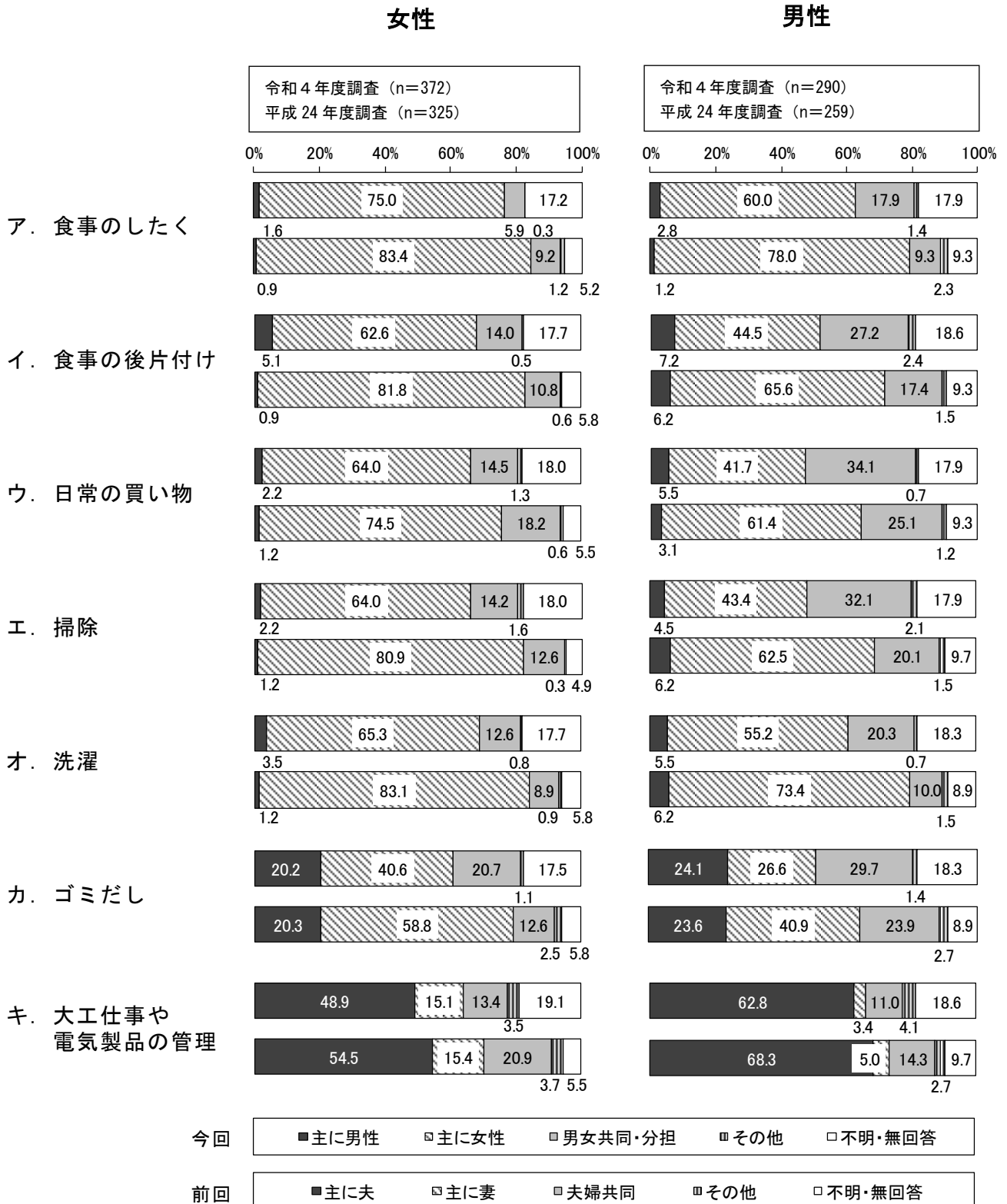
日常的な役割分担の理想について前回調査と比較すると、女性では、『洗濯』について、「男女共同・分担」が28.5ポイント上昇しています。また、『食事のしたく』について、「男女共同・分担」が22.7ポイント上昇しています。

男性でも、『洗濯』について、「男女共同・分担」が26.5ポイント上昇しています。また、『食事のしたく』について、「男女共同・分担」が24.5ポイント上昇しています。

問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
 (ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

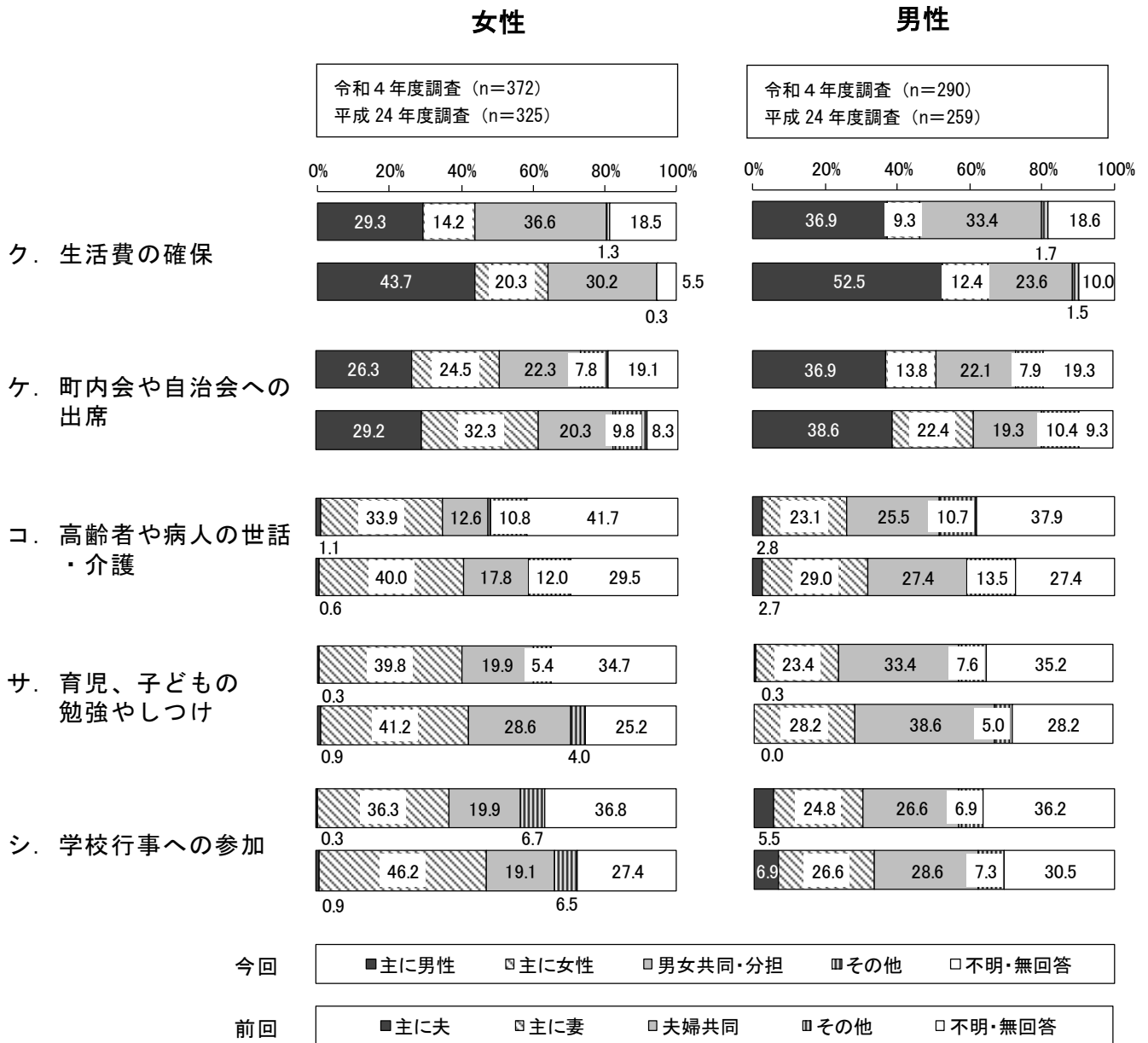
問8 前回調査（平成24年度）との比較（参考）

【現状】



※平成24年度調査時と選択肢が異なっているため、参考として掲載しています。

問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。
 (ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)



※平成24年度調査時と選択肢が異なっているため、参考として掲載しています。

日常的な役割分担の現状について前回調査と比較すると、女性では、『ゴミだし』について、「主に女性」が18.2ポイント低下しています。また、『洗濯』について、「主に女性」が17.8ポイント低下しています。

男性では、『食事の後片付け』について、「主に女性」が21.1ポイント低下しています。また、『日常の買い物』について、「主に女性」が19.7ポイント低下しています。

問9. 子育てについて、あなたのご意見に近いものはどれですか。

(ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

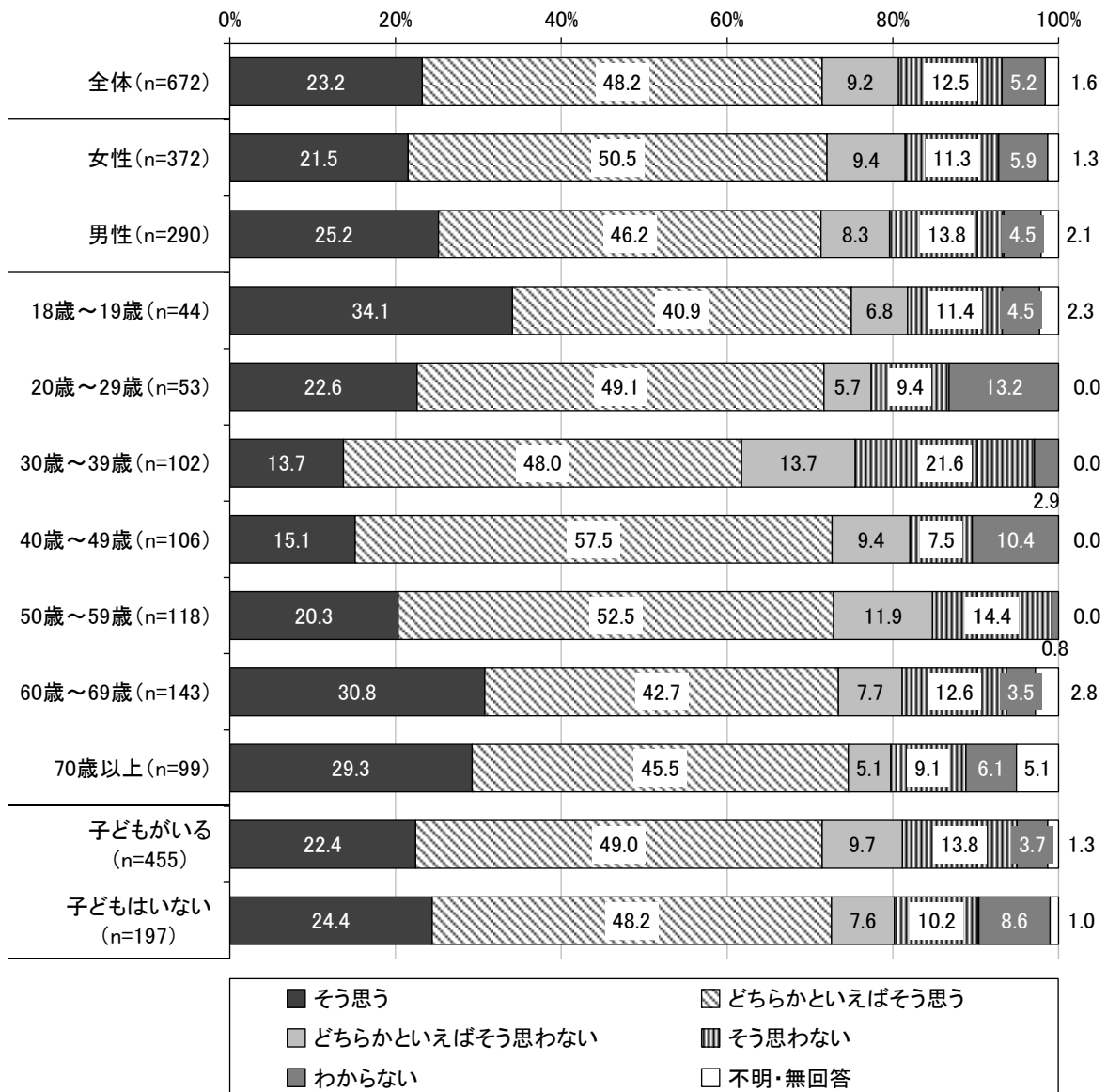
ア. 子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい

全体では「どちらかといえばそう思う」が48.2%と最も高く、次いで「そう思う」が23.2%、「そう思わない」が12.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。

子どもの有無別にみると、ともに「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。



問9. 子育てについて、あなたのご意見に近いものはどれですか。
 (ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

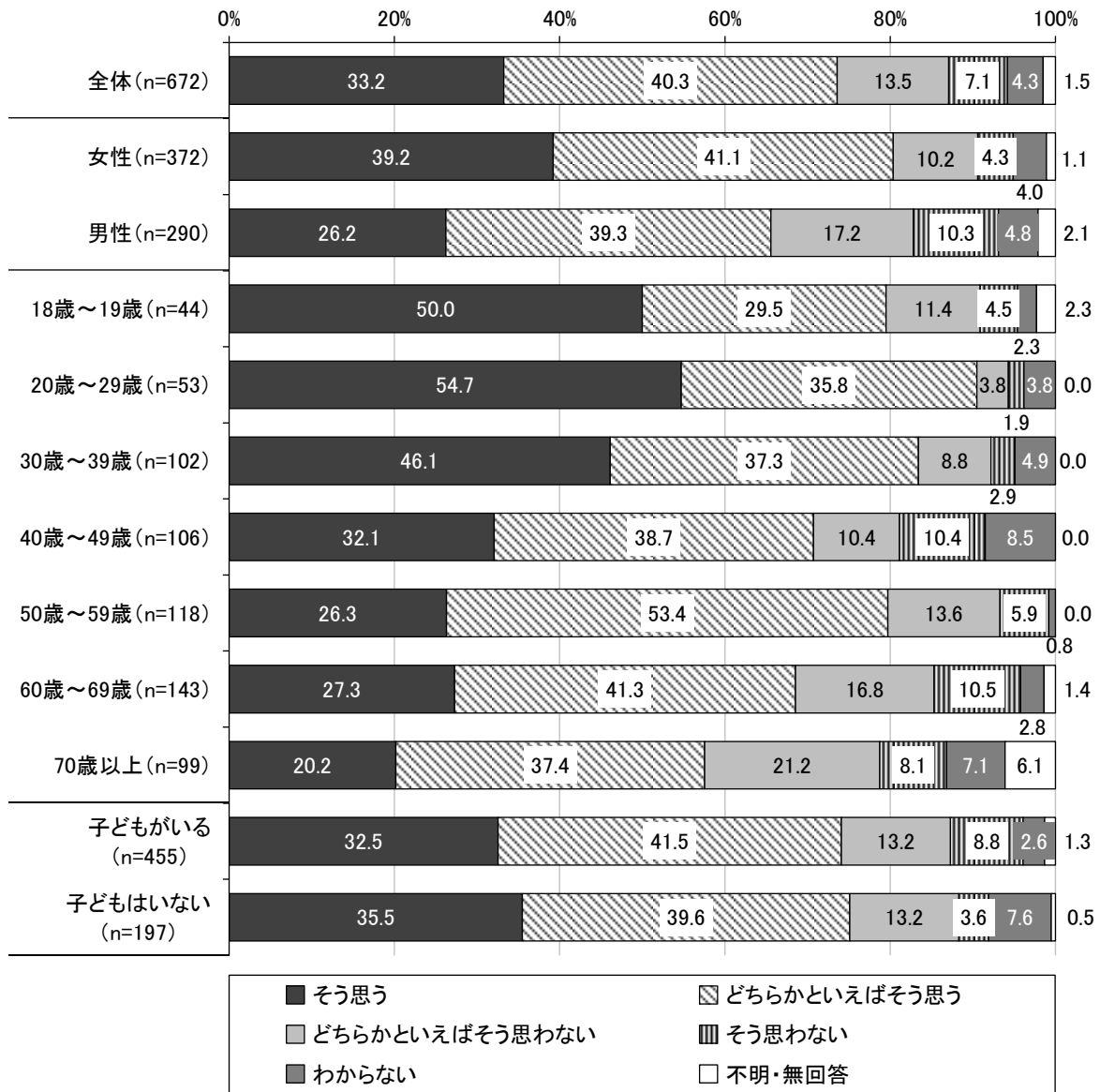
イ. 子どもの世話の大部分は、父親にもできる

全体では「どちらかといえばそう思う」が40.3%と最も高く、次いで「そう思う」が33.2%、「どちらかといえばそう思わない」が13.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。

年齢別にみると、30歳代以下では「そう思う」、40歳代以上では「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。

子どもの有無別にみると、ともに「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。



問9. 子育てについて、あなたのご意見に近いものはどれですか。
 (ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

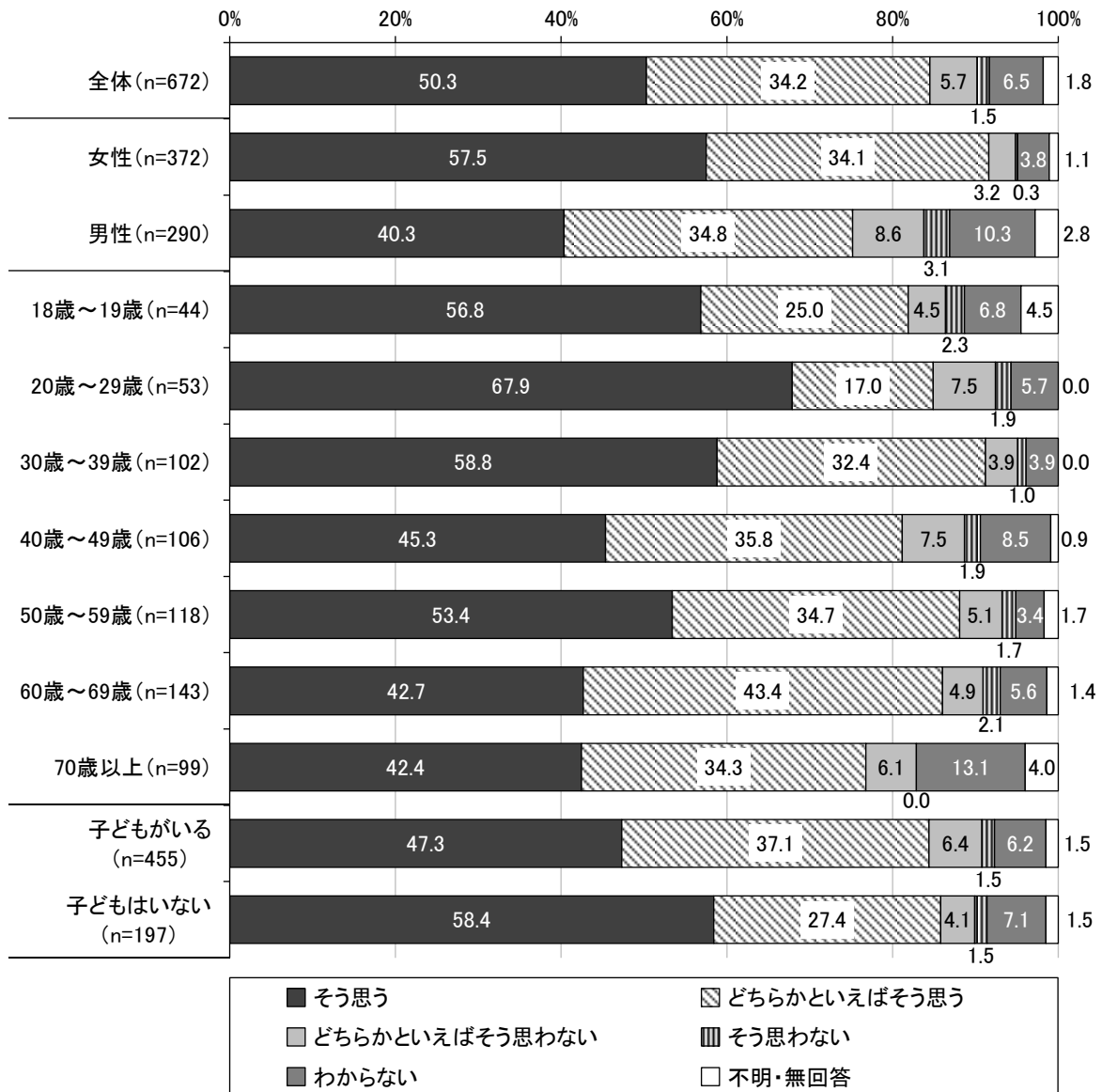
ウ. 親が仕事のために、子育て支援サービスを活用してもよい

全体では「そう思う」が50.3%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が34.2%、「わからない」が6.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「そう思う」が最も高くなっています。

年齢別にみると、60歳代では「どちらかといえばそう思う」、それ以外の年代では「そう思う」が最も高くなっています。

子どもの有無別にみると、ともに「そう思う」が最も高くなっています。



問9. 子育てについて、あなたのご意見に近いものはどれですか。
 (ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

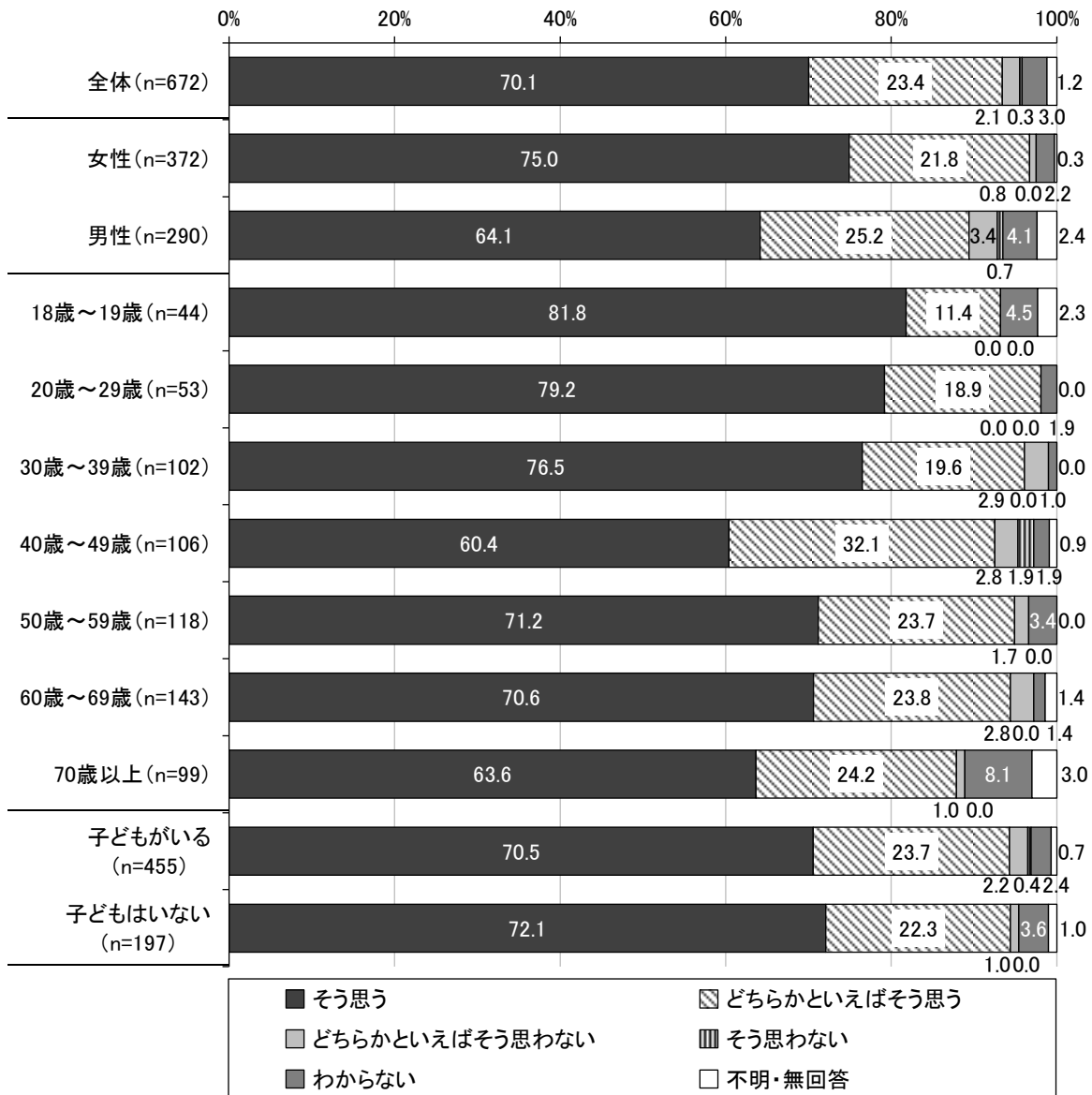
エ. 子どもは、性別に関係なく個性を伸ばすほうがよい

全体では「そう思う」が70.1%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が23.4%、「わからない」が3.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「そう思う」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「そう思う」が最も高くなっています。

子どもの有無別にみると、ともに「そう思う」が最も高くなっています。



問9. 子育てについて、あなたのご意見に近いものはどれですか。
 (ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

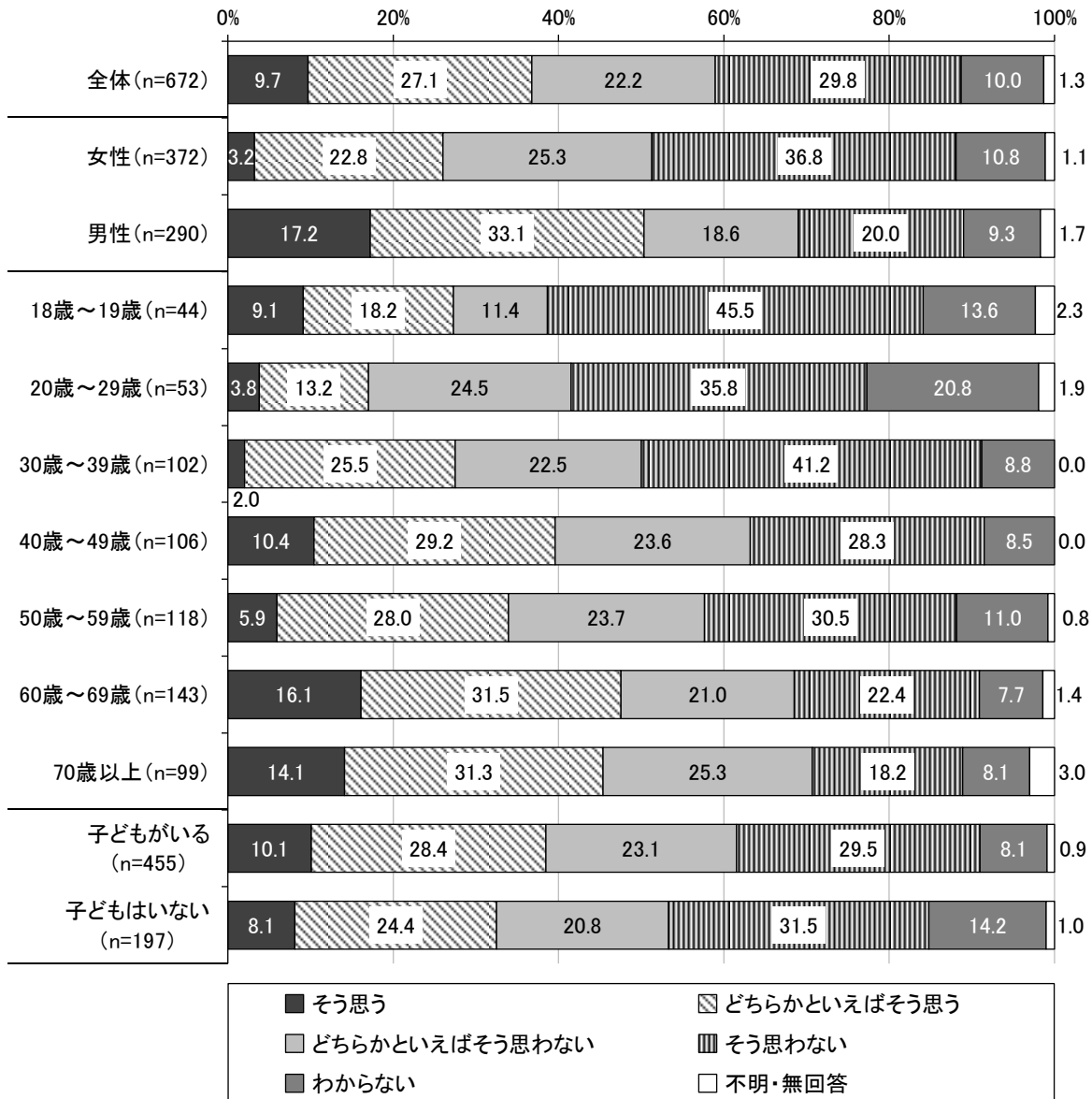
オ. 男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい

全体では「そう思わない」が29.8%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が27.1%、「どちらかといえばそう思わない」が22.2%となっています。

性別にみると、女性では「そう思わない」、男性では「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。

年齢別にみると、40歳代、60歳代以上では「どちらかといえばそう思う」、それ以外の年代では「そう思わない」が最も高くなっています。

子どもの有無別にみると、ともに「そう思わない」が最も高くなっています。



問9. 子育てについて、あなたのご意見に近いものはどれですか。
 (ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

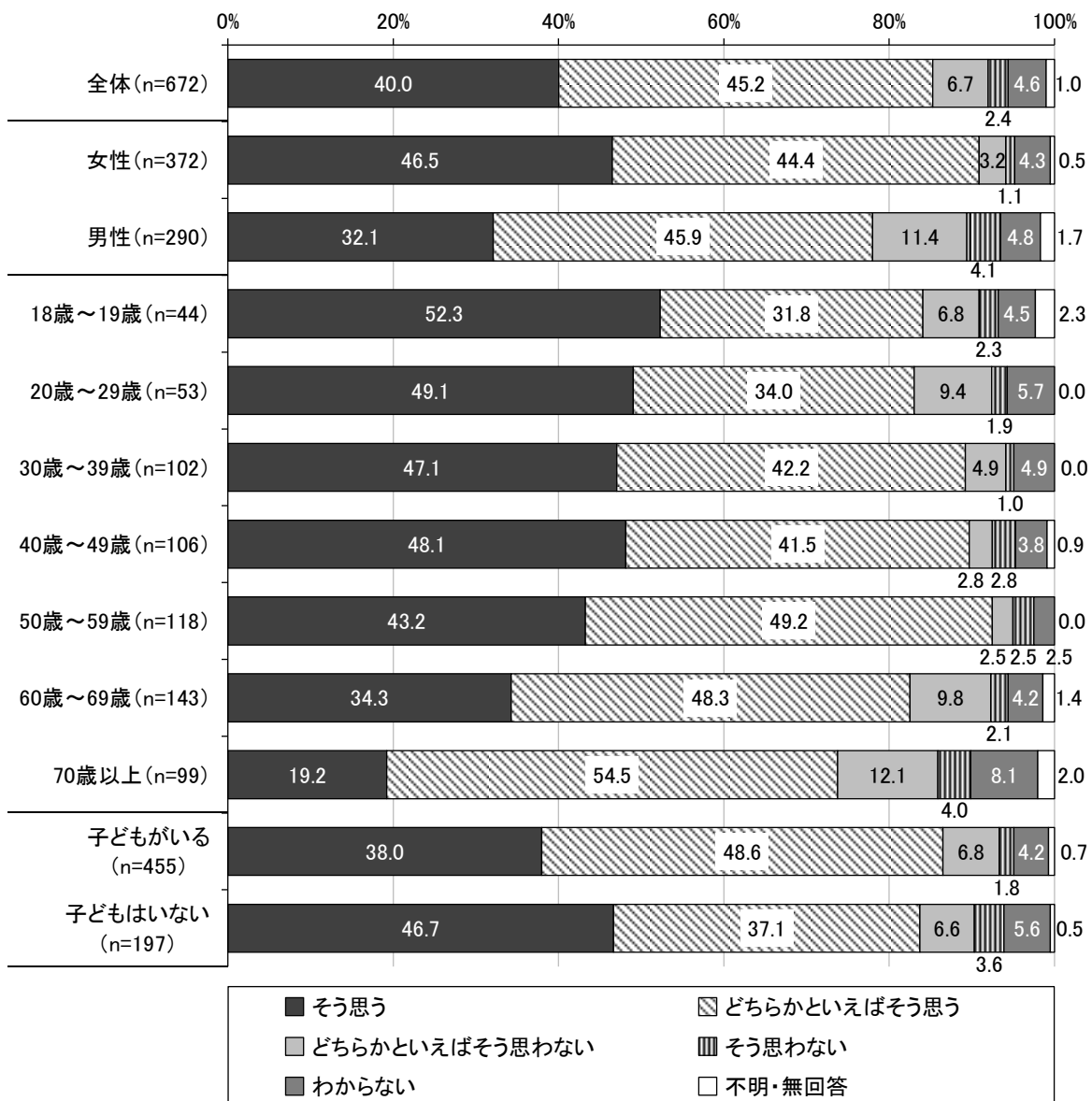
カ. 男の子は家事ができるように育てるのがよい

全体では「どちらかといえばそう思う」が45.2%と最も高く、次いで「そう思う」が40.0%、「どちらかといえばそう思わない」が6.7%となっています。

性別にみると、女性では「そう思う」、男性では「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。

年齢別にみると、40歳代以下では「そう思う」、50歳代以上では「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。

子どもの有無別にみると、[子どもがいる]では「どちらかといえばそう思う」、[子どもはいない]では「そう思う」が最も高くなっています。



問9. 子育てについて、あなたのご意見に近いものはどれですか。
 (ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

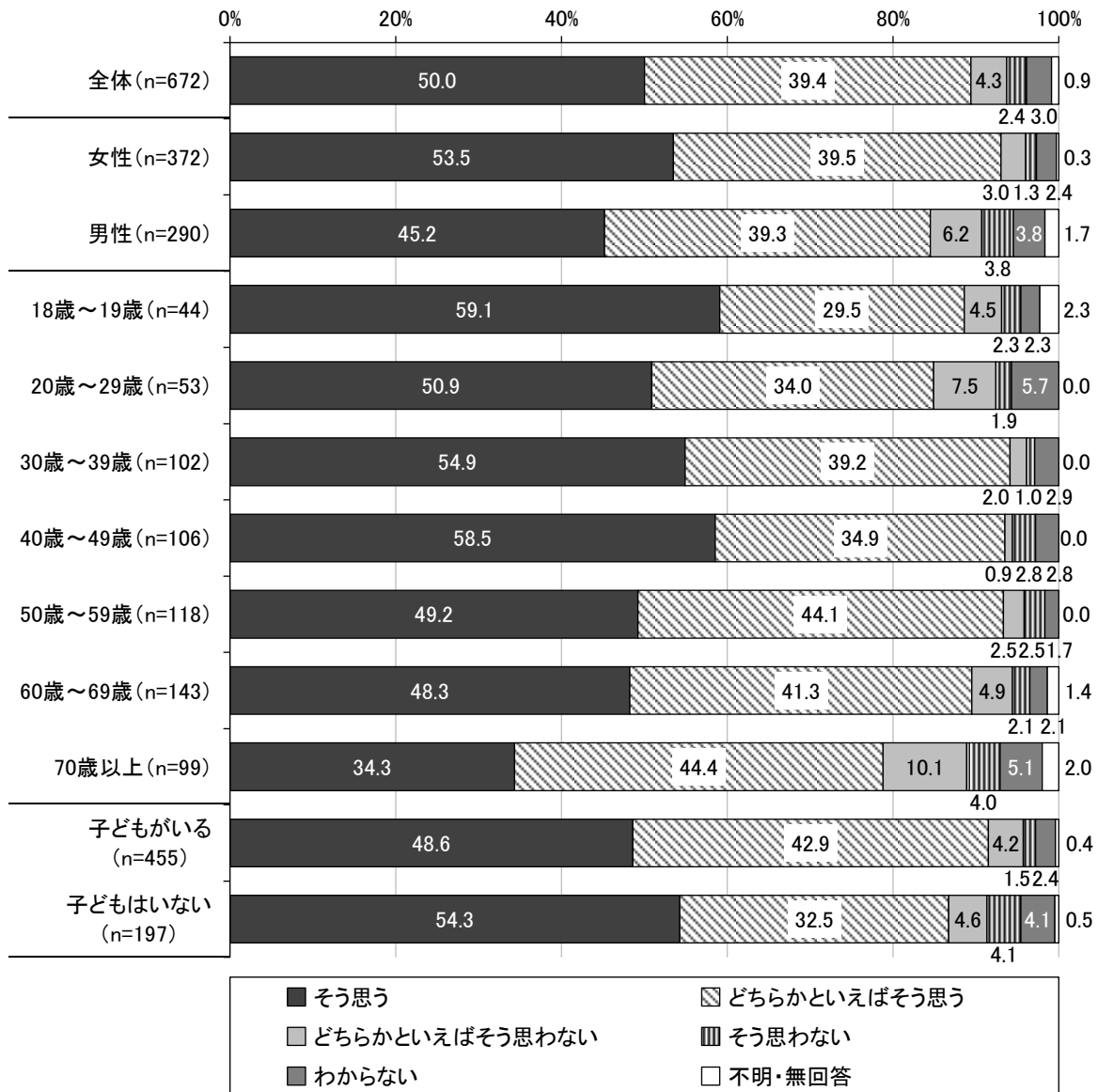
キ. 女の子は家事ができるように育てるのがよい

全体では「そう思う」が50.0%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が39.4%、「どちらかといえばそう思わない」が4.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「そう思う」が最も高くなっています。

年齢別にみると、60歳代以下では「そう思う」、70歳以上では「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。

子どもの有無別にみると、ともに「そう思う」が最も高くなっています。



問9. 子育てについて、あなたのご意見に近いものはどれですか。
 (ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

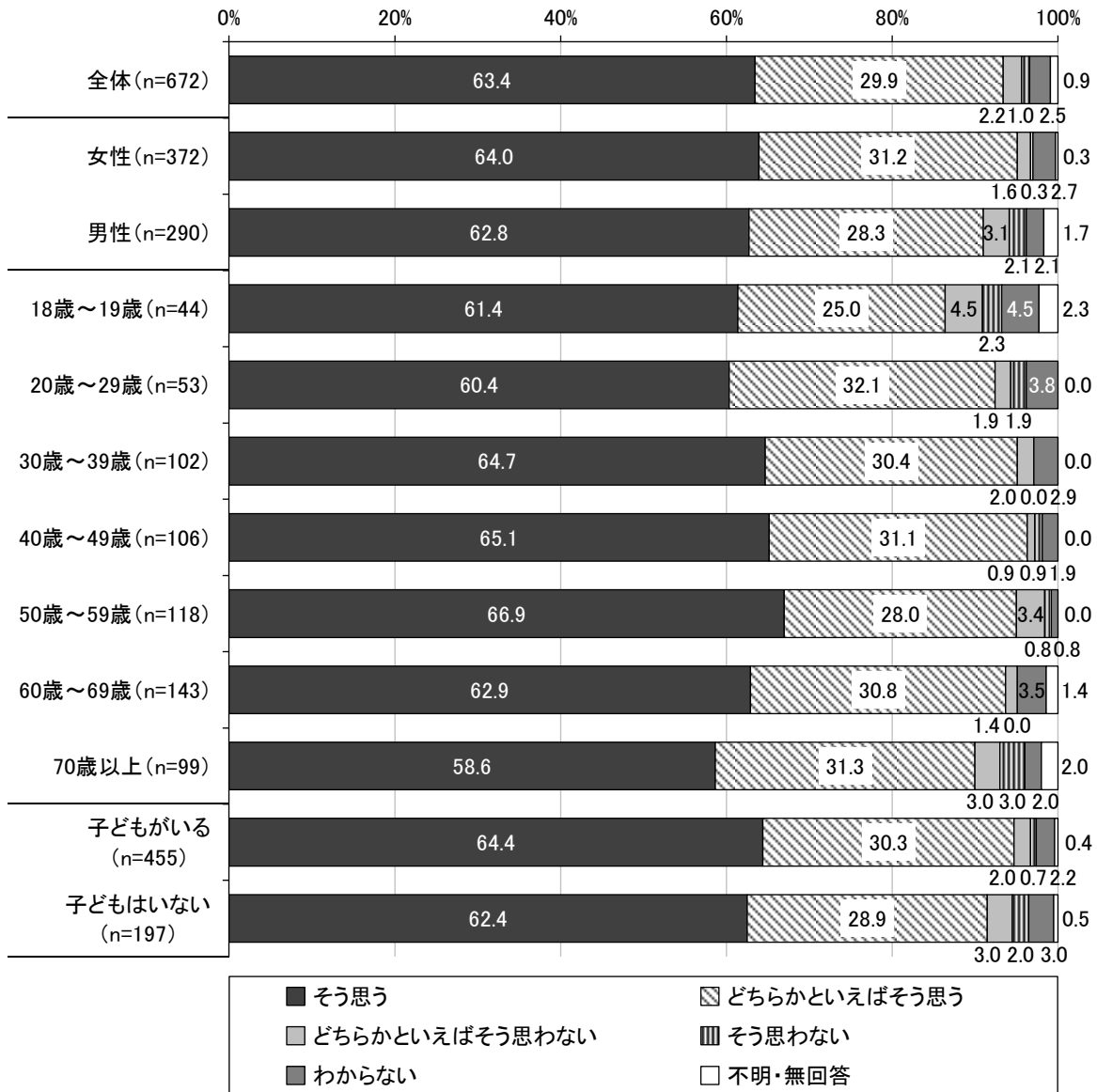
ク. 男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい

全体では「そう思う」が63.4%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が29.9%、「わからない」が2.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「そう思う」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「そう思う」が最も高くなっています。

子どもの有無別にみると、ともに「そう思う」が最も高くなっています。



問9. 子育てについて、あなたのご意見に近いものはどれですか。
 (ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

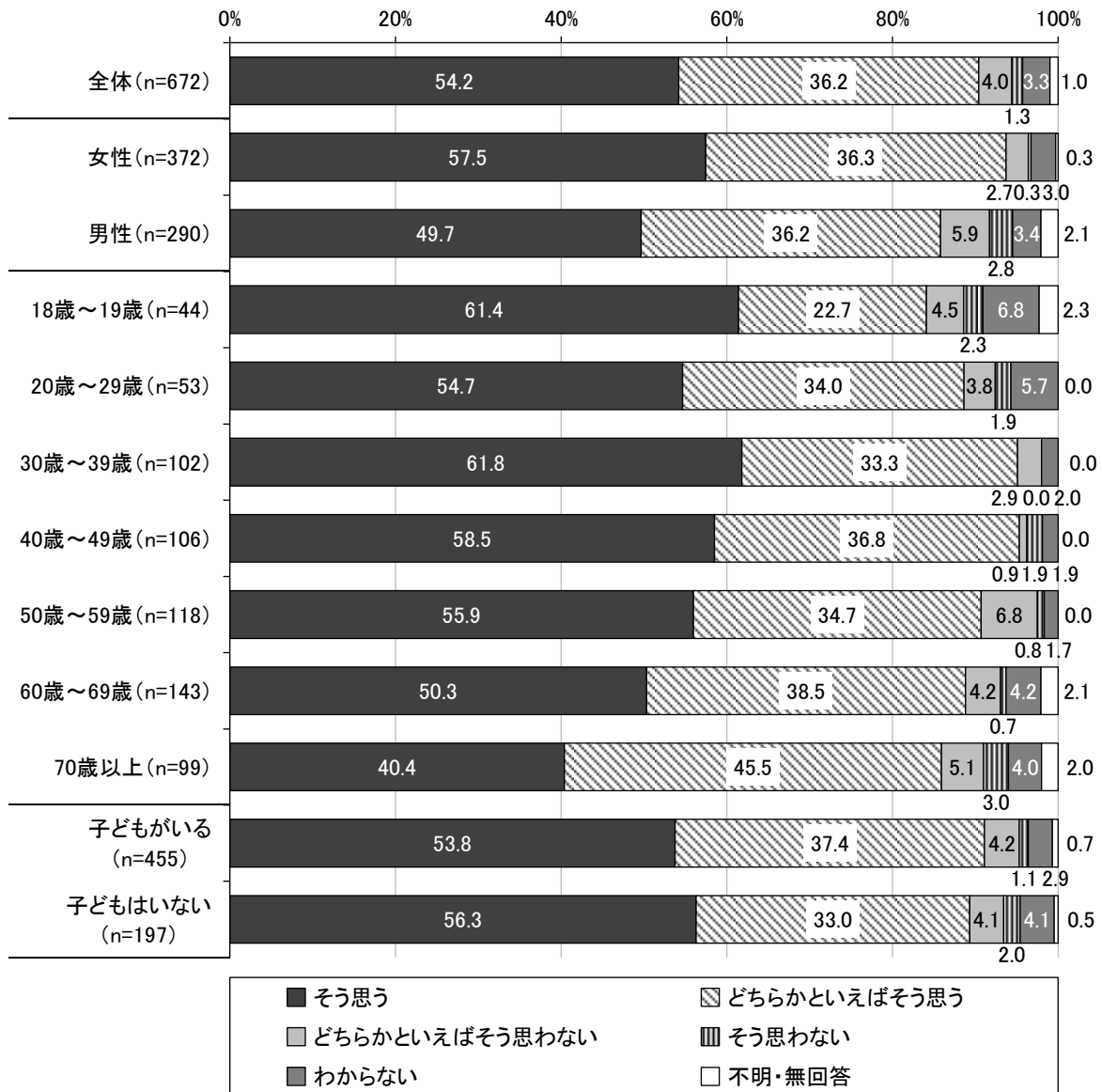
ケ. 女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい

全体では「そう思う」が54.2%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が36.2%、「どちらかといえばそう思わない」が4.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「そう思う」が最も高くなっています。

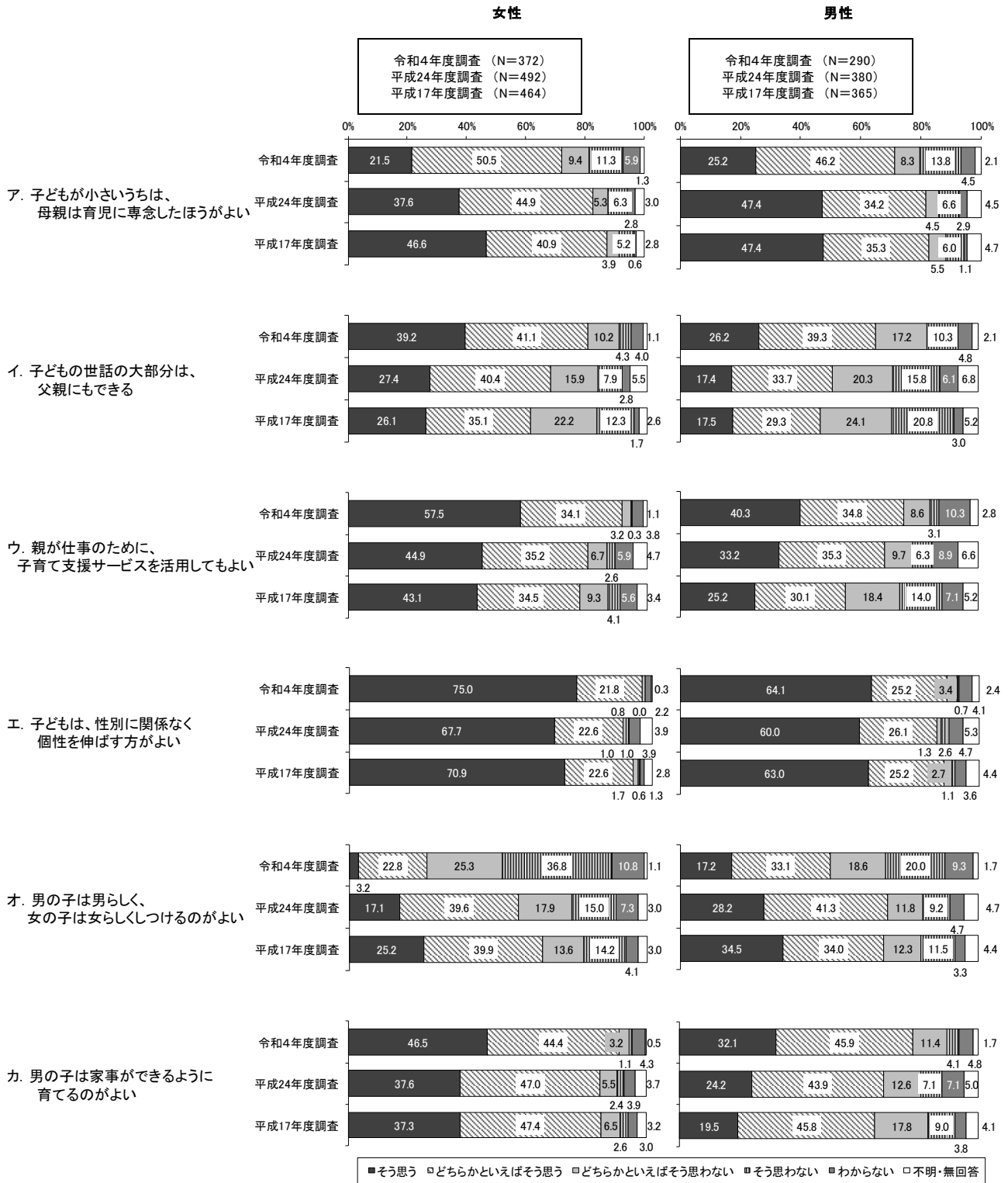
年齢別にみると、60歳代以下では「そう思う」、70歳以上では「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。

子どもの有無別にみると、ともに「そう思う」が最も高くなっています。

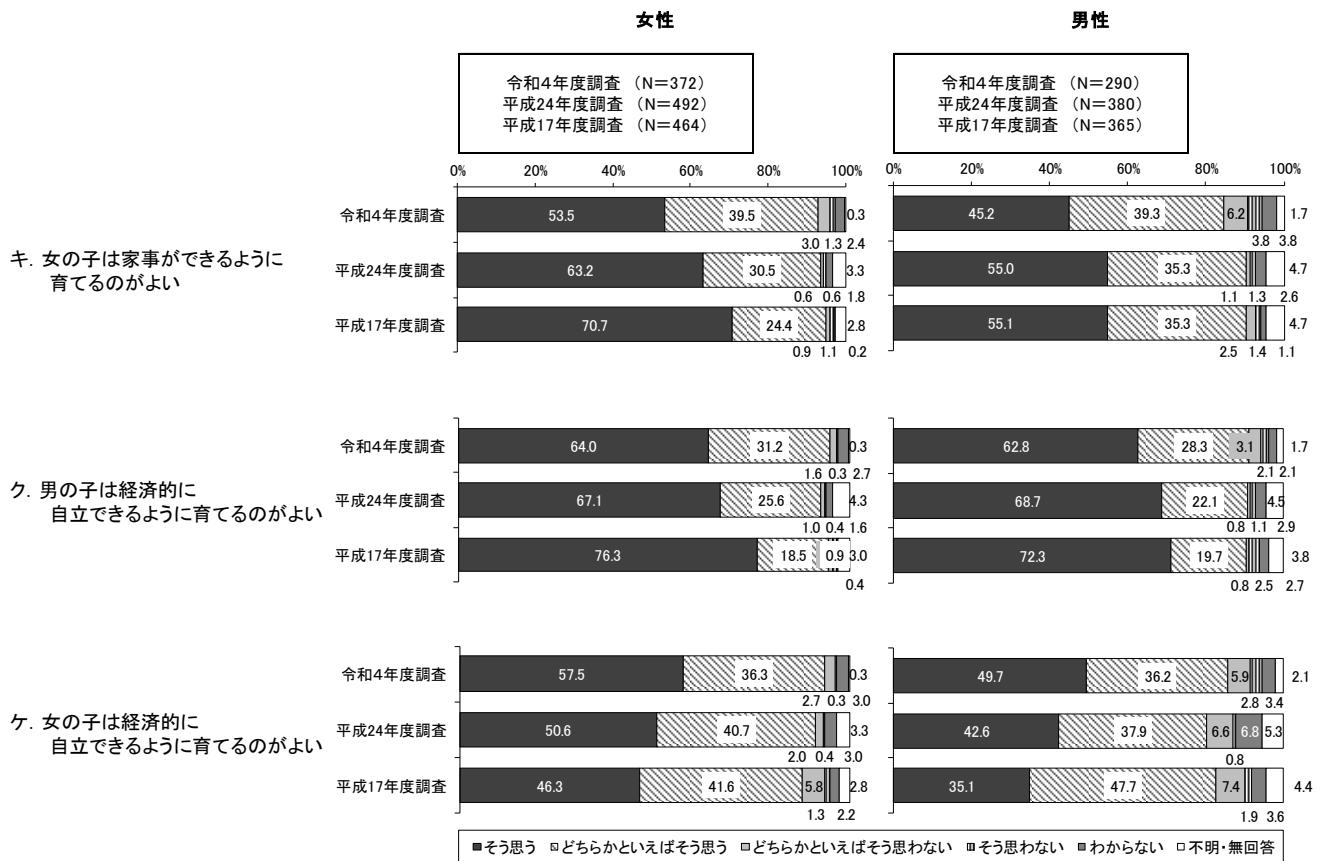


問9. 子育てについて、あなたのご意見に近いものはどれですか。
(ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

問9 前回調査（平成17年度、平成24年度）との比較（参考）



問9. 子育てについて、あなたのご意見に近いものはどれですか。
 (ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)



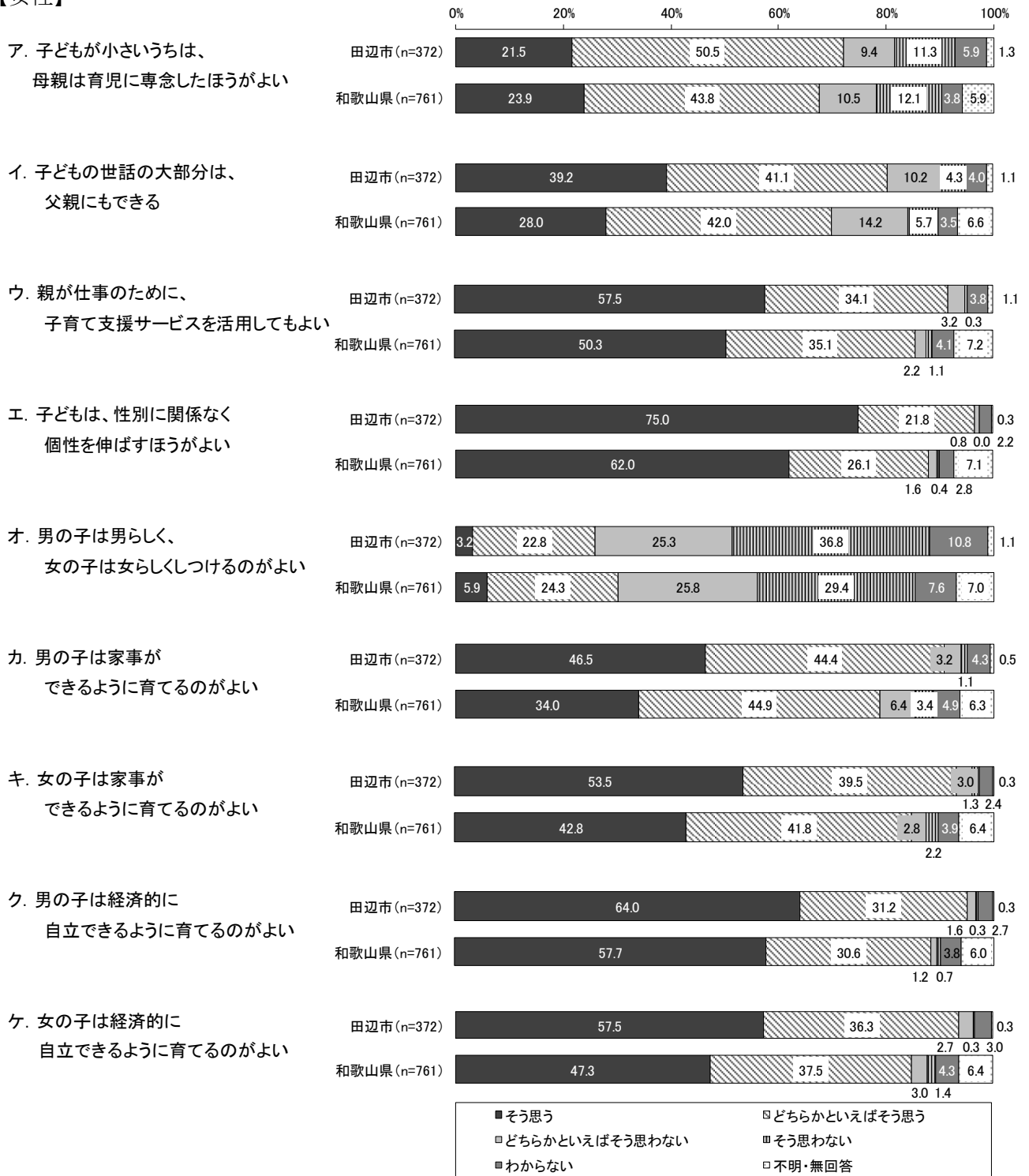
子育てについての意見について前々回、前回調査と比較すると、女性では、『女の子は女の子らしくしつけるのがよい』について、「そう思う」は平成17年度の25.2%から低下を続け、令和4年度では3.2%となっています。

男性では、『子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい』について、「そう思う」は平成24年度の47.4%から低下し、令和4年度では25.2%となっています。

問9. 子育てについて、あなたのご意見に近いものはどれですか。
 (ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

問9 和歌山県調査（令和2年度実施）との比較（参考）

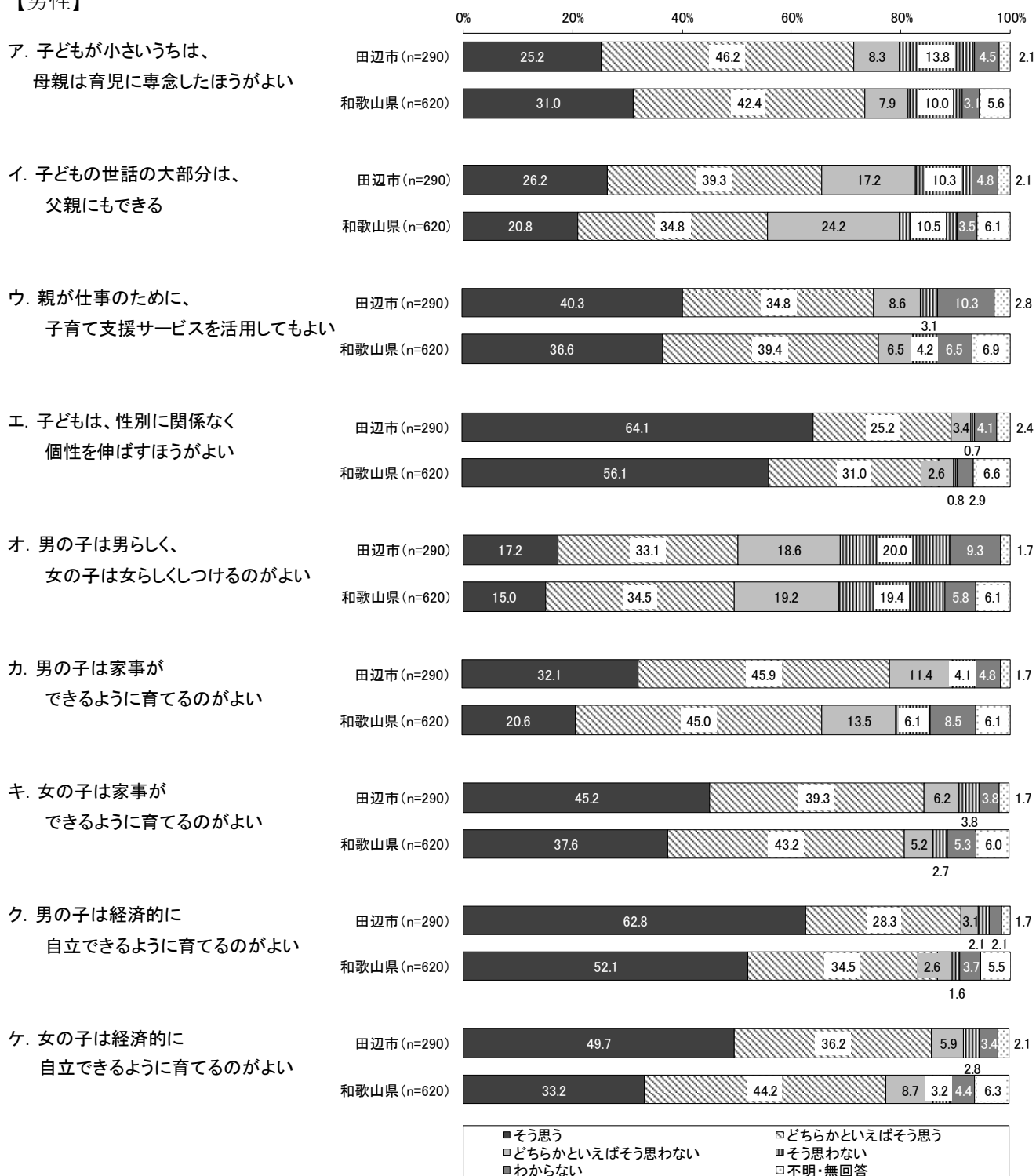
【女性】



子育ての意見について県調査と比較すると、田辺市の女性では、『男の子は家事ができるように育てるのがよい』について、「そう思う」が12.5ポイント高くなっています。また、『子どもは、性別に関係なく個性を伸ばすほうがよい』について、「そう思う」が13.0ポイント高くなっています。

問9. 子育てについて、あなたのご意見に近いものはどれですか。
 (ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

【男性】



子育ての意見について県調査と比較すると、田辺市の男性では、『女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい』について、「そう思う」が16.5ポイント高くなっています。また、『男の子は家事ができるように育てるのがよい』について、「そう思う」が11.5ポイント高くなっています。

問 10. 男性が家事、育児、介護に積極的に参加していくために必要なことは何だと思えますか。

(あてはまるもの3つまでに○)

全体では「夫婦や家族間でのコミュニケーションを図ること」が76.2%と最も高く、次いで「社会の中で、男性も家事、育児、介護などをするのが当たり前だという考え方を普及させること」が63.5%、「労働時間短縮や休暇制度を充実させ、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が53.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「夫婦や家族間でのコミュニケーションを図ること」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「夫婦や家族間でのコミュニケーションを図ること」が最も高く、次いで20歳代以下では「労働時間短縮や休暇制度を充実させ、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」、30歳代以上では「社会の中で、男性も家事、育児、介護などをするのが当たり前だという考え方を普及させること」が高くなっています。

単位：%		夫婦や家族間でのコミュニケーションを図ること	社会の中で、男性も家事、育児、介護などをするのが当たり前という考え方を普及させること	労働時間短縮や休暇制度を充実させ、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること	まわりの人が夫婦の役割分担意識等についての当事者の考え方を尊重すること	男性が家事などについて関心を高めるような啓発や情報提供をすること	仕事と生活の両立等の問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること	公民館や、男女共同参画センター等で講座等を開催し、男性が家事、育児、介護などの技術を習得できるようにすること	その他	わからない	不明・無回答
全体(n=672)		76.2	63.5	53.6	22.9	17.7	11.5	9.4	3.3	3.9	1.8
性別	女性(n=372)	75.8	72.6	54.3	24.7	16.7	11.8	8.1	2.7	3.2	1.6
	男性(n=290)	77.2	52.1	52.4	20.7	19.0	11.0	10.7	4.1	4.8	1.7
年齢別	18歳~19歳(n=44)	79.5	40.9	56.8	25.0	29.5	18.2	9.1	0.0	6.8	4.5
	20歳~29歳(n=53)	84.9	52.8	75.5	24.5	9.4	15.1	3.8	1.9	5.7	0.0
	30歳~39歳(n=102)	79.4	69.6	60.8	21.6	15.7	7.8	6.9	5.9	0.0	2.0
	40歳~49歳(n=106)	71.7	67.0	55.7	24.5	18.9	11.3	6.6	5.7	2.8	0.0
	50歳~59歳(n=118)	78.8	66.1	56.8	16.9	16.1	8.5	6.8	4.2	3.4	1.7
	60歳~69歳(n=143)	73.4	63.6	45.5	25.9	14.7	15.4	9.1	1.4	4.9	1.4
	70歳以上(n=99)	73.7	66.7	39.4	24.2	23.2	9.1	21.2	2.0	6.1	2.0

問 10. 男性が家事、育児、介護に積極的に参加していくために必要なことは何だと思えますか。
 (あてはまるもの3つまでに○)

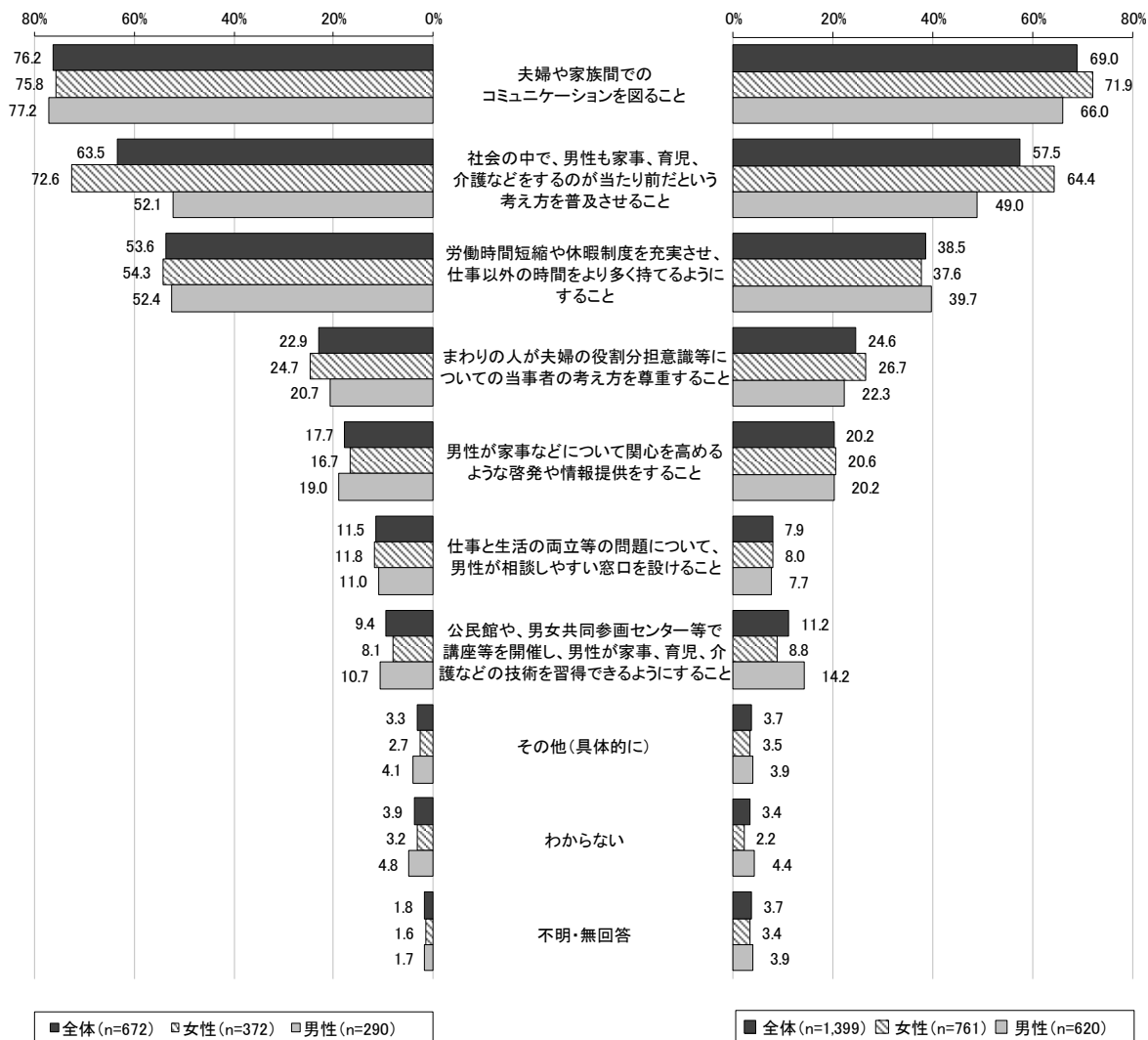
その他の内容	件数
小さい時からの教育	6
適切な給与	2
金銭的な補助、給付金	2
社会通念上の慣習を変える(男だから、女だから)	2
会社のトップの意識と理解	1
すべての年代の知識と理解	1
経済的なゆとり	1
両親が、男女関係なく役割をもって家庭生活をしていく姿を見せる。	1
労働法など、法律で男性の家庭に関わる時間を増やしやすくして企業に啓発する。	1
本人のやる気や責任感	1
家族を大切に思いやり、自分自身で家事等の大変さを実感すること	1
家族皆がお互い様の心を持つこと	1
75才以上には、男も女も協力すべき	1
今現在積極的でない理由を各々つぶすこと	1
その時人場合による	1

問 10. 男性が家事、育児、介護に積極的に参加していくために必要なことは何だと思えますか。
 (あてはまるもの3つまでに○)

問 10 和歌山県調査 (令和 2 年度実施) との比較 (参考)

■ 田辺市

■ 和歌山県



男性が家事・育児・介護に参加していくために必要なことについて県調査と比較すると、田辺市では、全体で「労働時間短縮や休暇制度を充実させ、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が 15.1 ポイント高くなっています。

また、性別で見ると、男性、女性ともに「労働時間短縮や休暇制度を充実させ、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること」が 16.7 ポイント、12.7 ポイント高くなっています。

4. 社会活動・地域活動等について

問 11. あなたが現在、仕事以外に行っている活動と、今後新たに始めたい（続けたい）活動は何ですか。（ア、イそれぞれについて、あてはまるものすべてに○）

ア. 現在行っている活動

全体では「特になし」が 47.0%と最も高く、次いで「趣味・スポーツ・教養に関する活動」が 26.6%、「町内会・PTA・子どもクラブ活動」が 18.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「特になし」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「特になし」が最も高くなっています。

子どもの有無別にみると、ともに「特になし」が最も高くなっています。

単位：%		ク町内会・PTA・子どもクラブ活動	趣味・スポーツ・教養に関する活動	消費生活・環境・リサイクル活動	社会福祉活動	まちづくりなどの活動	職業技術や資格の取得	国際交流活動	その他の活動	特になし	不明・無回答
全体 (n=672)		18.9	26.6	7.0	6.4	3.7	6.8	1.3	2.7	47.0	5.2
性別	女性 (n=372)	16.4	24.5	8.1	5.6	2.7	5.1	1.1	2.4	49.7	5.1
	男性 (n=290)	21.7	30.0	5.5	7.6	5.2	9.0	1.7	2.8	43.4	5.5
年齢別	18歳～19歳 (n=44)	2.3	18.2	6.8	0.0	2.3	15.9	0.0	0.0	70.5	0.0
	20歳～29歳 (n=53)	1.9	39.6	5.7	0.0	1.9	7.5	0.0	1.9	49.1	3.8
	30歳～39歳 (n=102)	23.5	25.5	9.8	2.9	2.0	10.8	1.0	2.0	49.0	3.9
	40歳～49歳 (n=106)	22.6	30.2	4.7	2.8	3.8	7.5	2.8	3.8	43.4	4.7
	50歳～59歳 (n=118)	30.5	25.4	9.3	7.6	4.2	8.5	1.7	0.8	38.1	4.2
	60歳～69歳 (n=143)	16.1	28.0	7.7	13.3	4.2	3.5	2.1	4.2	45.5	4.9
	70歳以上 (n=99)	15.2	21.2	4.0	9.1	6.1	0.0	0.0	3.0	51.5	11.1
子どもの有無別	子どもがいる (n=455)	23.7	25.3	7.9	8.4	4.8	5.7	1.8	3.1	44.0	4.8
	子どもはいない (n=197)	8.1	30.5	5.1	2.5	1.0	9.6	0.5	1.5	53.8	5.6

その他の内容	件数	その他の内容	件数
ボランティア	2	元気な高齢者のサークル	1
財産区活動	1	仕事探し	1
宗教活動	1	児童の下校時付き添い	1
通信制大学	1	カラオケ、雑談	1
地域活性化のイベント活動	1	就農支援	1
ゴミひろい	1	地域の育児サークル	1
女性会の活動	1	地域の小グループ	1
消防	1		

問 11. あなたが現在、仕事以外に行っている活動と、今後新たに始めたい活動は何ですか。
(ア、イそれぞれについて、あてはまるものすべてに○)

イ. 今後始めたい(続けたい) 活動

全体では「特になし」が 38.5%と最も高く、次いで「趣味・スポーツ・教養に関する活動」が 33.8%、「職業技術や資格の取得」が 15.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「特になし」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳～19歳では「趣味・スポーツ・教養に関する活動」「特になし」、20歳代、50～60歳代では「趣味・スポーツ・教養に関する活動」、それ以外の年代では「特になし」が最も高くなっています。

子どもの有無別にみると、ともに「特になし」が最も高くなっています。

単位：%		も町内会・クラブ・PTA・子ども活動	に趣味・スポーツ・教養に関する活動	イ消費生活活動・環境・リサイクル	社会福祉活動	まちづくりなどの活動	職業技術や資格の取得	国際交流活動	その他の活動	特になし	不明・無回答
全体(n=672)		6.7	33.8	10.0	7.3	8.9	15.8	6.5	1.8	38.5	7.7
性別	女性(n=372)	6.2	35.8	12.6	6.2	5.1	17.5	6.5	1.9	36.6	7.0
	男性(n=290)	7.6	31.7	6.9	8.6	14.1	14.1	6.9	1.4	41.4	7.9
年齢別	18歳～19歳(n=44)	6.8	36.4	11.4	9.1	11.4	29.5	18.2	0.0	36.4	0.0
	20歳～29歳(n=53)	5.7	41.5	9.4	1.9	9.4	34.0	13.2	1.9	28.3	3.8
	30歳～39歳(n=102)	7.8	29.4	4.9	5.9	3.9	25.5	8.8	1.0	46.1	4.9
	40歳～49歳(n=106)	7.5	35.8	10.4	7.5	6.6	25.5	6.6	2.8	36.8	3.8
	50歳～59歳(n=118)	7.6	42.4	11.0	4.2	8.5	15.3	6.8	1.7	37.3	5.9
	60歳～69歳(n=143)	6.3	37.8	13.3	11.2	11.9	2.1	1.4	1.4	35.0	7.7
	70歳以上(n=99)	5.1	16.2	9.1	9.1	12.1	1.0	3.0	2.0	47.5	19.2
子どもの有無別	子どもがいる(n=455)	8.4	33.0	11.9	8.6	9.7	13.2	5.3	1.5	38.5	8.1
	子どもはいない(n=197)	3.0	37.1	6.1	4.6	7.6	22.8	10.2	2.0	38.6	4.6

その他の内容	件数	その他の内容	件数
宗教活動	1	その他	1
児童の下校時付き添い	1	農業	1
通信制大学	1	女性会の活動	1
カラオケ、雑談	1	社会人サークル等	1
地域活性化のイベント活動	1		

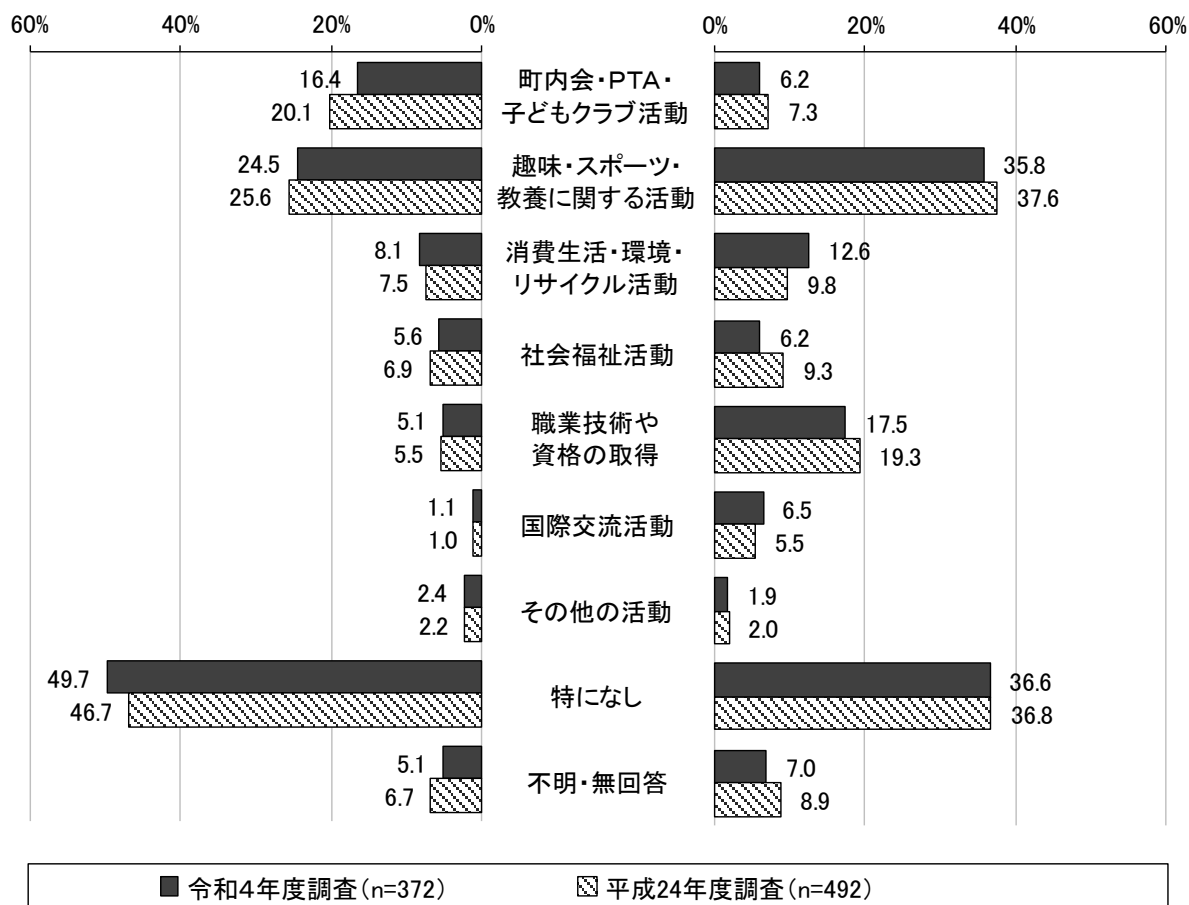
問 11. あなたが現在、仕事以外に行っている活動と、今後新たに始めたい活動は何ですか。
 (ア、イそれぞれについて、あてはまるものすべてに○)

問 11 前回調査（平成 24 年度実施）との比較（参考）

【女性】

■現在

■今後



現在行っている活動について前回調査と比較すると、女性では、「町内会・PTA・子どもクラブ活動」が 3.7 ポイント低下しています。

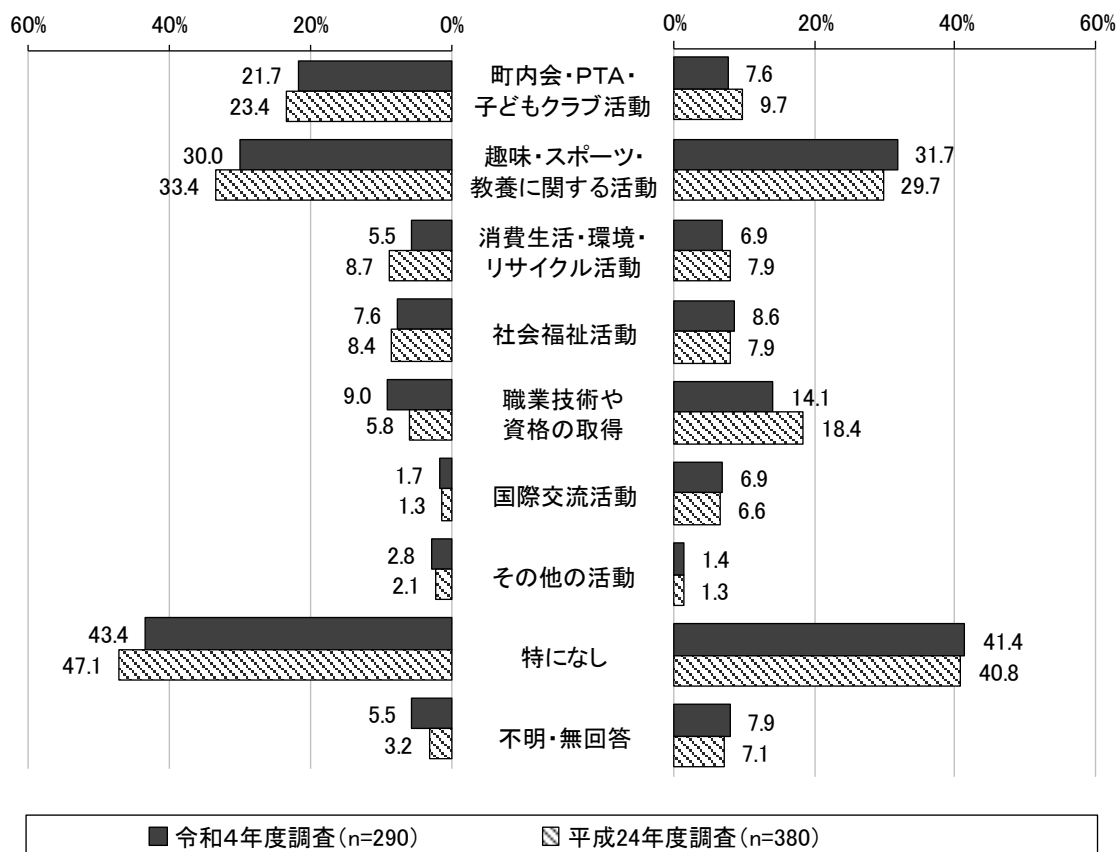
今後始めたい活動について、「社会福祉活動」が 3.1 ポイント低下しています。

問 11. あなたが現在、仕事以外に行っている活動と、今後新たに始めたい活動は何ですか。
 (ア、イそれぞれについて、あてはまるものすべてに○)

【男性】

■ 現在

■ 今後



現在行っている活動について前回調査と比較すると、男性では、「趣味・スポーツ・教養に関する活動」が 3.4 ポイント低下しています。

今後始めたい活動について、「職業技術や資格の取得」が 4.3 ポイント低下しています。

問 12. あなたが仕事以外の活動（社会活動・地域活動など）に参加しようとするうえで、どのようなことが問題になると思いますか。（あてはまるものすべてに○）

全体では「時間の余裕がない」が 47.9%と最も高く、次いで「参加したいが、どこでどのような活動をしているのか」という情報が不足している」が 25.1%、「経済的に余裕がない」が 21.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「時間の余裕がない」が最も高くなっています。

年齢別にみると、60 歳代以下では「時間の余裕がない」、70 歳以上では「健康や体力に自信がない」が最も高くなっています。

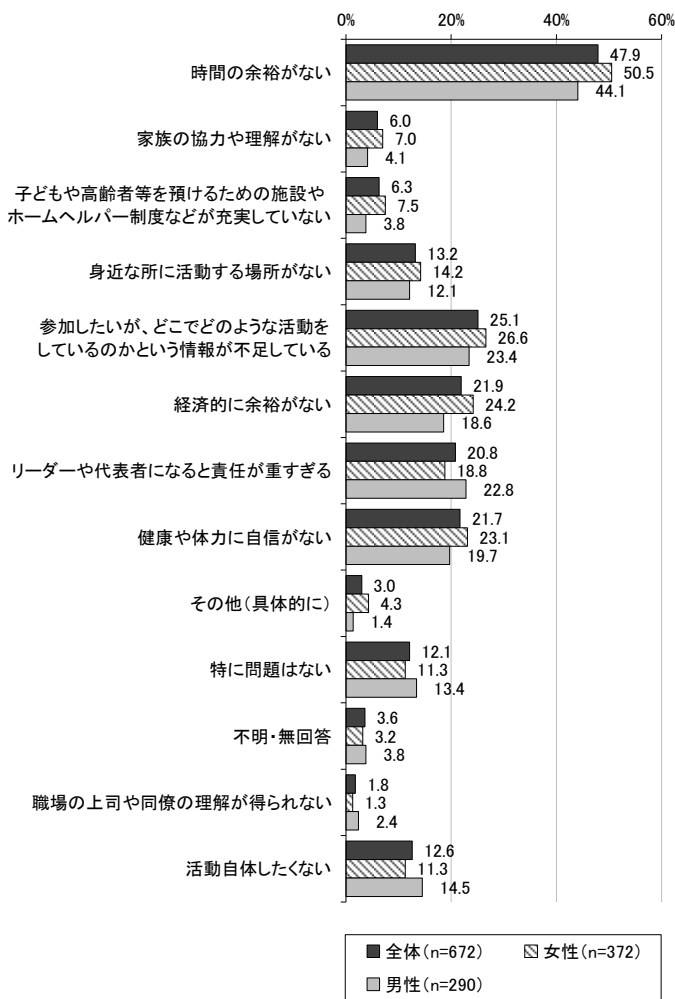
子どもの有無別にみると、ともに「時間の余裕がない」が最も高くなっています。

単位：%		時間の余裕がない	家族の協力や理解がない	子どもや高齢者等を預けるための施設やホームヘルパー制度などが充実していない	身近な所に活動する場所がない	参加したいが、どこでどのような活動をしているのかという情報が不足している	経済的に余裕がない	リーダーや代表者になると責任が重すぎる	健康や体力に自信がない	職場の上司や同僚の理解が得られない	その他	特に問題はない	活動自体したくない	不明・無回答
全体(n=672)		47.9	6.0	6.3	13.2	25.1	21.9	20.8	21.7	1.8	3.0	12.1	12.6	3.6
性別	女性(n=372)	50.5	7.0	7.5	14.2	26.6	24.2	18.8	23.1	1.3	4.3	11.3	11.3	3.2
	男性(n=290)	44.1	4.1	3.8	12.1	23.4	18.6	22.8	19.7	2.4	1.4	13.4	14.5	3.8
年齢別	18 歳~19 歳(n=44)	40.9	4.5	2.3	18.2	38.6	22.7	20.5	18.2	2.3	2.3	9.1	11.4	2.3
	20 歳~29 歳(n=53)	62.3	3.8	3.8	22.6	28.3	28.3	7.5	7.5	0.0	0.0	13.2	9.4	1.9
	30 歳~39 歳(n=102)	66.7	8.8	12.7	15.7	33.3	32.4	22.5	13.7	2.0	2.0	6.9	12.7	0.0
	40 歳~49 歳(n=106)	62.3	8.5	8.5	12.3	24.5	32.1	25.5	18.9	3.8	1.9	10.4	12.3	0.0
	50 歳~59 歳(n=118)	53.4	4.2	3.4	10.2	22.9	18.6	26.3	18.6	3.4	0.8	11.0	12.7	2.5
	60 歳~69 歳(n=143)	42.0	5.6	7.7	10.5	24.5	14.7	21.7	21.0	0.0	5.6	13.3	12.6	5.6
	70 歳以上(n=99)	11.1	3.0	1.0	12.1	14.1	11.1	13.1	46.5	1.0	6.1	20.2	16.2	9.1
有無別の	子どもがいる(n=455)	48.4	6.6	7.7	11.2	24.2	20.0	21.5	21.5	2.0	3.1	12.3	13.0	3.5
	子どもがいない(n=197)	49.2	4.1	3.0	17.8	28.9	27.9	20.3	22.3	1.5	3.0	11.2	12.2	1.0

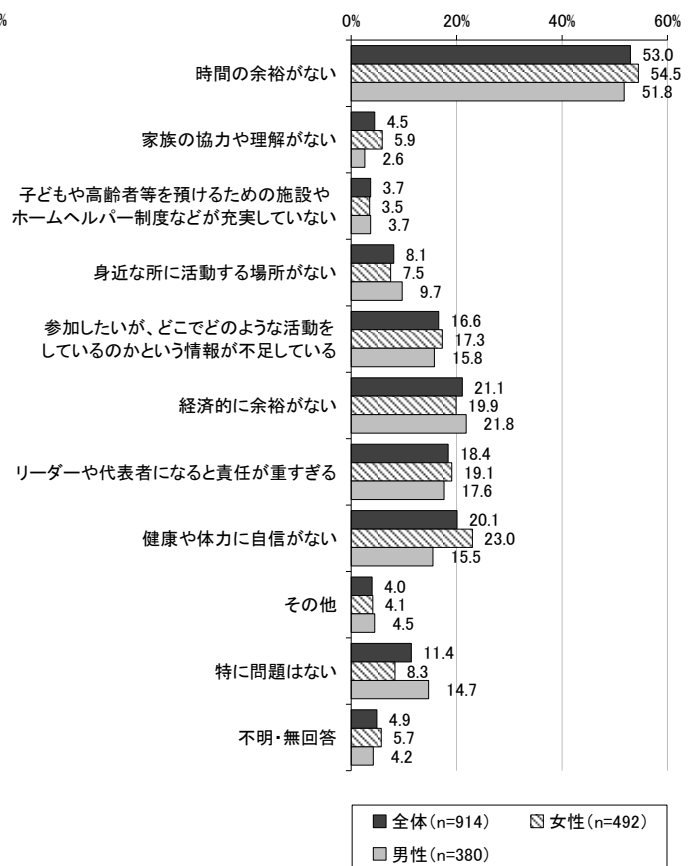
その他の内容	件数
年齢	5
仕事	3
障害	2
病気	2
情報の不足	2
コロナ	1
家族の都合	1
活動の内容	1
周りの目線	1
人間関係	1
精神的な余裕がない	1
格安(年金)で入居できる老人ホームが望ましい。市長にお願いしたい。	1

問 12 前回調査（平成 24 年度）との比較（参考）

■令和 4 年度調査



■平成 24 年度調査



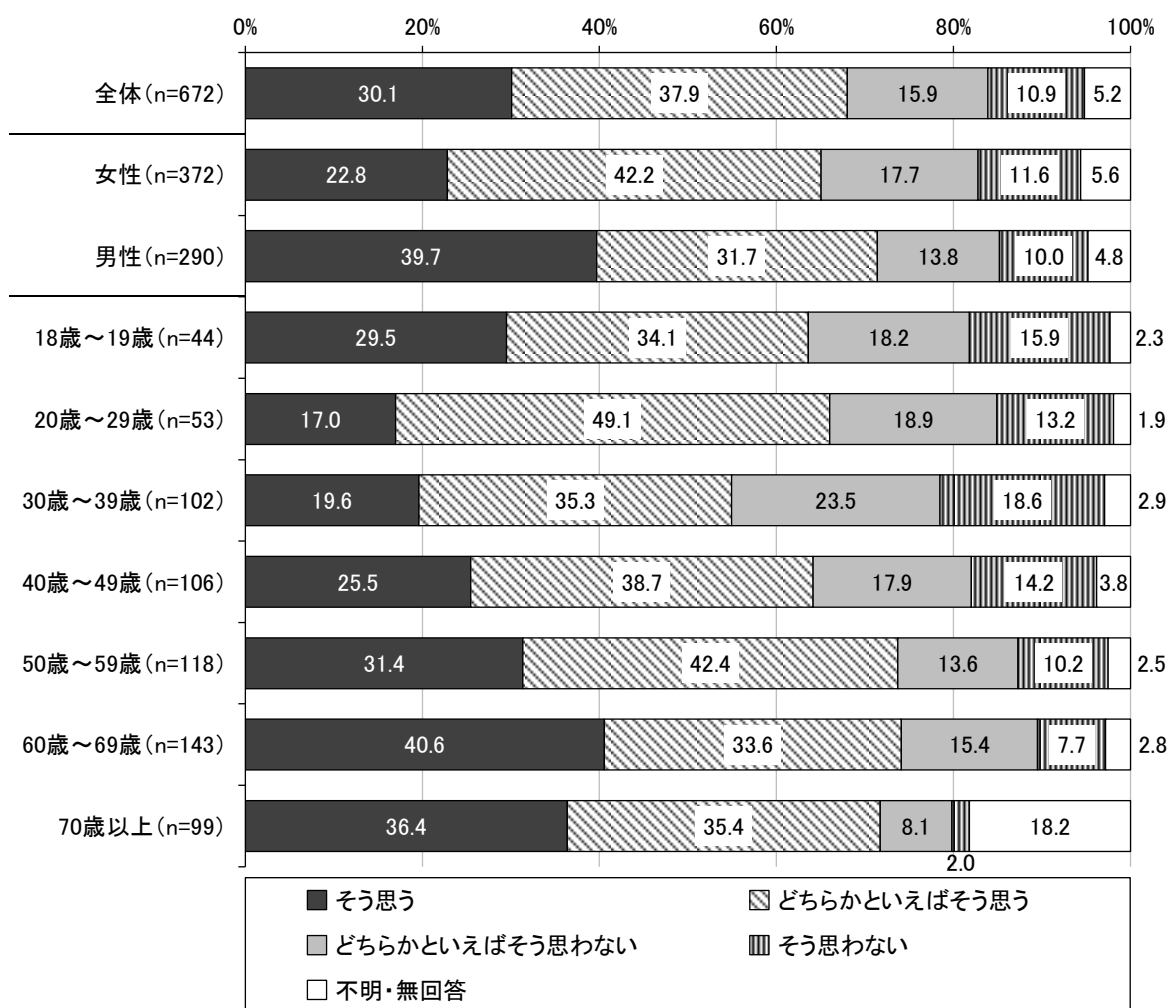
問 13. あなたは、次にあげるような役職や公職に「女性の方が就いた方がよい」と思いますか。
 (ア～カそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ア. PTA会長、子どもクラブ会長

全体では「どちらかといえばそう思う」が37.9%と最も高く、次いで「そう思う」が30.1%、「どちらかといえばそう思わない」が15.9%となっています。

性別にみると、女性では「どちらかといえばそう思う」、男性では「そう思う」が最も高くなっています。

年齢別にみると、50歳代以下では「どちらかといえばそう思う」、60歳代以上では「そう思う」が最も高くなっています。



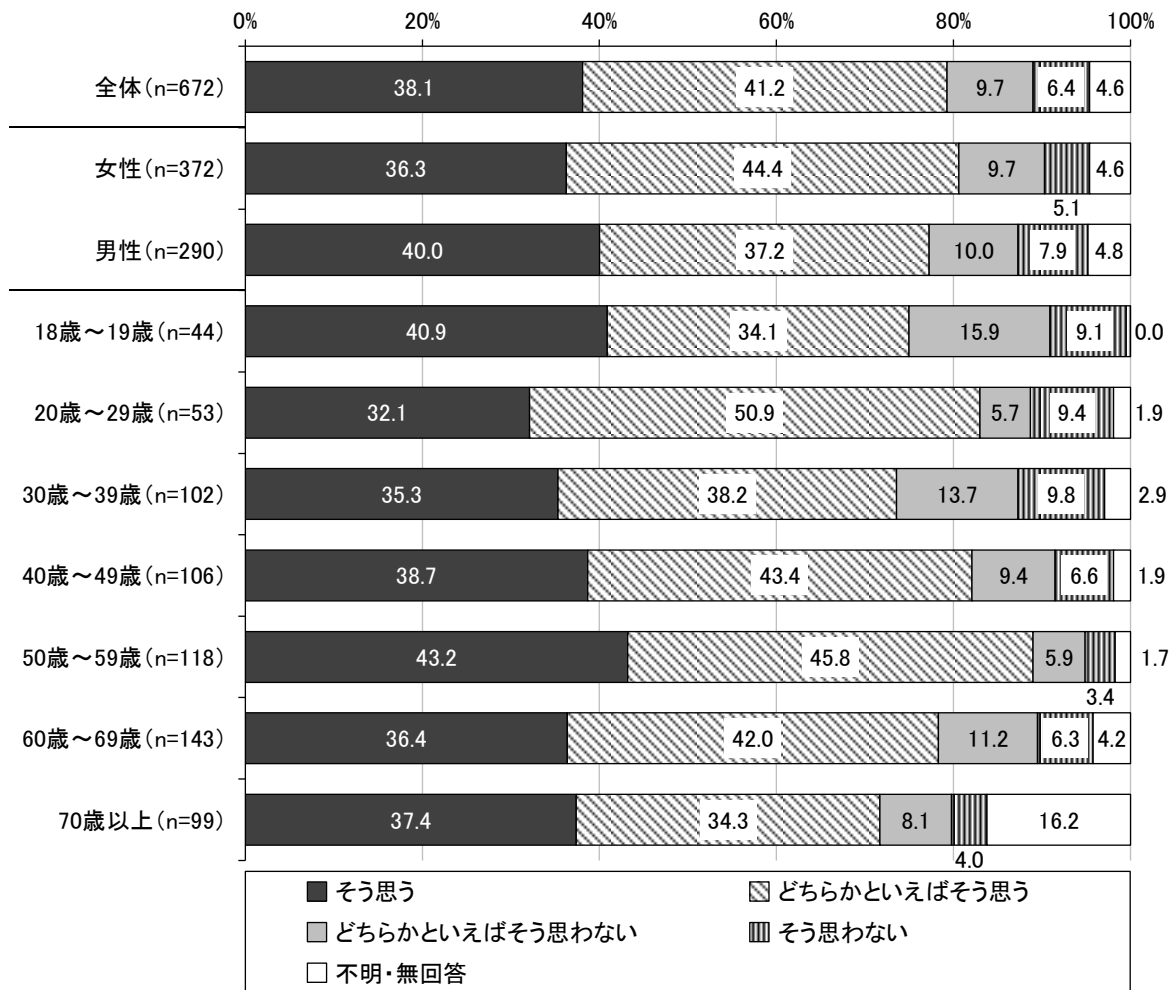
問 13. あなたは、次にあげるような役職や公職に「女性がもっと就いた方がよい」と思いますか。
 (ア～カそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

イ. 職場の管理職

全体では「どちらかといえばそう思う」が41.2%と最も高く、次いで「そう思う」が38.1%、「どちらかといえばそう思わない」が9.7%となっています。

性別にみると、女性では「どちらかといえばそう思う」、男性では「そう思う」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳～19歳、70歳以上では「そう思う」、それ以外の年代では「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。



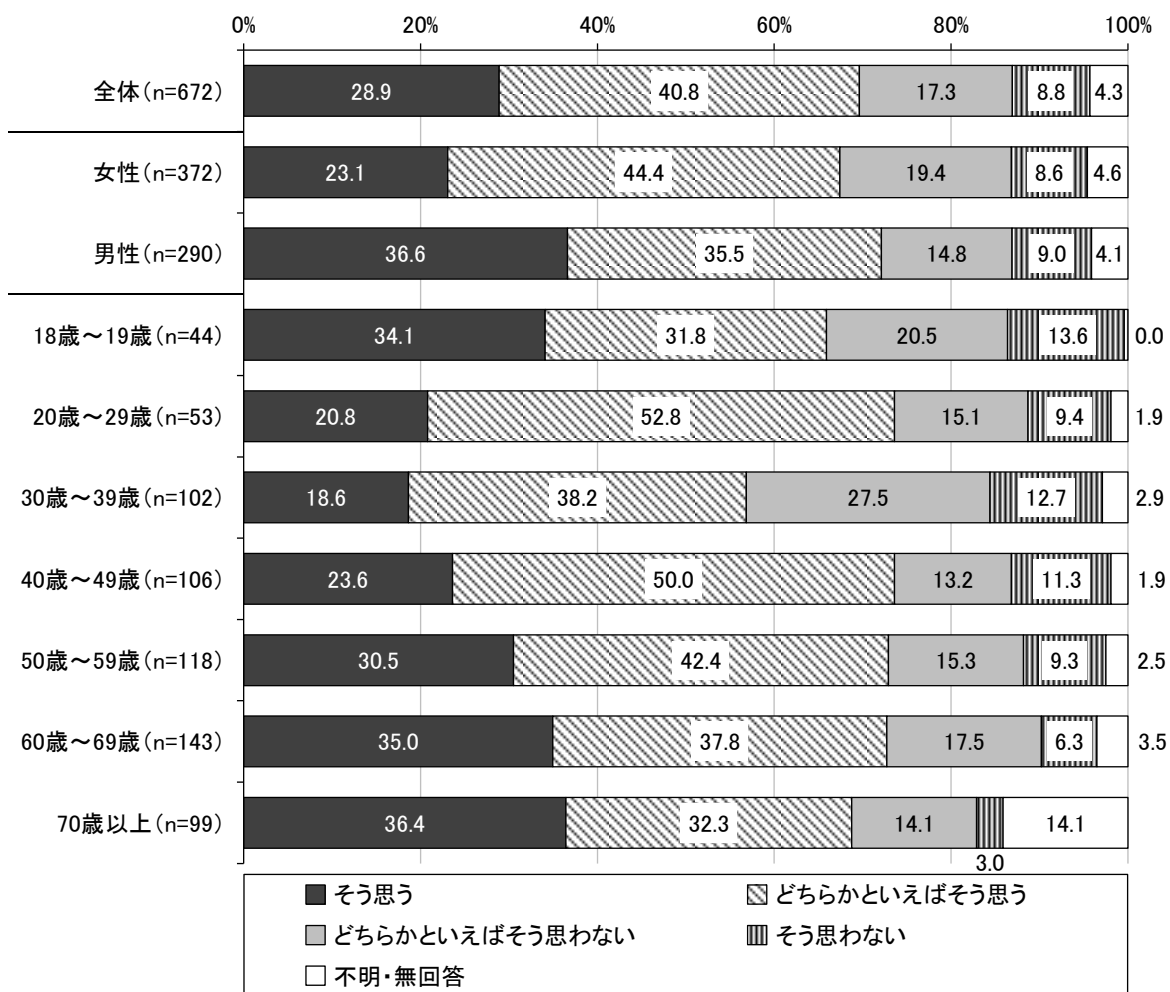
問 13. あなたは、次にあげるような役職や公職に「女性をもっと就いた方がよい」と思いますか。
 (ア～カそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ウ. 町内会長、区長、自治会長

全体では「どちらかといえばそう思う」が40.8%と最も高く、次いで「そう思う」が28.9%、「どちらかといえばそう思わない」が17.3%となっています。

性別にみると、女性では「どちらかといえばそう思う」、男性では「そう思う」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳～19歳、70歳以上では「そう思う」、それ以外の年代では「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。



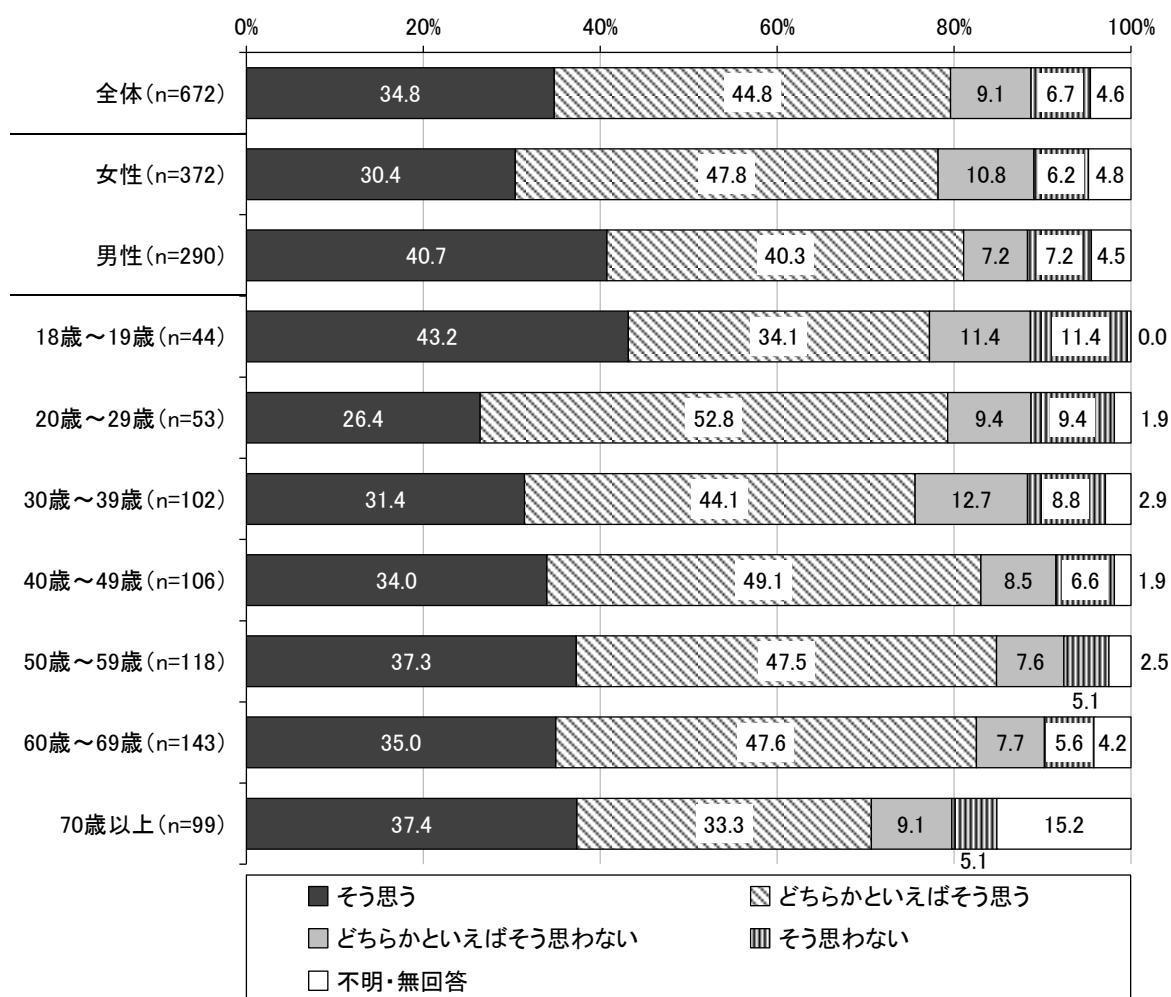
問 13. あなたは、次にあげるような役職や公職に「女性がもっと就いた方がよい」と思いますか。
 (ア～カそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

エ. 県や市町村の審議会や委員会のメンバー

全体では「どちらかといえばそう思う」が44.8%と最も高く、次いで「そう思う」が34.8%、「どちらかといえばそう思わない」が9.1%となっています。

性別にみると、女性では「どちらかといえばそう思う」、男性では「そう思う」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳～19歳、70歳以上では「そう思う」、それ以外の年代では「どちらかといえばそう思う」が最も高くなっています。



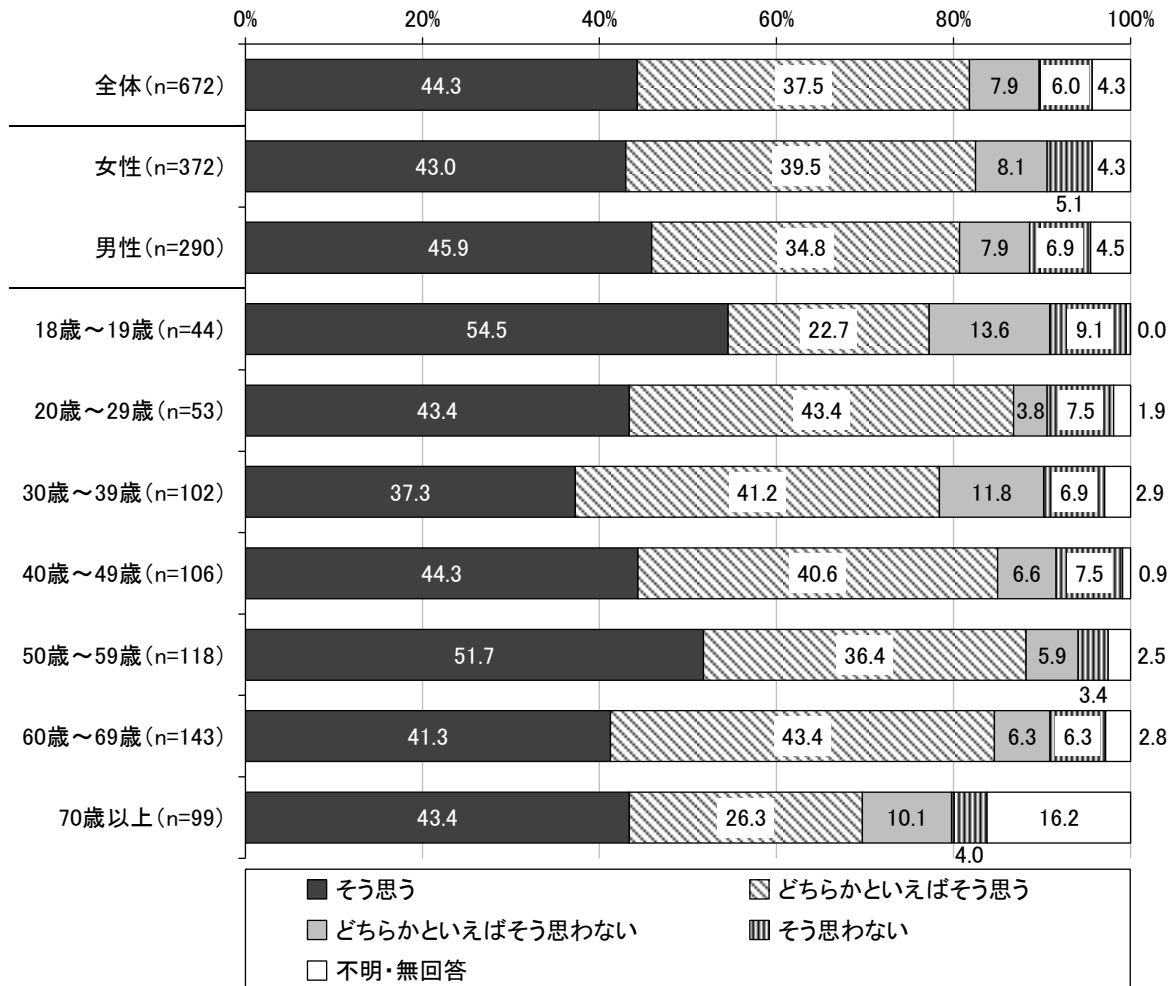
問 13. あなたは、次にあげるような役職や公職に「女性をもっと就いた方がよい」と思いますか。
 (ア～カそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

オ. 国会議員、県議会議員、市町村議会議員

全体では「そう思う」が44.3%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が37.5%、「どちらかといえばそう思わない」が7.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「そう思う」が最も高くなっています。

年齢別にみると、20歳代では「そう思う」「どちらかといえばそう思う」、30歳代、60歳代では「どちらかといえばそう思う」、それ以外の年代では「そう思う」が最も高くなっています。



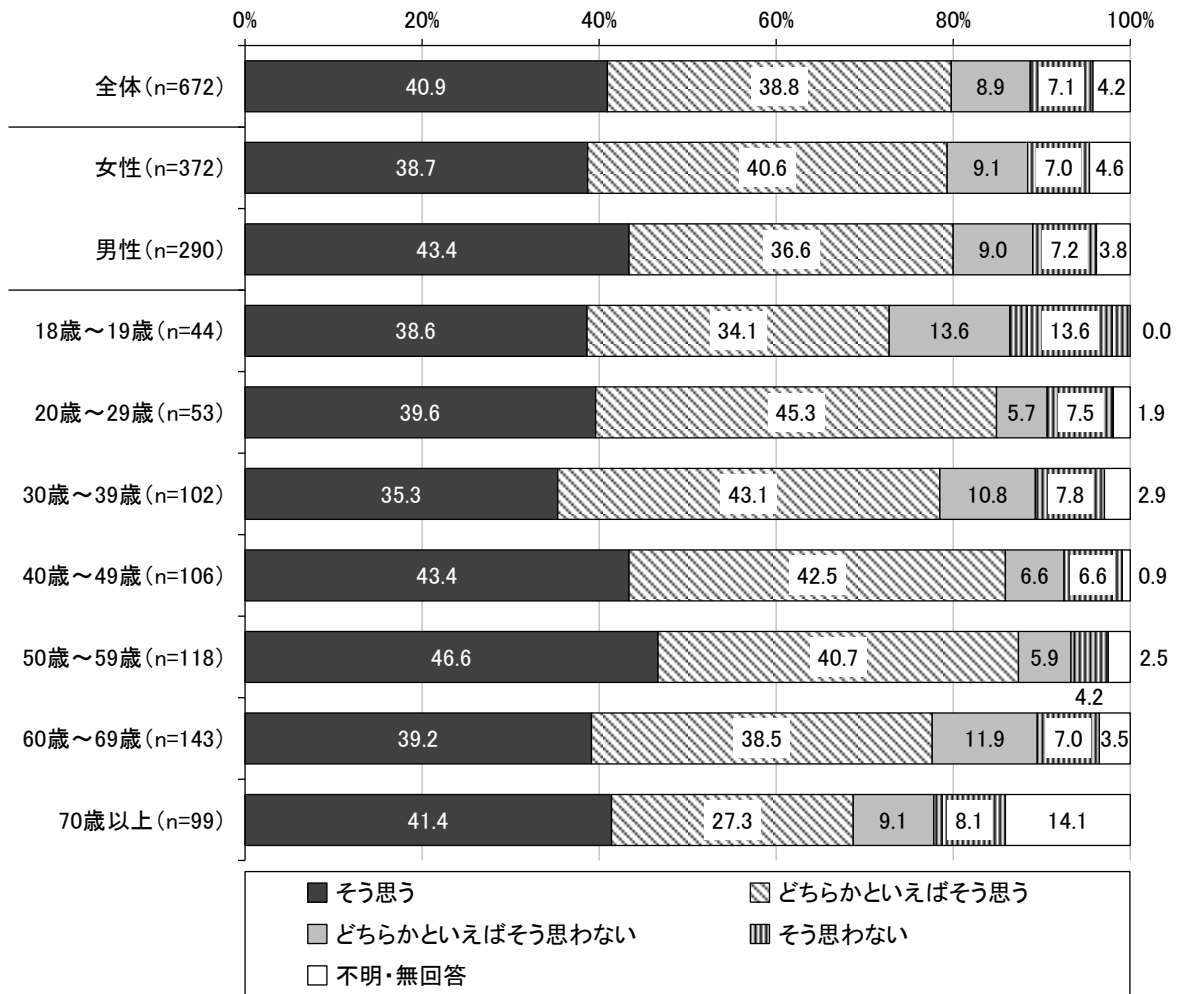
問 13. あなたは、次にあげるような役職や公職に「女性がもっと就いた方がよい」と思いますか。
 (ア～カそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

カ. 知事や市町村長

全体では「そう思う」が40.9%と最も高く、次いで「どちらかといえばそう思う」が38.8%、「どちらかといえばそう思わない」が8.9%となっています。

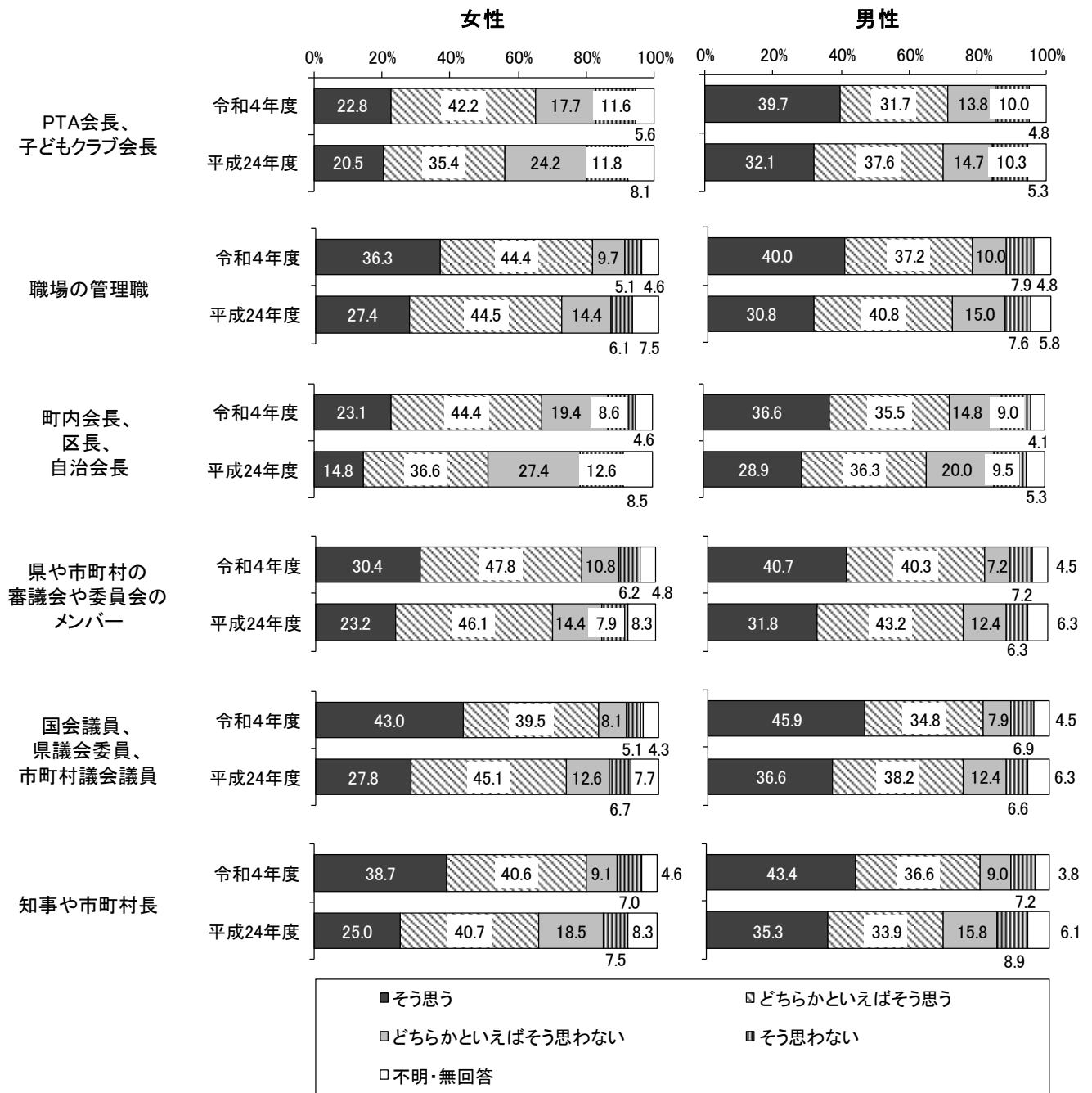
性別にみると、女性では「どちらかといえばそう思う」、男性では「そう思う」が最も高くなっています。

年齢別にみると、20～30歳代では「どちらかといえばそう思う」、それ以外の年代では「そう思う」が最も高くなっています。



問 13. あなたは、次にあげるような役職や公職に「女性もっと就いた方がよい」と思いますか。
 (ア～カそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

問 13 前回調査（平成 24 年度）との比較（参考）



女性がもっと就いた方がよいと思う役職や公職について前回調査と比較すると、女性では、『国会議員、県議会委員、市町村議会委員』について、「そう思う」が15.2ポイント上昇しています。また、『知事や市町村長』について、「そう思う」が13.7ポイント上昇しています。

男性では、『国会議員、県議会委員、市町村議会議員』について、「そう思う」が9.3ポイント上昇しています。また、『職場の管理職』について、「そう思う」が9.2ポイント上昇しています。

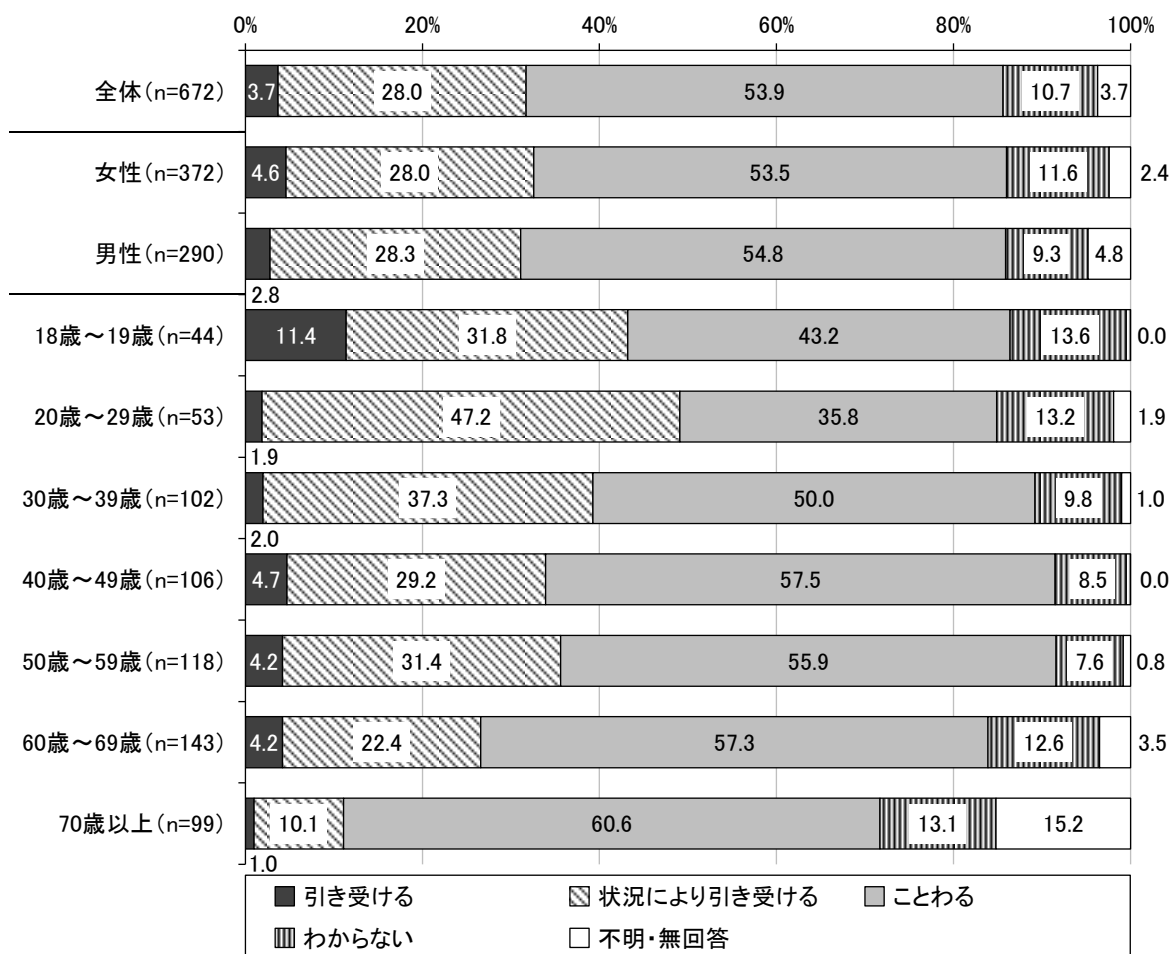
問 14. もし、あなたが次にあげるような役職や公職への就任や立候補を依頼されたとしたらどうしますか。(ア～カそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ア. PTA会長、子どもクラブ会長

全体では「ことわる」が53.9%と最も高く、次いで「状況により引き受ける」が28.0%、「わからない」が10.7%となっています。

性別にみると、男女ともに「ことわる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、20歳代では「状況により引き受ける」、それ以外の年代では「ことわる」が最も高くなっています。



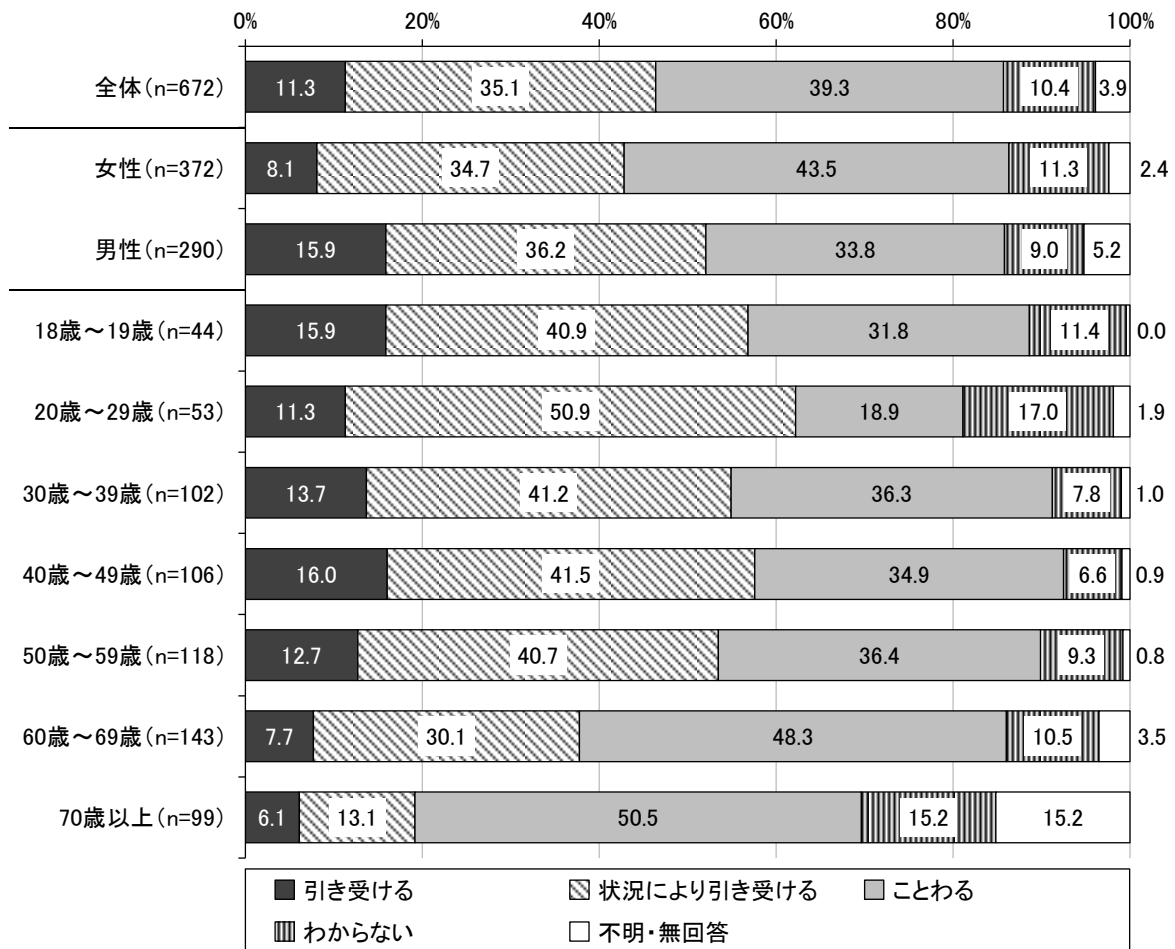
問 14. もし、あなたが次にあげるような役職や公職への就任や立候補を依頼されたとしたらどうしますか。
 (ア～カそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

イ. 職場の管理職

全体では「ことわる」が39.3%と最も高く、次いで「状況により引き受ける」が35.1%、「引き受ける」が11.3%となっています。

性別にみると、女性では「ことわる」、男性では「状況により引き受ける」が最も高くなっています。

年齢別にみると、50歳代以下では「状況により引き受ける」、60歳代以上では「ことわる」が最も高くなっています。



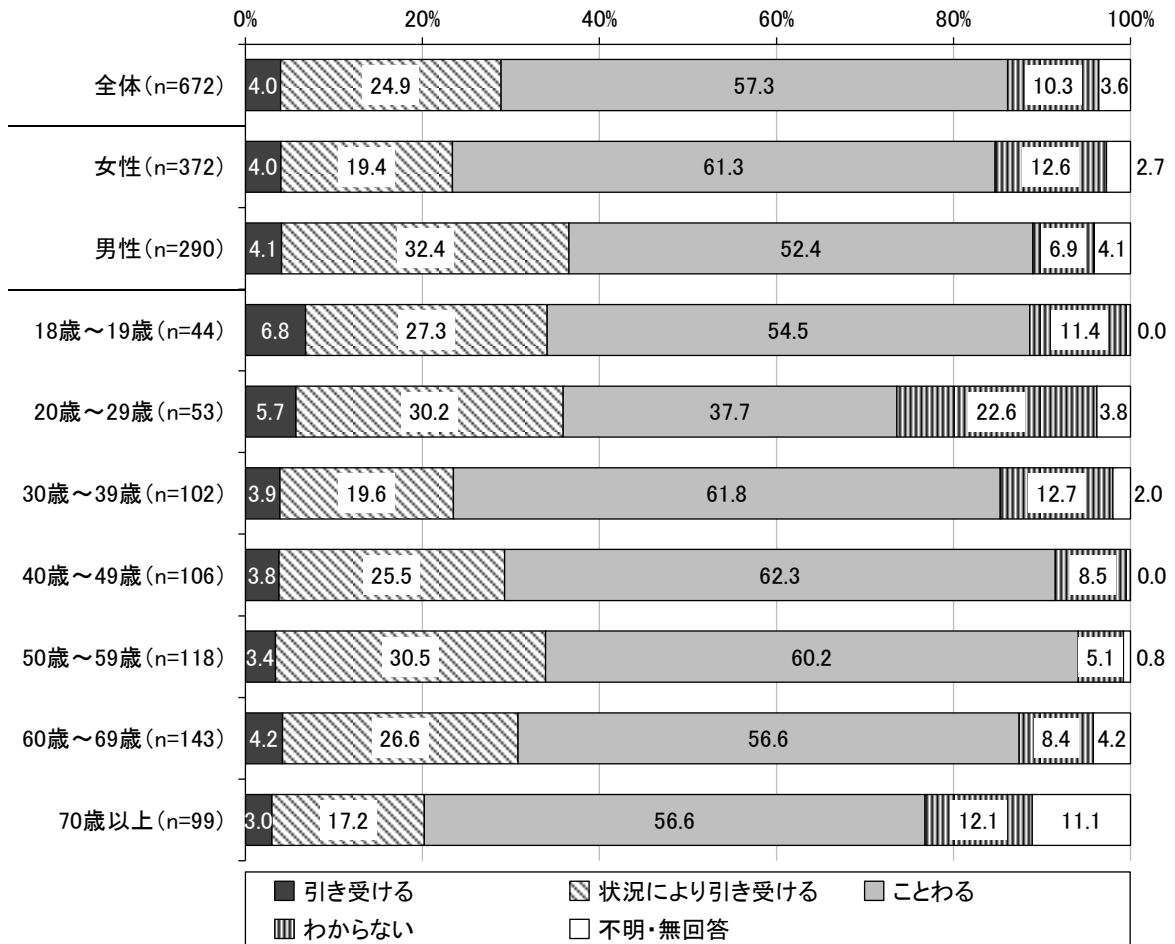
問 14. もし、あなたが次にあげるような役職や公職への就任や立候補を依頼されたとしたらどうしますか。
 (ア～カそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ウ. 町内会長、区長、自治会長

全体では「ことわる」が57.3%と最も高く、次いで「状況により引き受ける」が24.9%、「わからない」が10.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「ことわる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「ことわる」が最も高くなっています。



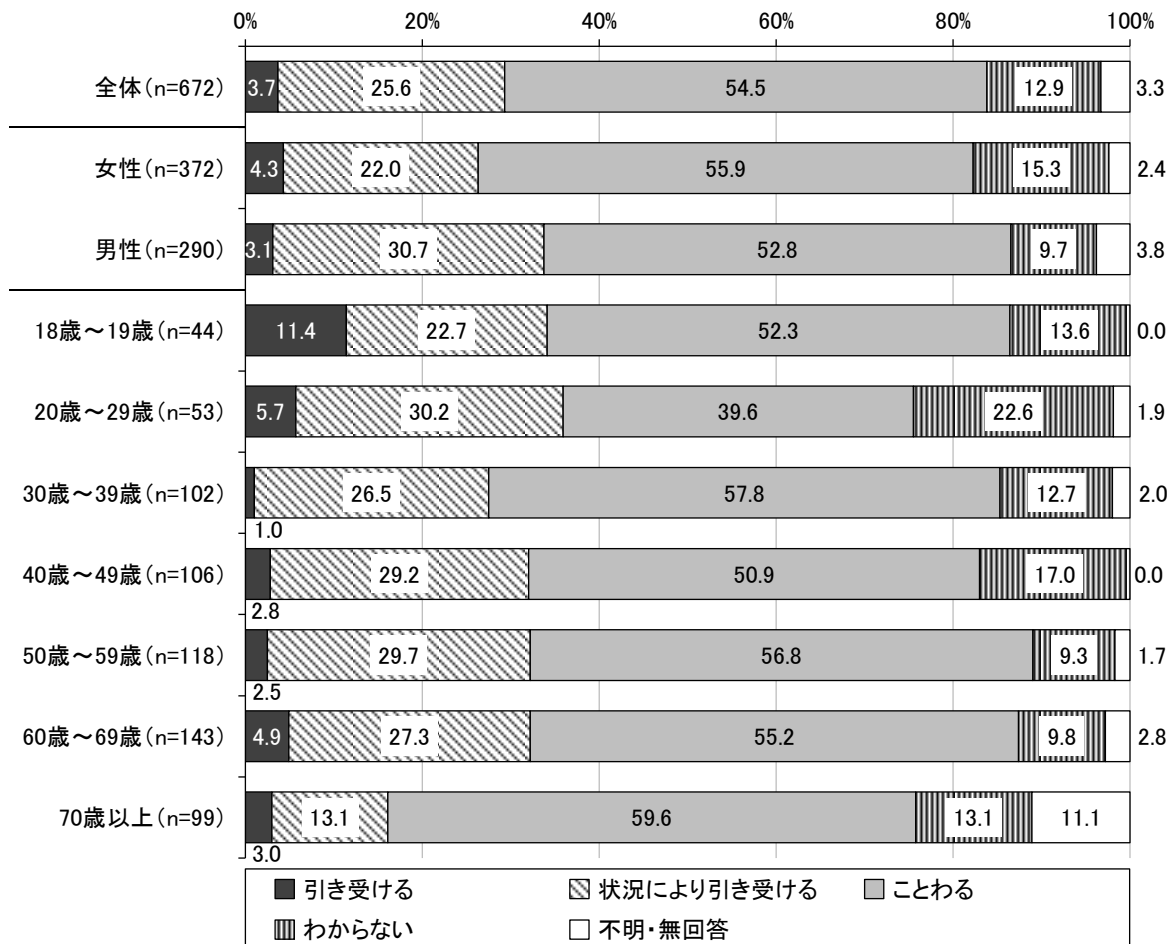
問 14. もし、あなたが次にあげるような役職や公職への就任や立候補を依頼されたとしたらどうしますか。
 (ア～カそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

エ. 県や市町村の審議会や委員会のメンバー

全体では「ことわる」が54.5%と最も高く、次いで「状況により引き受ける」が25.6%、「わからない」が12.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「ことわる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「ことわる」が最も高くなっています。



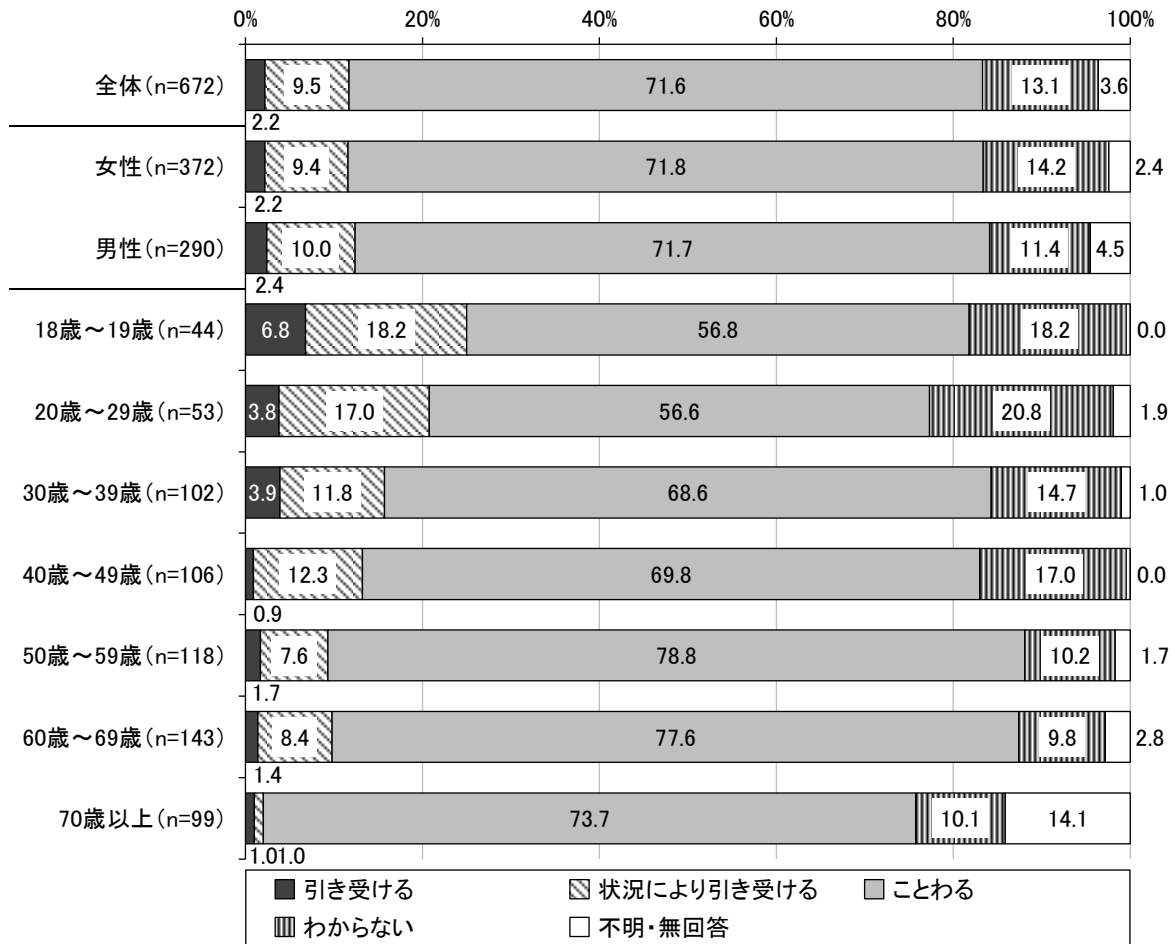
問 14. もし、あなたが次にあげるような役職や公職への就任や立候補を依頼されたとしたらどうしますか。
 (ア～カそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

オ. 国会議員、県議会議員、市町村議会議員

全体では「ことわる」が71.6%と最も高く、次いで「わからない」が13.1%、「状況により引き受ける」が9.5%となっています。

性別にみると、男女ともに「ことわる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「ことわる」が最も高くなっています。



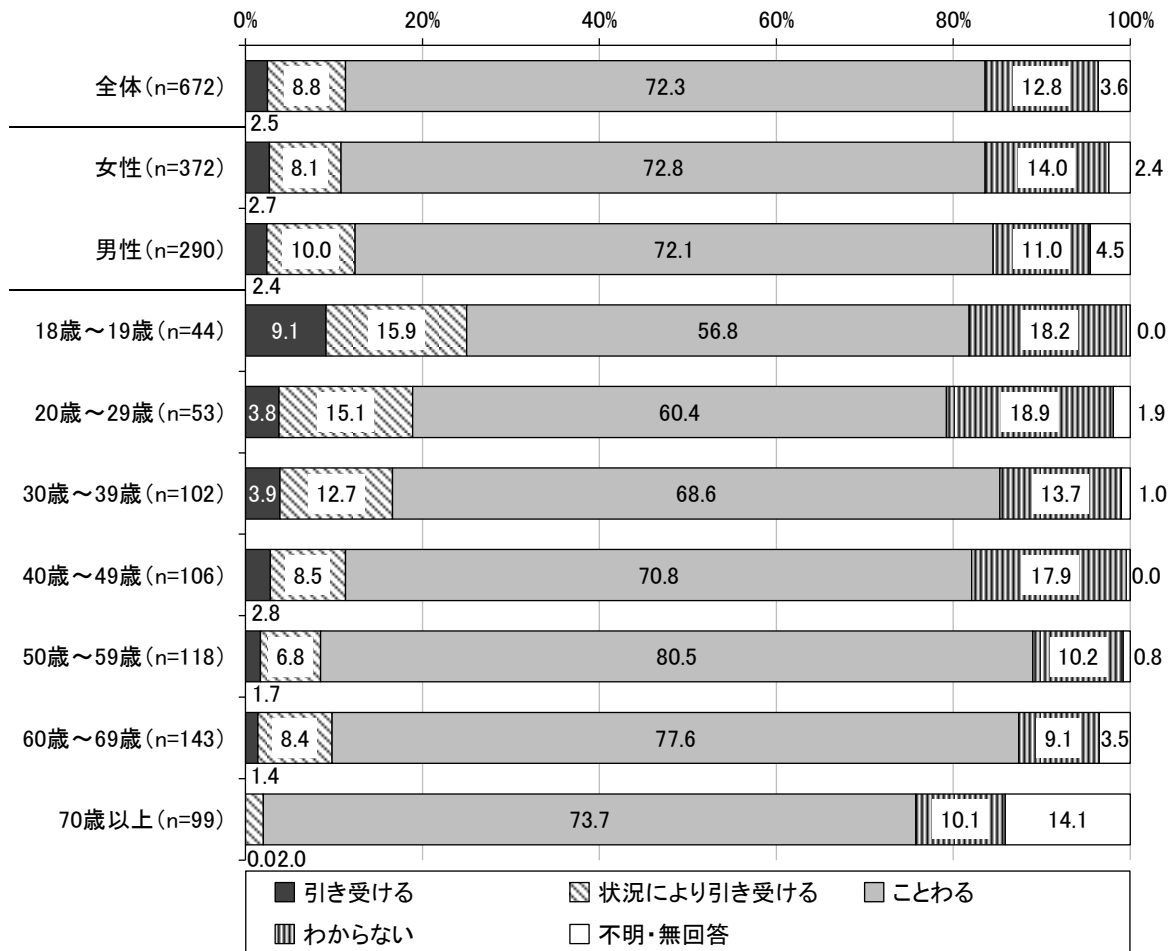
問 14. もし、あなたが次にあげるような役職や公職への就任や立候補を依頼されたとしたらどうしますか。
 (ア～カそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

カ. 知事や市町村長

全体では「ことわる」が72.3%と最も高く、次いで「わからない」が12.8%、「状況により引き受ける」が8.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「ことわる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「ことわる」が最も高くなっています。



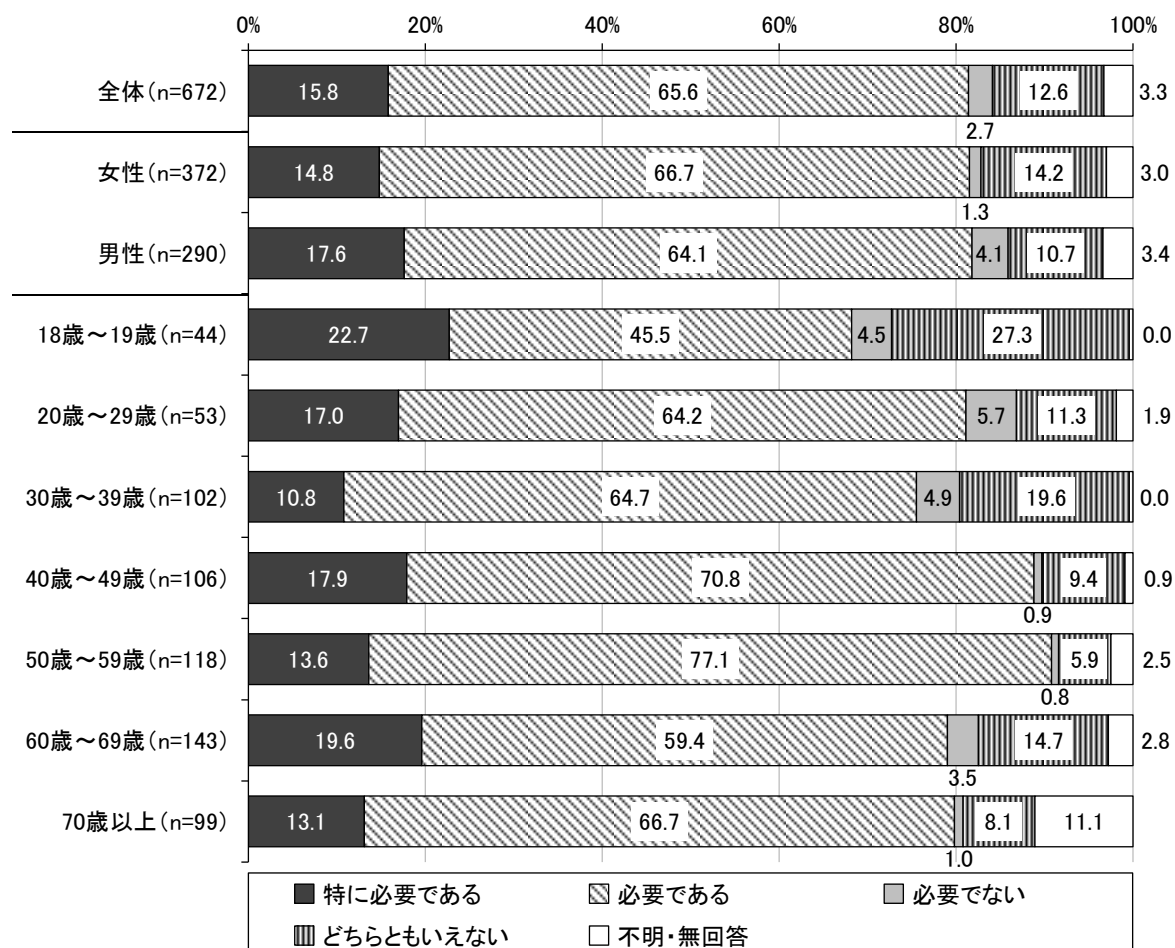
問 15. 防災・災害復興における次の事項について、女性に配慮して取り組む必要があると思いますか。(ア～クそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ア. 防災に関する方針決定に女性の参画拡大を行う(例:防災会議構成員への女性の積極的な登用)

全体では「必要である」が65.6%と最も高く、次いで「特に必要である」が15.8%、「どちらともいえない」が12.6%となっています。

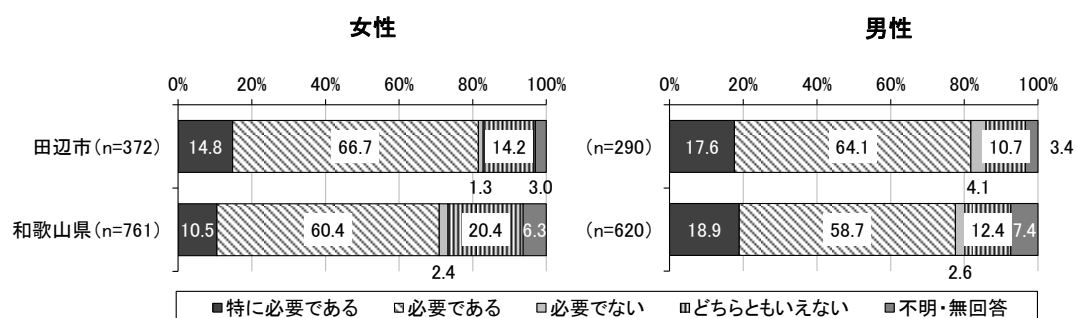
性別にみると、男女ともに「必要である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「必要である」が最も高くなっています。



<和歌山県調査(令和2年度実施)との比較(参考)>

県調査と比較すると、田辺市では、女性、男性ともに「必要である」がそれぞれ6.3ポイント、5.4ポイント高くなっています。



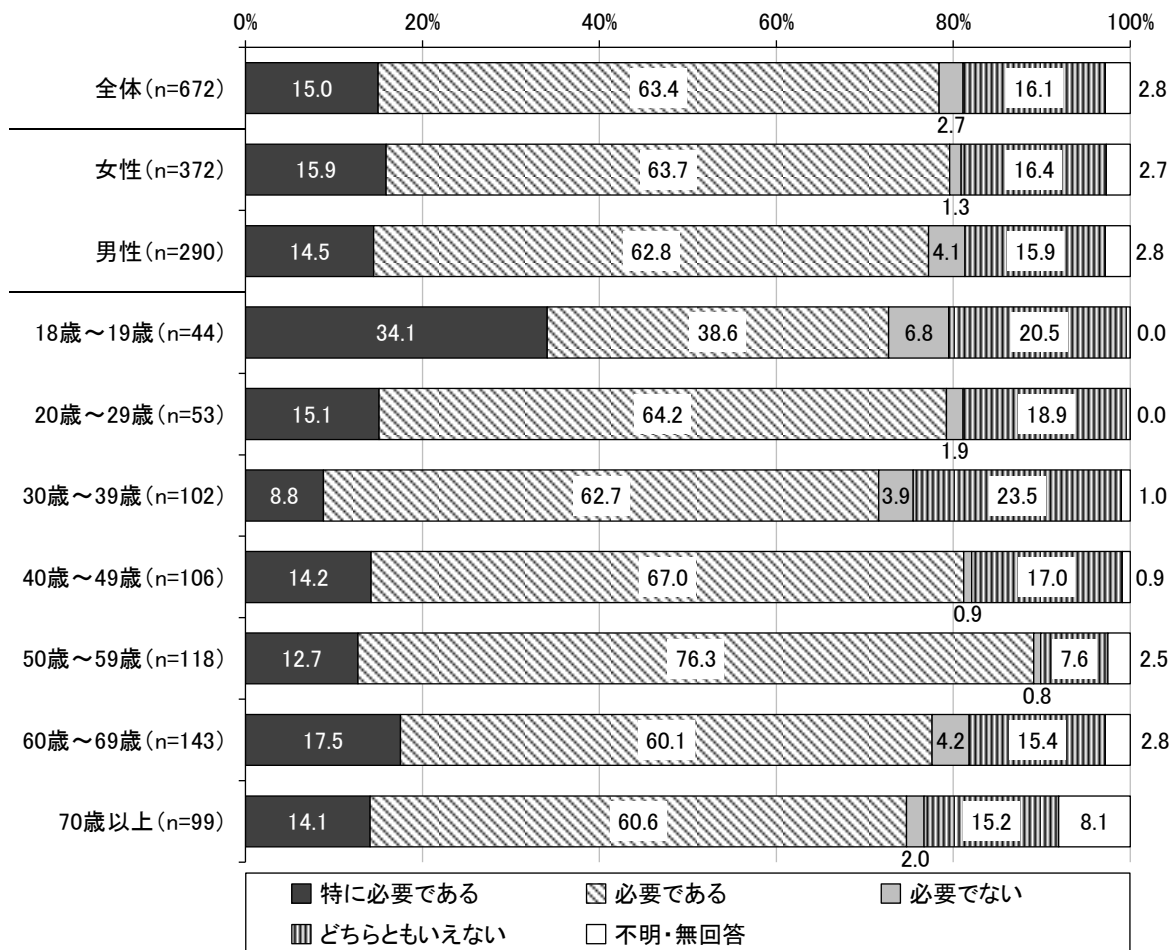
問 15. 防災・災害復興における次の事項について、女性に配慮して取り組む必要があると思いますか。
 (ア～クそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

イ. 女性消防職員・警察官を積極的に採用する(例：災害復興時における女性消防職員等の適正配置)

全体では「必要である」が63.4%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が16.1%、「特に必要である」が15.0%となっています。

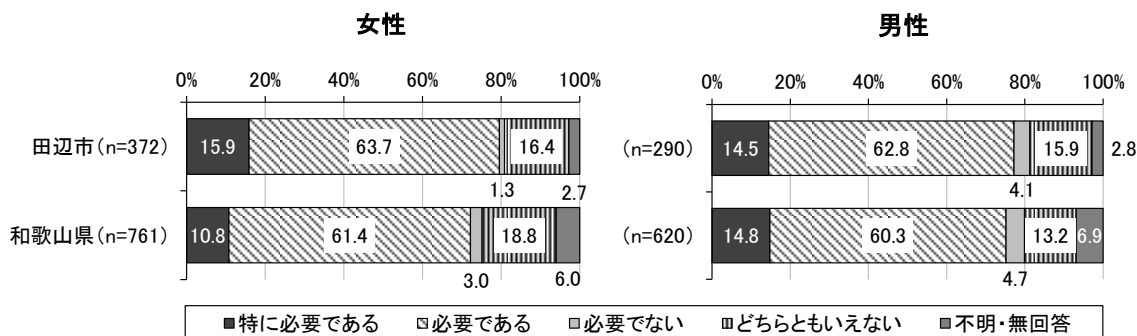
性別にみると、男女ともに「必要である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「必要である」が最も高くなっています。



<和歌山県調査(令和2年度実施)との比較(参考)>

県調査と比較すると、田辺市では、女性は「特に必要である」が5.1ポイント高く、男性は「必要である」が2.5ポイント高くなっています。



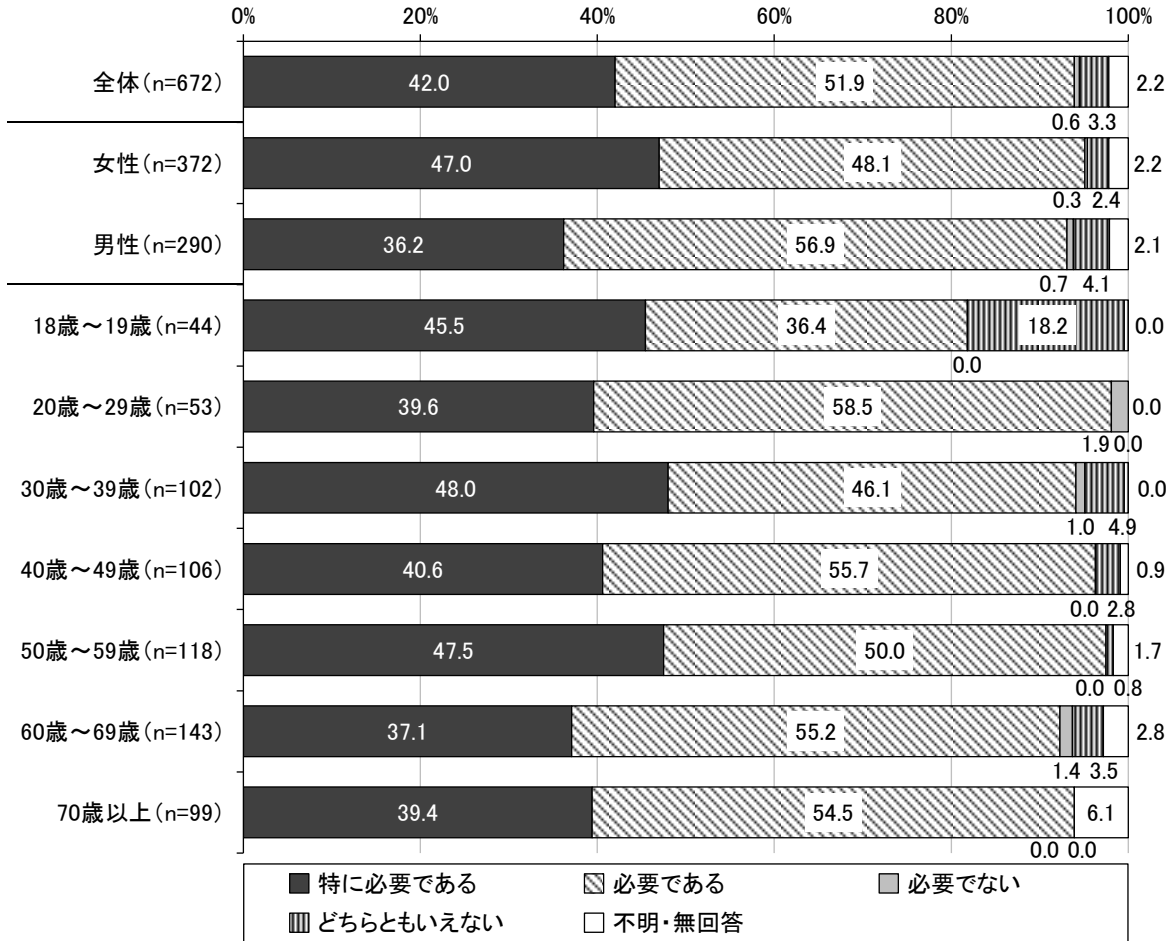
問 15. 防災・災害復興における次の事項について、女性に配慮して取り組む必要があると思いますか。
(ア～クそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ウ. 避難所の設置・運営に配慮する（例：トイレ、更衣室の確保等）

全体では「必要である」が51.9%と最も高く、次いで「特に必要である」が42.0%、「どちらともいえない」が3.3%となっています。

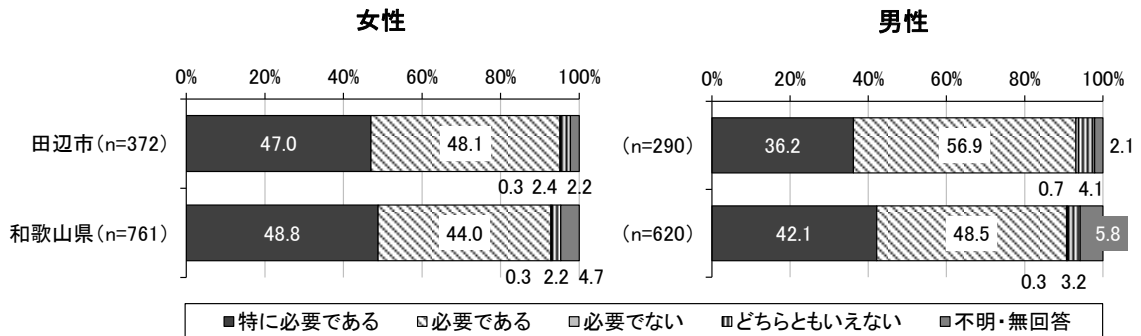
性別にみると、男女ともに「必要である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳～19歳、30歳代では「特に必要である」、それ以外の年代では「必要である」が最も高くなっています。



＜和歌山県調査（令和2年度実施）との比較（参考）＞

県調査と比較すると、田辺市では、女性、男性ともに「必要である」が4.1ポイント、8.4ポイント高くなっています。



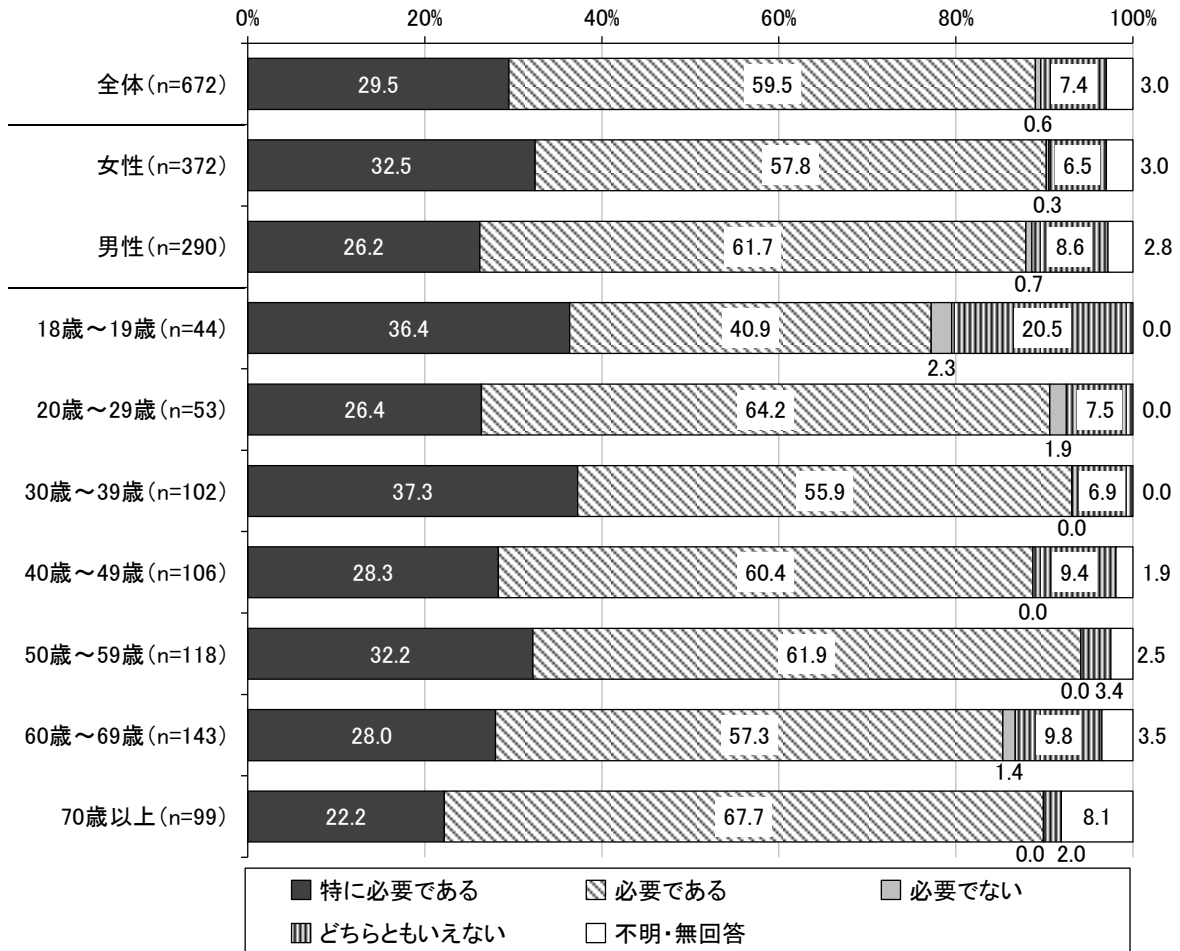
問 15. 防災・災害復興における次の事項について、女性に配慮して取り組む必要があると思いますか。
 (ア～クそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

エ. 避難所の運営に女性が関わる (例：避難所運営役員への女性の参画)

全体では「必要である」が 59.5%と最も高く、次いで「特に必要である」が 29.5%、「どちらともいえない」が 7.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「必要である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「必要である」が最も高くなっています。



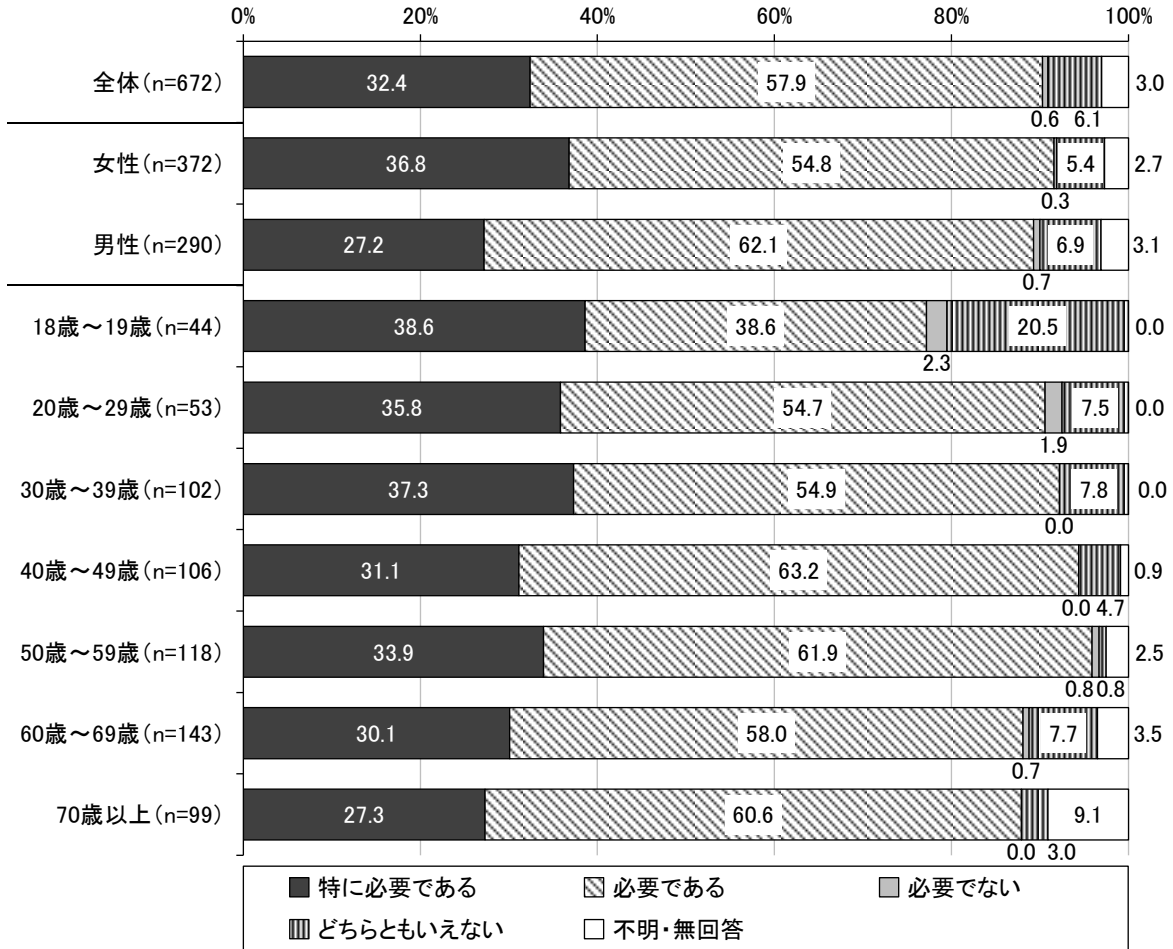
問 15. 防災・災害復興における次の事項について、女性に配慮して取り組む必要があると思いますか。
 (ア～クそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

オ. 女性の相談窓口を設置する (例：女性相談員による専門の窓口設置)

全体では「必要である」が57.9%と最も高く、次いで「特に必要である」が32.4%、「どちらともいえない」が6.1%となっています。

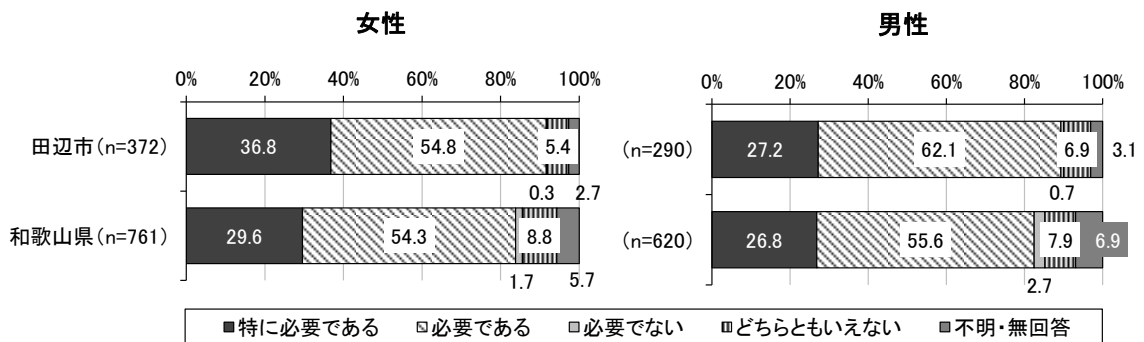
性別にみると、男女ともに「必要である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳～19歳では「特に必要である」「必要である」、20歳代以上では「必要である」が最も高くなっています。



<和歌山県調査 (令和2年度実施) との比較 (参考) >

県調査と比較すると、田辺市では、女性では「特に必要である」が7.2ポイント、男性では「必要である」が6.5ポイント高くなっています。



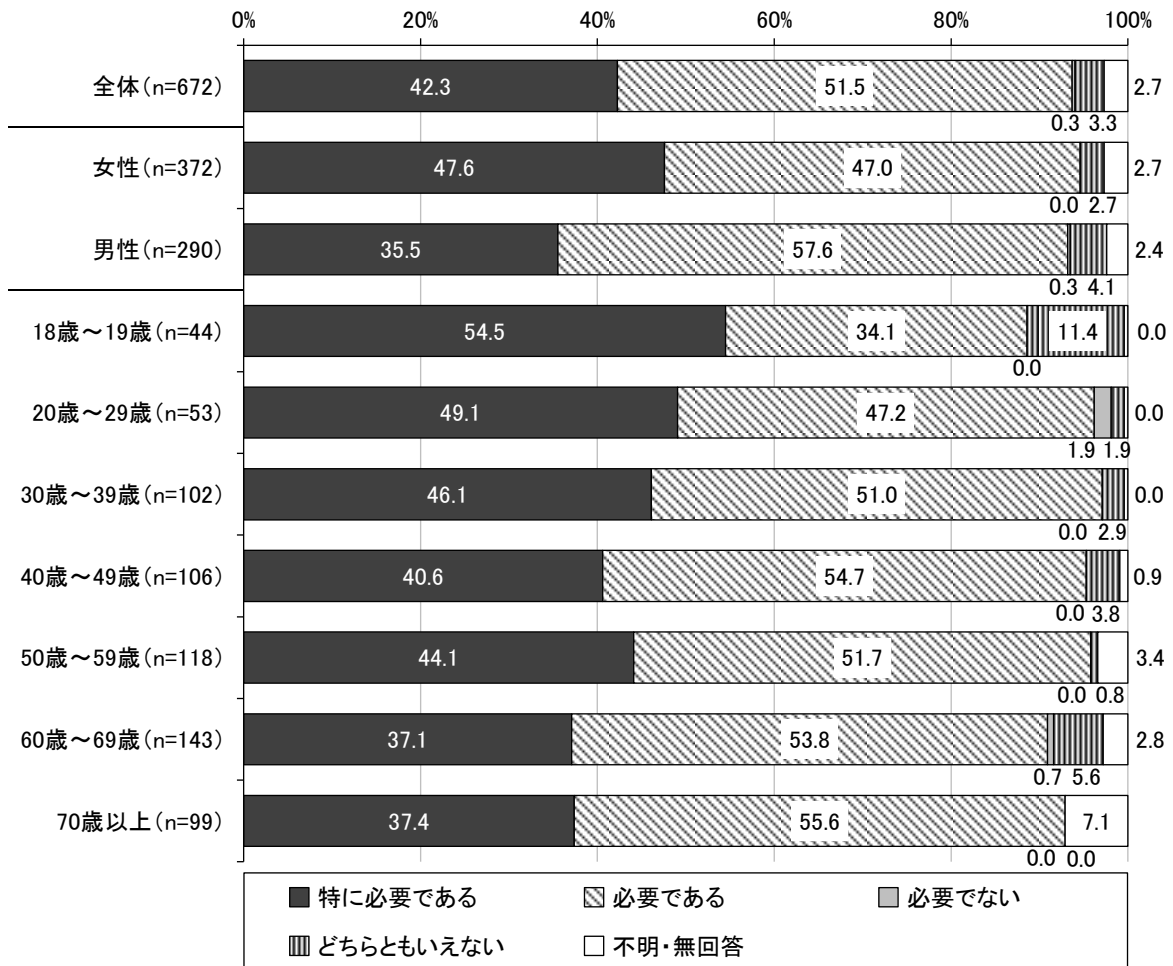
問 15. 防災・災害復興における次の事項について、女性に配慮して取り組む必要があると思いますか。
 (ア～クそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

カ. 備蓄物資に配慮する(例：医薬品、介護用品、生理用品の確保等)

全体では「必要である」が51.5%と最も高く、次いで「特に必要である」が42.3%、「どちらともいえない」が3.3%となっています。

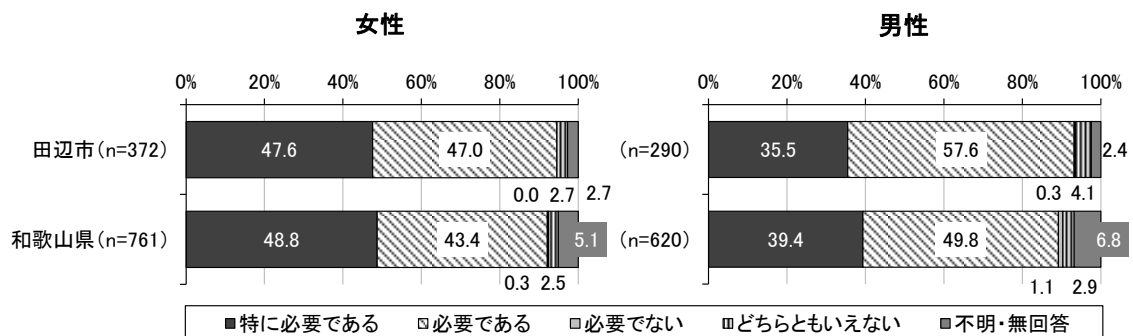
性別にみると、女性では「特に必要である」、男性では「必要である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、20歳代以下では「特に必要である」、30歳代以上では「必要である」が最も高くなっています。



<和歌山県調査(令和2年度実施)との比較(参考)>

県調査と比較すると、田辺市では、女性、男性ともに「必要である」が3.6ポイント、7.8ポイント高くなっています。



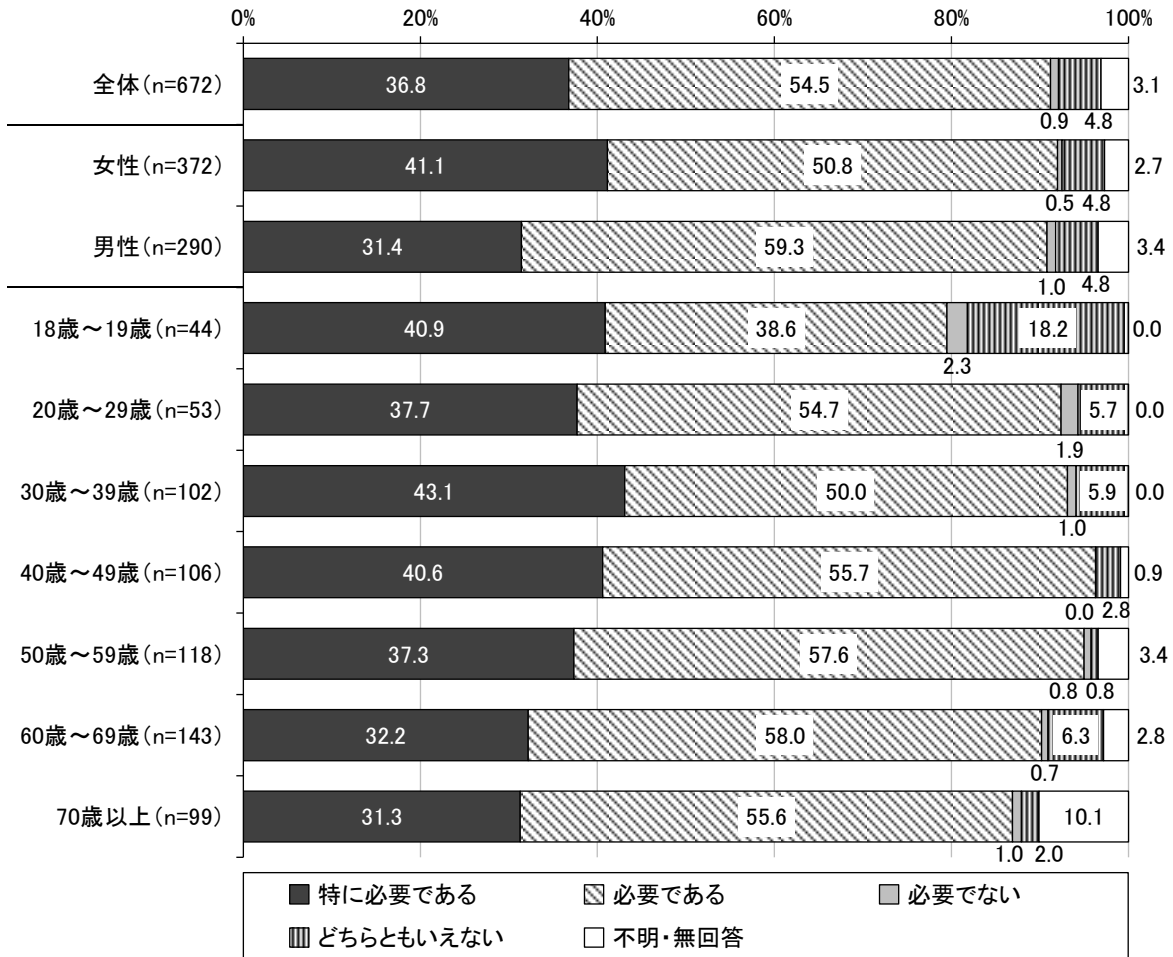
問 15. 防災・災害復興における次の事項について、女性に配慮して取り組む必要があると思いますか。
 (ア～クそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

キ. 医療体制に配慮する (例：診察室の確保等)

全体では「必要である」が54.5%と最も高く、次いで「特に必要である」が36.8%、「どちらともいえない」が4.8%となっています。

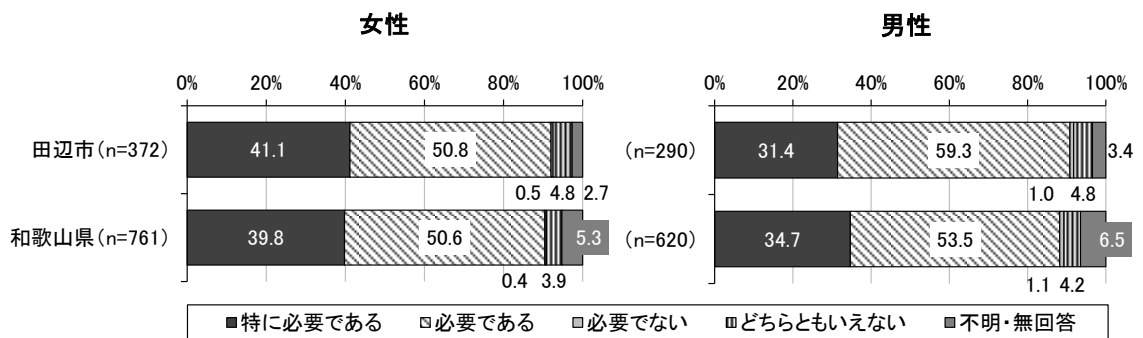
性別にみると、男女ともに「必要である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳～19歳では「特に必要である」、20歳代以上では「必要である」が最も高くなっています。



<和歌山県調査 (令和2年度実施) との比較 (参考) >

県調査と比較すると、田辺市では、女性では「特に必要である」が1.3ポイント、男性では「必要である」が5.8ポイント高くなっています。



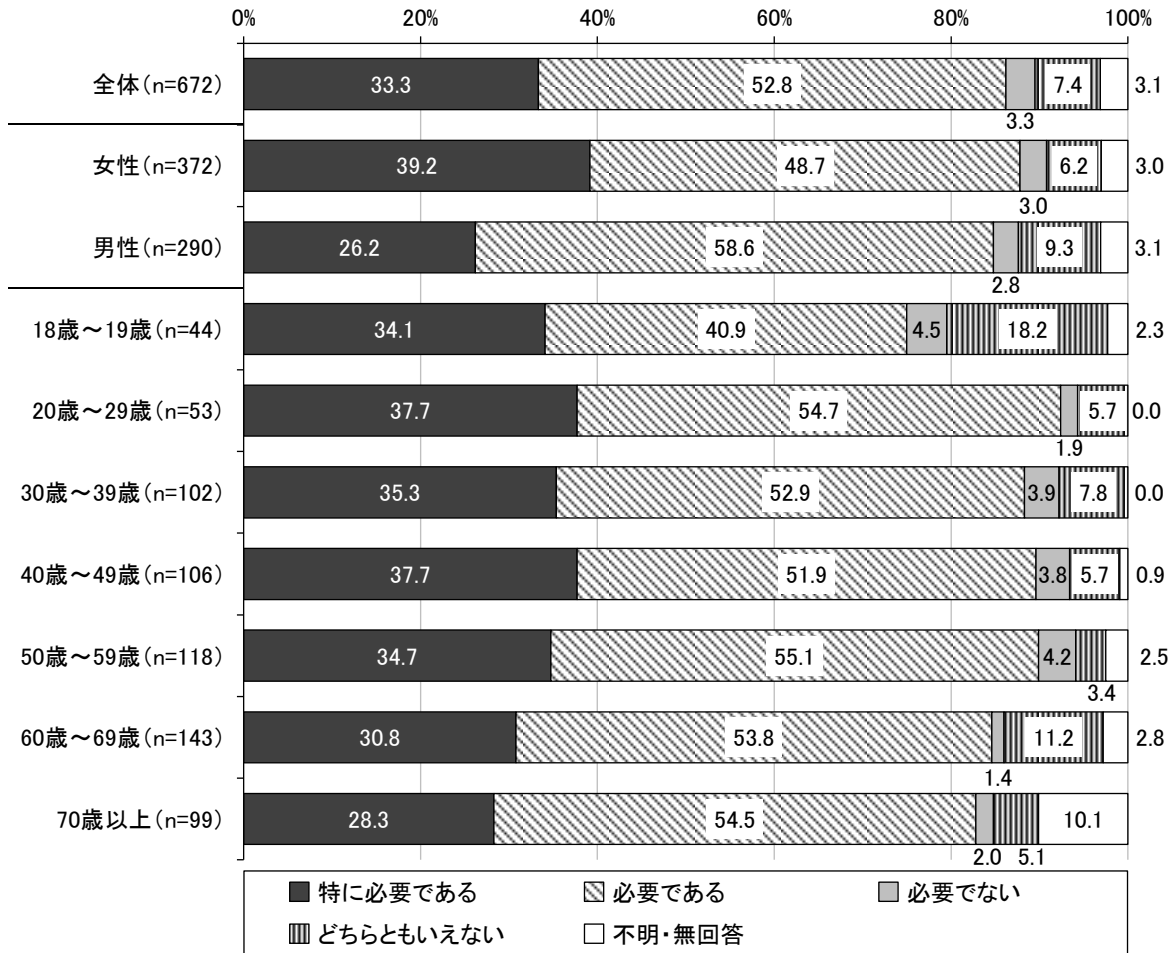
問 15. 防災・災害復興における次の事項について、女性に配慮して取り組む必要があると思いますか。
 (ア～クそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ク. 災害復興時における治安をよくする (例：夜間等の警備の強化)

全体では「必要である」が52.8%と最も高く、次いで「特に必要である」が33.3%、「どちらともいえない」が7.4%となっています。

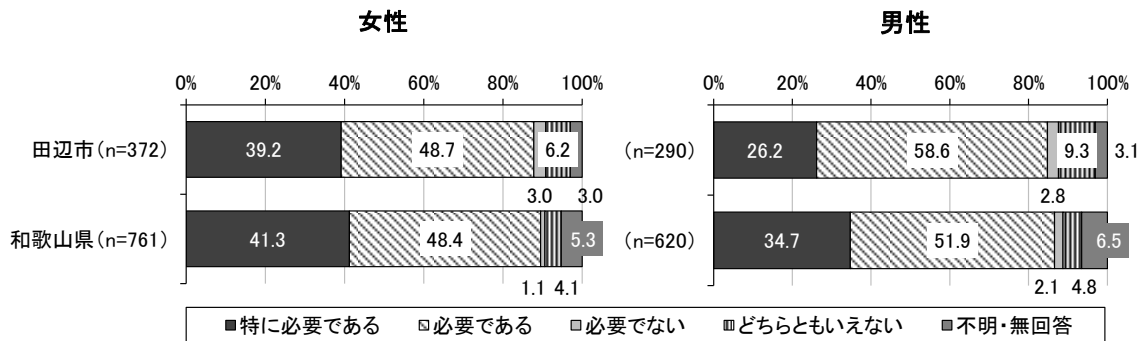
性別にみると、男女ともに「必要である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「必要である」が最も高くなっています。



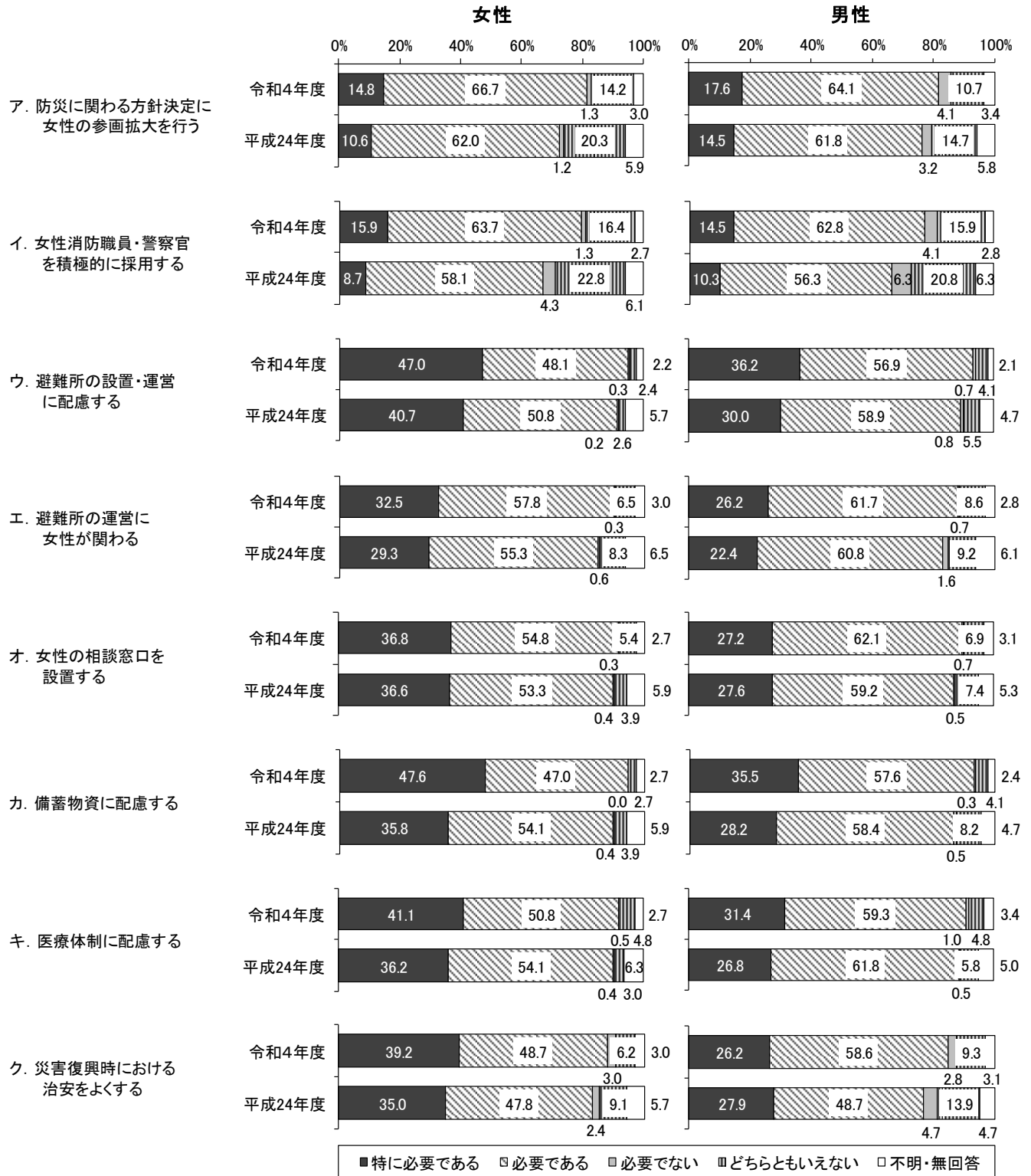
＜和歌山県調査（令和2年度実施）との比較（参考）＞

県調査と比較すると、田辺市では、女性、男性ともに「特に必要である」が2.1ポイント、8.5ポイント低くなっています。



問 15. 防災・災害復興における次の事項について、女性に配慮して取り組む必要があると思いますか。
 (ア～クそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

問 15 前回調査（平成 24 年度）との比較（参考）



防災・災害復興に関する女性に配慮した取り組みについて前回調査と比較すると、女性では、『備蓄物資に配慮する』について、「特に必要である」が11.8ポイント上昇しています。また、『女性消防職員・警察官を積極的に採用する』について、「特に必要である」が7.2ポイント上昇しています。

男性では、『災害復興時における治安をよくする』について、「必要である」が9.9ポイント上昇しています。また、『備蓄物資に配慮する』について、「特に必要である」が7.3ポイント上昇しています。

5. 仕事について

問 16. あなたの職業をお答えください。(あてはまるもの1つに○)

全体では「給与所得者（正社員）」が 32.4%と最も高く、次いで「給与所得者（パート・アルバイトなど）」が 18.5%、「仕事をしていない」が 13.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「給与所得者（正社員）」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳～19歳では「学生」、20～50歳代では「給与所得者（正社員）」、60歳代では「給与所得者（パート・アルバイトなど）」、70歳以上では「仕事をしていない」が最も高くなっています。

単位:%		給与所得者（正社員）	給与所得者（パート・アルバイトなど）	自営業者（経営的立場）	自営業者（家族従業員）	農林水産業従事者（経営的立場）	農林水産業従事者（家族従事者）	会社などの役員	学生	家事専従者（専業主婦・主夫）	仕事をしていない	その他	不明・無回答
全体(n=672)		32.4	18.5	6.0	3.7	2.2	3.3	1.8	5.5	7.9	13.4	3.7	1.6
性別	女性(n=372)	29.3	26.3	1.6	4.3	0.3	4.3	1.9	4.6	13.2	10.2	3.0	1.1
	男性(n=290)	36.9	8.6	11.4	3.1	4.8	1.7	1.7	6.9	0.3	17.6	4.8	2.1
年齢別	18歳～19歳(n=44)	15.9	6.8	0.0	2.3	0.0	0.0	0.0	65.9	2.3	6.8	0.0	0.0
	20歳～29歳(n=53)	49.1	20.8	1.9	0.0	1.9	1.9	0.0	15.1	1.9	3.8	3.8	0.0
	30歳～39歳(n=102)	57.8	22.5	2.9	1.0	1.0	2.9	1.0	0.0	5.9	2.0	2.0	1.0
	40歳～49歳(n=106)	48.1	23.6	6.6	2.8	3.8	1.9	0.9	0.0	7.5	2.8	0.9	0.9
	50歳～59歳(n=118)	48.3	19.5	6.8	3.4	2.5	5.1	2.5	0.0	5.1	3.4	2.5	0.8
	60歳～69歳(n=143)	10.5	24.5	12.6	7.0	2.8	5.6	4.9	0.0	11.2	16.8	4.2	0.0
	70歳以上(n=99)	1.0	4.0	3.0	6.1	2.0	1.0	0.0	0.0	13.1	51.5	11.1	7.1

問 16 で「給与所得者（正社員）」「給与所得者（パート・アルバイトなど）」と答えた方

問 17. あなたの職場で、性別による待遇の違いはありますか。

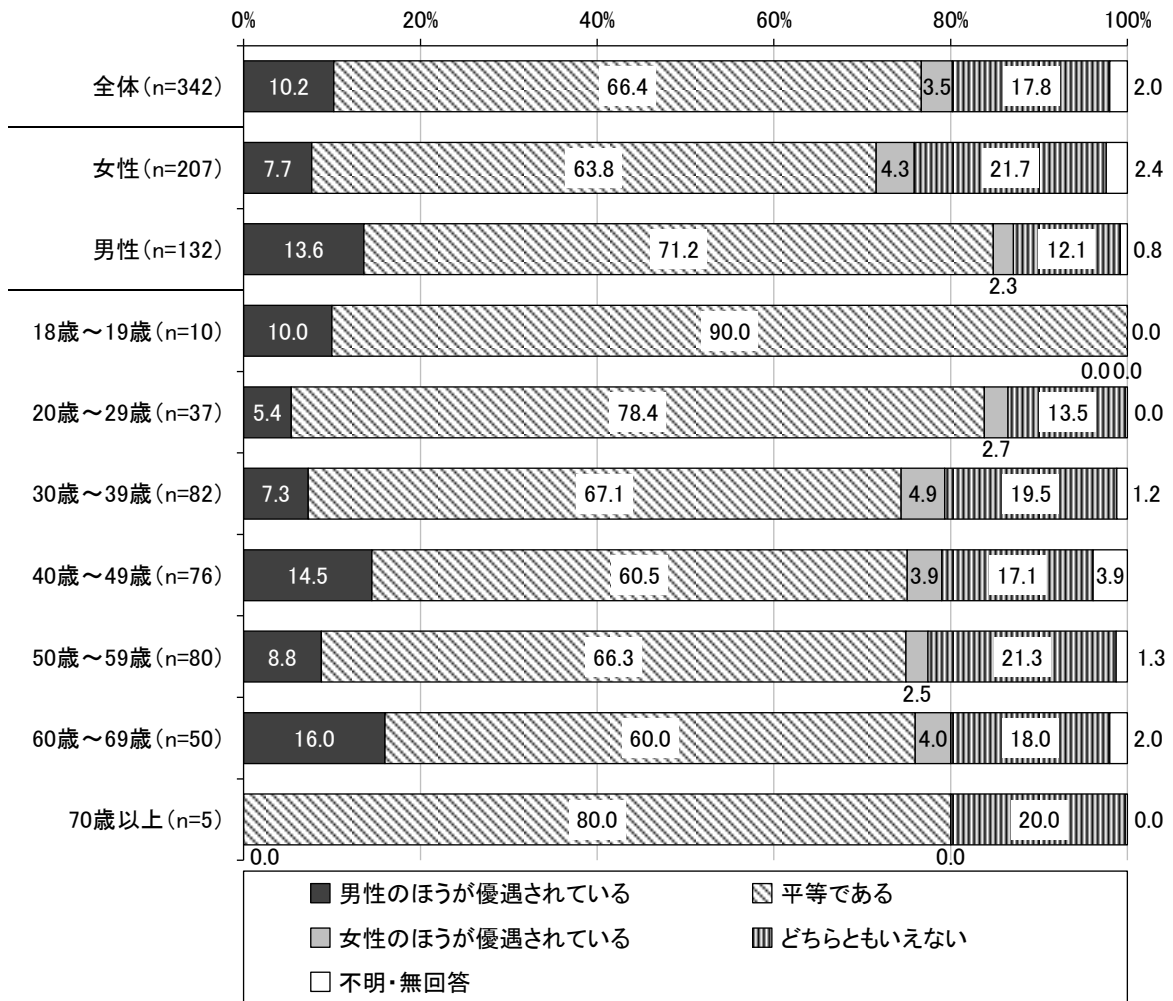
（ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの 1 つに○）

ア. 採用時の条件

全体では「平等である」が 66.4%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が 17.8%、「男性のほうが優遇されている」が 10.2%となっています。

性別にみると、男女ともに「平等である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「平等である」が最も高くなっています。



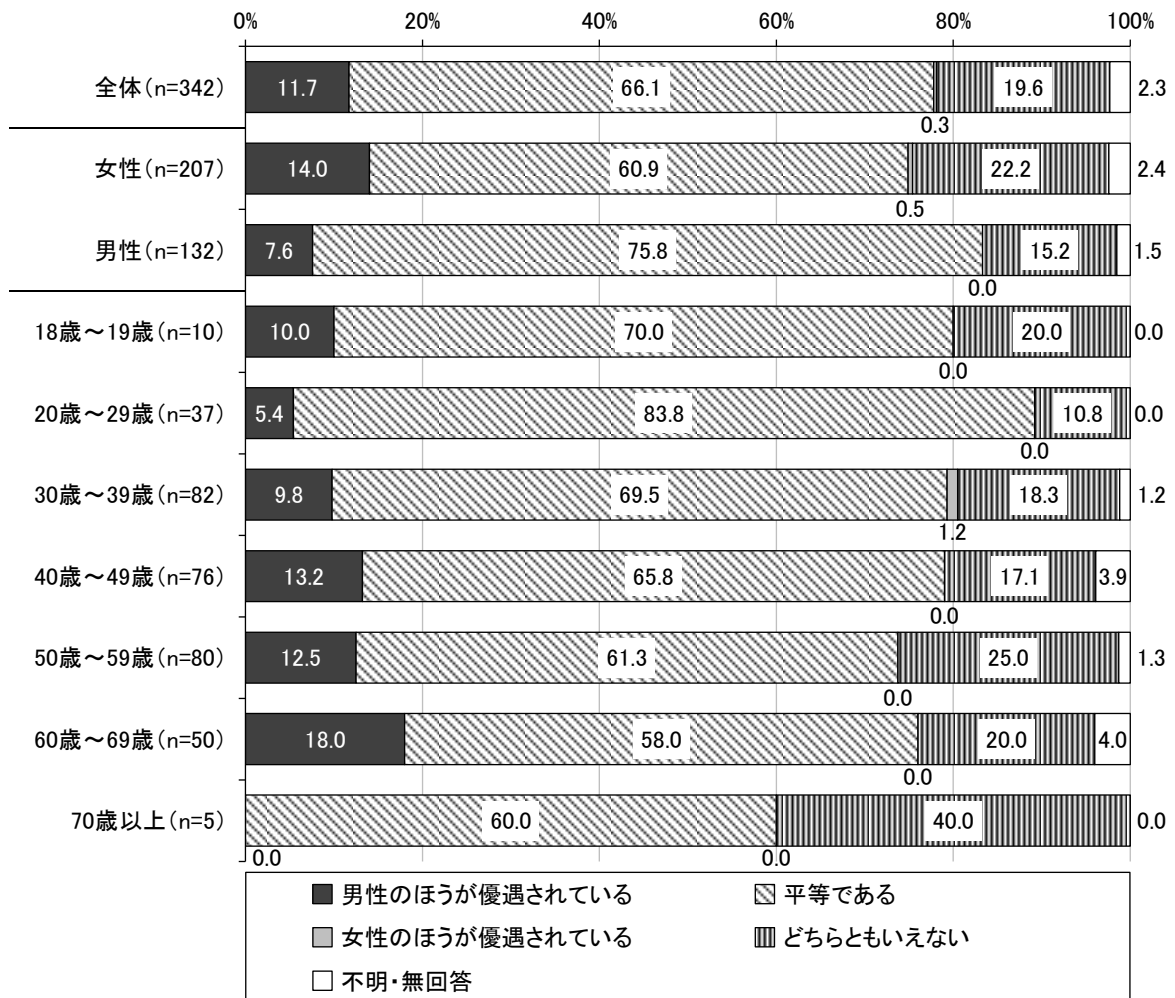
問17. あなたの職場で、性別による待遇の違いはありますか。
 (ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

イ. 賃金

全体では「平等である」が66.1%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が19.6%、「男性のほうが優遇されている」が11.7%となっています。

性別にみると、男女ともに「平等である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「平等である」が最も高くなっています。



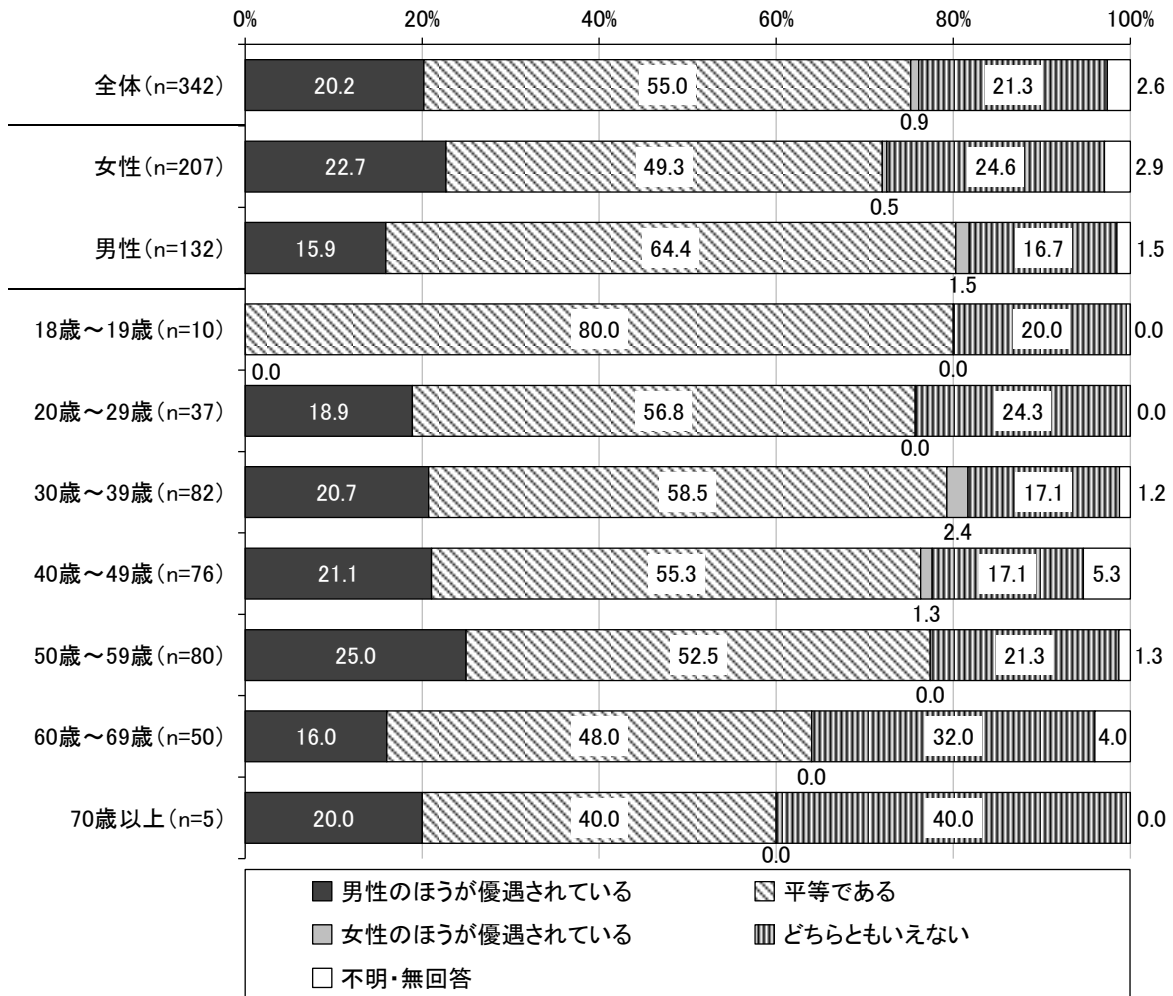
問 17. あなたの職場で、性別による待遇の違いはありますか。
 (ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ウ. 昇進・昇格

全体では「平等である」が55.0%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が21.3%、「男性のほうが優遇されている」が20.2%となっています。

性別にみると、男女ともに「平等である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、60歳代以下では「平等である」、70歳以上では「平等である」「どちらともいえない」が最も高くなっています。



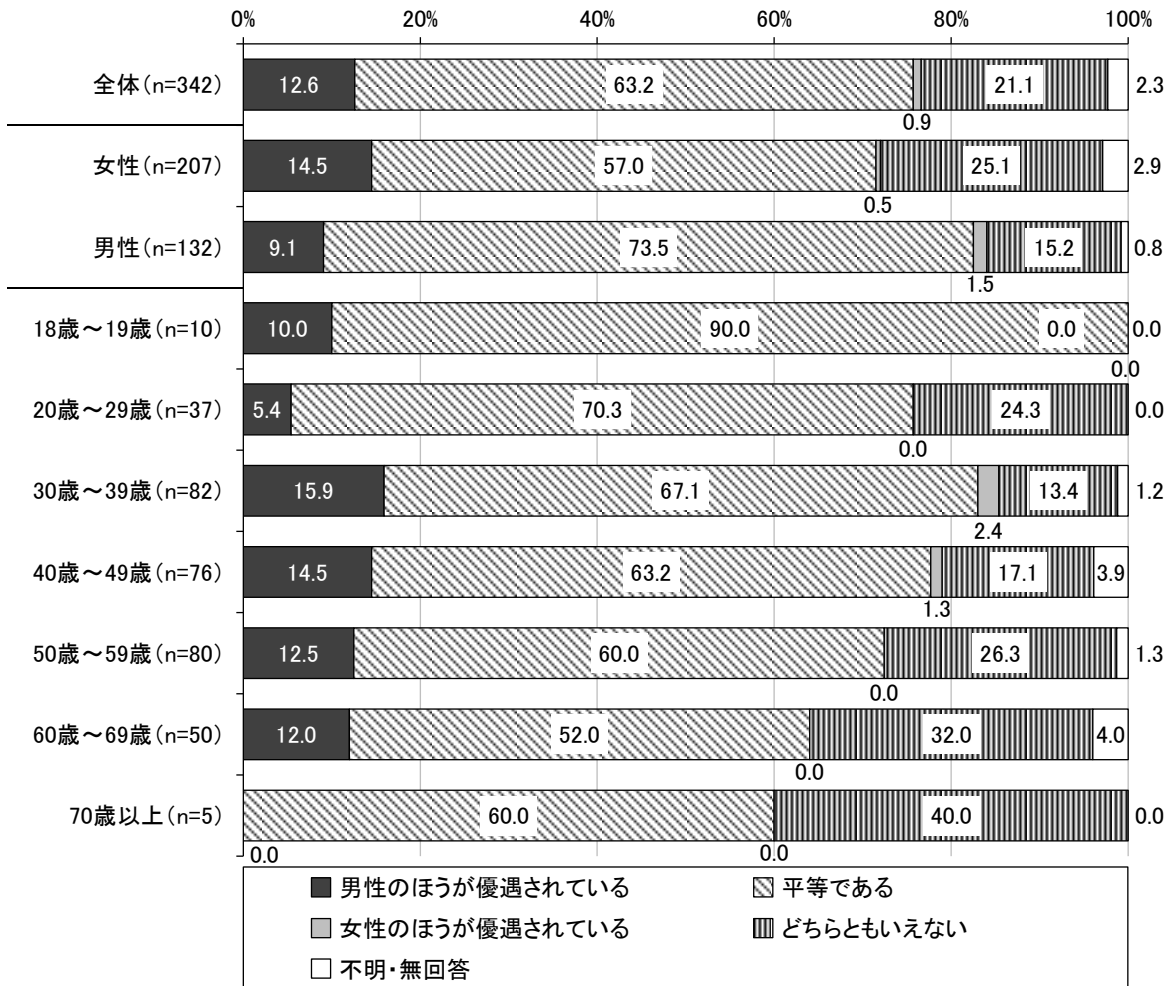
問17. あなたの職場で、性別による待遇の違いはありますか。
 (ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

エ. 能力評価

全体では「平等である」が63.2%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が21.1%、「男性のほうが優遇されている」が12.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「平等である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「平等である」が最も高くなっています。



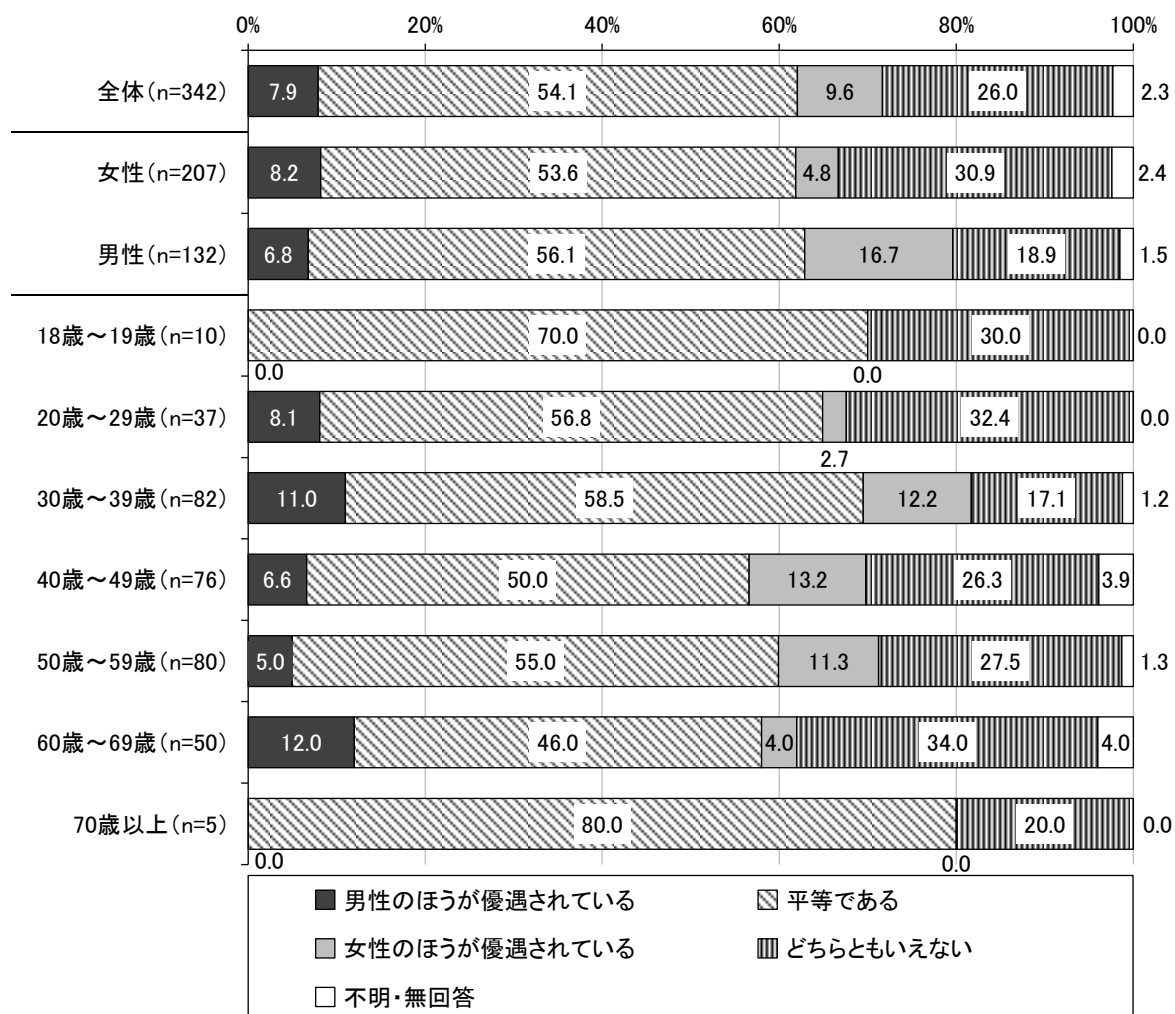
問 17. あなたの職場で、性別による待遇の違いはありますか。
 (ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

オ. 仕事の内容

全体では「平等である」が54.1%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が26.0%、「女性のほうが優遇されている」が9.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「平等である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「平等である」が最も高くなっています。



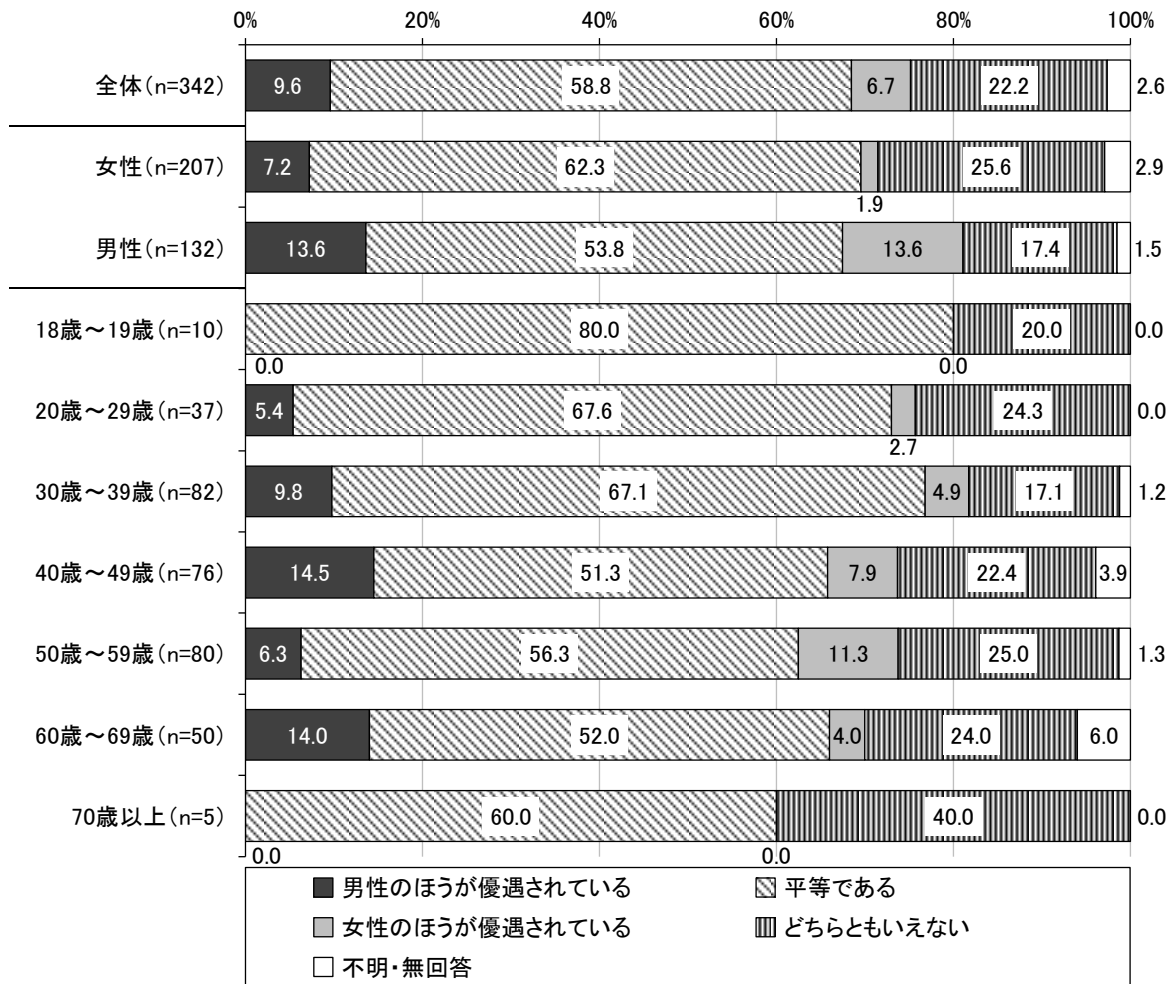
問17. あなたの職場で、性別による待遇の違いはありますか。
 (ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

カ. 仕事に対する責任の求められ方

全体では「平等である」が58.8%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が22.2%、「男性のほうが優遇されている」が9.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「平等である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「平等である」が最も高くなっています。



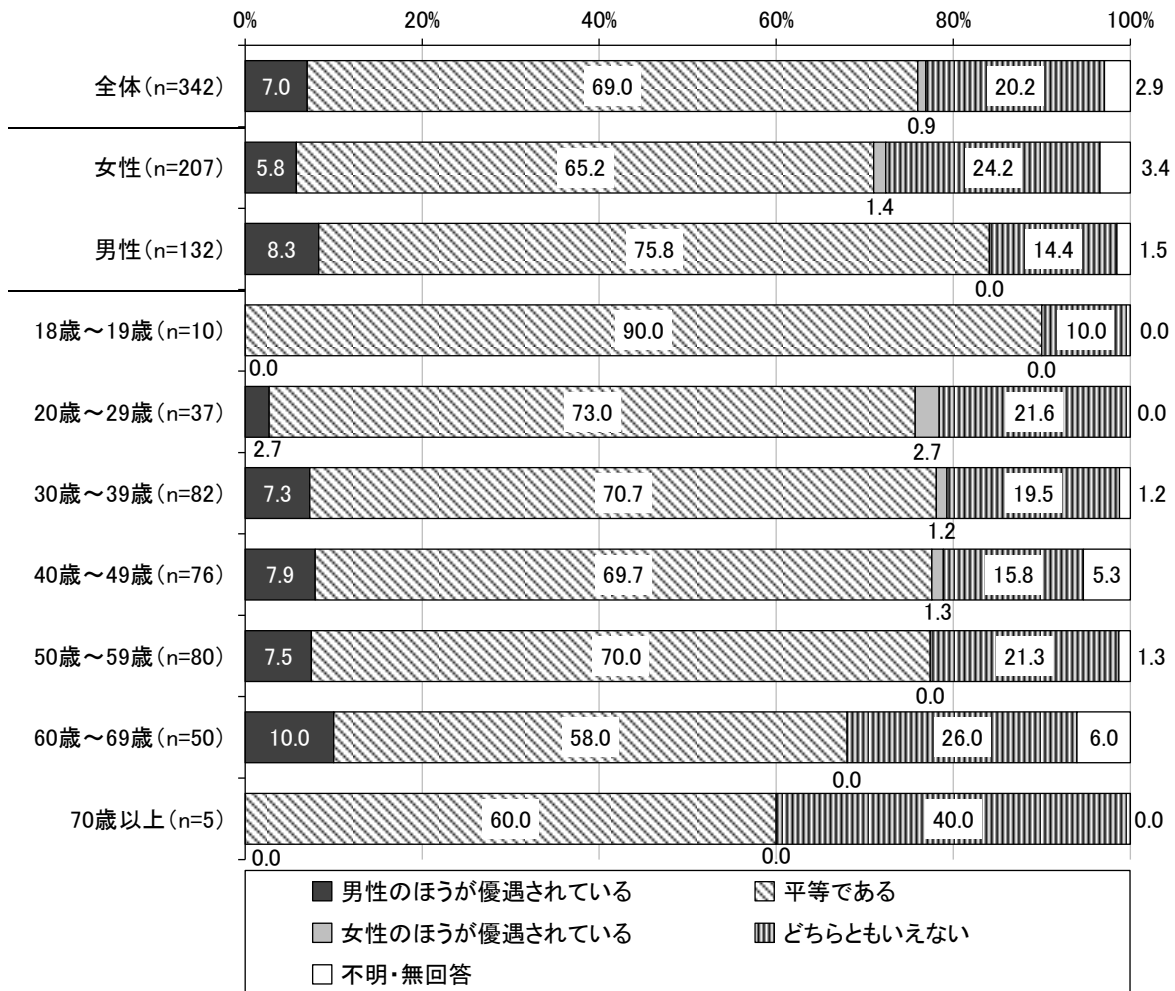
問 17. あなたの職場で、性別による待遇の違いはありますか。
 (ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

キ. 研修の機会や内容

全体では「平等である」が69.0%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が20.2%、「男性のほうが優遇されている」が7.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「平等である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「平等である」が最も高くなっています。



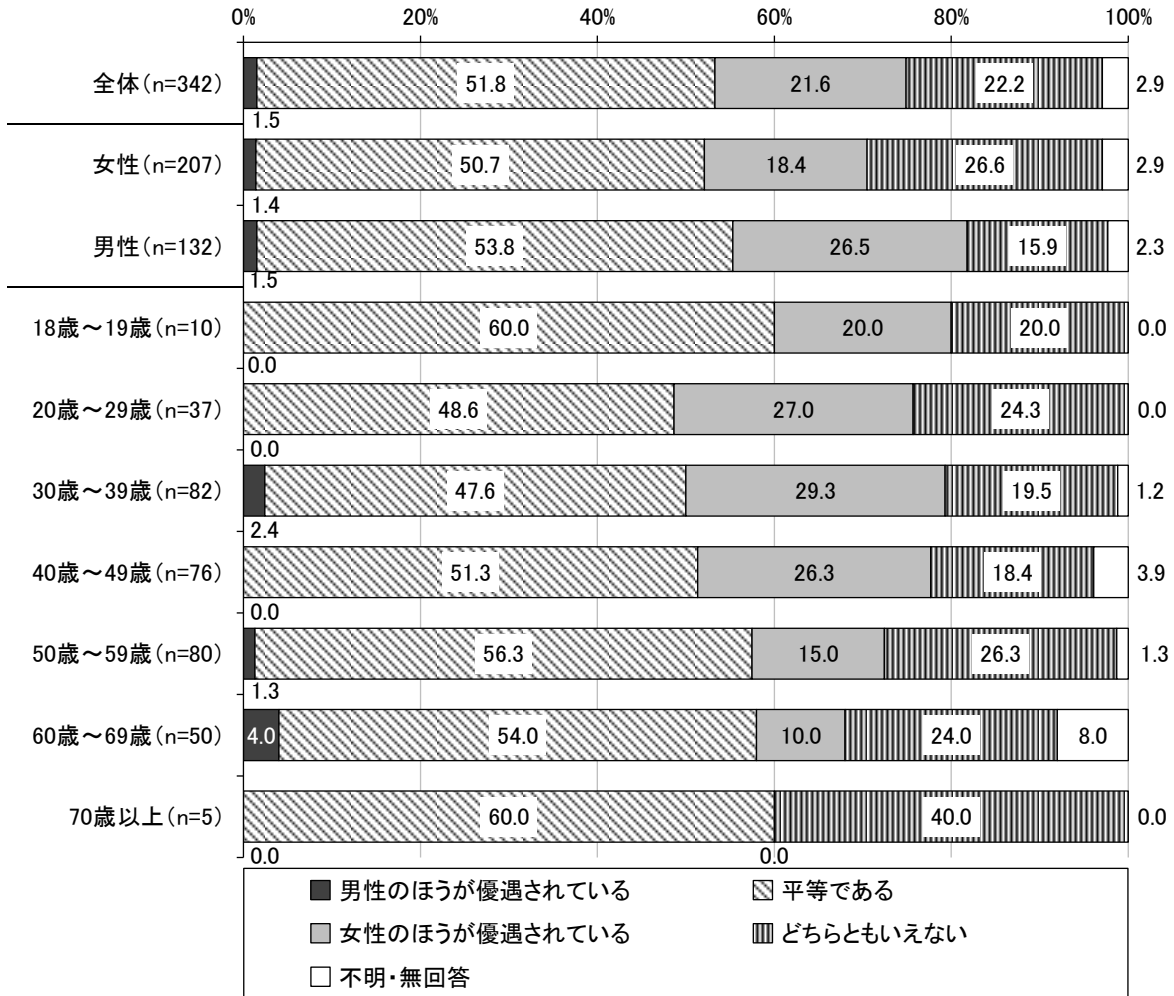
問17. あなたの職場で、性別による待遇の違いはありますか。
 (ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ク. 有給休暇や育児休業・介護休業の取得のしやすさ

全体では「平等である」が51.8%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が22.2%、「女性のほうが優遇されている」が21.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「平等である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「平等である」が最も高くなっています。



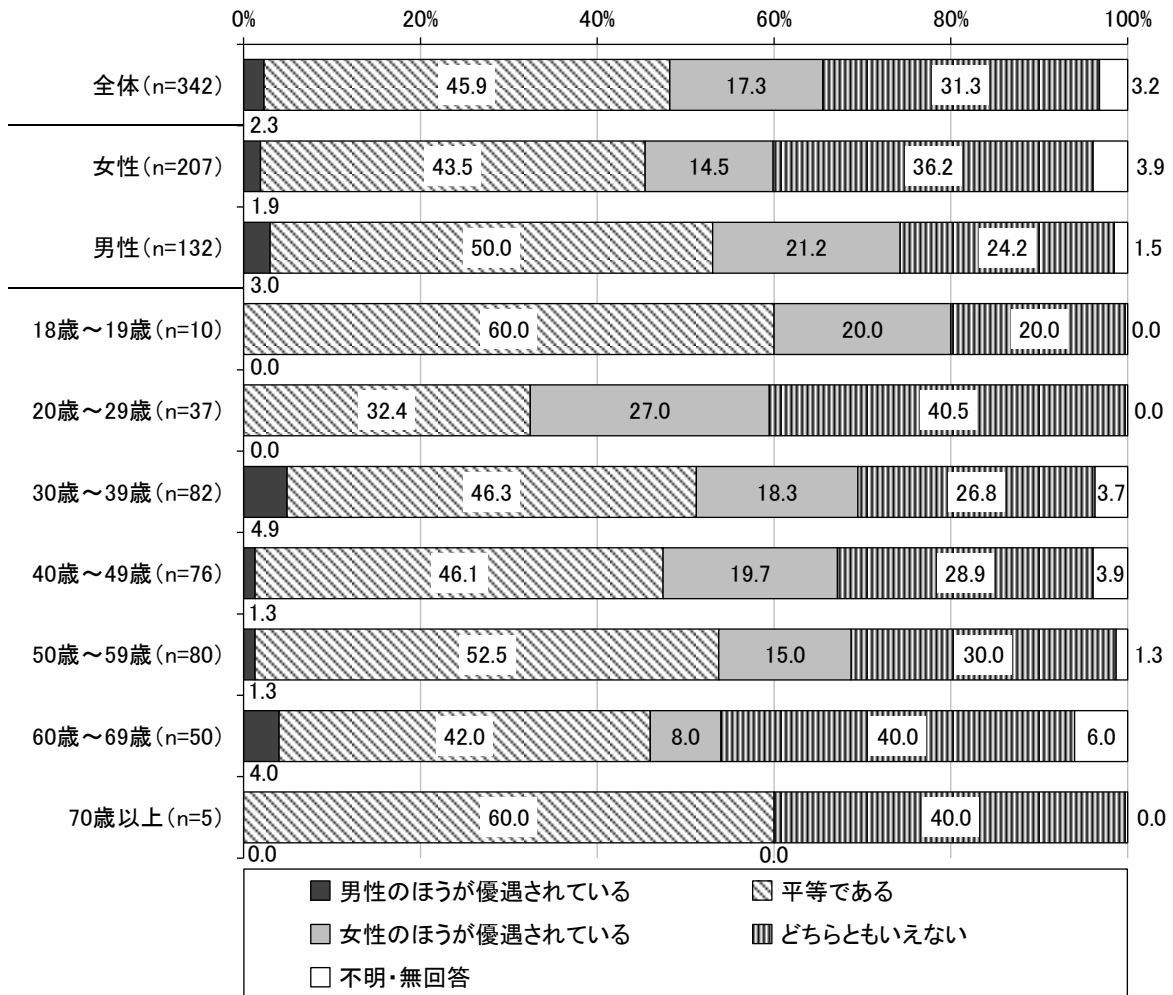
問 17. あなたの職場で、性別による待遇の違いはありますか。
 (ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ケ. 結婚退職や出産退職などの慣習

全体では「平等である」が45.9%と最も高く、次いで「どちらともいえない」が31.3%、「女性のほうが優遇されている」が17.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「平等である」が最も高くなっています。

年齢別にみると、20歳代では「どちらともいえない」、それ以外の年代では「平等である」が最も高くなっています。



問 18. 男女が対等に働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。

(あてはまるものすべてに○)

全体では「賃金、昇給の男女の格差をなくす」が64.0%と最も高く、次いで「男女ともに育児・介護休業など休暇を取りやすいようにする」が63.7%、「男女ともに、能力を発揮できる配置を行う」が63.5%となっています。

性別にみると、女性では「男女ともに育児・介護休業など休暇を取りやすいようにする」、男性では「男女ともに、能力を発揮できる配置を行う」が最も高くなっています。

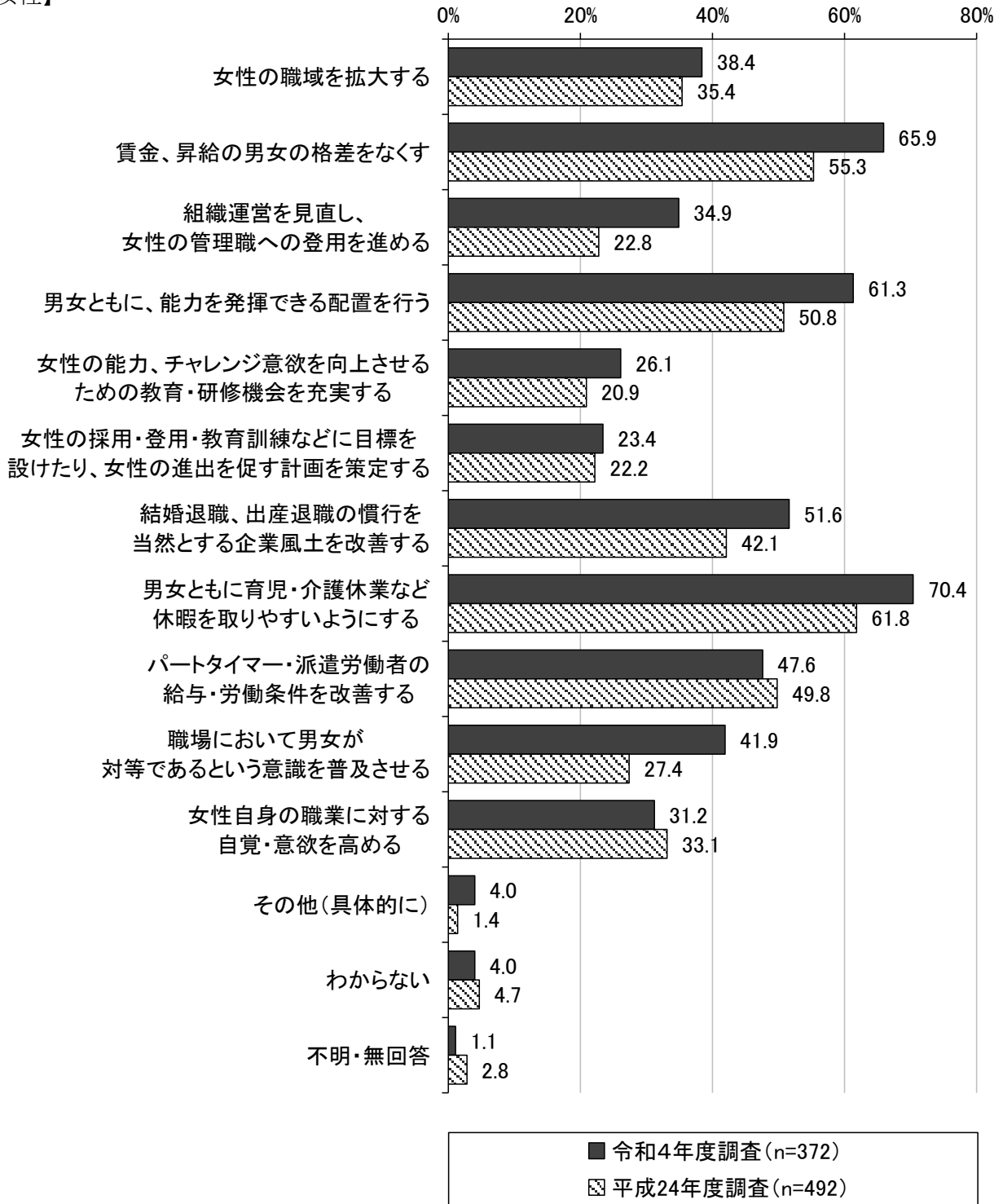
年齢別にみると、18歳～19歳、60歳代では「賃金、昇給の男女の格差をなくす」、20～40歳代では「男女ともに育児・介護休業など休暇を取りやすいようにする」、それ以外の年代では「男女ともに、能力を発揮できる配置を行う」が最も高くなっています。

単位：%		女性の職域を拡大する	賃金、昇給の男女の格差をなくす	組織運営を見直し、女性の管理職への登用を進める	男女ともに、能力を発揮できる配置を行う	女性の能力、チャレンジ意欲を向上させるための教育・研修機会を充実する	女性の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性の進出を促す計画を策定する	結婚退職、出産退職の慣行を当然とする企業風土を改善する	男女ともに育児・介護休業など休暇を取りやすいようにする	パートタイマー・派遣労働者の給与・労働条件を改善する	職場において男女が対等であるという意識を普及させる	女性自身の職業に対する自覚・意欲を高める	その他	わからない	不明・無回答
全体(n=672)		37.4	64.0	33.0	63.5	26.5	24.1	46.6	63.7	43.8	40.6	34.4	3.6	4.3	1.3
性別	女性(n=372)	38.4	65.9	34.9	61.3	26.1	23.4	51.6	70.4	47.6	41.9	31.2	4.0	4.0	1.1
	男性(n=290)	36.2	62.1	30.7	66.2	26.6	25.2	40.0	54.8	39.0	38.6	39.3	3.1	4.8	1.0
年齢別	18歳～19歳(n=44)	22.7	72.7	27.3	68.2	15.9	18.2	43.2	61.4	25.0	38.6	29.5	2.3	4.5	0.0
	20歳～29歳(n=53)	32.1	64.2	26.4	60.4	17.0	18.9	49.1	71.7	39.6	37.7	13.2	3.8	1.9	0.0
	30歳～39歳(n=102)	37.3	62.7	36.3	54.9	18.6	20.6	49.0	67.6	40.2	39.2	24.5	6.9	2.0	0.0
	40歳～49歳(n=106)	40.6	64.2	28.3	64.2	26.4	19.8	46.2	66.0	46.2	41.5	36.8	6.6	5.7	0.9
	50歳～59歳(n=118)	36.4	62.7	35.6	66.1	29.7	22.9	45.8	61.0	42.4	45.8	36.4	0.8	5.1	0.8
	60歳～69歳(n=143)	41.3	64.3	32.9	62.9	27.3	24.5	46.2	58.0	49.7	33.6	39.2	2.8	4.9	0.7
	70歳以上(n=99)	39.4	64.6	38.4	70.7	38.4	38.4	45.5	65.7	50.5	47.5	47.5	2.0	5.1	3.0

問 18. 男女が対等に働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。
 (あてはまるものすべてに○)

問 18 前回調査（平成 24 年度）との比較（参考）

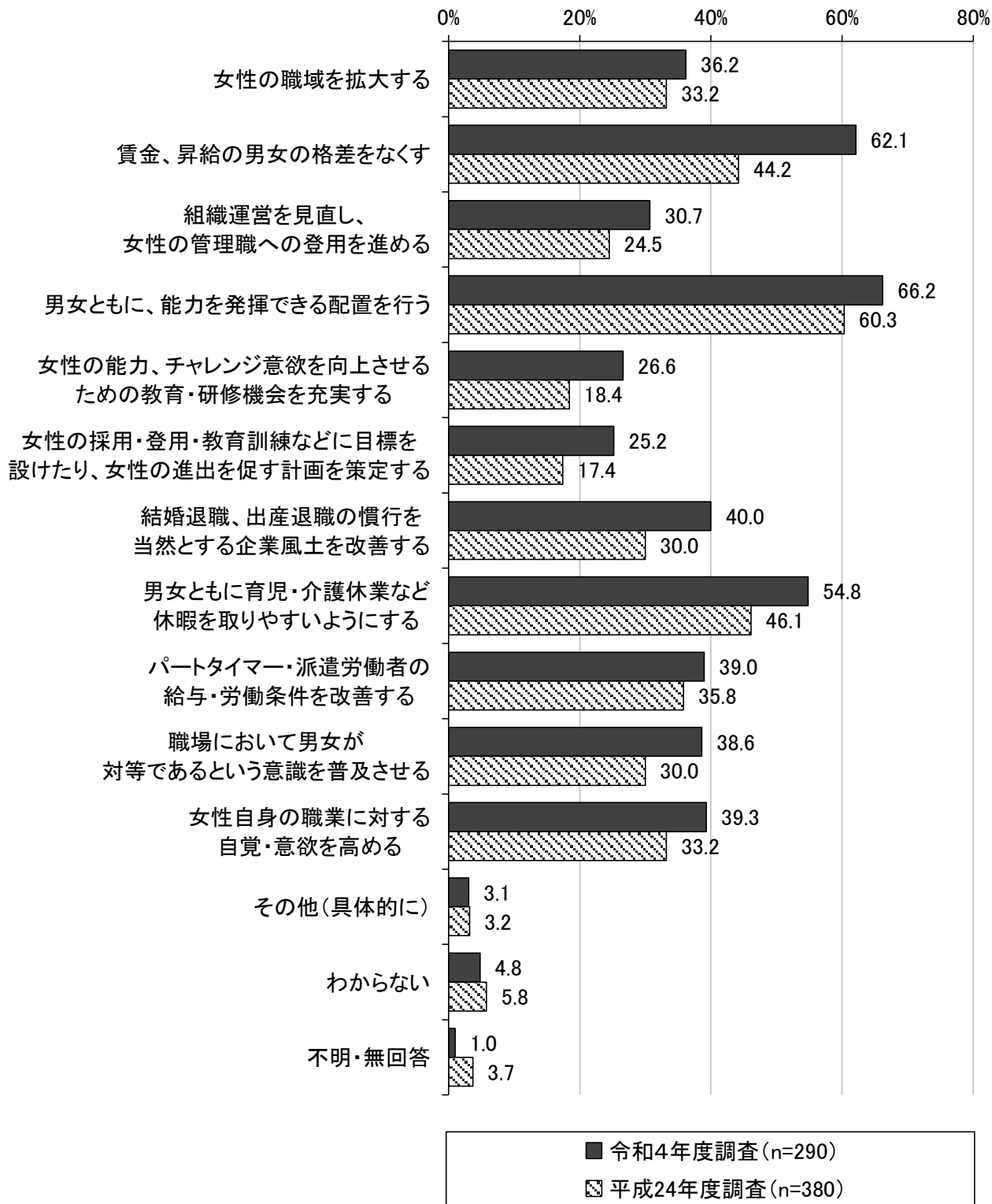
【女性】



男女が対等に働くために必要なことについて前回調査と比較すると、女性では、「職場において男女が対等であるという意識を普及させる」が 14.5 ポイント上昇しています。また、「組織運営を見直し、女性の管理職への登用を進める」が 12.1 ポイント上昇しています。

問18. 男女が対等に働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。
 (あてはまるものすべてに○)

【男性】



男女が対等に働くために必要なことについて前回調査と比較すると、男性では、「賃金、昇給の男女の格差をなくす」が17.9ポイント上昇しています。また、「結婚退職、出産退職の慣行を当然とする企業風土を改善する」が10.0ポイント上昇しています。

問 18. 男女が対等に働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

その他の内容	件数
税制、扶養制度の見直し	3
産休・育休中の支援、時短勤務等の充実	3
労働環境の見直し	3
家事・育児に積極的に参加する	2
雇用主の意識改革	2
社会全体が男女平等の考え方になる	2
性別に囚われず能力を見極める	2
給与等、待遇面の平等化	1
女性の生理や体力面への配慮	1
女性の妊娠と出産をなくす	1
女性の甘えをなくす	1
保育所等の充実	1
女性が政治を動かさないといけない	1
100を同じ100だと思いたまない、どちらも。	1
9（パートタイマー・派遣労働者の給与・労働条件を改善する）が実現すれば、女性も男性もパートや派遣労働が気軽にできるようになる。差がなくなる。	1

問 19. 子どもが生まれた場合の収入を得る仕事の継続について、あなたのお考えに近いものは何ですか。(あてはまるもの1つに○)

全体では「子どもが生まれたら、育児休業等を取得してから、収入を得る仕事に戻る」が45.4%と最も高く、次いで「子どもが生まれても、収入を得る仕事を続ける」が25.7%、「子どもが生まれたら、一旦収入を得る仕事をやめ、子育てを終えてから収入を得る仕事に戻る」が13.4%となっています。

性別にみると、女性では「子どもが生まれたら、育児休業等を取得してから、収入を得る仕事に戻る」、男性では「子どもが生まれても、収入を得る仕事を続ける」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「子どもが生まれたら、育児休業等を取得してから、収入を得る仕事に戻る」が最も高くなっています。

子どもの有無別にみると、ともに「子どもが生まれたら、育児休業等を取得してから、収入を得る仕事に戻る」が最も高くなっています。

単位：%		子どもが生まれても、収入を得る仕事を続ける	子どもが生まれたら、育児休業等を取得してから、収入を得る仕事に戻る	子どもが生まれたら、一旦収入を得る仕事をやめ、子育てを終えてから収入を得る仕事に戻る	子どもが生まれたら、収入を得る仕事をやめて、子育てが終わっても収入を得る仕事はしない	その他	わからない	不明・無回答
全体(n=672)		25.7	45.4	13.4	0.4	1.3	9.1	4.6
性別	女性(n=372)	14.8	51.6	19.1	0.8	1.6	8.1	4.0
	男性(n=290)	40.0	36.9	5.9	0.0	1.0	10.7	5.5
年齢別	18歳~19歳(n=44)	34.1	38.6	9.1	0.0	2.3	15.9	0.0
	20歳~29歳(n=53)	18.9	60.4	11.3	0.0	0.0	9.4	0.0
	30歳~39歳(n=102)	33.3	50.0	10.8	0.0	1.0	4.9	0.0
	40歳~49歳(n=106)	28.3	44.3	13.2	0.9	2.8	7.5	2.8
	50歳~59歳(n=118)	26.3	49.2	14.4	0.0	0.8	5.1	4.2
	60歳~69歳(n=143)	21.7	44.8	14.7	1.4	1.4	11.2	4.9
	70歳以上(n=99)	20.2	34.3	15.2	0.0	1.0	14.1	15.2
子どもの有無別	子どもがいる(n=455)	25.7	45.5	15.4	0.4	1.3	6.4	5.3
	子どもがいない(n=197)	26.4	47.2	7.6	0.5	1.5	14.7	2.0

その他の内容	件数
一旦仕事をやめ、子育てをしながらパートをする	1
子どもが小さい時は専業主婦だったからよくわからない。	1
子育て中(0~2才頃まで)に自治体から助成金を出して収入の不安がない様にする。もしくは夫の給与に月10万程度プラスする。※安心して収入が有るなら出生率が上がる。	1
小学校高学年位から仕事に戻る。	1
妻の育児休暇など、落ちたら交代で育児休暇を取る。	1
収入を得る仕事の勤務の条件による。残業めっちゃあって、休日少ない。シフトに柔軟性がないような職場だったら続けたくても子供育てながらは難しい	1
その個人の環境や能力による	1
育児中	1
独身?	1

問 20. 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。この制度を利用して、男性が育児休業や介護休業等を取得することについて、あなたはどのように思いますか。(ア～ウそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

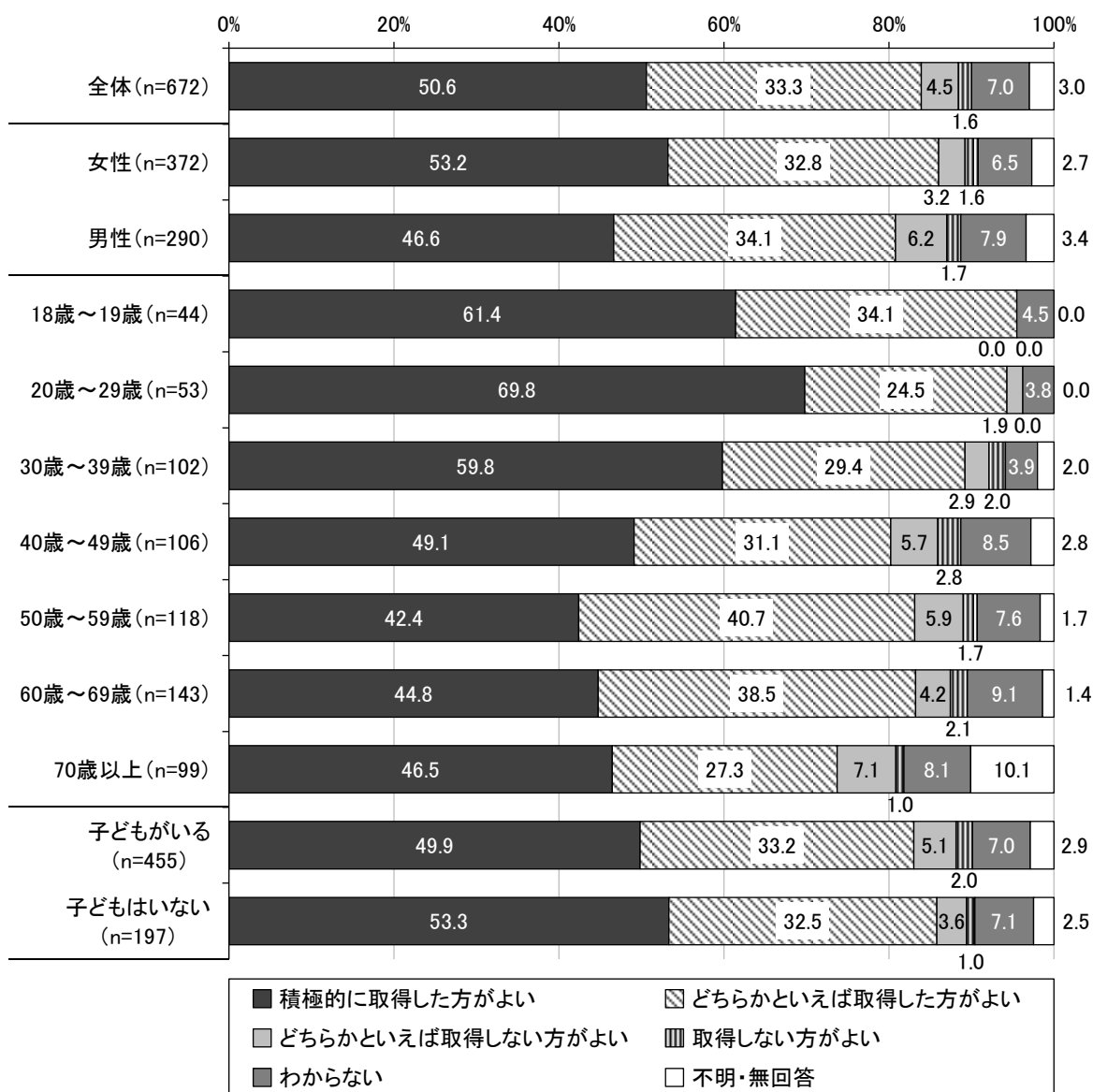
ア. 育児休業

全体では「積極的に取得した方がよい」が50.6%と最も高く、次いで「どちらかといえば取得した方がよい」が33.3%、「わからない」が7.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「積極的に取得した方がよい」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「積極的に取得した方がよい」が最も高くなっています。

子どもの有無別にみると、ともに「積極的に取得した方がよい」が最も高くなっています。



問 20. 制度を利用して、男性が育児休業や介護休業等を取得することについて、あなたはどのように思いますか。
 (ア～ウそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

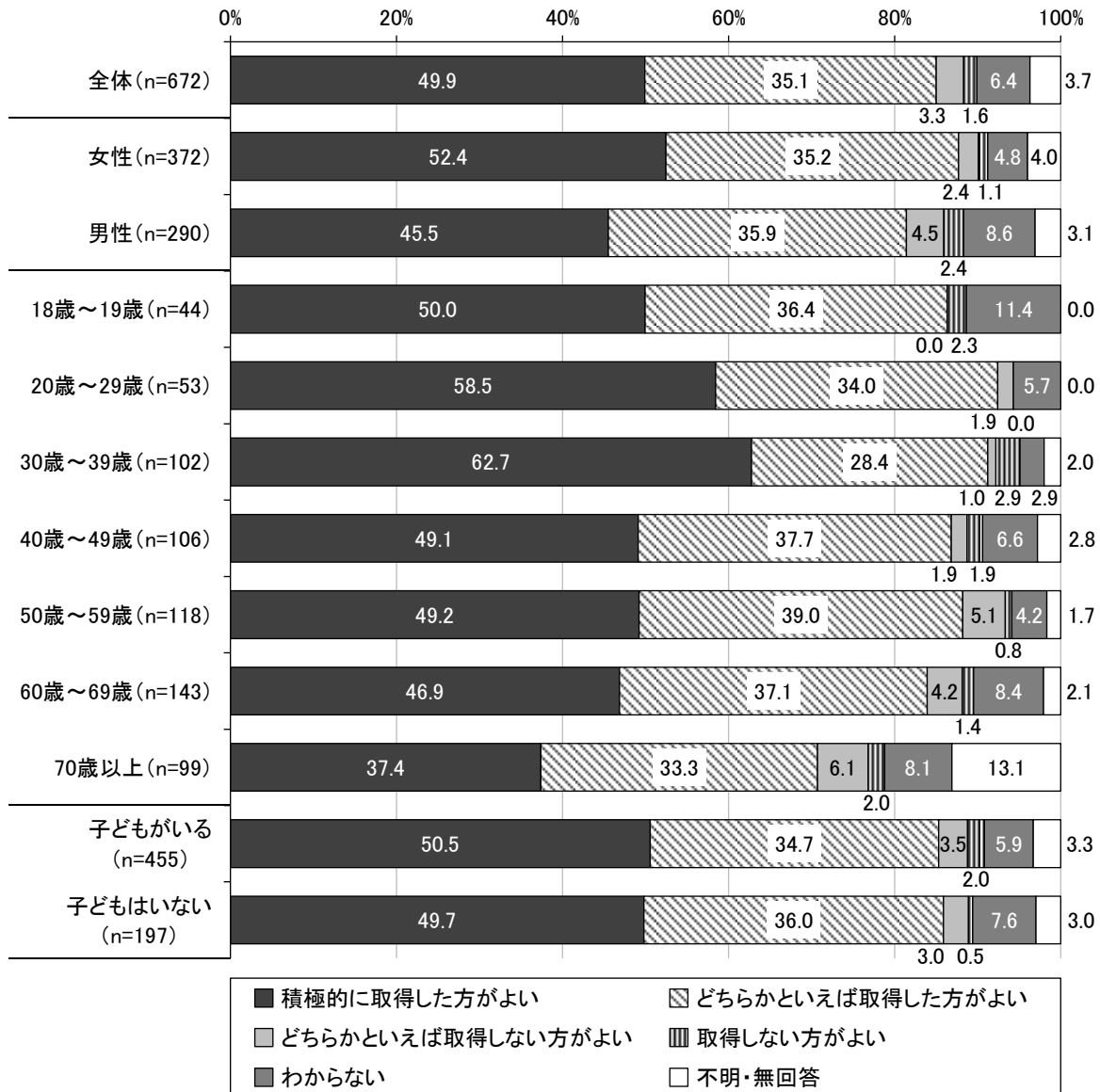
イ. 介護休業

全体では「積極的に取得した方がよい」が49.9%と最も高く、次いで「どちらかといえば取得した方がよい」が35.1%、「わからない」が6.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「積極的に取得した方がよい」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「積極的に取得した方がよい」が最も高くなっています。

子どもの有無別にみると、ともに「積極的に取得した方がよい」が最も高くなっています。



問 20. 制度を利用して、男性が育児休業や介護休業等を取得することについて、あなたはどのように思いますか。
 (ア～ウそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

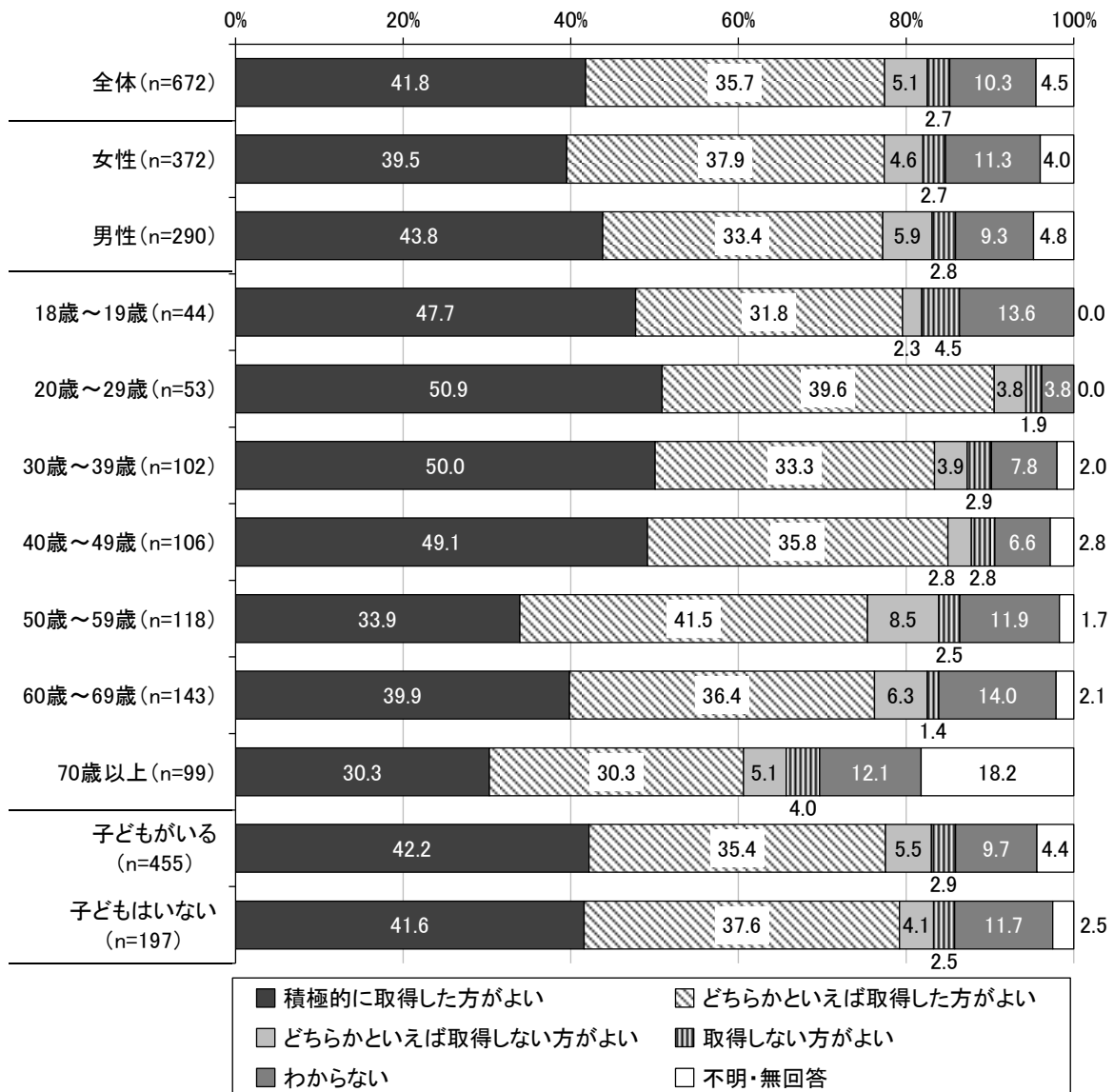
ウ. 時短勤務

全体では「積極的に取得した方がよい」が41.8%と最も高く、次いで「どちらかといえば取得した方がよい」が35.7%、「わからない」が10.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「積極的に取得した方がよい」が最も高くなっています。

年齢別にみると、50歳代では「どちらかといえば取得した方がよい」、70歳以上では「積極的に取得した方がよい」「どちらかといえば取得した方がよい」、それ以外の年代では「積極的に取得した方がよい」が最も高くなっています。

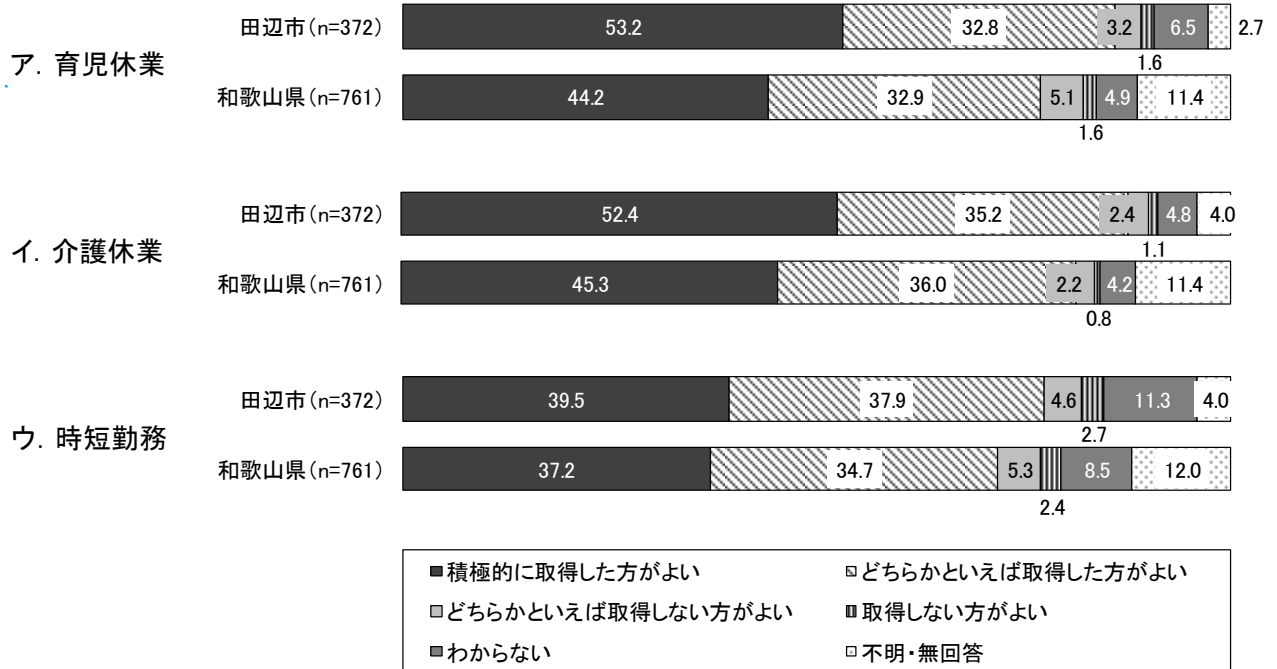
子どもの有無別にみると、ともに「積極的に取得した方がよい」が最も高くなっています。



問 20. 制度を利用して、男性が育児休業や介護休業等を取得することについて、あなたはどのように思いますか。
 (ア～ウそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

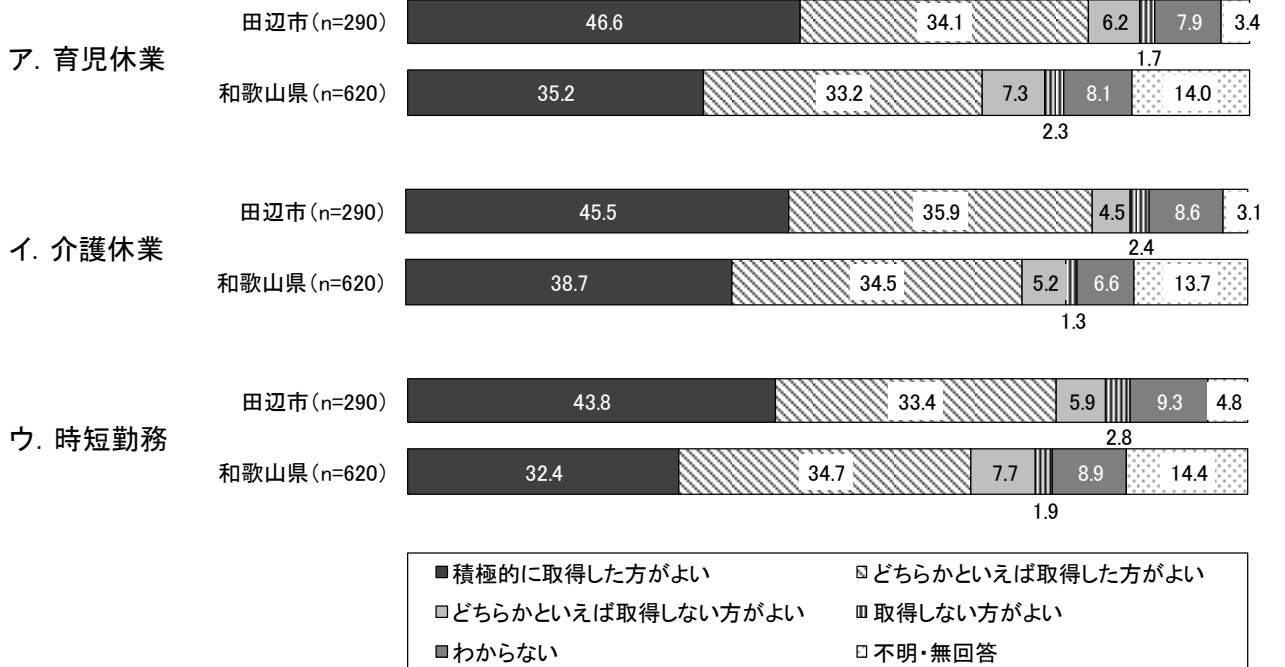
問 20 和歌山県調査（令和2年度実施）との比較（参考）

【女性】



男性が育児・介護休業を取得することについて県調査と比較すると、田辺市の女性では、『育児休業』について、「積極的に取得した方がよい」が9.0ポイント高くなっています。また、『介護休業』について、「積極的に取得した方がよい」が7.1ポイント高くなっています

【男性】

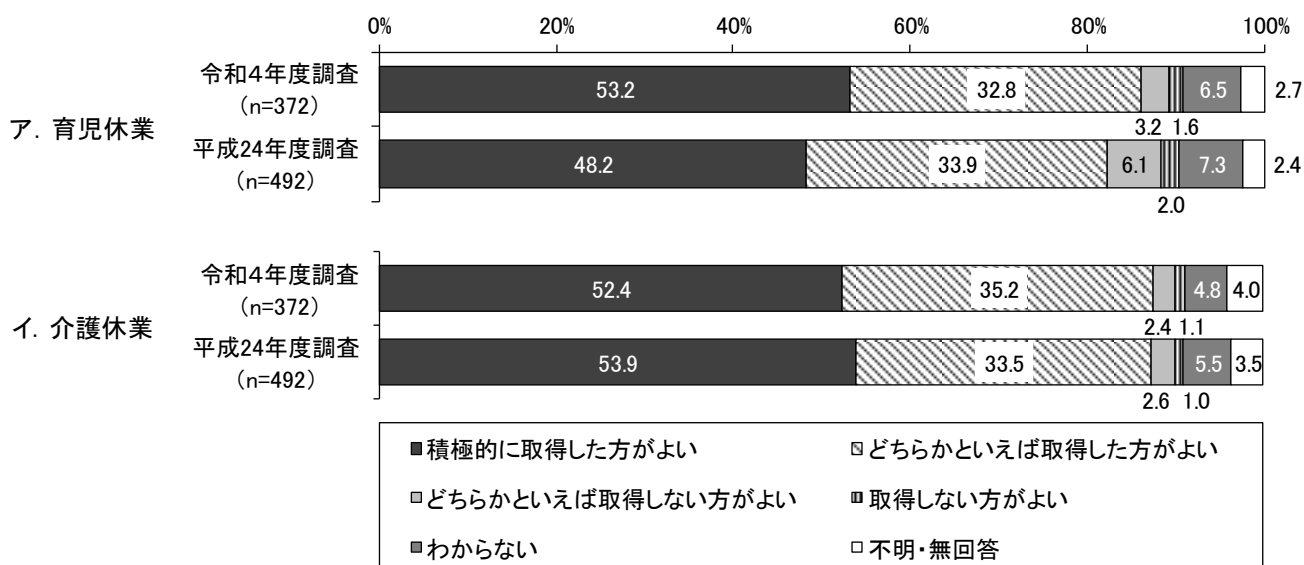


男性が育児・介護休業を取得することについて県調査と比較すると、田辺市の男性では、『育児休業』について、「積極的に取得した方がよい」が11.4ポイント高くなっています。また、『時短勤務』について、「積極的に取得した方がよい」が11.4ポイント高くなっています

問 20. 制度を利用して、男性が育児休業や介護休業等を取得することについて、あなたはどのように思いますか。
 (ア～ウそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

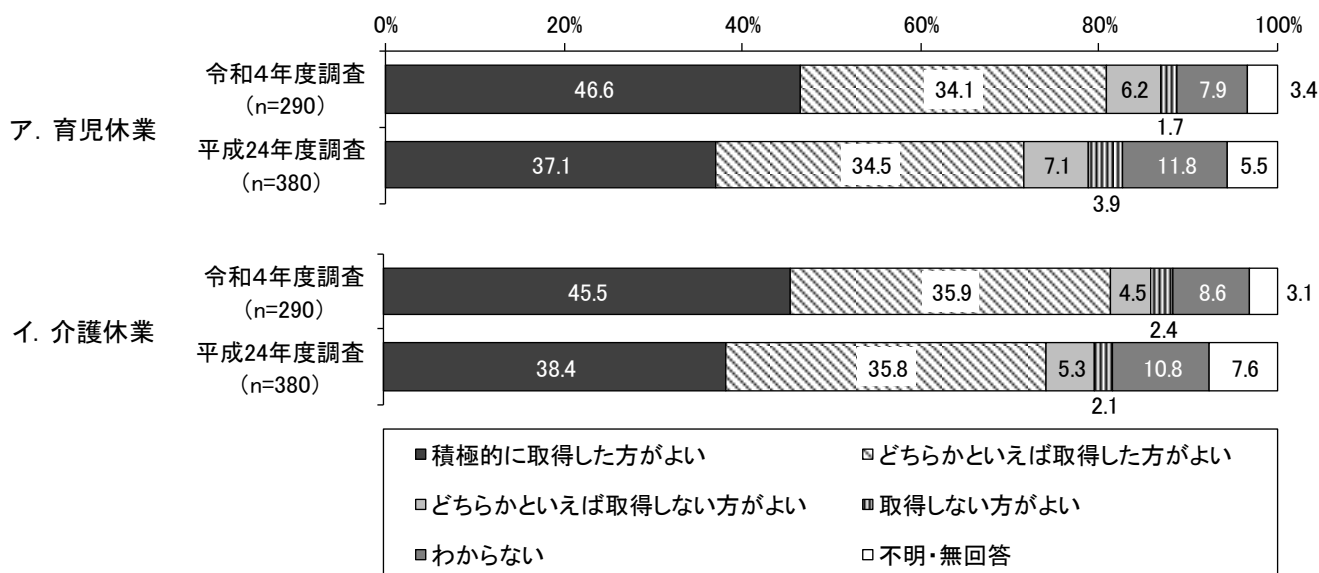
問 20 前回調査（平成 24 年度）との比較（参考）

【女性】



男性が育児休業や介護休業等を取得することについて前回調査と比較すると、女性では、『育児休業』について、「積極的に取得した方がよい」が 5.0 ポイント上昇しています。また、『介護休業』について、「積極的に取得した方がよい」が 1.5 ポイント低下しています。

【男性】



男性が育児休業や介護休業等を取得することについて前回調査と比較すると、男性では、『育児休業』について、「積極的に取得した方がよい」が 9.5 ポイント上昇しています。また、『介護休業』について、「積極的に取得した方がよい」が 7.1 ポイント上昇しています。

6. 男女の人権について

問 21. あなたは、次のようなことがセクシュアルハラスメントにあたると思いますか。

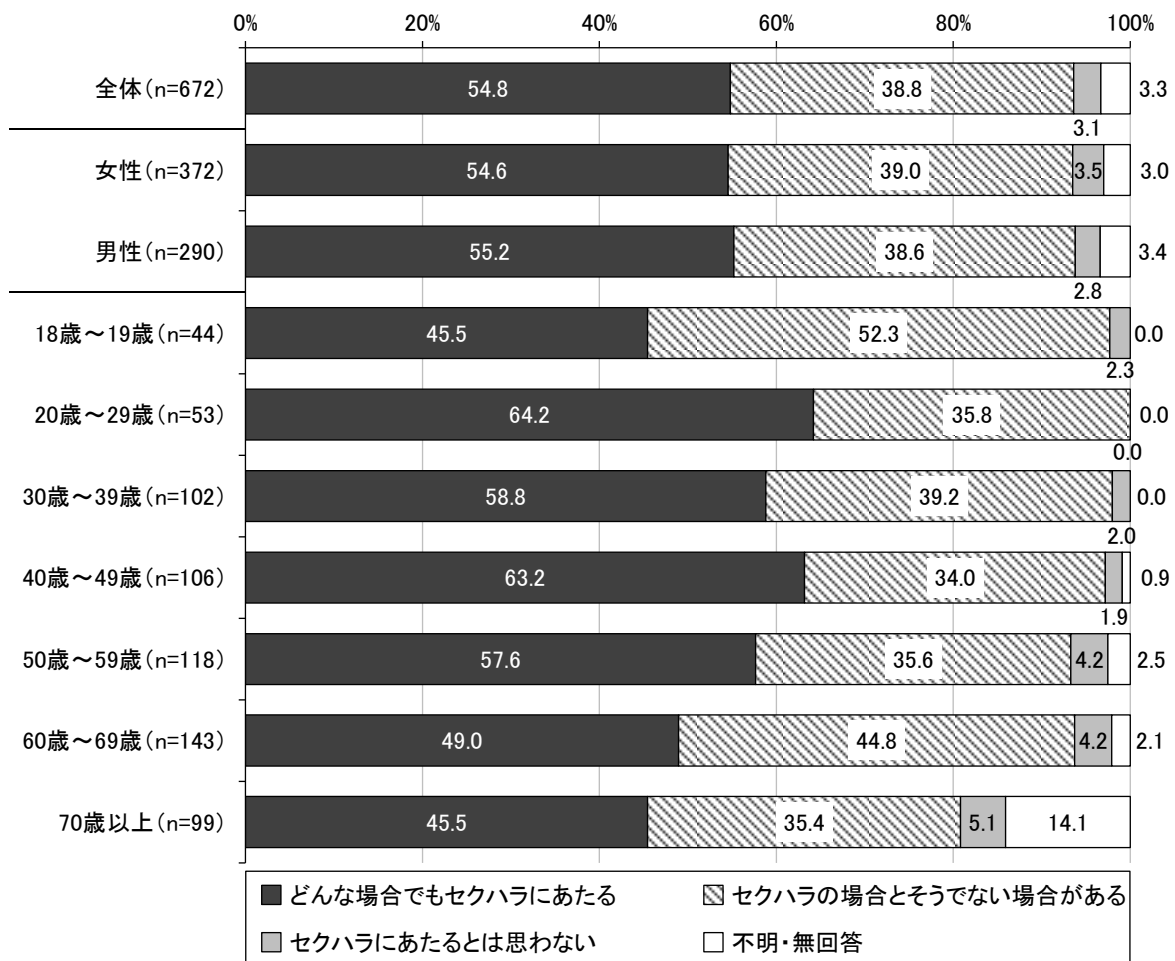
(ア～キそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ア. スリーサイズを聞くなど身体的特徴を話題にする

全体では「どんな場合でもセクハラにあたる」が54.8%と最も高く、次いで「セクハラの場合とそうでない場合がある」が38.8%、「セクハラにあたるとは思わない」が3.1%となっています。

性別にみると、男女ともに「どんな場合でもセクハラにあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳～19歳では「セクハラの場合とそうでない場合がある」、20歳代以上では「どんな場合でもセクハラにあたる」が最も高くなっています。



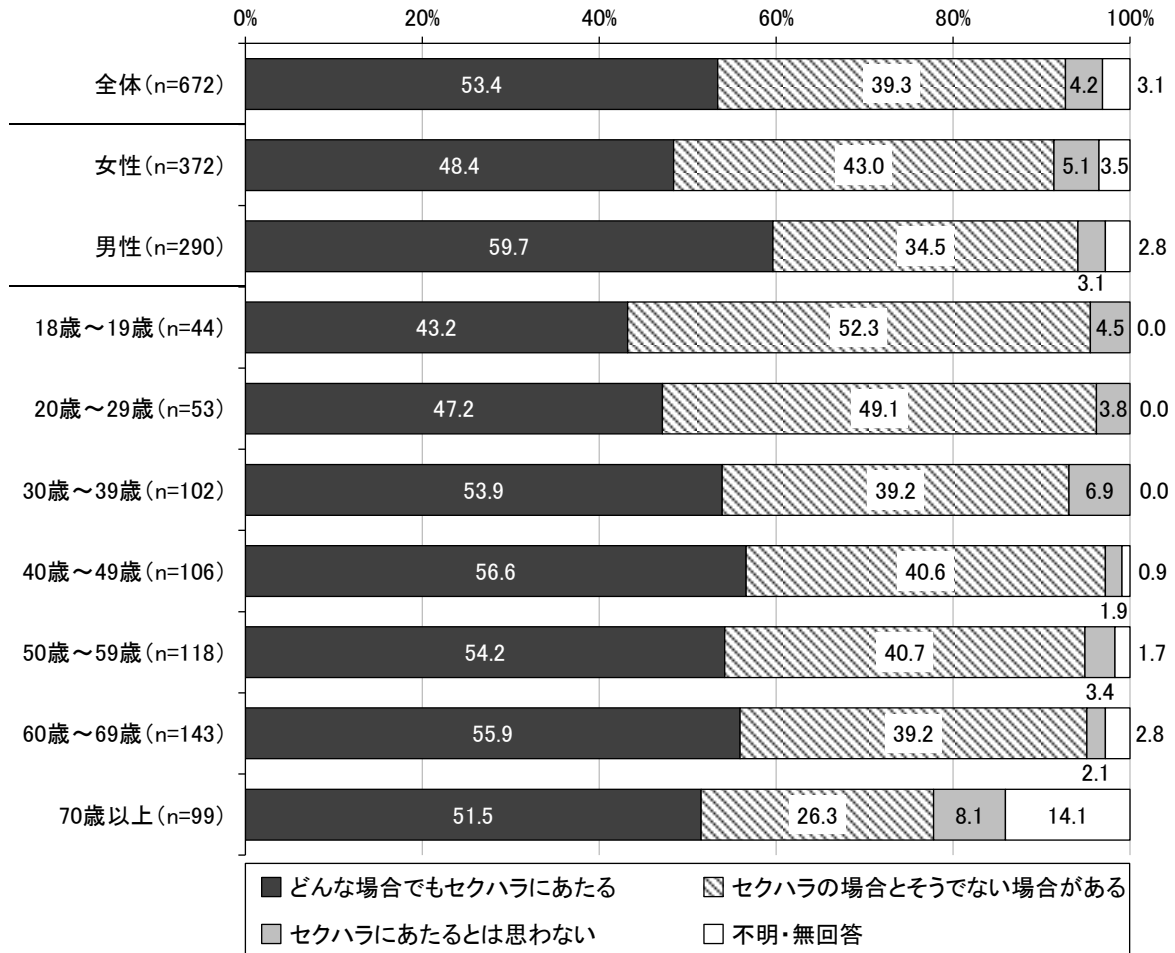
問 21. あなたは、次のようなことがセクシュアルハラスメントにあたると思いますか。
 (ア～キそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

イ. 食事やデートにしつこく誘う

全体では「どんな場合でもセクハラにあたる」が 53.4%と最も高く、次いで「セクハラの場合とそうでない場合がある」が 39.3%、「セクハラにあたるとは思わない」が 4.2%となっています。

性別にみると、男女ともに「どんな場合でもセクハラにあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、20歳代以下では「セクハラの場合とそうでない場合がある」、30歳代以上では「どんな場合でもセクハラにあたる」が最も高くなっています。



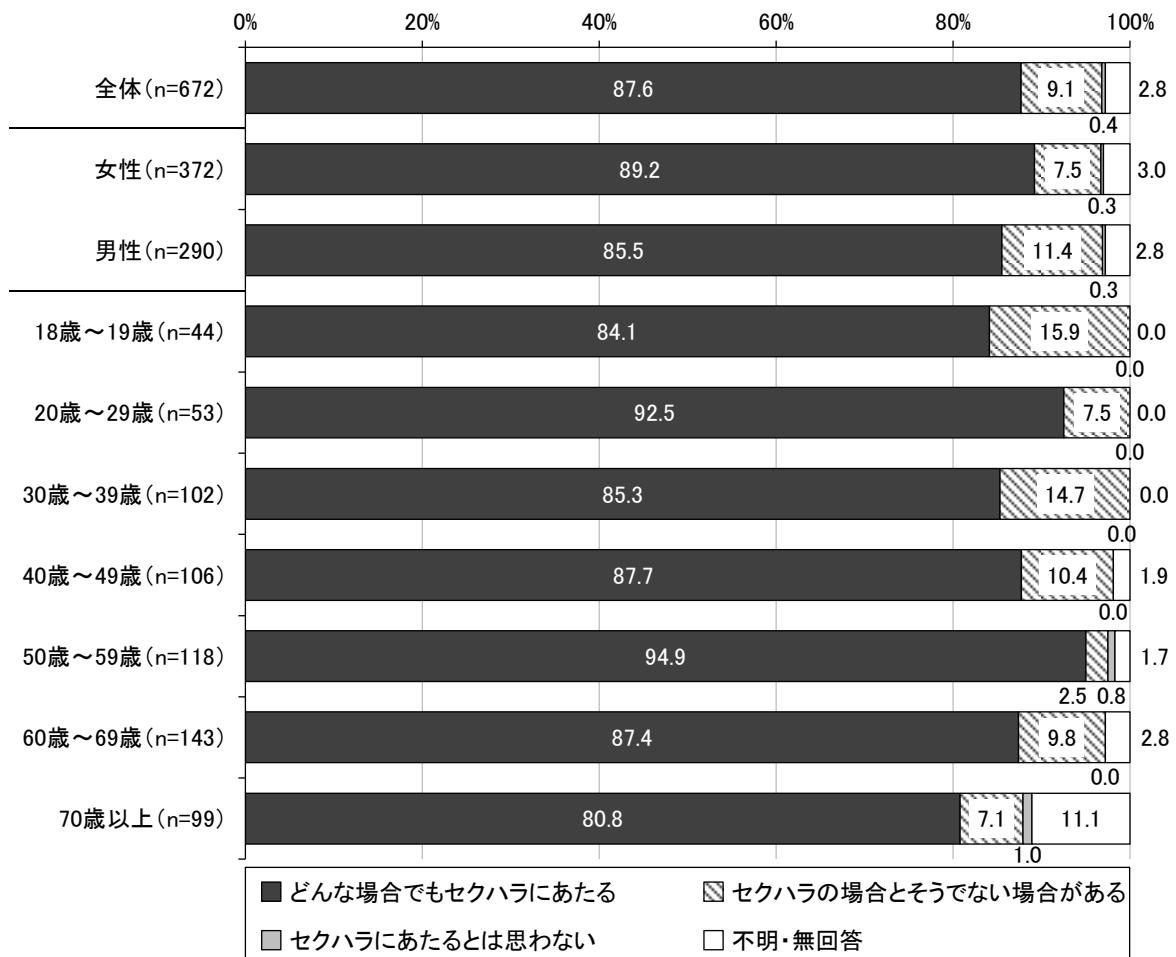
問 21. あなたは、次のようなことがセクシュアルハラスメントにあたると思いますか。
 (ア～キそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ウ. 性的な噂を立てたり、性的なからかいの対象とする

全体では「どんな場合でもセクハラにあたる」が87.6%と最も高く、次いで「セクハラの場合とそうでない場合がある」が9.1%、「セクハラにあたるとは思わない」が0.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「どんな場合でもセクハラにあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でもセクハラにあたる」が最も高くなっています。



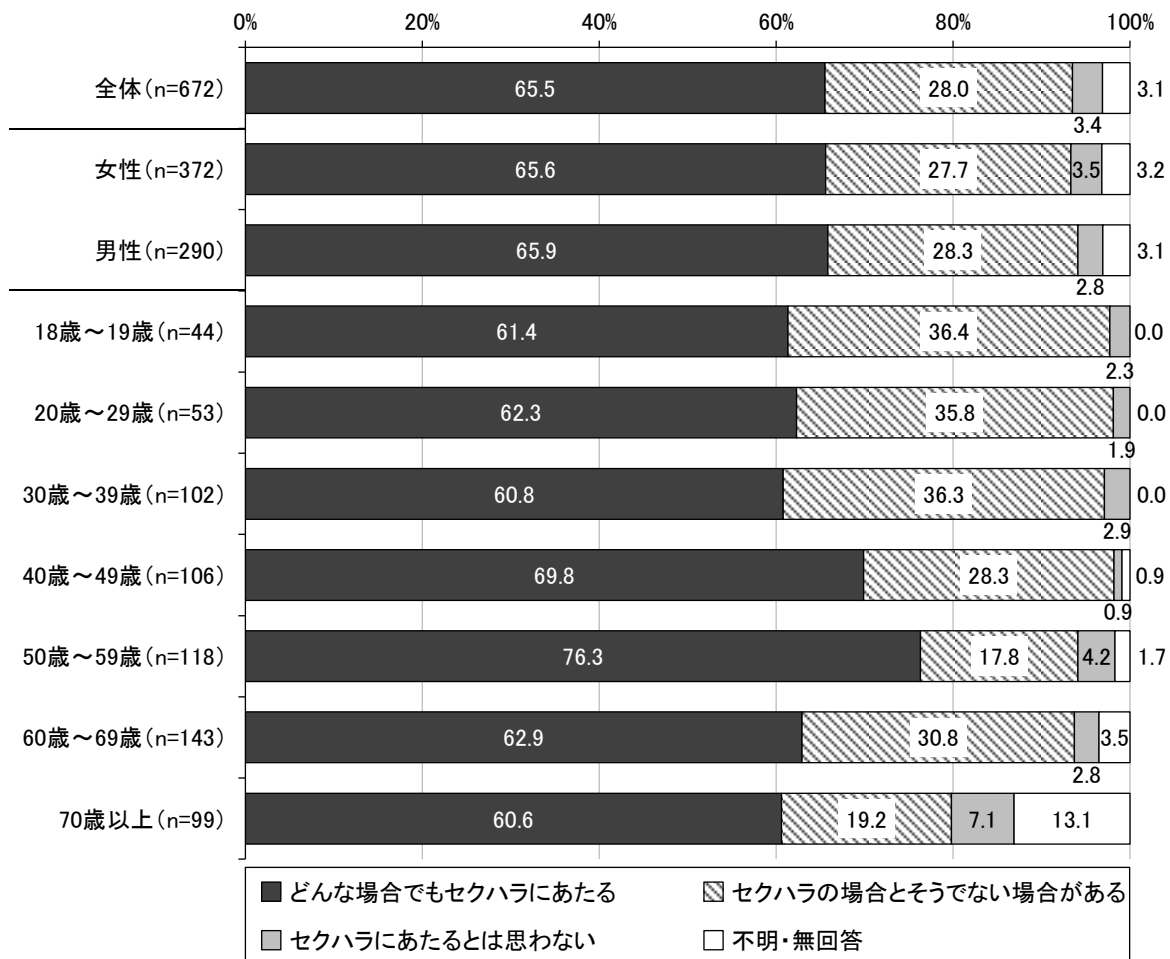
問 21. あなたは、次のようなことがセクシュアルハラスメントにあたると思いますか。
 (ア～キそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

エ. 「男のくせに根性がない」、「女には仕事を任せられない」、「女性は職場の花でありさえすればいい」などと発言する

全体では「どんな場合でもセクハラにあたる」が65.5%と最も高く、次いで「セクハラの場合とそうでない場合がある」が28.0%、「セクハラにあたるとは思わない」が3.4%となっています。

性別にみると、男女ともに「どんな場合でもセクハラにあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でもセクハラにあたる」が最も高くなっています。



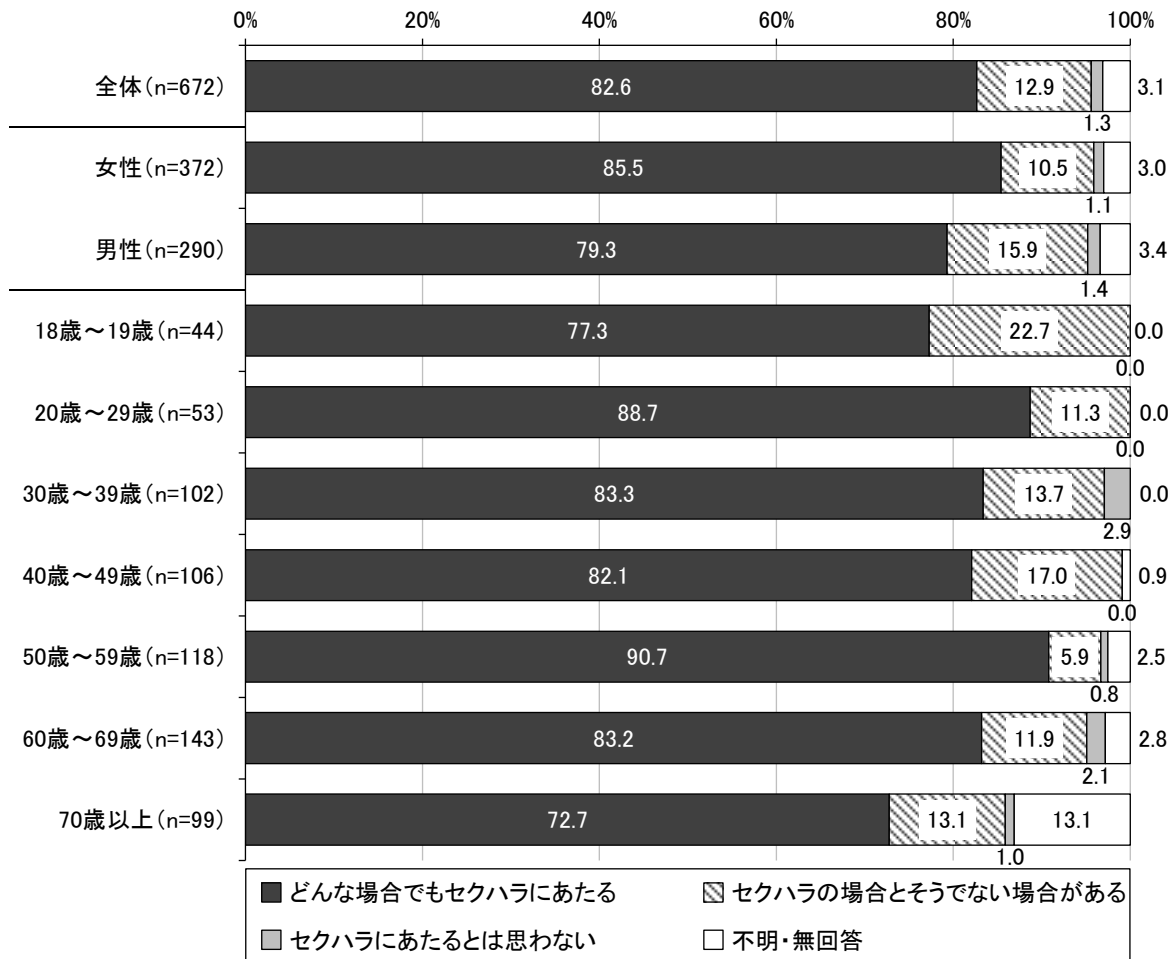
問 21. あなたは、次のようなことがセクシュアルハラスメントにあたると思いますか。
 (ア～キそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

オ. 性的指向や性自認を本人の承諾なしに第三者に漏らす

全体では「どんな場合でもセクハラにあたる」が82.6%と最も高く、次いで「セクハラの場合とそうでない場合がある」が12.9%、「セクハラにあたるとは思わない」が1.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「どんな場合でもセクハラにあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でもセクハラにあたる」が最も高くなっています。



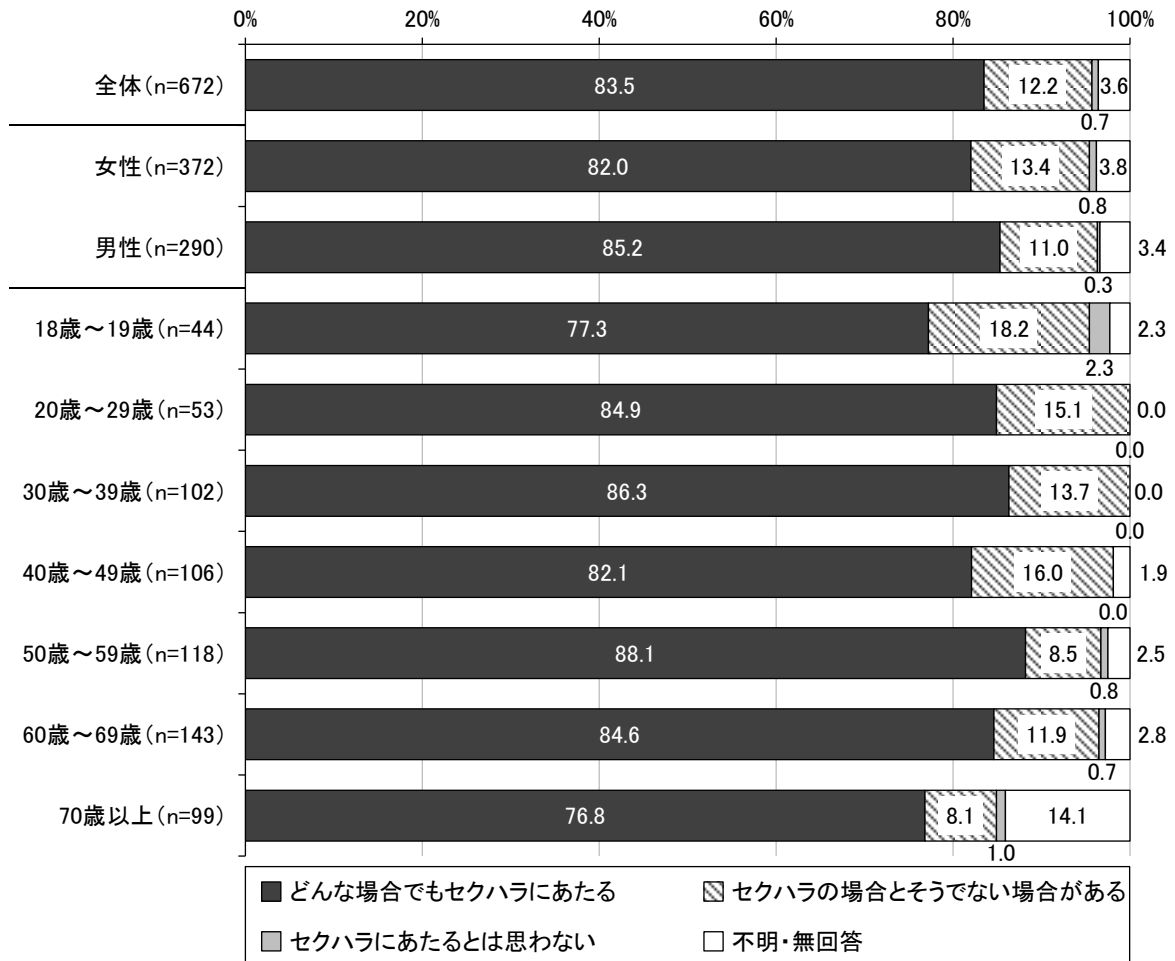
問 21. あなたは、次のようなことがセクシュアルハラスメントにあたると思いますか。
 (ア～キそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

カ. 身体に不必要に接触する

全体では「どんな場合でもセクハラにあたる」が83.5%と最も高く、次いで「セクハラの場合とそうでない場合がある」が12.2%、「セクハラにあたるとは思わない」が0.7%となっています。

性別にみると、男女ともに「どんな場合でもセクハラにあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でもセクハラにあたる」が最も高くなっています。



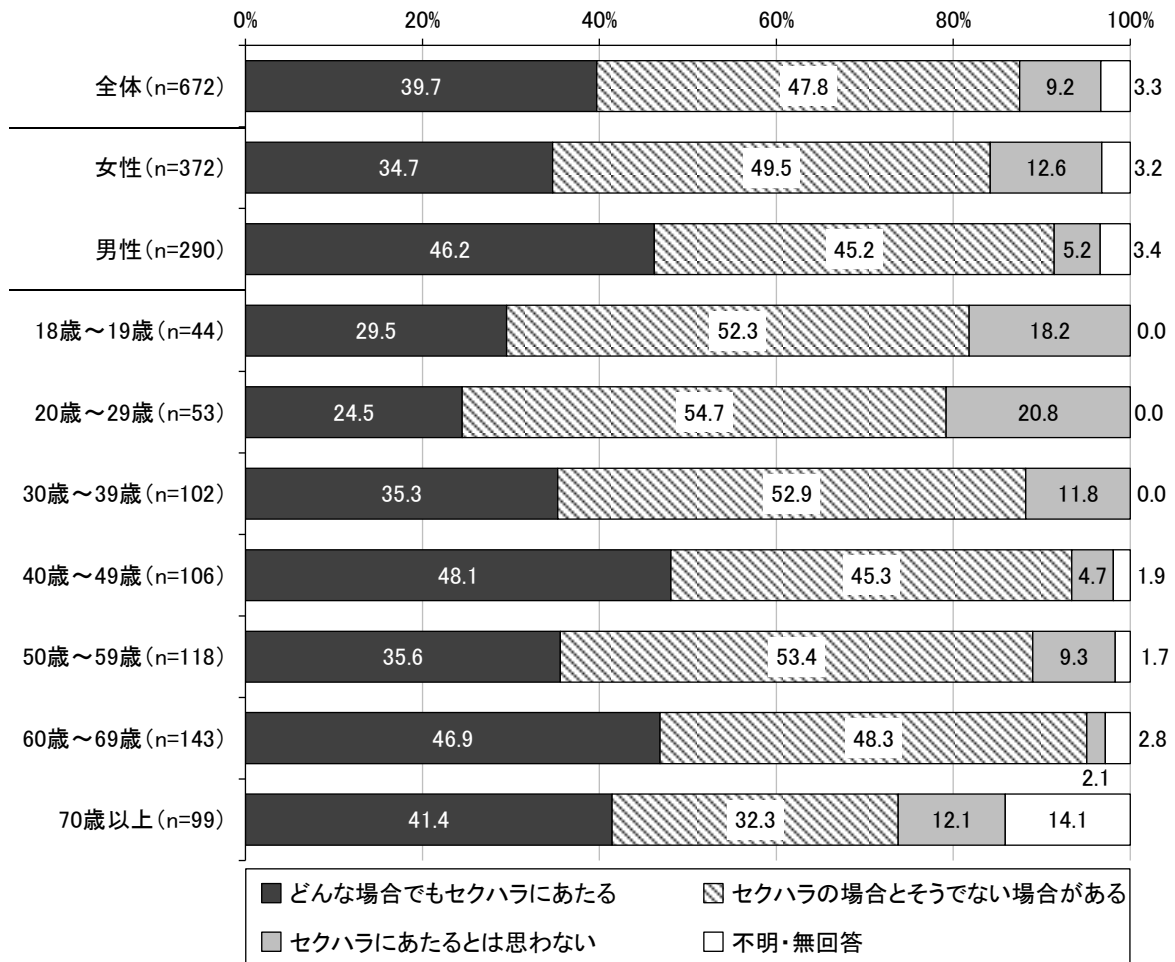
問 21. あなたは、次のようなことがセクシュアルハラスメントにあたると思いますか。
 (ア～キそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

キ. カラオケでのデュエットを強要する

全体では「セクハラの場合とそうでない場合がある」が47.8%と最も高く、次いで「どんな場合でもセクハラにあたる」が39.7%、「セクハラにあたるとは思わない」が9.2%となっています。

性別にみると、女性では「セクハラの場合とそうでない場合がある」、男性では「どんな場合でもセクハラにあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、40歳代、70歳以上では「どんな場合でもセクハラにあたる」、それ以外の年代では「セクハラの場合とそうでない場合がある」が最も高くなっています。



問 22. あなたは、次のようなことがストーカー行為にあたると思いますか。

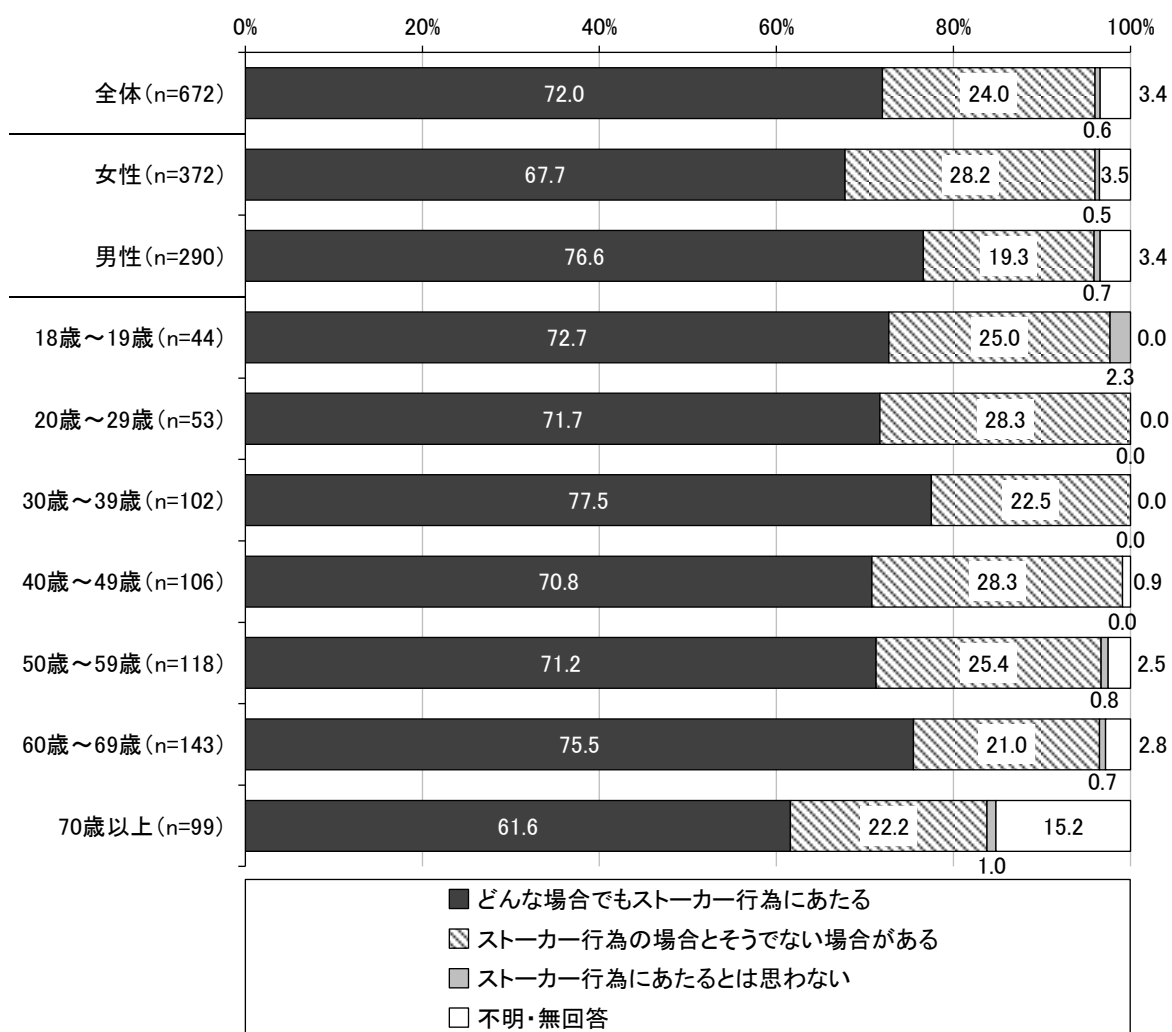
(ア～キそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ア. 行動先(通勤途中、外出先等)で待ち伏せする

全体では「どんな場合でもストーカー行為にあたる」が72.0%と最も高く、次いで「ストーカー行為の場合とそうでない場合がある」が24.0%、「ストーカー行為にあたるとは思わない」が0.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「どんな場合でもストーカー行為にあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でもストーカー行為にあたる」が最も高くなっています。



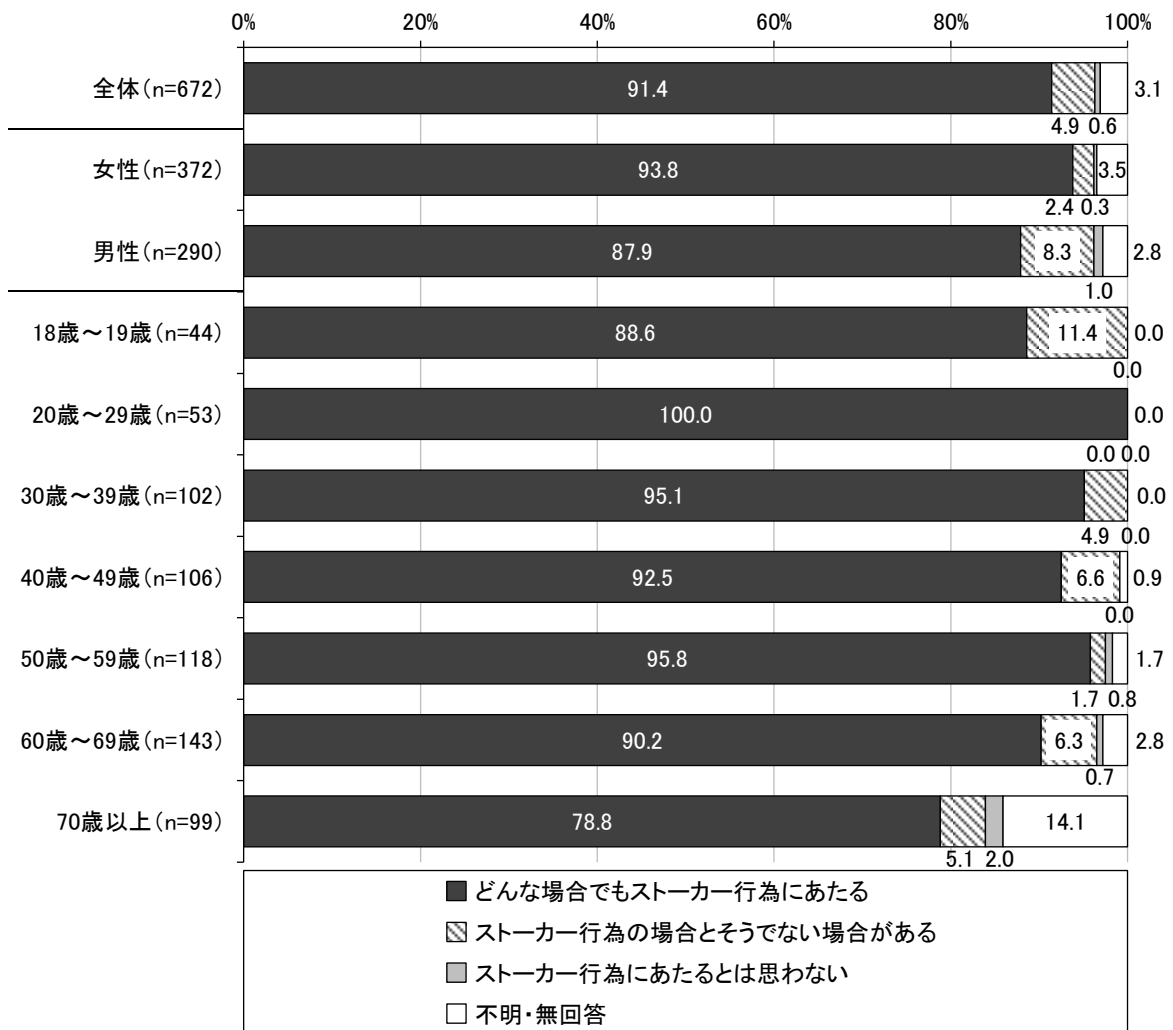
問 22. あなたは、次のようなことがストーカー行為にあたると思いますか。
 (ア～キそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

イ. 「いつも見ているぞ」等と監視していることを告げる

全体では「どんな場合でもストーカー行為にあたる」が91.4%と最も高く、次いで「ストーカー行為の場合とそうでない場合がある」が4.9%、「ストーカー行為にあたるとは思わない」が0.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「どんな場合でもストーカー行為にあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でもストーカー行為にあたる」が最も高くなっています。



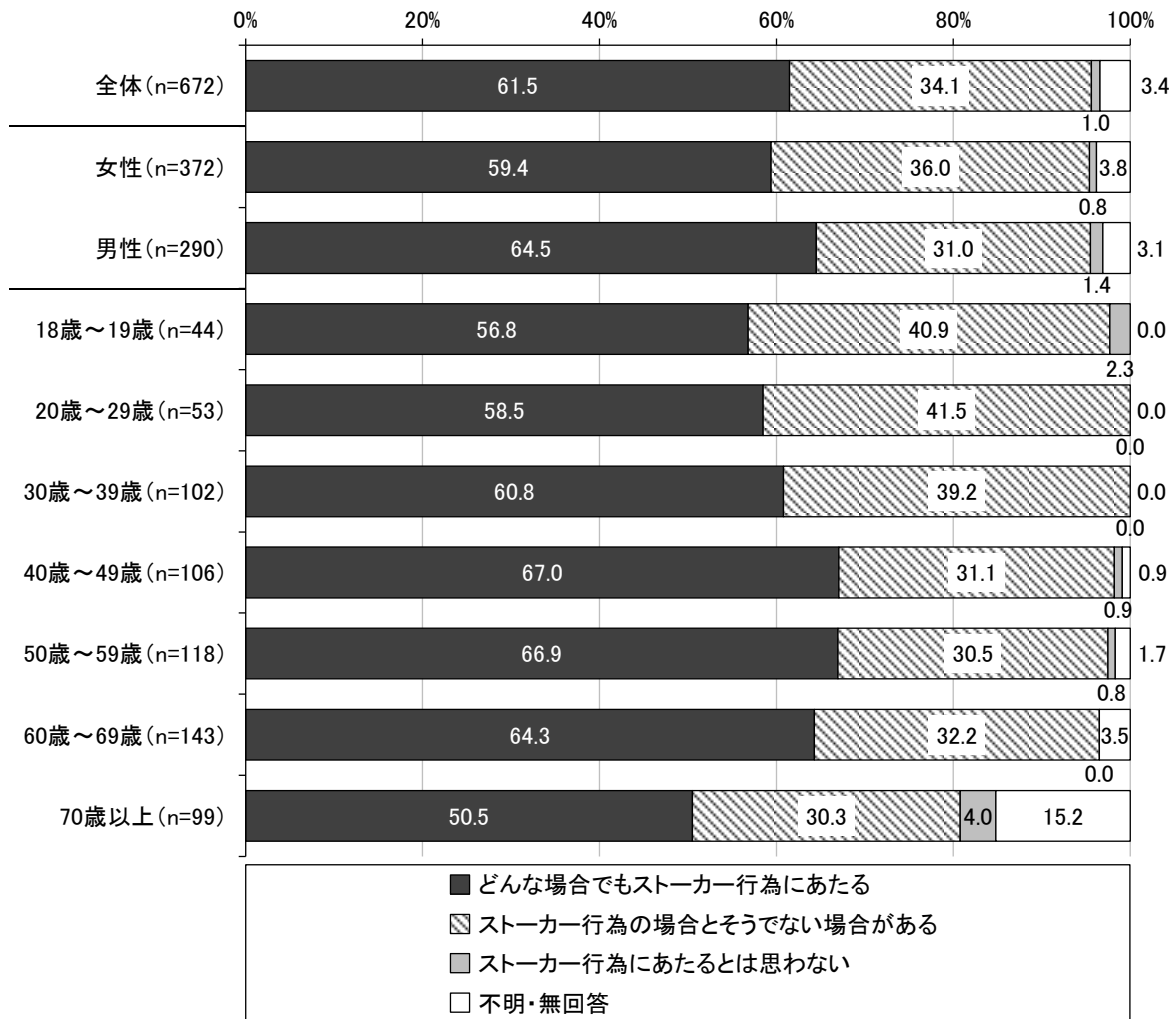
問 22. あなたは、次のようなことがストーカー行為にあたると思いますか。
 (ア～キそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ウ. 贈り物を受け取るように要求する

全体では「どんな場合でもストーカー行為にあたる」が61.5%と最も高く、次いで「ストーカー行為の場合とそうでない場合がある」が34.1%、「ストーカー行為にあたるとは思わない」が1.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「どんな場合でもストーカー行為にあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でもストーカー行為にあたる」が最も高くなっています。



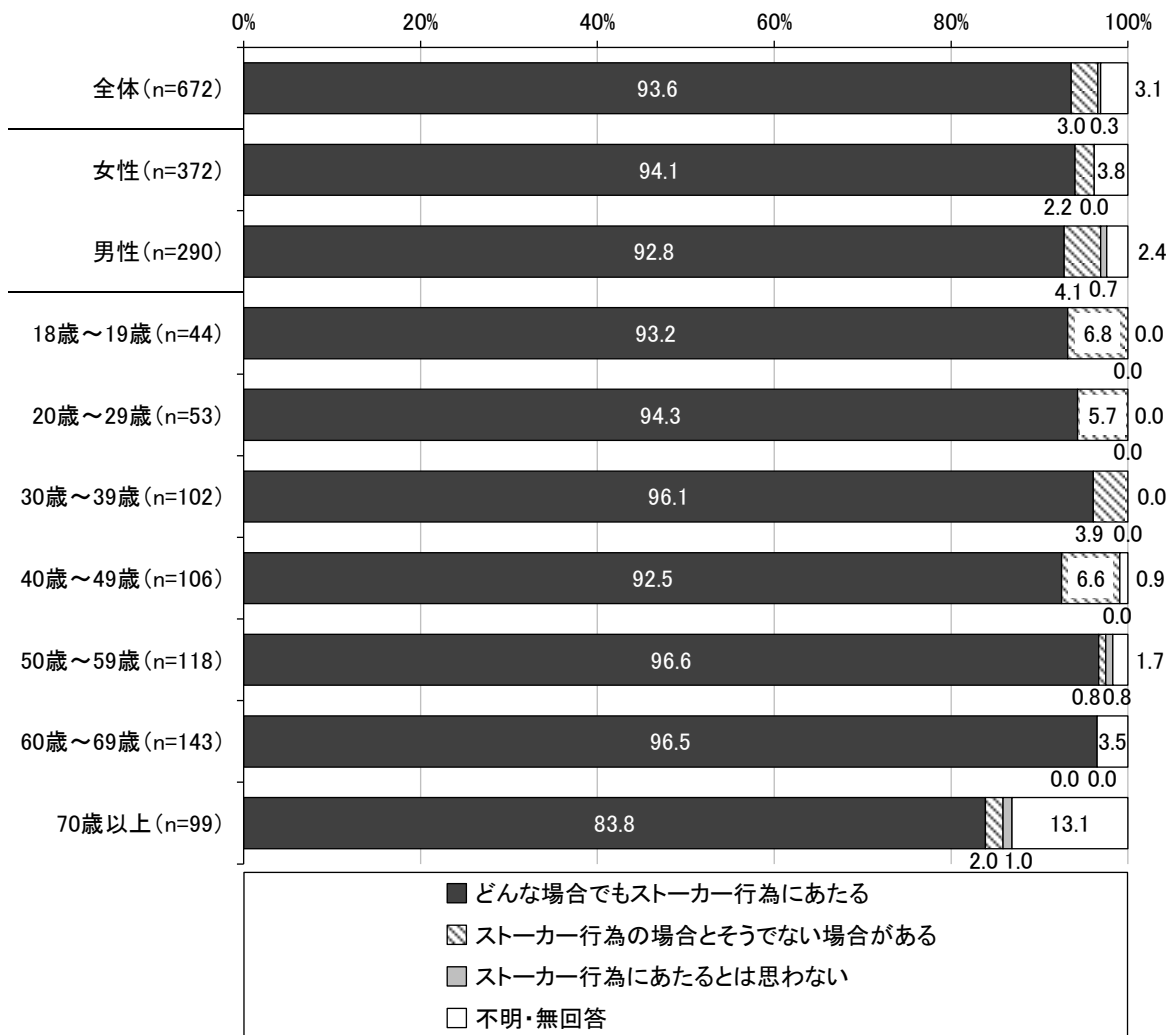
問 22. あなたは、次のようなことがストーカー行為にあたると思いますか。
 (ア～キそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

エ. 尾行する、つきまとう

全体では「どんな場合でもストーカー行為にあたる」が93.6%と最も高く、次いで「ストーカー行為の場合とそうでない場合がある」が3.0%、「ストーカー行為にあたるとは思わない」が0.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「どんな場合でもストーカー行為にあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でもストーカー行為にあたる」が最も高くなっています。



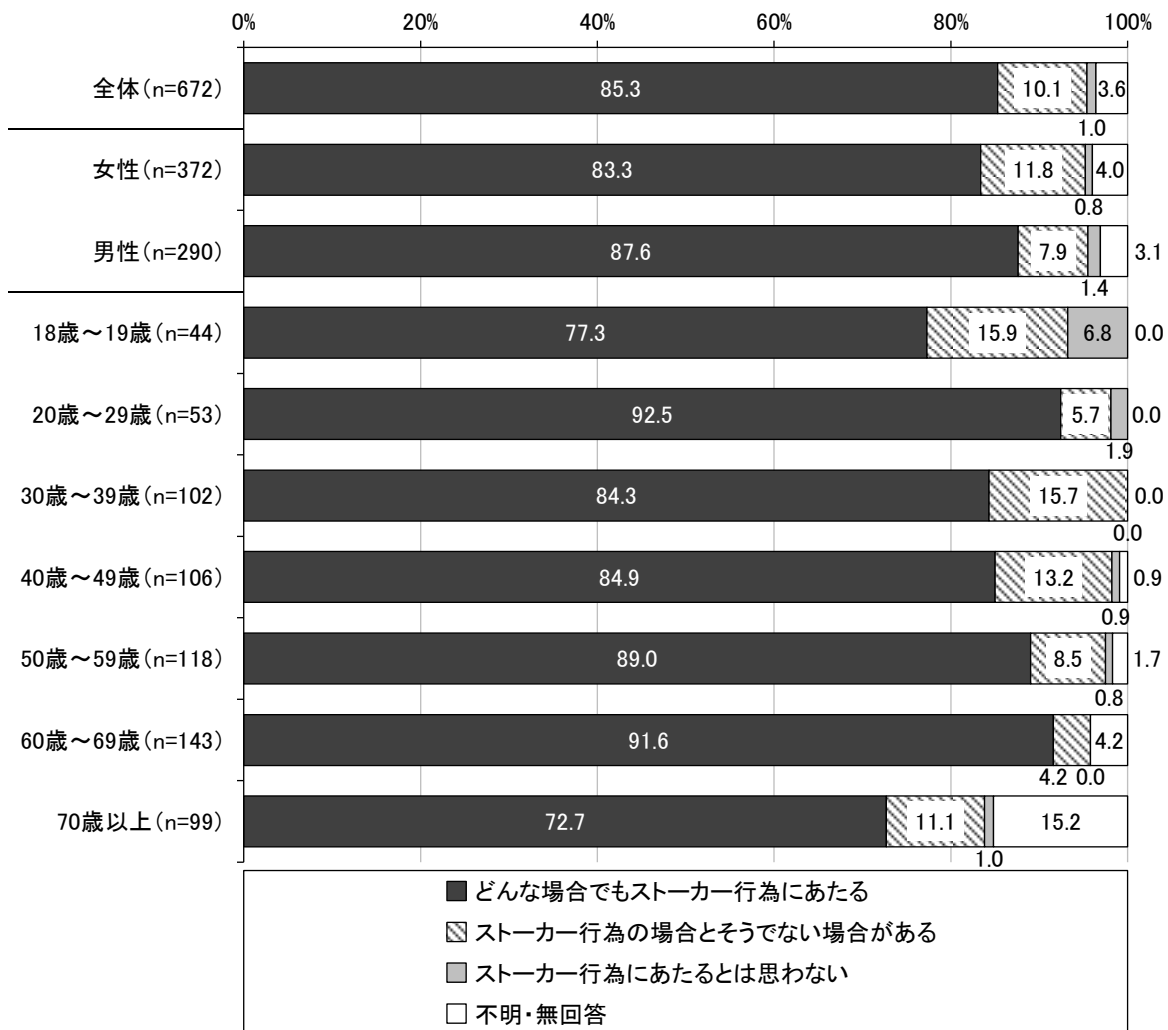
問 22. あなたは、次のようなことがストーカー行為にあたると思いますか。
 (ア～キそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

オ. 電話をかけてくるが何も告げない (無言電話)

全体では「どんな場合でもストーカー行為にあたる」が85.3%と最も高く、次いで「ストーカー行為の場合とそうでない場合がある」が10.1%、「ストーカー行為にあたるとは思わない」が1.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「どんな場合でもストーカー行為にあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でもストーカー行為にあたる」が最も高くなっています。



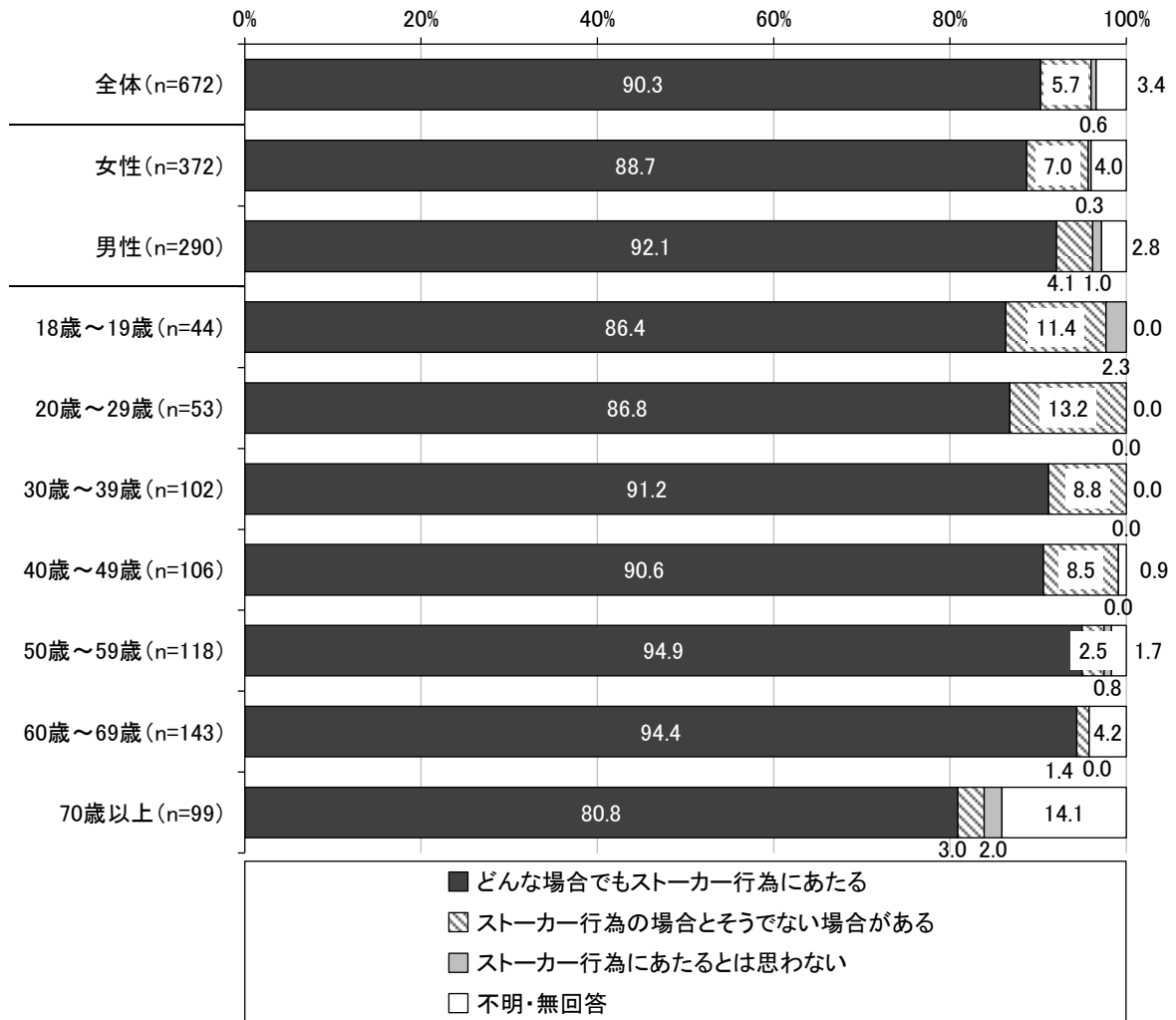
問 22. あなたは、次のようなことがストーカー行為にあたると思いますか。
 (ア～キそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

カ. 拒否しているにもかかわらず、何度もメッセージ等を送信してくる

全体では「どんな場合でもストーカー行為にあたる」が90.3%と最も高く、次いで「ストーカー行為の場合とそうでない場合がある」が5.7%、「ストーカー行為にあたるとは思わない」が0.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「どんな場合でもストーカー行為にあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でもストーカー行為にあたる」が最も高くなっています。



問 22. あなたは、次のようなことがストーカー行為にあたると思いますか。

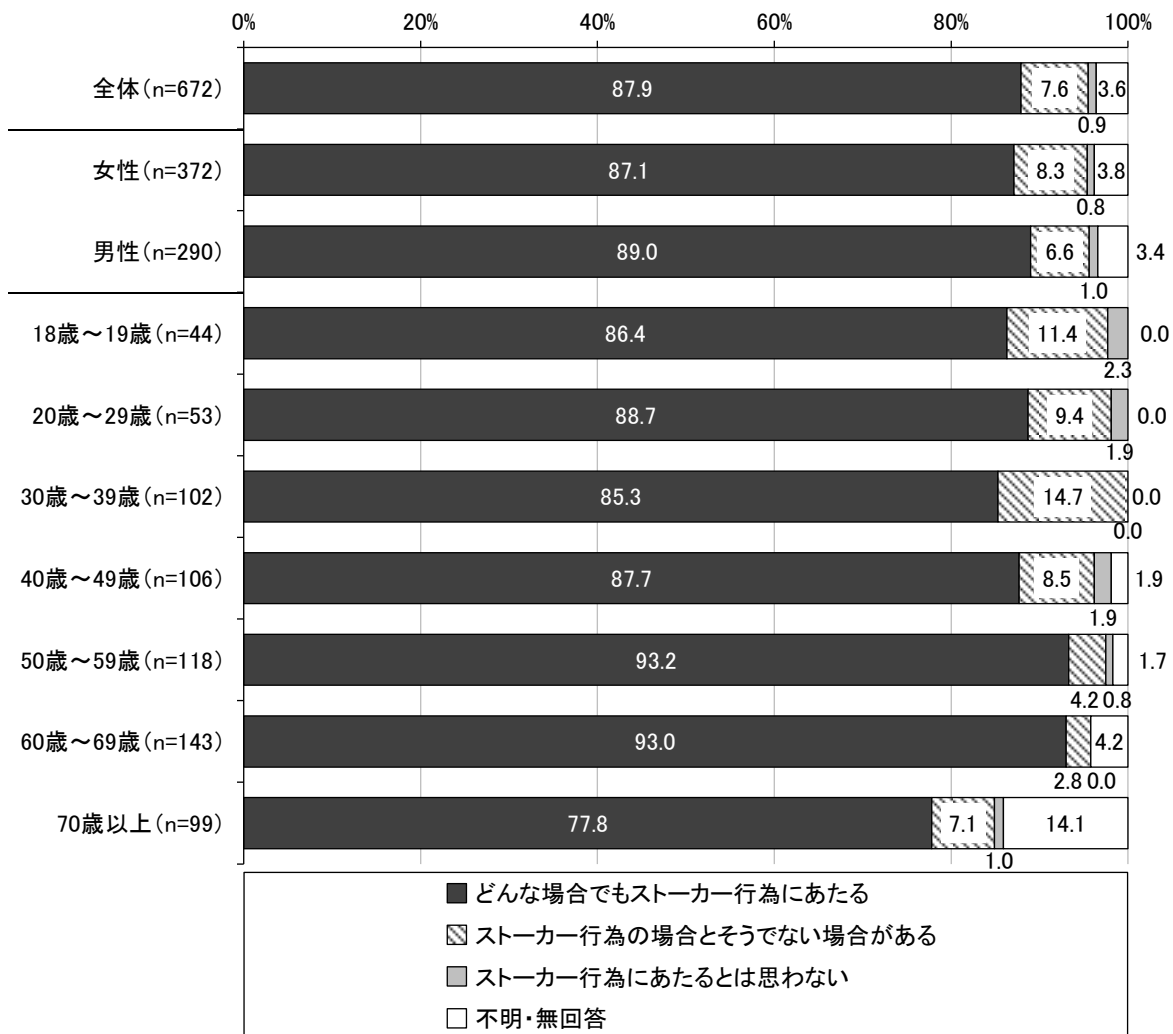
(ア～キそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

キ. 名誉を傷付けるような内容を告げたりメールを送るなどする

全体では「どんな場合でもストーカー行為にあたる」が87.9%と最も高く、次いで「ストーカー行為の場合とそうでない場合がある」が7.6%、「ストーカー行為にあたるとは思わない」が0.9%となっています。

性別にみると、男女ともに「どんな場合でもストーカー行為にあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でもストーカー行為にあたる」が最も高くなっています。



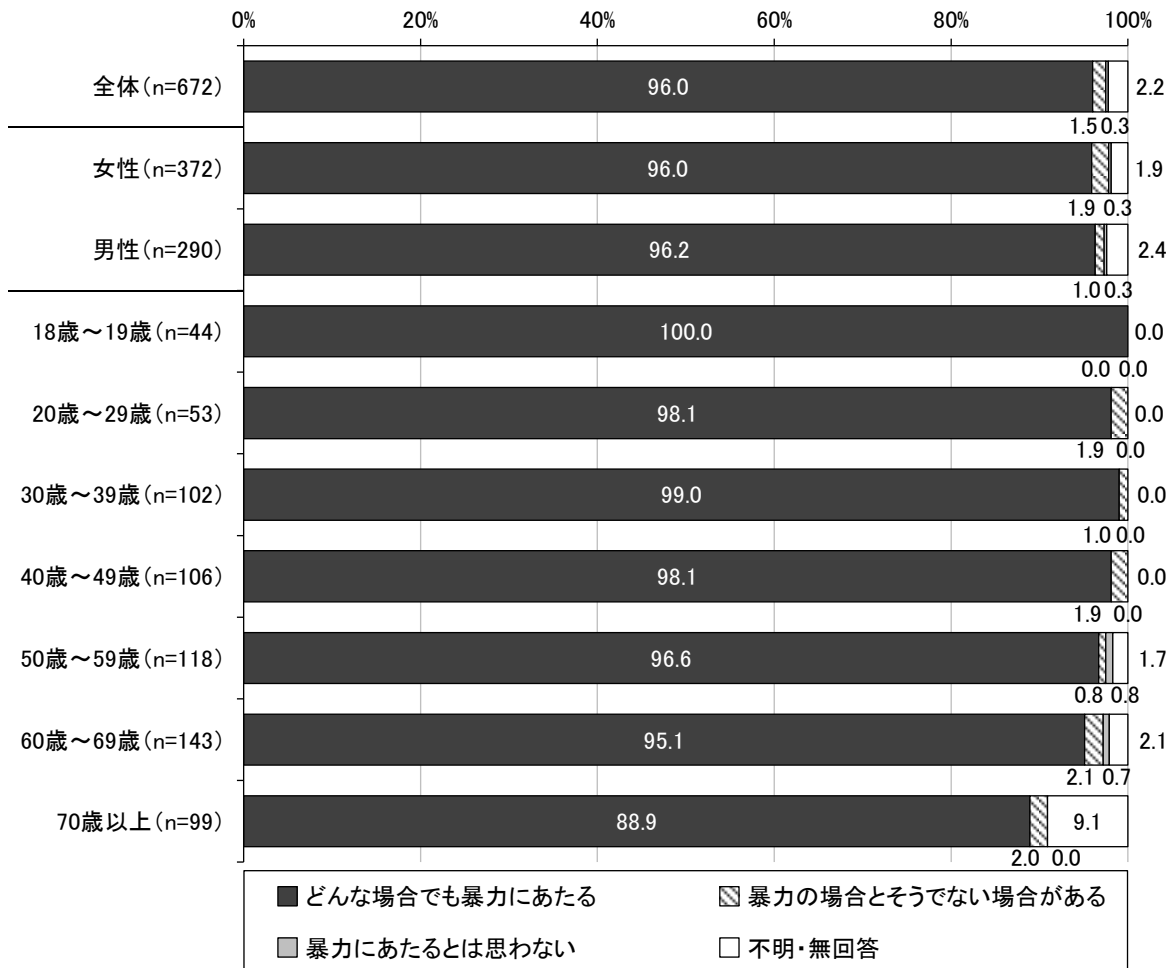
問 23. あなたは、次のようなことが夫婦や恋人の間で行われた場合、暴力にあたると思いますか。
 (ア～タそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ア. 刃物などを突きつけて、おどす

全体では「どんな場合でも暴力にあたる」が96.0%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が1.5%、「暴力にあたるとは思わない」が0.3%となっています。

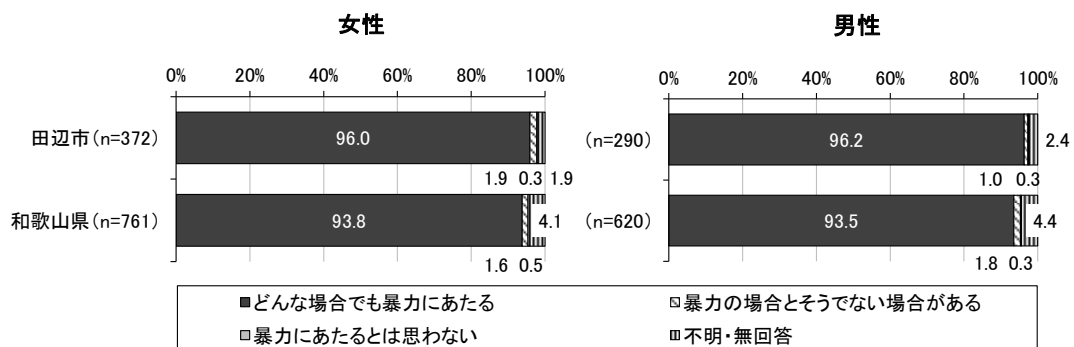
性別にみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。



<和歌山県調査（令和2年度実施）との比較（参考）>

県調査と比較すると、田辺市では、女性、男性ともに「どんな場合でも暴力にあたる」がそれぞれ2.2ポイント、2.7ポイント高くなっています。



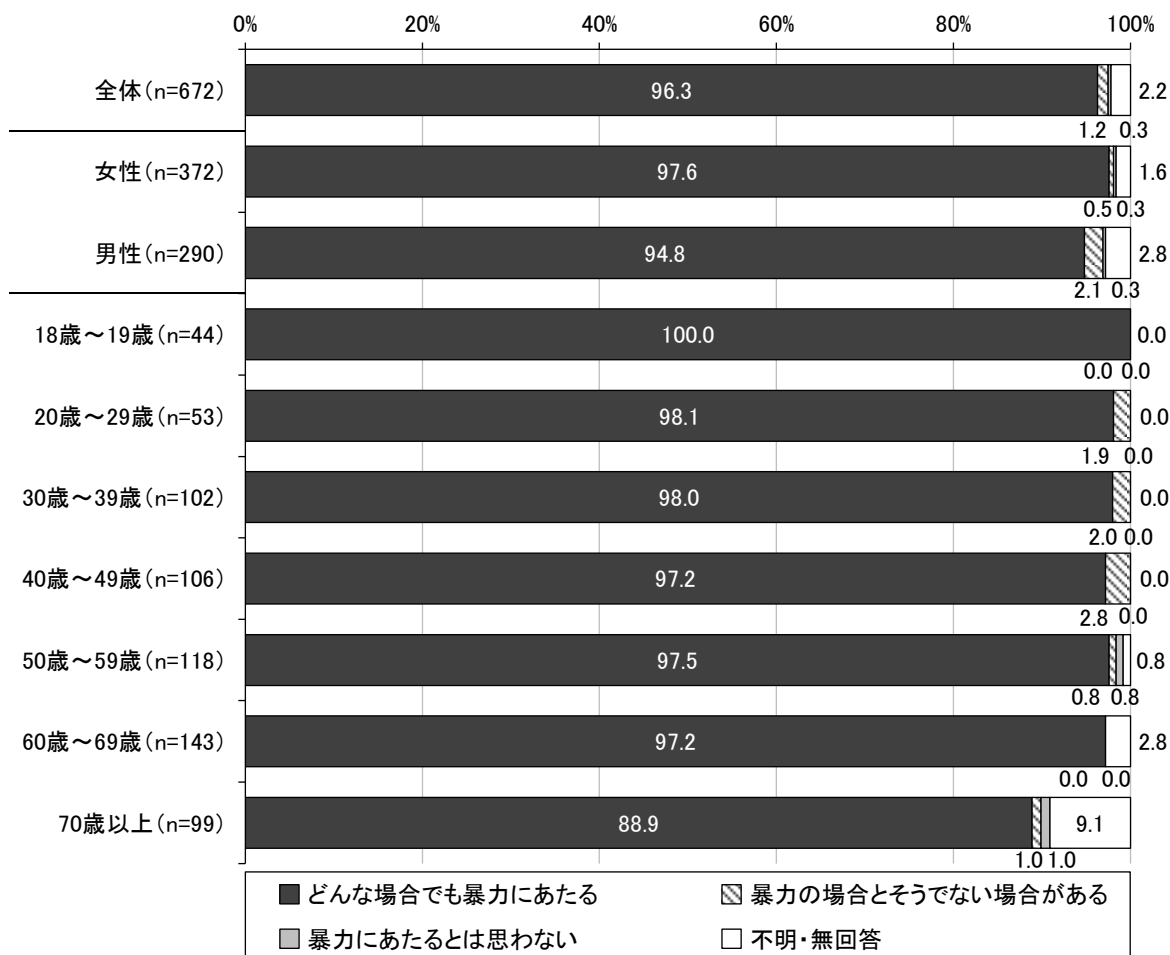
問23. あなたは、次のようなことが夫婦や恋人の間で行われた場合、暴力にあたると思いますか。
 (ア～タそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

イ. 身体を傷つける可能性のある物で、なぐる

全体では「どんな場合でも暴力にあたる」が96.3%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が1.2%、「暴力にあたるとは思わない」が0.3%となっています。

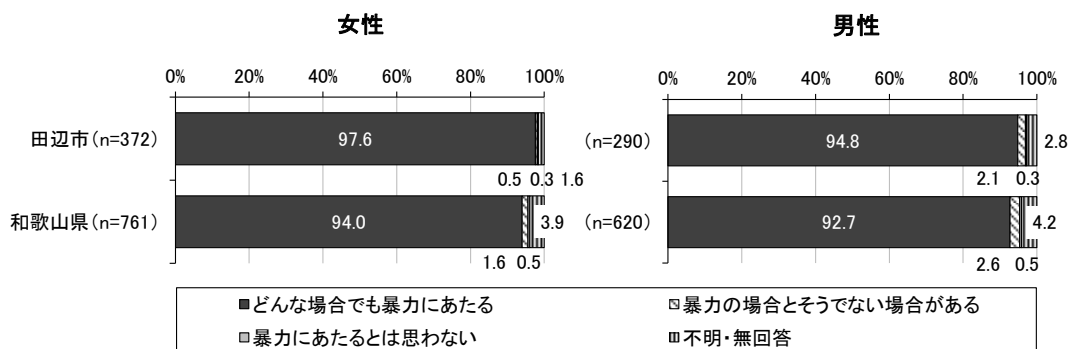
性別にみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。



<和歌山県調査（令和2年度実施）との比較（参考）>

県調査と比較すると、田辺市では、女性、男性ともに「どんな場合でも暴力にあたる」がそれぞれ3.6ポイント、2.1ポイント高くなっています。



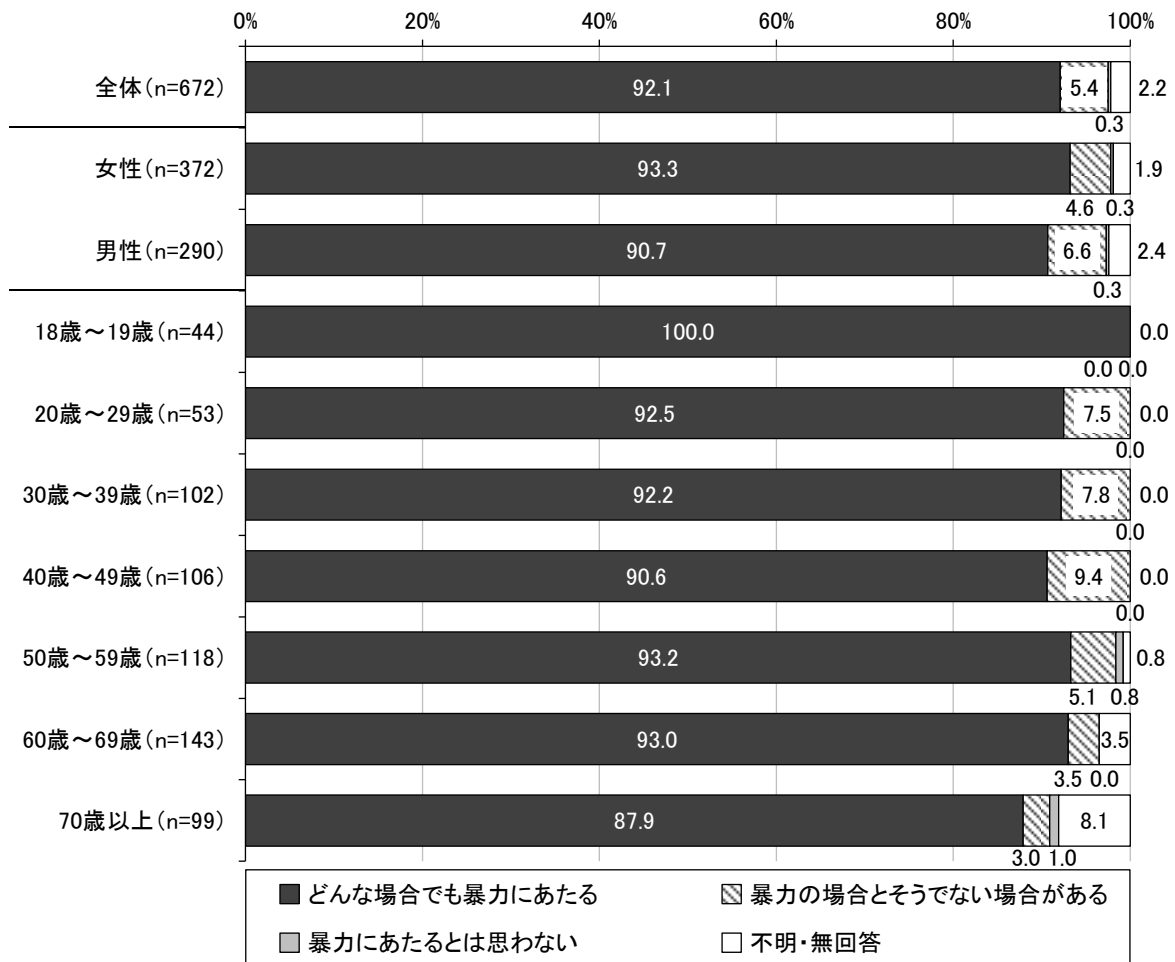
問 23. あなたは、次のようなことが夫婦や恋人の間で行われた場合、暴力にあたると思いますか。
(ア～タそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ウ. 平手でぶつ、足でける、物を投げつける

全体では「どんな場合でも暴力にあたる」が92.1%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が5.4%、「暴力にあたるとは思わない」が0.3%となっています。

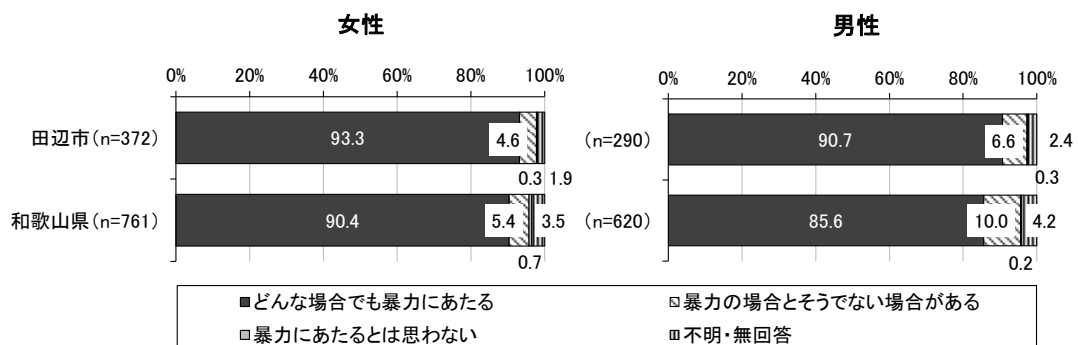
性別にみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。



<和歌山県調査（令和2年度実施）との比較（参考）>

県調査と比較すると、田辺市では、女性、男性ともに「どんな場合でも暴力にあたる」がそれぞれ2.9ポイント、5.1ポイント高くなっています。



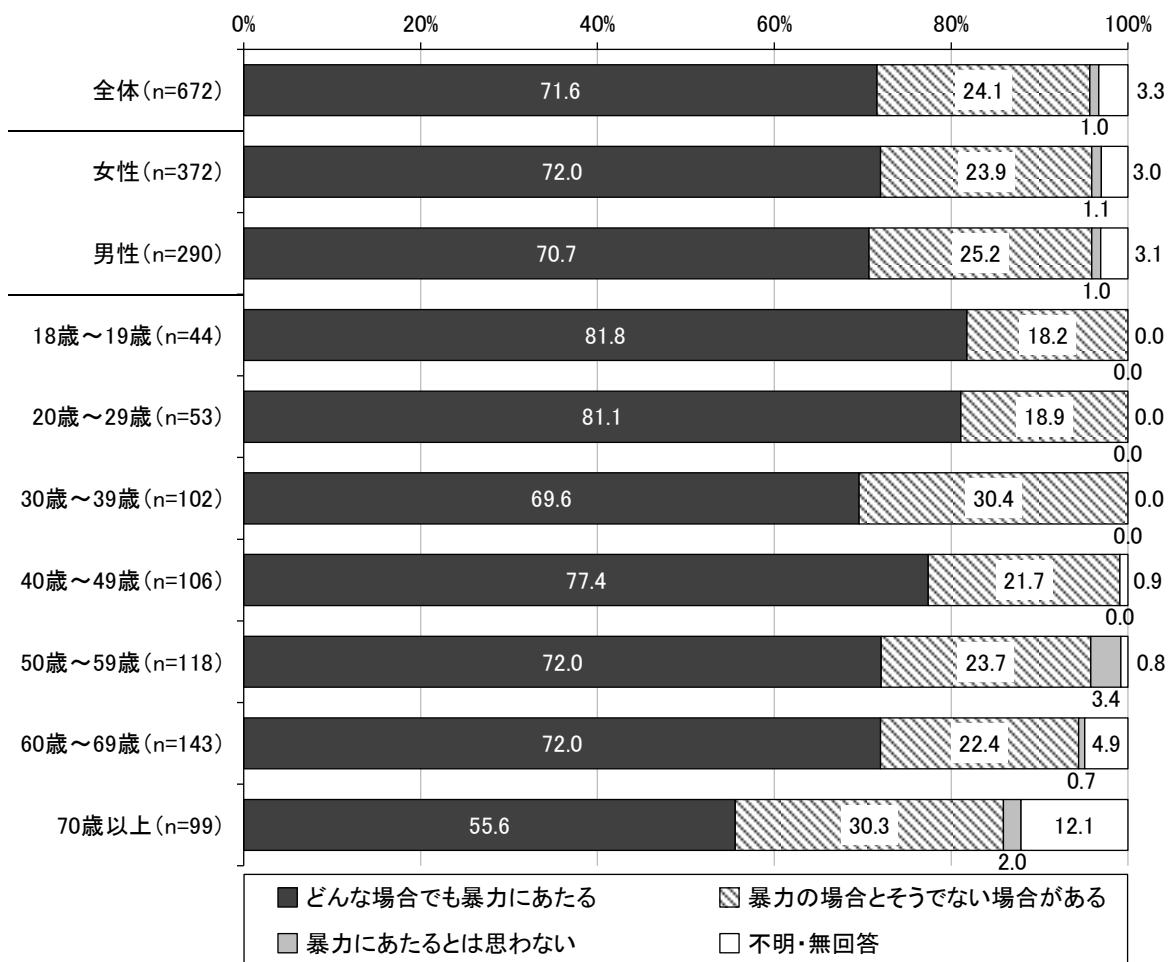
問23. あなたは、次のようなことが夫婦や恋人の間で行われた場合、暴力にあたると思いますか。
 (ア～タそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

エ. なぐるふりをしておどす

全体では「どんな場合でも暴力にあたる」が71.6%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が24.1%、「暴力にあたるとは思わない」が1.0%となっています。

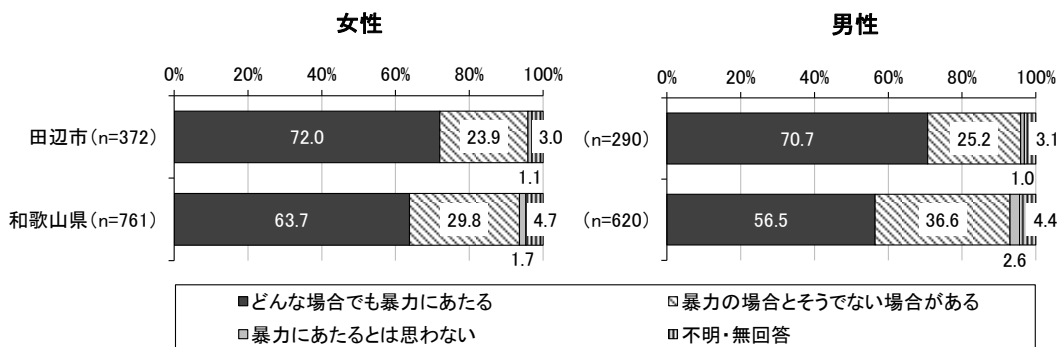
性別にみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。



<和歌山県調査（令和2年度実施）との比較（参考）>

県調査と比較すると、田辺市では、女性、男性ともに「どんな場合でも暴力にあたる」がそれぞれ8.3ポイント、14.2ポイント高くなっています。



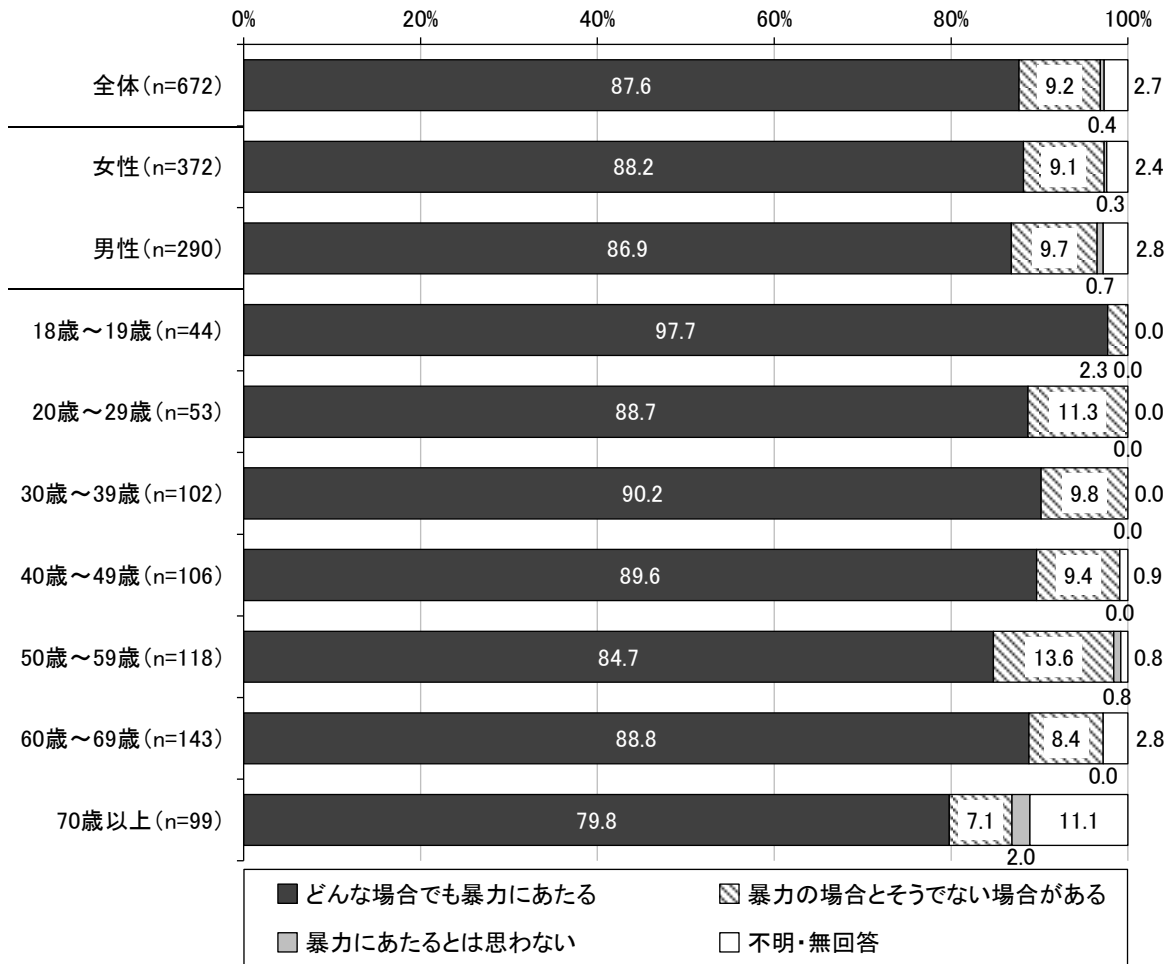
問23. あなたは、次のようなことが夫婦や恋人の間で行われた場合、暴力にあたると思いますか。
 (ア～タそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

オ. いやがるのに、性的な行為を強要する

全体では「どんな場合でも暴力にあたる」が87.6%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が9.2%、「暴力にあたるとは思わない」が0.4%となっています。

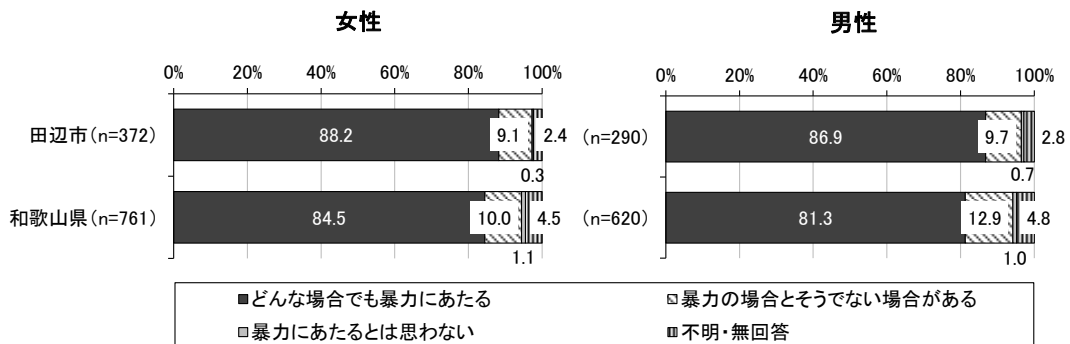
性別にみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。



<和歌山県調査（令和2年度実施）との比較（参考）>

県調査と比較すると、田辺市では、女性、男性ともに「どんな場合でも暴力にあたる」がそれぞれ3.7ポイント、5.6ポイント高くなっています。



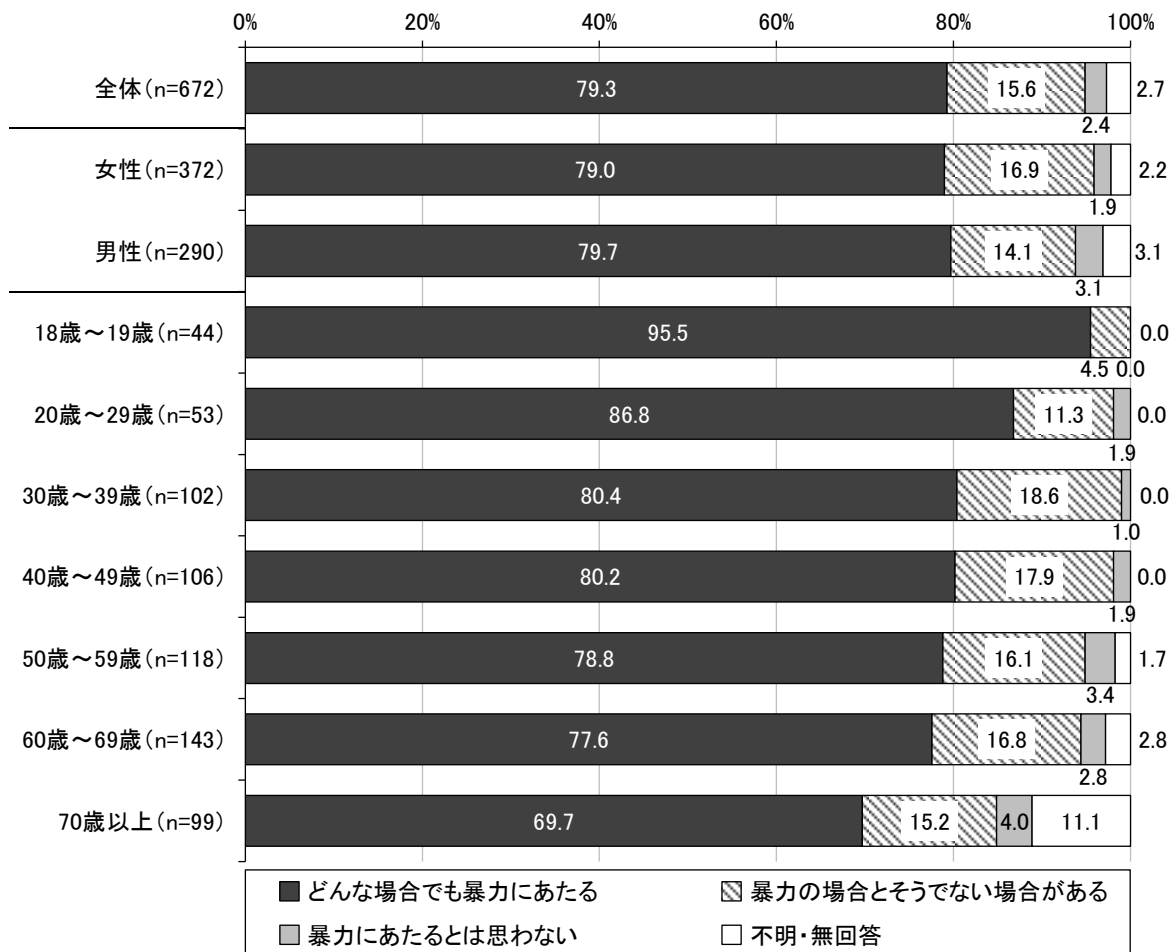
問 23. あなたは、次のようなことが夫婦や恋人の間で行われた場合、暴力にあたると思いますか。
 (ア～タそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

カ. 見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる

全体では「どんな場合でも暴力にあたる」が79.3%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が15.6%、「暴力にあたるとは思わない」が2.4%となっています。

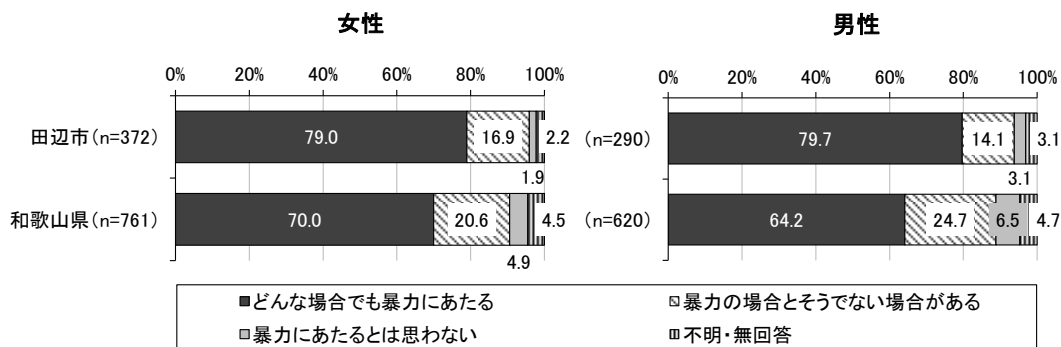
性別にみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。



<和歌山県調査（令和2年度実施）との比較（参考）>

県調査と比較すると、田辺市では、女性、男性ともに「どんな場合でも暴力にあたる」がそれぞれ9.0ポイント、15.5ポイント高くなっています。



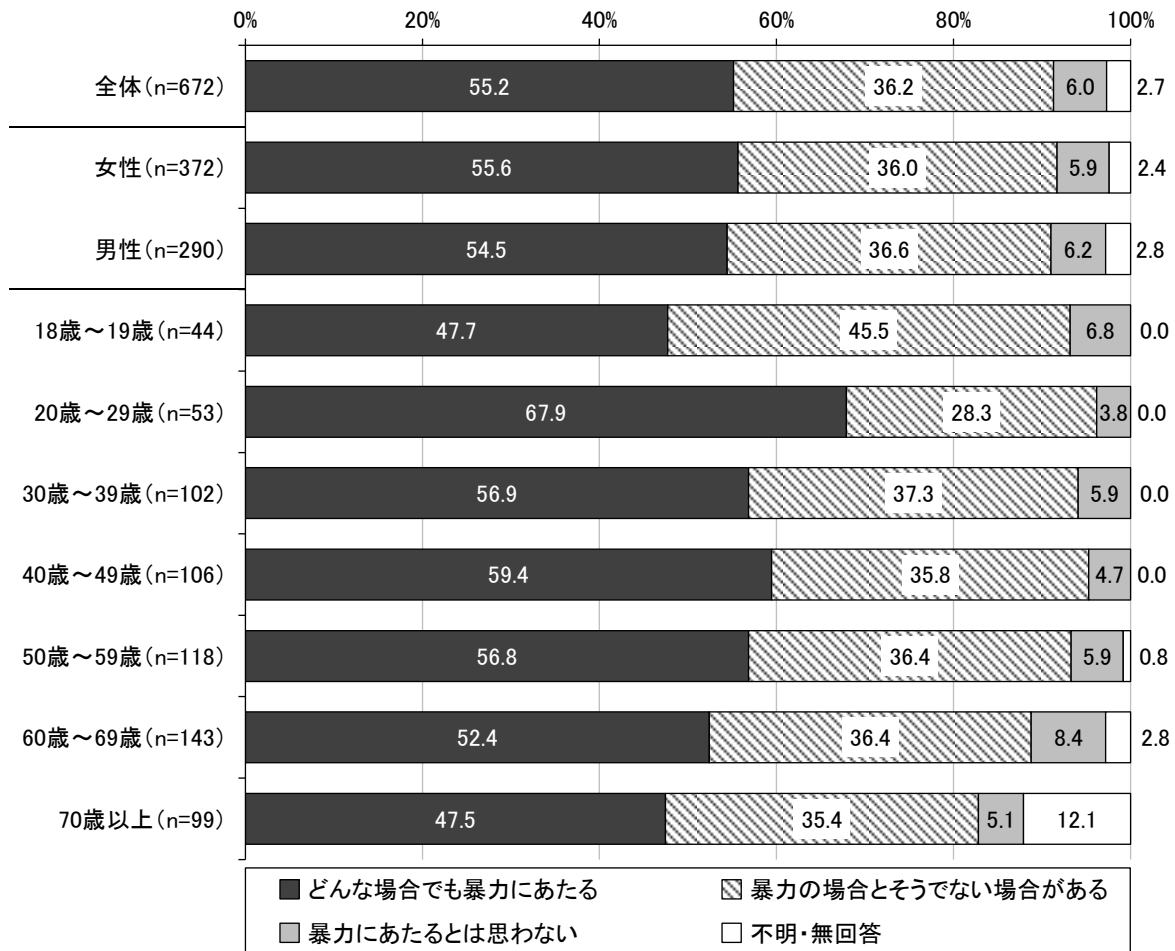
問 23. あなたは、次のようなことが夫婦や恋人の間で行われた場合、暴力にあたると思いますか。
 (ア～タそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

キ. 何を言っても、無視し続ける

全体では「どんな場合でも暴力にあたる」が 55.2%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が 36.2%、「暴力にあたるとは思わない」が 6.0%となっています。

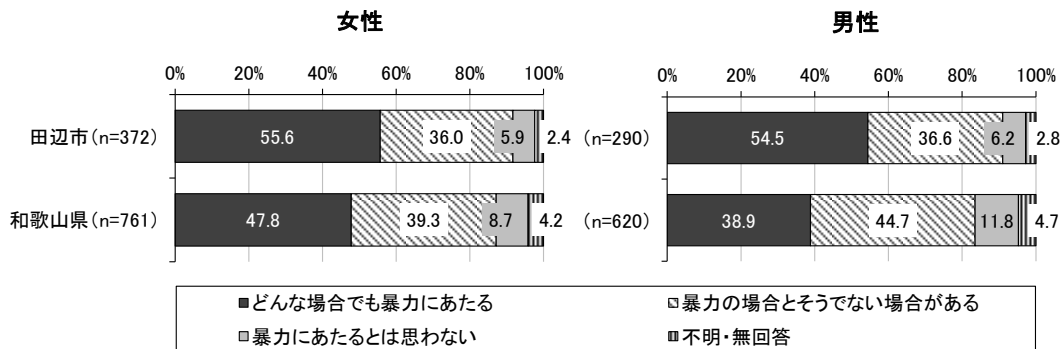
性別にみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。



<和歌山県調査（令和2年度実施）との比較（参考）>

県調査と比較すると、田辺市では、女性、男性ともに「どんな場合でも暴力にあたる」がそれぞれ 7.8 ポイント、15.6 ポイント高くなっています。



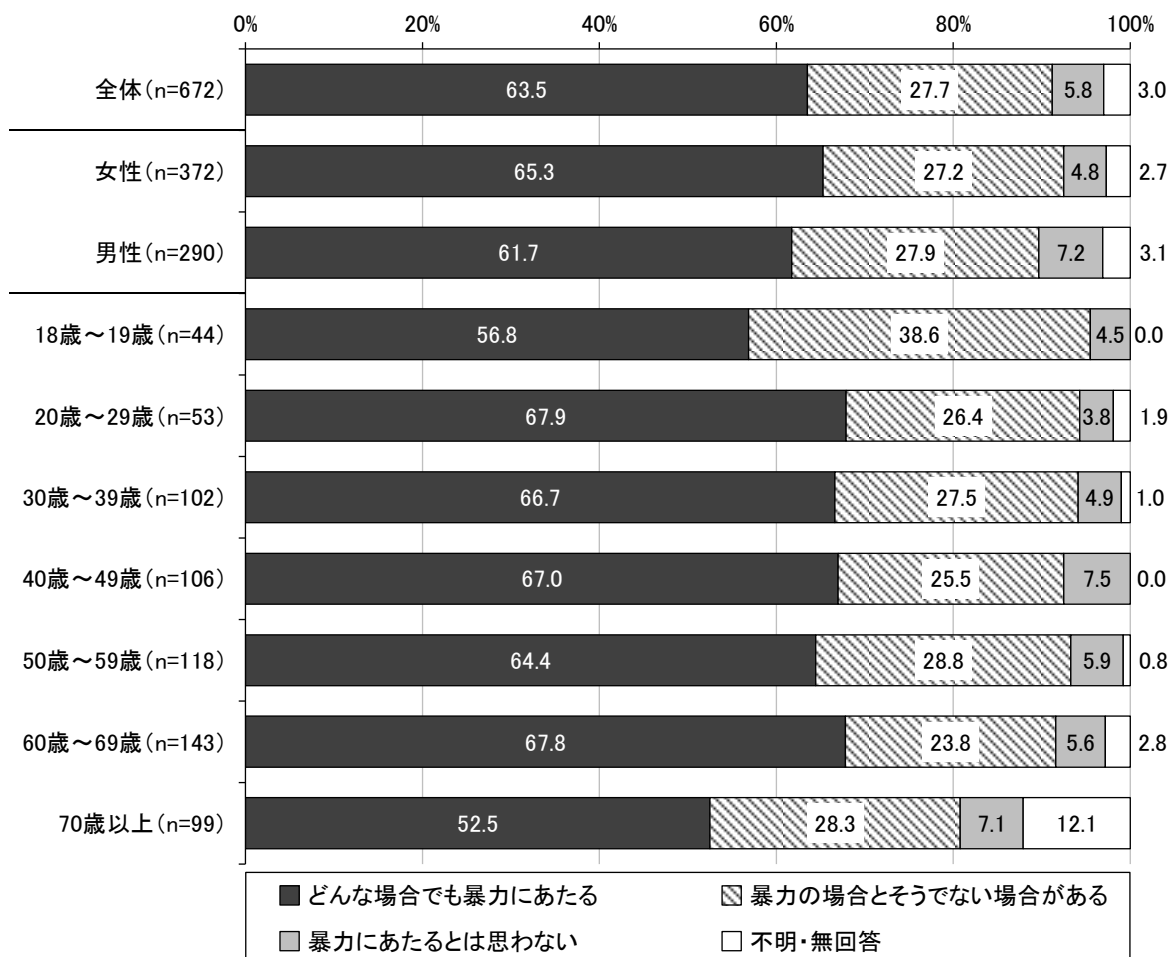
問 23. あなたは、次のようなことが夫婦や恋人の間で行われた場合、暴力にあたると思いますか。
 (ア～タそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ク. 交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する

全体では「どんな場合でも暴力にあたる」が63.5%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が27.7%、「暴力にあたるとは思わない」が5.8%となっています。

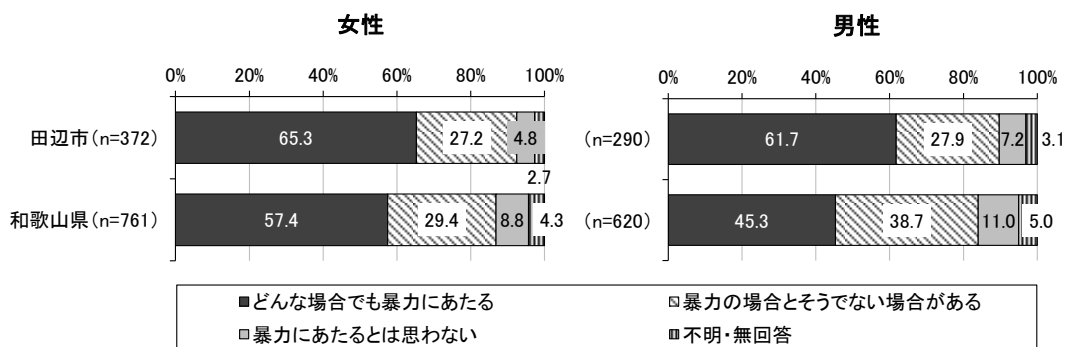
性別にみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。



<和歌山県調査（令和2年度実施）との比較（参考）>

県調査と比較すると、田辺市では、女性、男性ともに「どんな場合でも暴力にあたる」がそれぞれ7.9ポイント、16.4ポイント高くなっています。



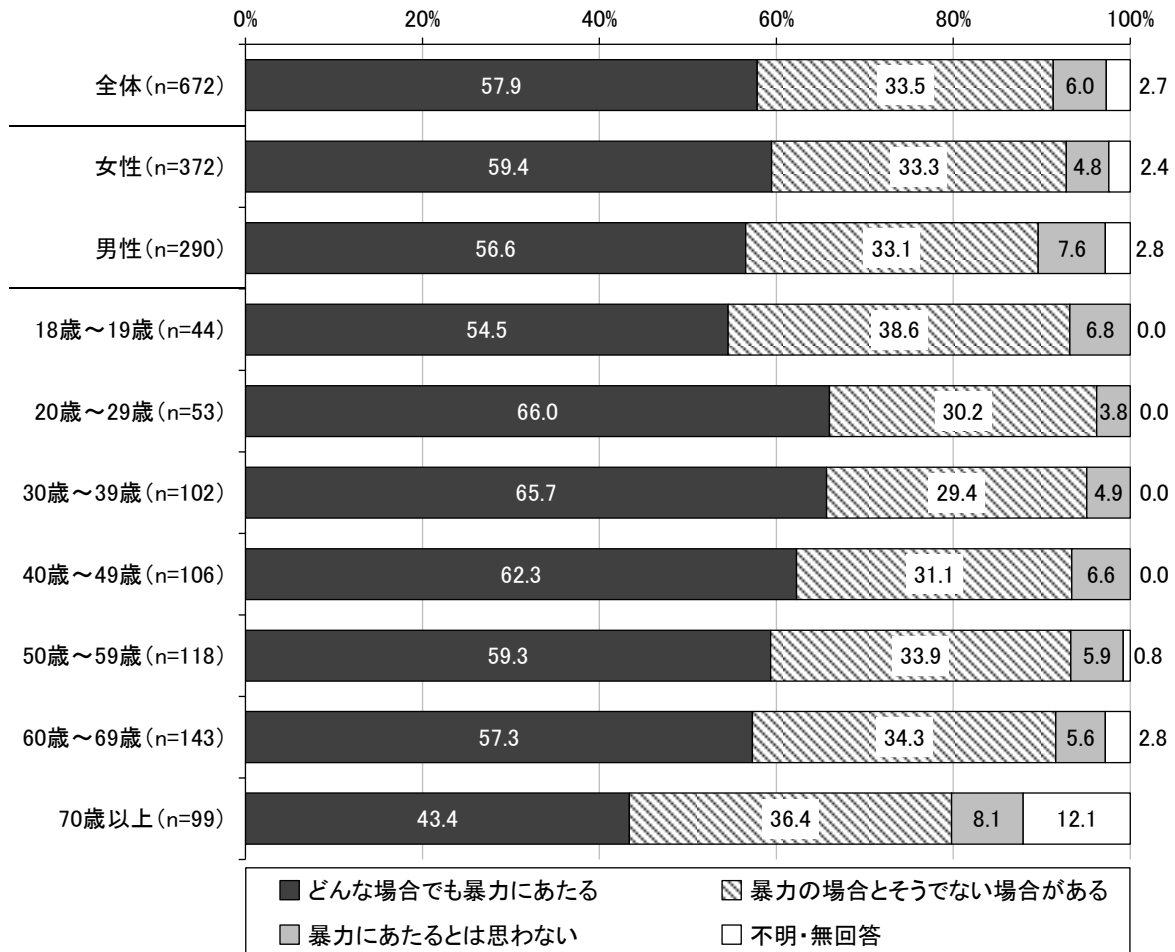
問23. あなたは、次のようなことが夫婦や恋人の間で行われた場合、暴力にあたると思いますか。
(ア～タそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ケ. 実家や友人との付き合いを制限する

全体では「どんな場合でも暴力にあたる」が57.9%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が33.5%、「暴力にあたるとは思わない」が6.0%となっています。

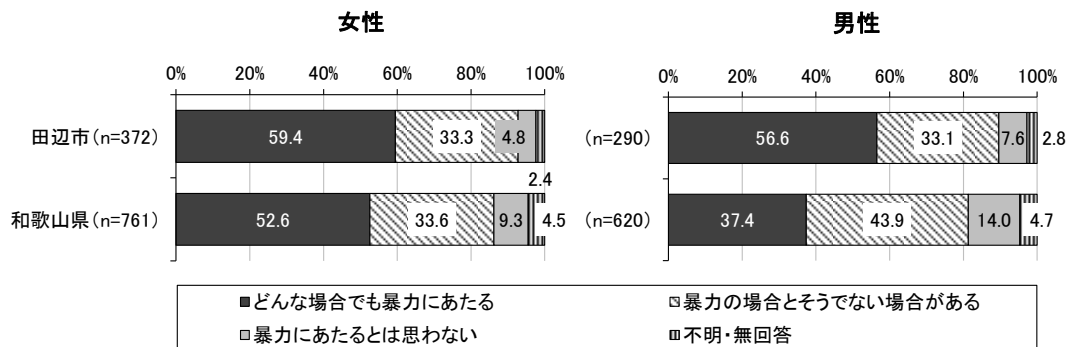
性別にみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。



<和歌山県調査（令和2年度実施）との比較（参考）>

県調査と比較すると、田辺市では、女性、男性ともに「どんな場合でも暴力にあたる」がそれぞれ6.8ポイント、19.2ポイント高くなっています。



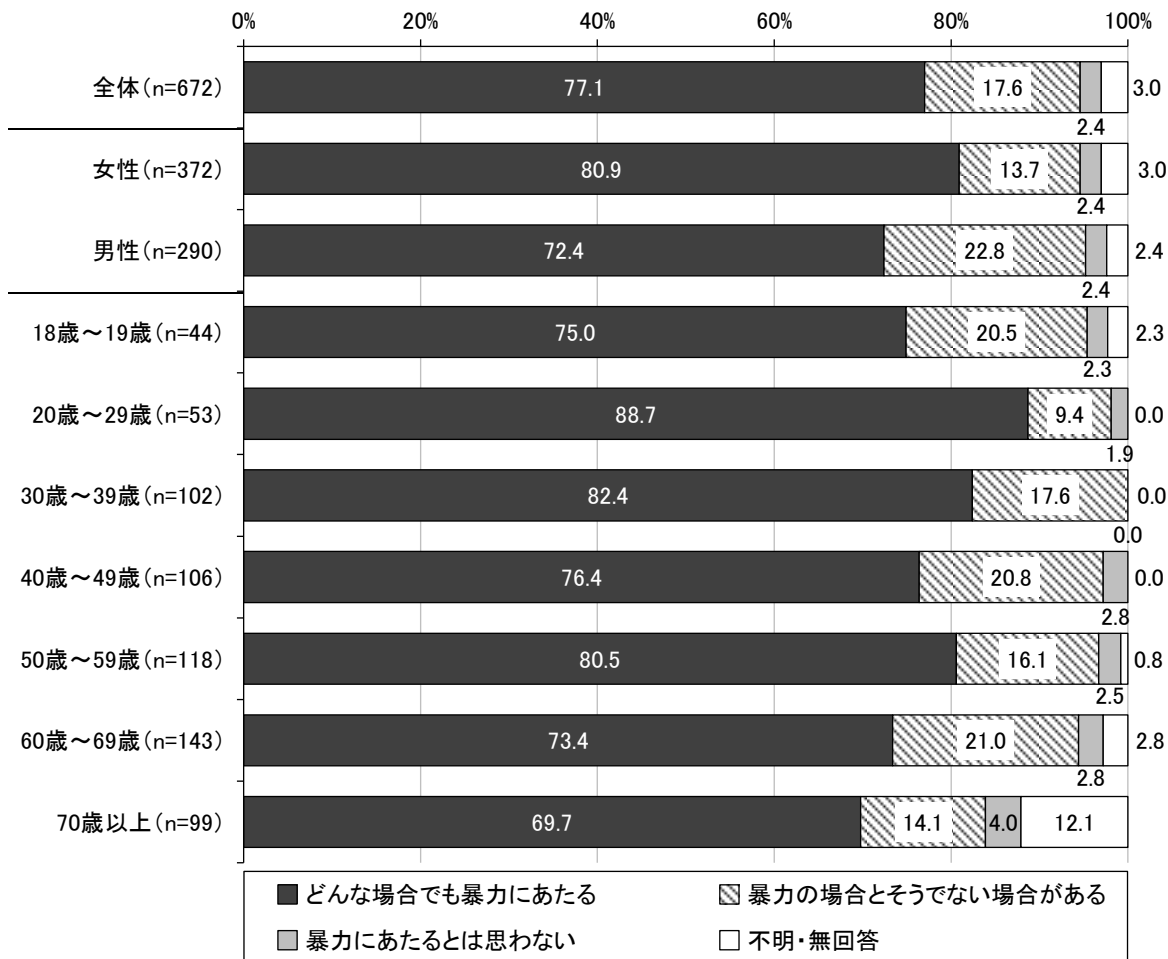
問23. あなたは、次のようなことが夫婦や恋人の間で行われた場合、暴力にあたると思いますか。
 (ア～タそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

コ. 「だれのお陰で生活できるのか」「甲斐性なし」などと言う

全体では「どんな場合でも暴力にあたる」が77.1%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が17.6%、「暴力にあたるとは思わない」が2.4%となっています。

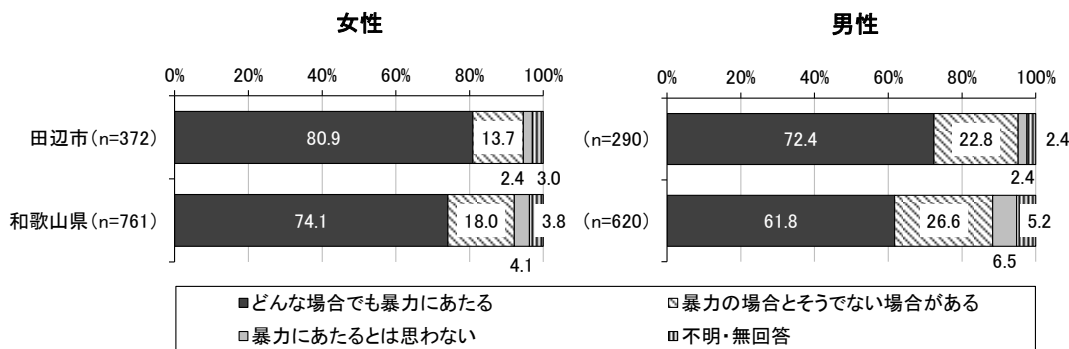
性別にみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。



<和歌山県調査（令和2年度実施）との比較（参考）>

県調査と比較すると、田辺市では、女性、男性ともに「どんな場合でも暴力にあたる」がそれぞれ6.8ポイント、10.6ポイント高くなっています。



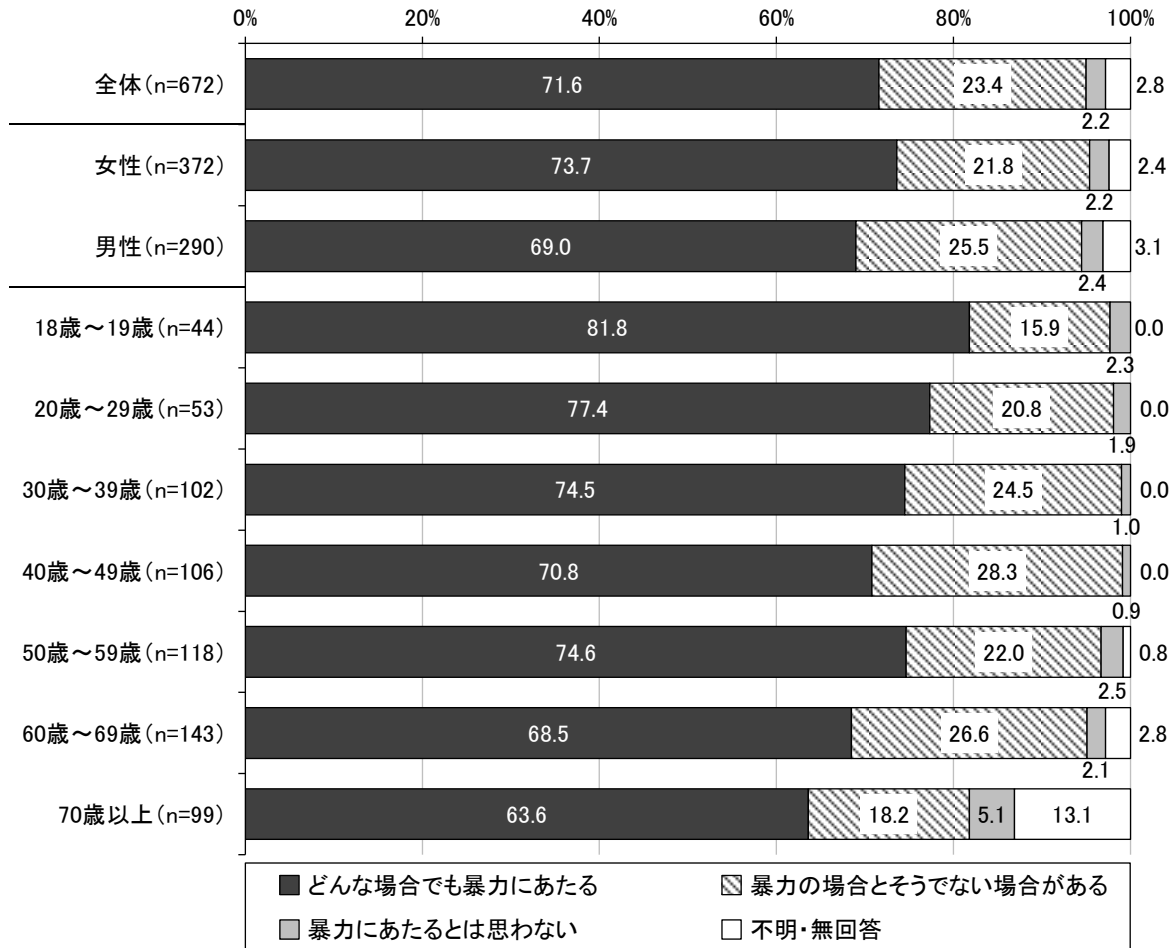
問23. あなたは、次のようなことが夫婦や恋人の間で行われた場合、暴力にあたると思いますか。
(ア～タそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

サ. 大声でどなる

全体では「どんな場合でも暴力にあたる」が71.6%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が23.4%、「暴力にあたるとは思わない」が2.2%となっています。

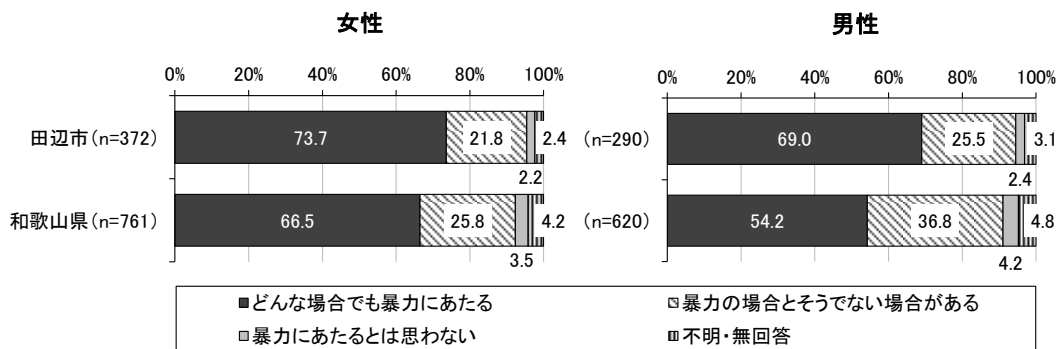
性別にみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。



<和歌山県調査（令和2年度実施）との比較（参考）>

県調査と比較すると、田辺市では、女性、男性ともに「どんな場合でも暴力にあたる」がそれぞれ7.2ポイント、14.8ポイント高くなっています。



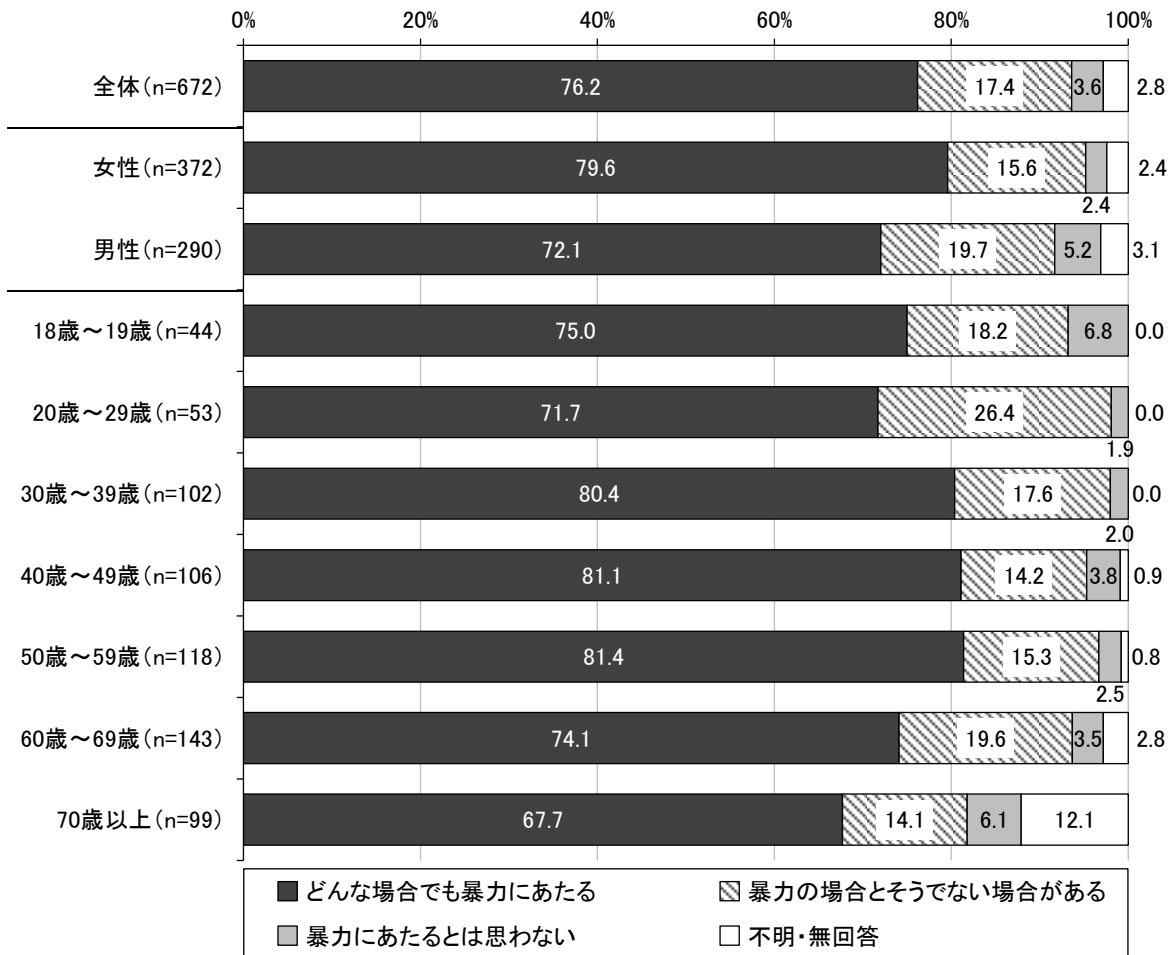
問23. あなたは、次のようなことが夫婦や恋人の間で行われた場合、暴力にあたると思いますか。
 (ア～タそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

シ. 生活費を渡さない

全体では「どんな場合でも暴力にあたる」が76.2%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が17.4%、「暴力にあたるとは思わない」が3.6%となっています。

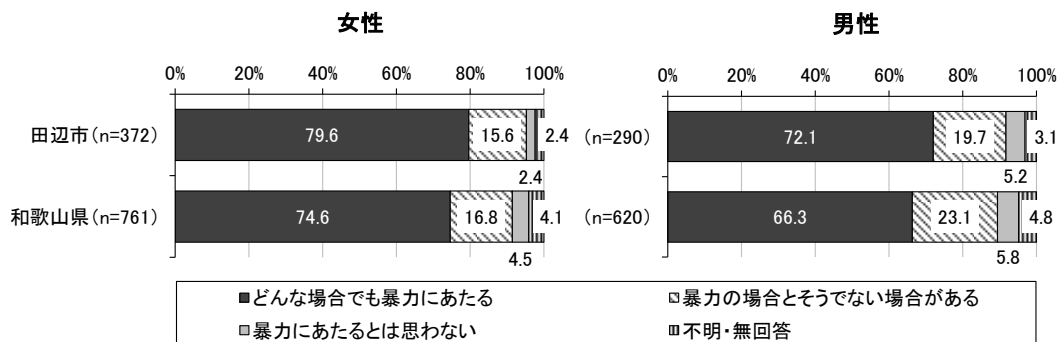
性別にみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。



<和歌山県調査（令和2年度実施）との比較（参考）>

県調査と比較すると、田辺市では、女性、男性ともに「どんな場合でも暴力にあたる」がそれぞれ5.0ポイント、5.8ポイント高くなっています。



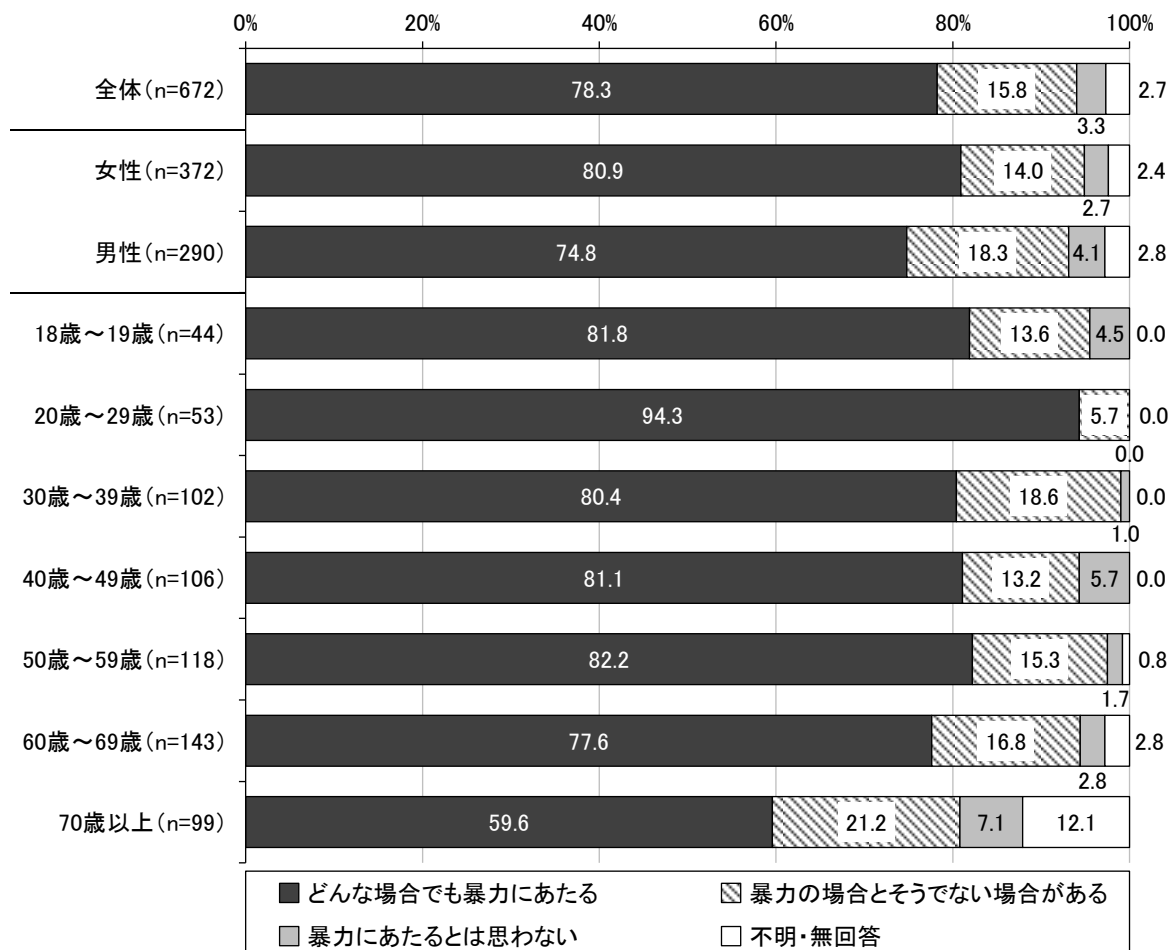
問 23. あなたは、次のようなことが夫婦や恋人の間で行われた場合、暴力にあたると思いますか。
(ア～タそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ス. 避妊に協力しない

全体では「どんな場合でも暴力にあたる」が78.3%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が15.8%、「暴力にあたるとは思わない」が3.3%となっています。

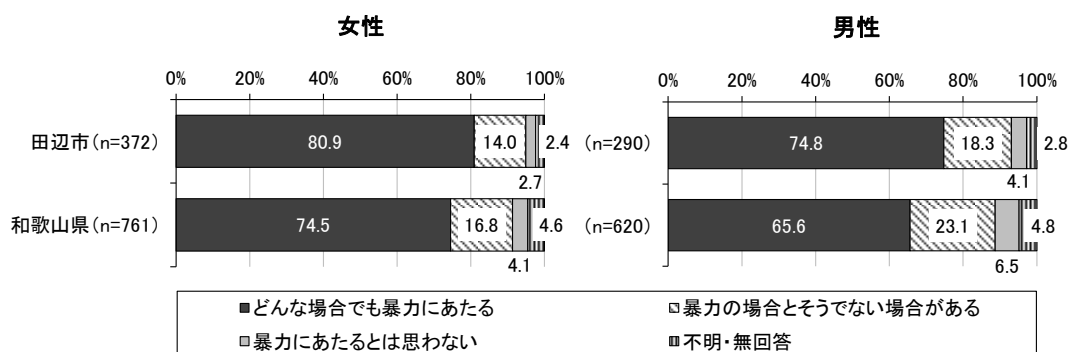
性別にみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。



<和歌山県調査（令和2年度実施）との比較（参考）>

県調査と比較すると、田辺市では、女性、男性ともに「どんな場合でも暴力にあたる」がそれぞれ6.4ポイント、9.2ポイント高くなっています。



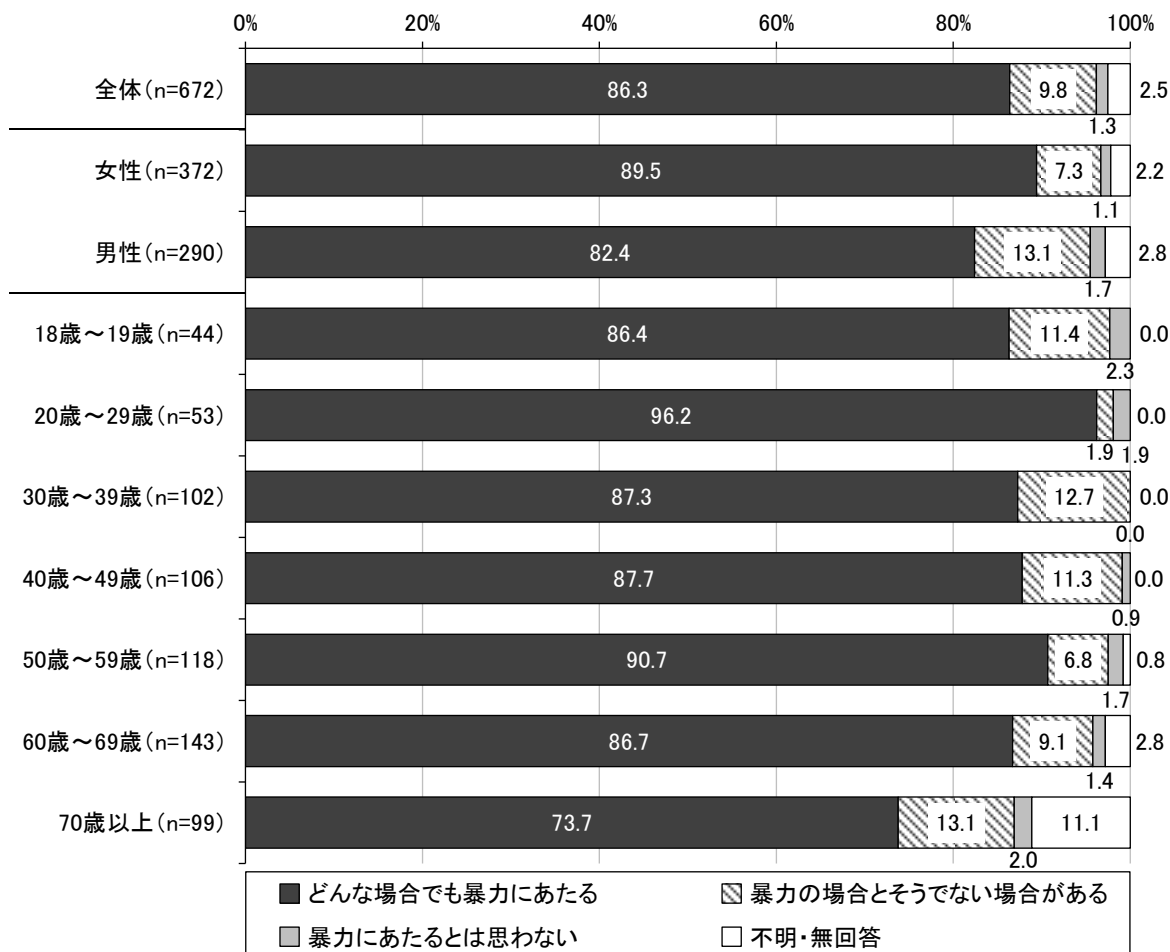
問 23. あなたは、次のようなことが夫婦や恋人の間で行われた場合、暴力にあたると思いますか。
 (ア～タそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

セ. 中絶を強要する

全体では「どんな場合でも暴力にあたる」が86.3%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が9.8%、「暴力にあたるとは思わない」が1.3%となっています。

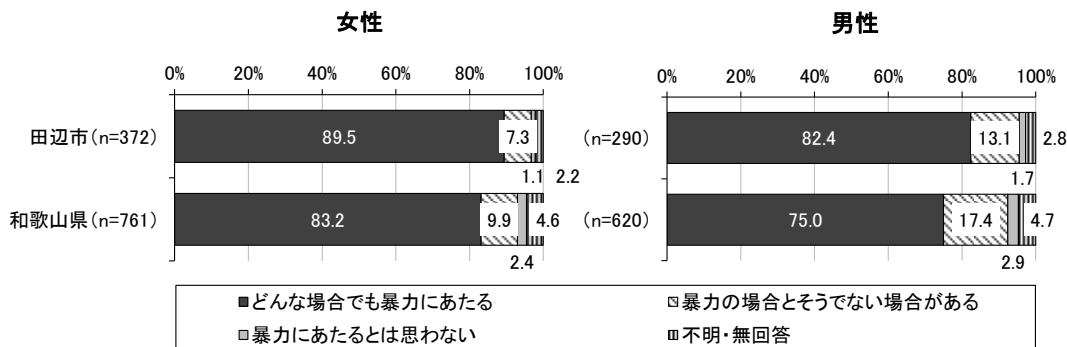
性別にみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。



<和歌山県調査（令和2年度実施）との比較（参考）>

県調査と比較すると、田辺市では、女性、男性ともに「どんな場合でも暴力にあたる」がそれぞれ6.3ポイント、7.4ポイント高くなっています。



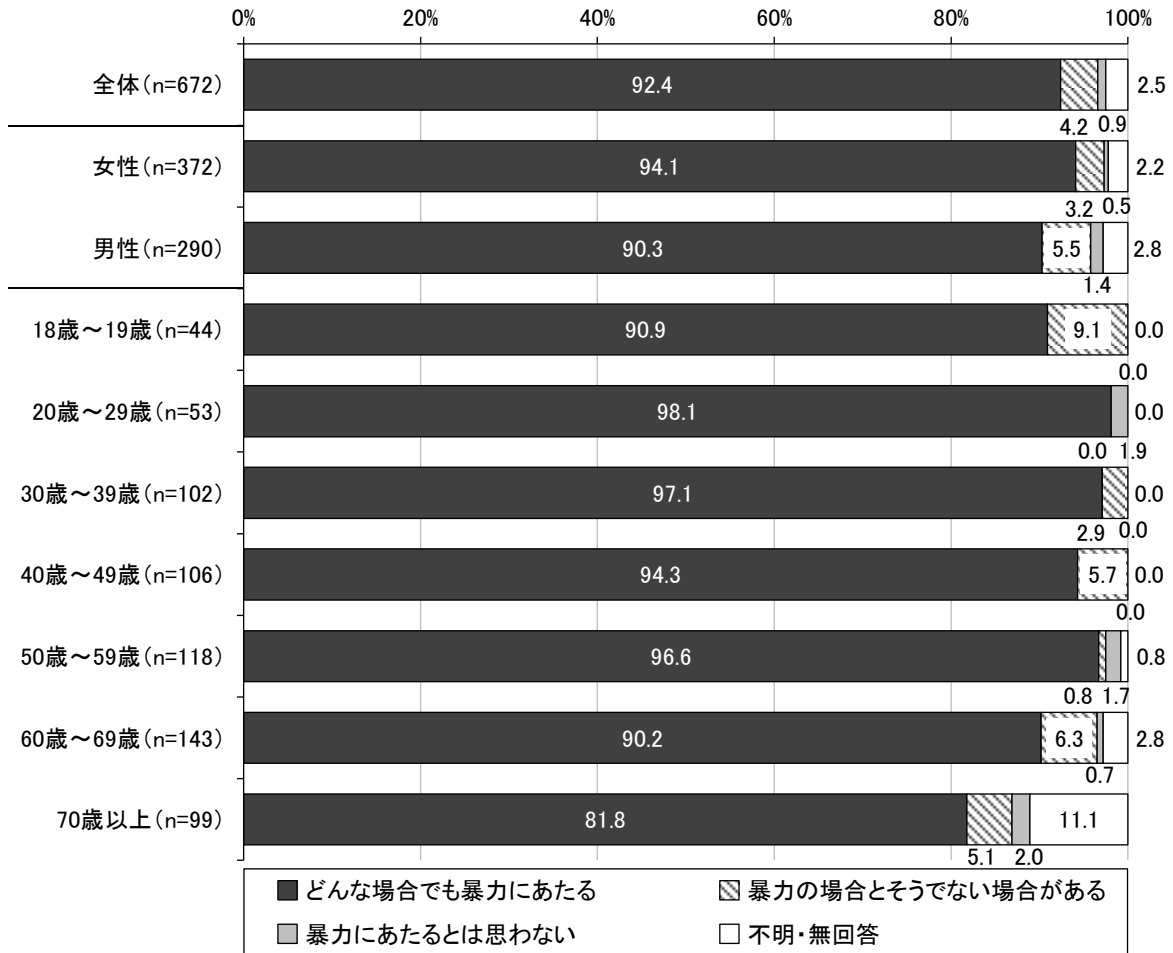
問23. あなたは、次のようなことが夫婦や恋人の間で行われた場合、暴力にあたると思いますか。
(ア～タそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ソ. 子どもに危害を加えると言っておどす

全体では「どんな場合でも暴力にあたる」が92.4%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が4.2%、「暴力にあたるとは思わない」が0.9%となっています。

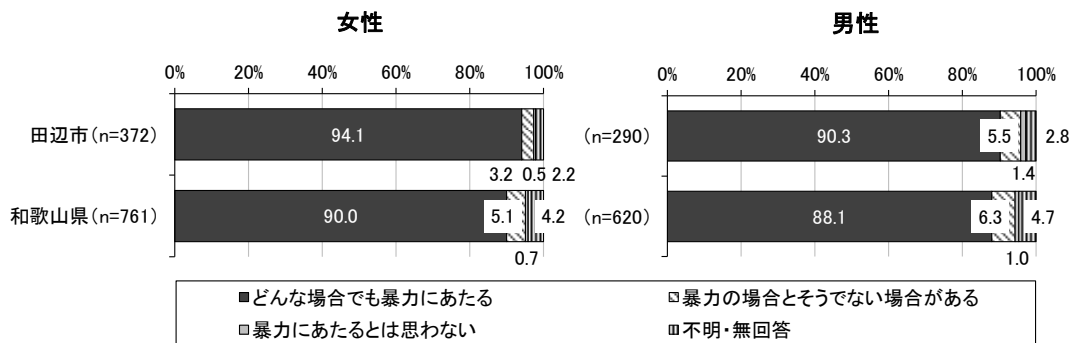
性別にみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。



<和歌山県調査（令和2年度実施）との比較（参考）>

県調査と比較すると、田辺市では、女性、男性ともに「どんな場合でも暴力にあたる」がそれぞれ4.1ポイント、2.2ポイント高くなっています。



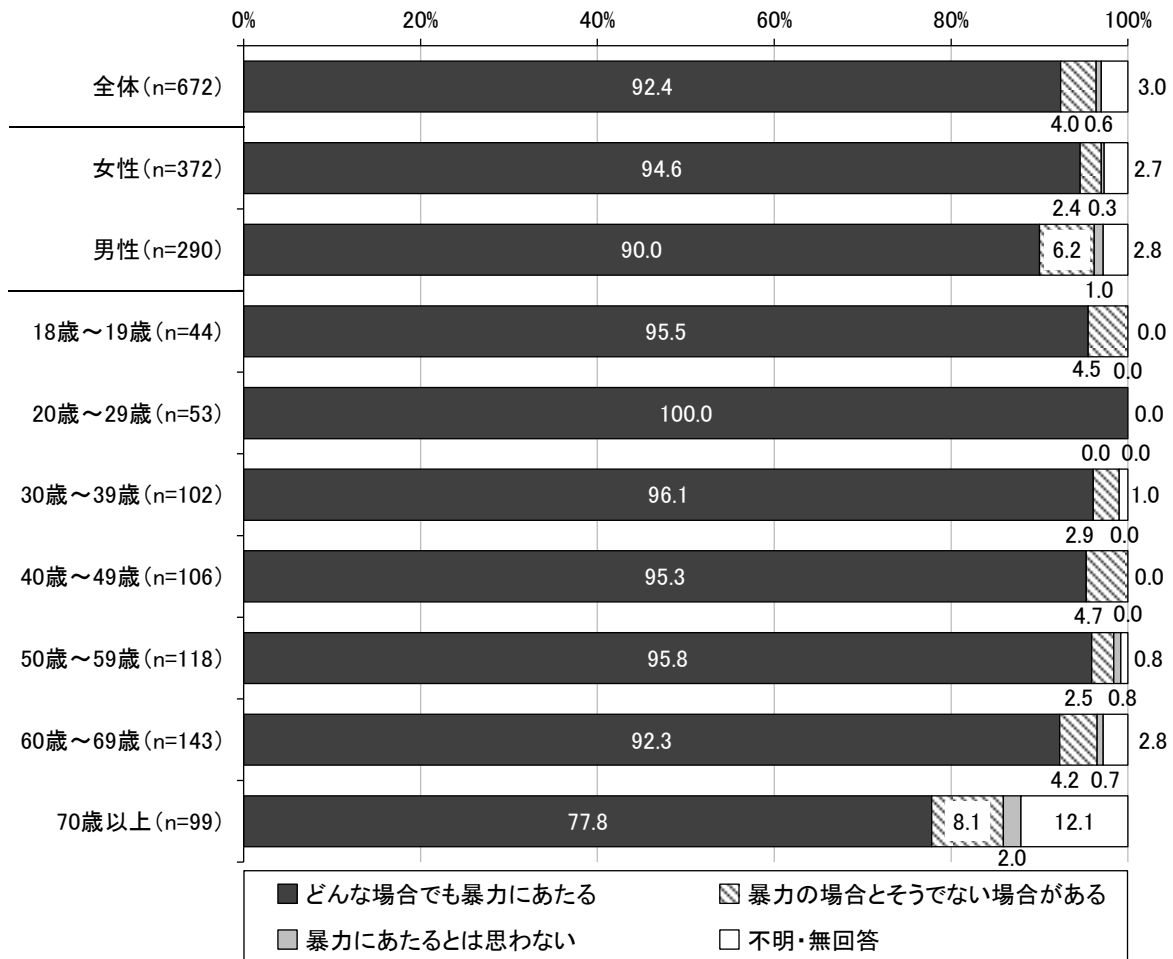
問23. あなたは、次のようなことが夫婦や恋人の間で行われた場合、暴力にあたると思いますか。
 (ア～タそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

タ. 大事にしているペットに危害を加える、物をこわす

全体では「どんな場合でも暴力にあたる」が92.4%と最も高く、次いで「暴力の場合とそうでない場合がある」が4.0%、「暴力にあたるとは思わない」が0.6%となっています。

性別にみると、男女ともに「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「どんな場合でも暴力にあたる」が最も高くなっています。



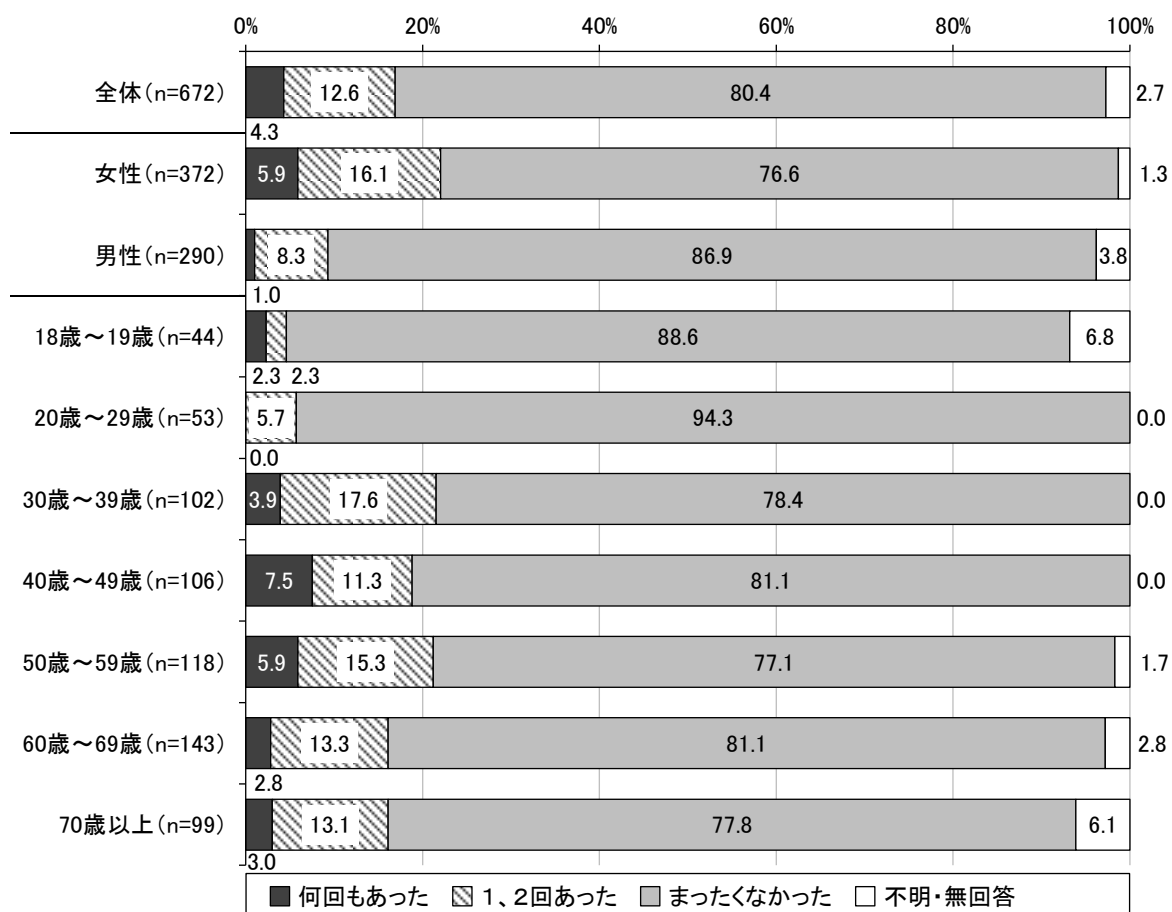
問 24. あなたは、これまでに、配偶者や交際相手から、次のようなことをされた経験はありますか。
 (ア～オそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ア. なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的暴力を受けた

全体では「まったくなかった」が80.4%と最も高く、次いで「1、2回あった」が12.6%、「何回もあった」が4.3%となっています。

性別にみると、男女ともに「まったくなかった」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「まったくなかった」が最も高くなっています。



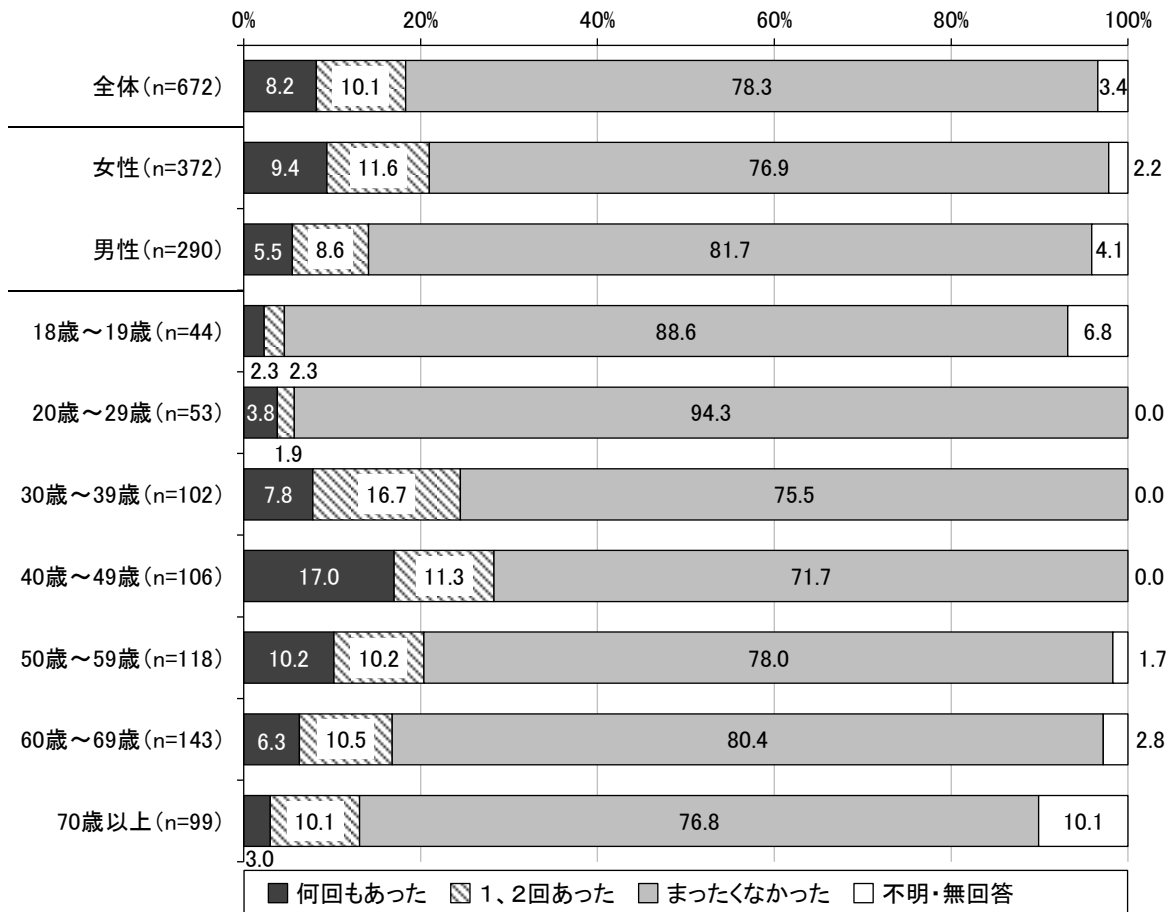
問24. あなたは、これまでに、配偶者や交際相手から、次のようなことをされた経験はありますか。
 (ア～オそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

イ. 人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなどの精神的暴力を受けた

全体では「まったくなかった」が78.3%と最も高く、次いで「1、2回あった」が10.1%、「何回もあった」が8.2%となっています。

性別にみると、男女ともに「まったくなかった」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「まったくなかった」が最も高くなっています。



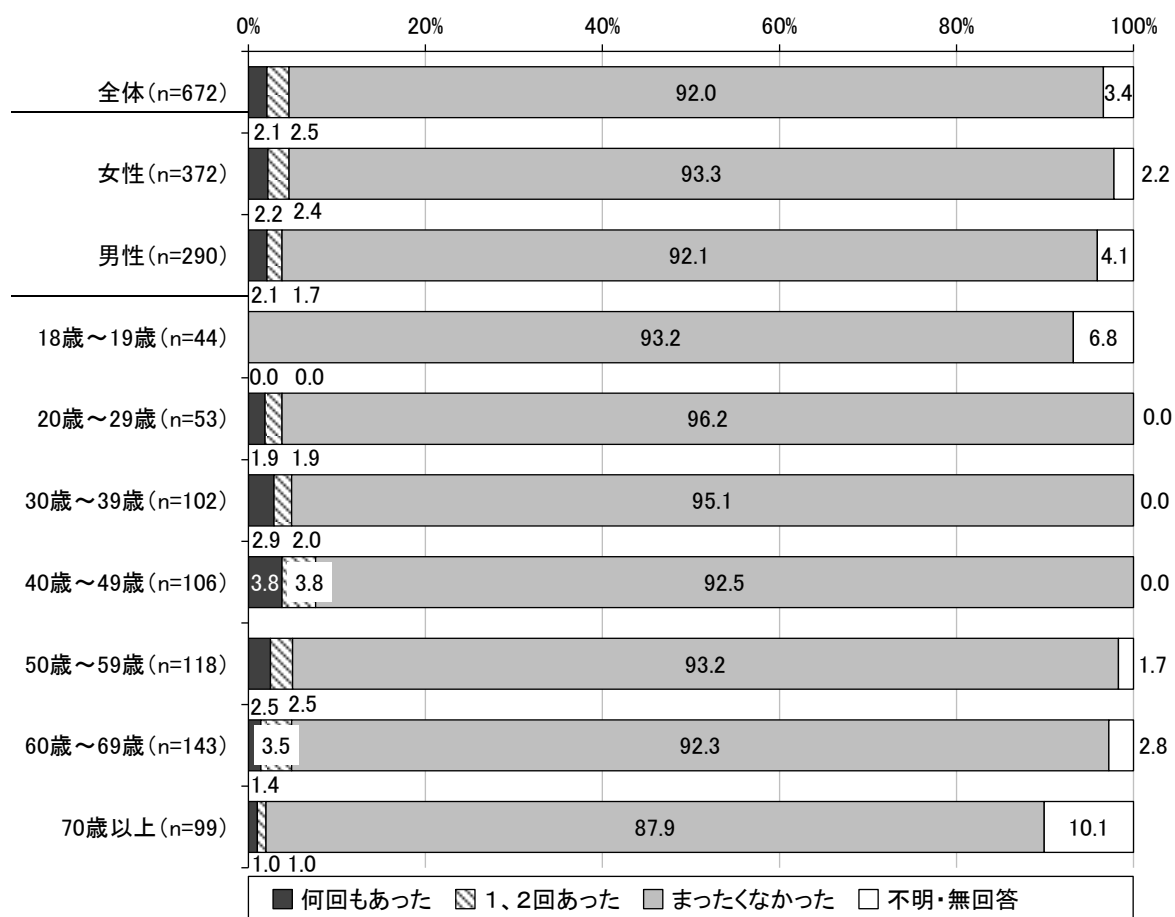
問24. あなたは、これまでに、配偶者や交際相手から、次のようなことをされた経験はありますか。
 (ア～オそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

ウ. 友人や親兄弟に会わせない、外出させない、手紙を勝手に見るなどの社会的暴力を受けた

全体では「まったくなかった」が92.0%と最も高く、次いで「1、2回あった」が2.5%、「何回もあった」が2.1%となっています。

性別にみると、男女ともに「まったくなかった」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「まったくなかった」が最も高くなっています。



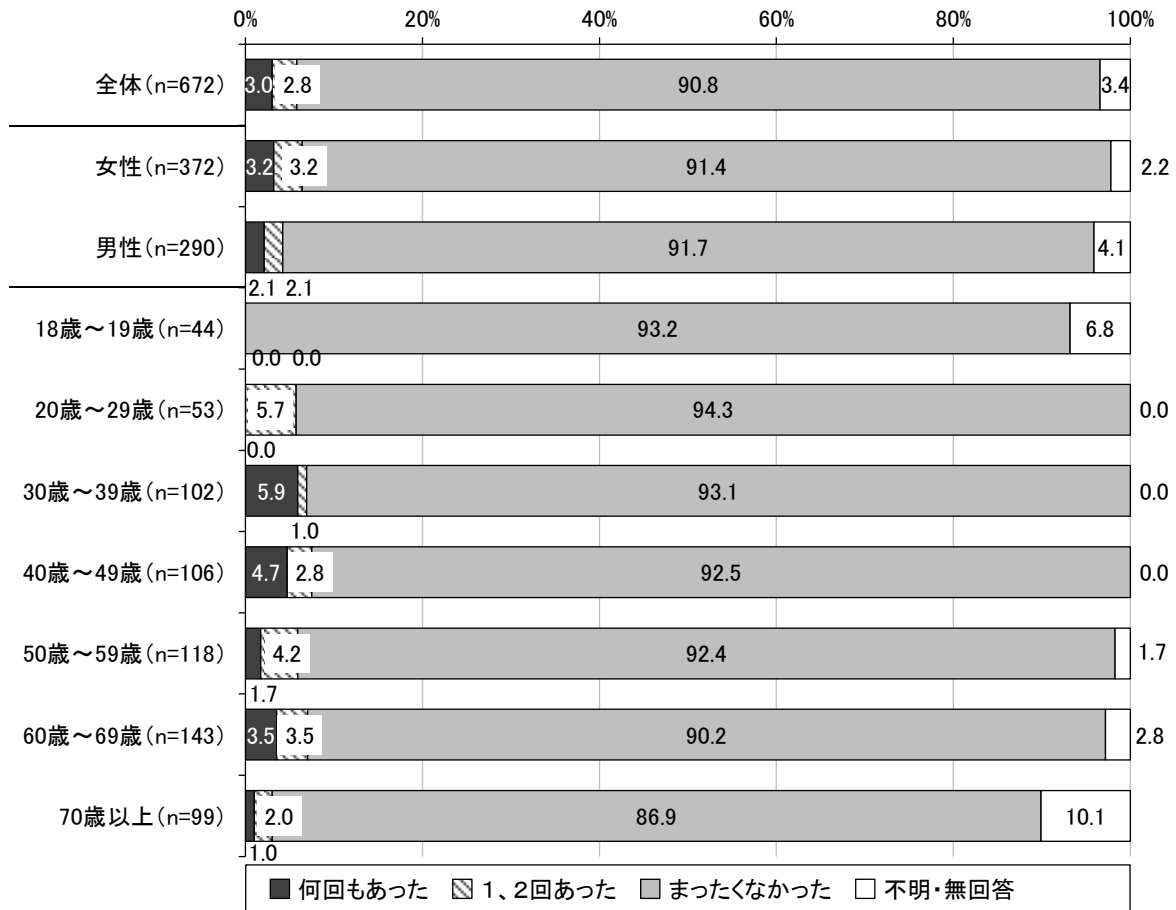
問24. あなたは、これまでに、配偶者や交際相手から、次のようなことをされた経験はありますか。
 (ア～オそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

エ. 生活費を渡さない、借金を強いる、収入を教えないなどの経済的暴力を受けた

全体では「まったくなかった」が90.8%と最も高く、次いで「何回もあった」が3.0%、「1、2回あった」が2.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「まったくなかった」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「まったくなかった」が最も高くなっています。



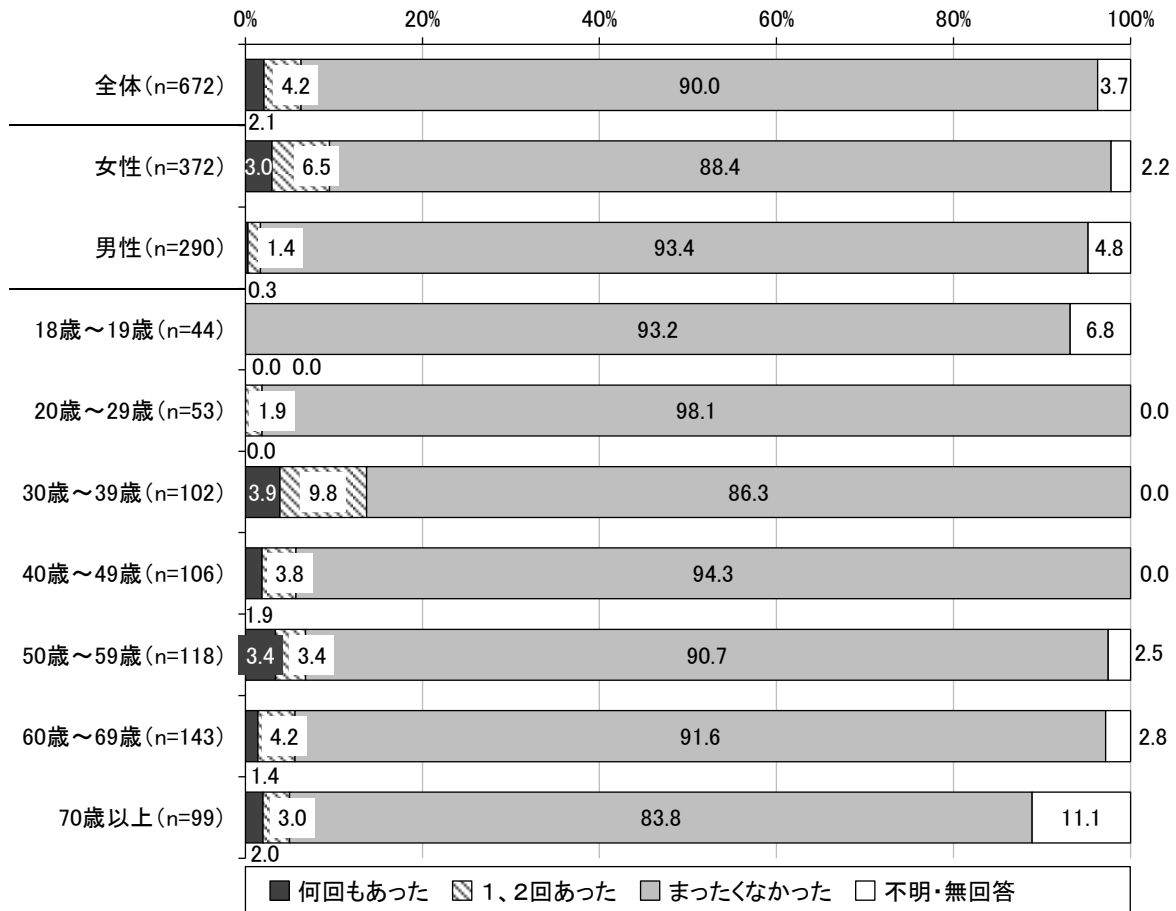
問24. あなたは、これまでに、配偶者や交際相手から、次のようなことをされた経験はありますか。
 (ア～オそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

オ. 見たくないのに、アダルトビデオ等を見せられたり、いやがっているのに性的行為を強要したり、避妊に協力しないなどの性的暴力を受けた

全体では「まったくなかった」が90.0%と最も高く、次いで「1、2回あった」が4.2%、「何回もあった」が2.1%となっています。

性別にみると、男女ともに「まったくなかった」が最も高くなっています。

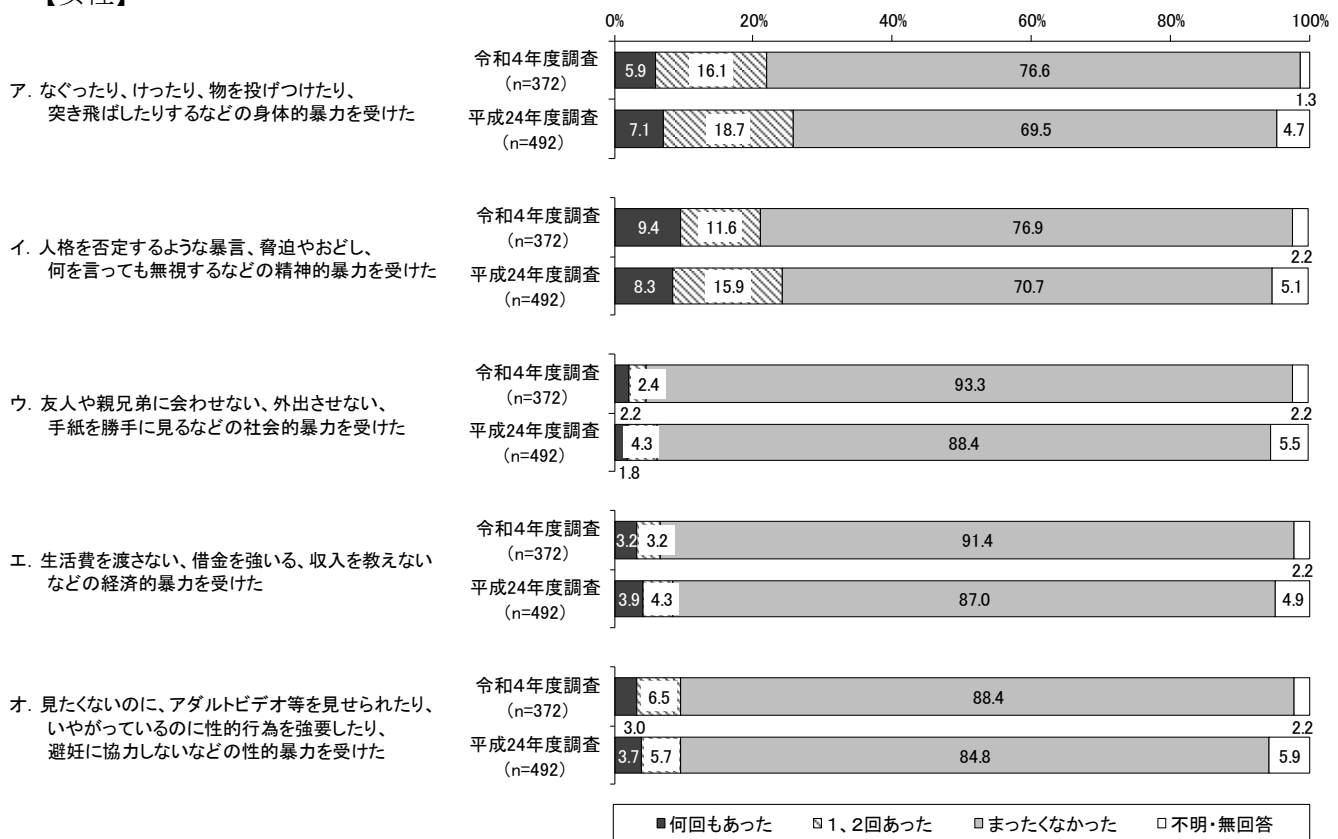
年齢別にみると、すべての年代で「まったくなかった」が最も高くなっています。



問 24. あなたは、これまでに、配偶者や交際相手から、次のようなことをされた経験はありますか。
 (ア～オそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

問 24 前回調査（平成 24 年度）との比較

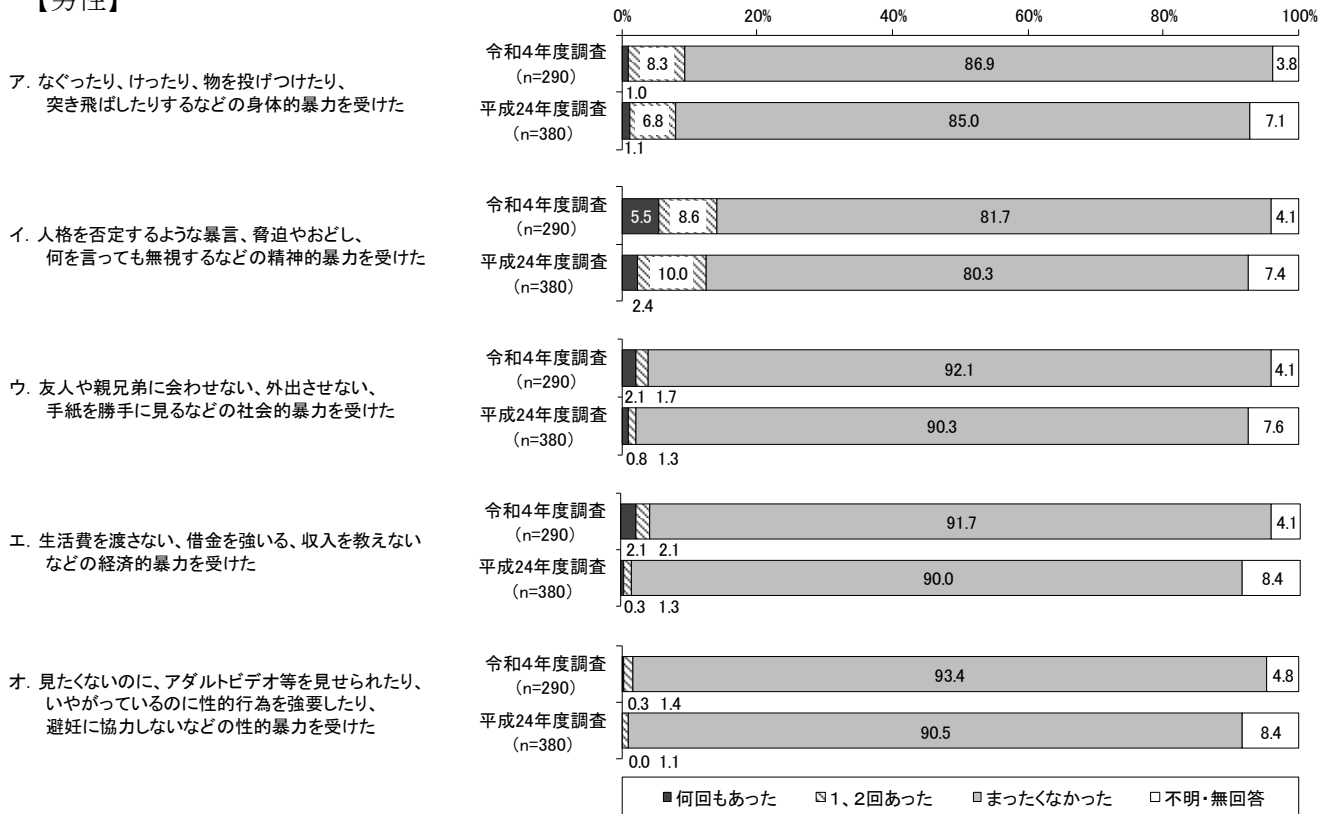
【女性】



配偶者や交際相手から暴力をされた経験について前回調査と比較すると、女性では、『なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的暴力を受けた』について「まったくなかった」が7.1ポイント上昇しています。また、『人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなどの精神的暴力を受けた』について「まったくなかった」が6.2ポイント上昇しています。

問24. あなたは、これまでに、配偶者や交際相手から、次のようなことをされた経験はありますか。
(ア～オそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

【男性】

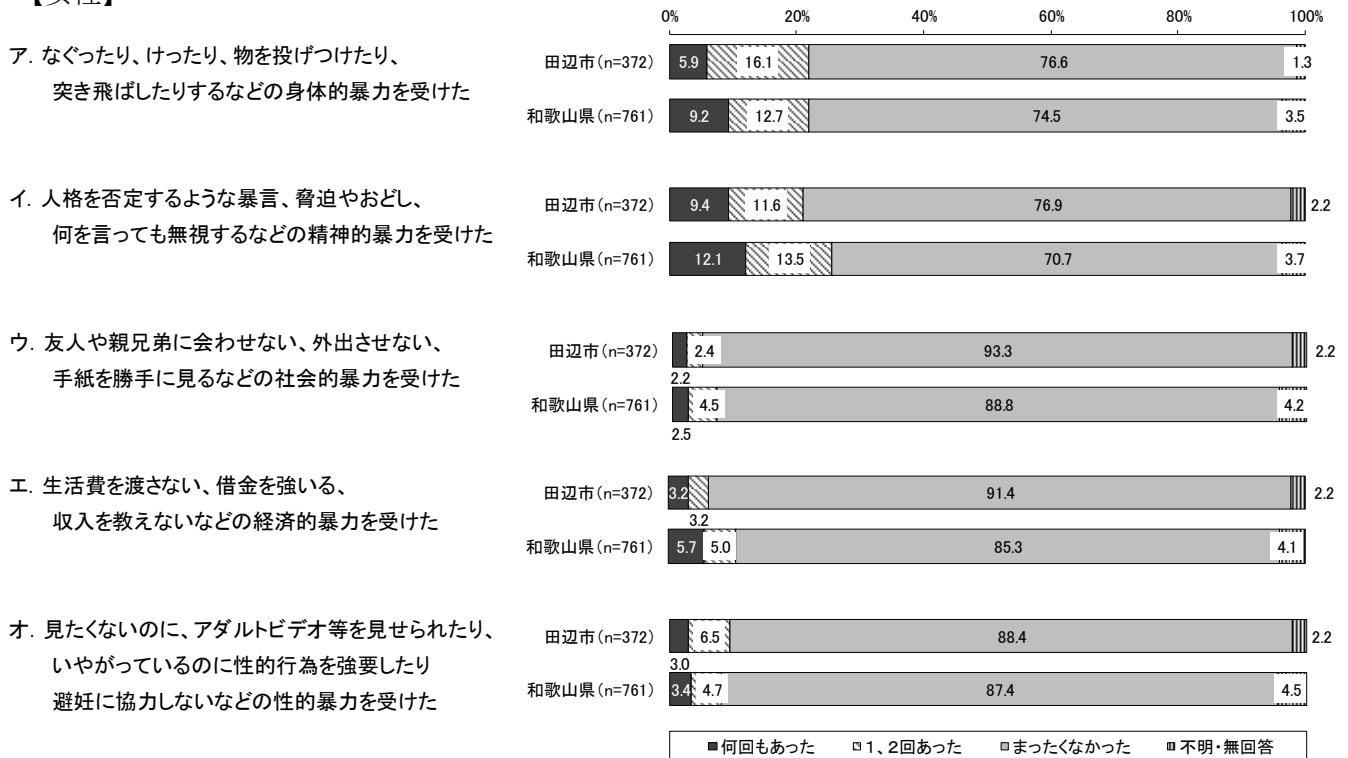


配偶者や交際相手から暴力をされた経験について前回調査と比較すると、男性では、『人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなどの精神的暴力を受けた』について「何回もあった」が3.1ポイント上昇しています。また、『見たくないのに、アダルトビデオ等を見せられたり、いやがっているのに性的行為を強要したり、避妊に協力しないなどの性的暴力を受けた』について「まったくなかった」が2.9ポイント上昇しています。

問24. あなたは、これまでに、配偶者や交際相手から、次のようなことをされた経験はありますか。
 (ア～オそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

問24 和歌山県調査（令和2年度実施）との比較（参考）

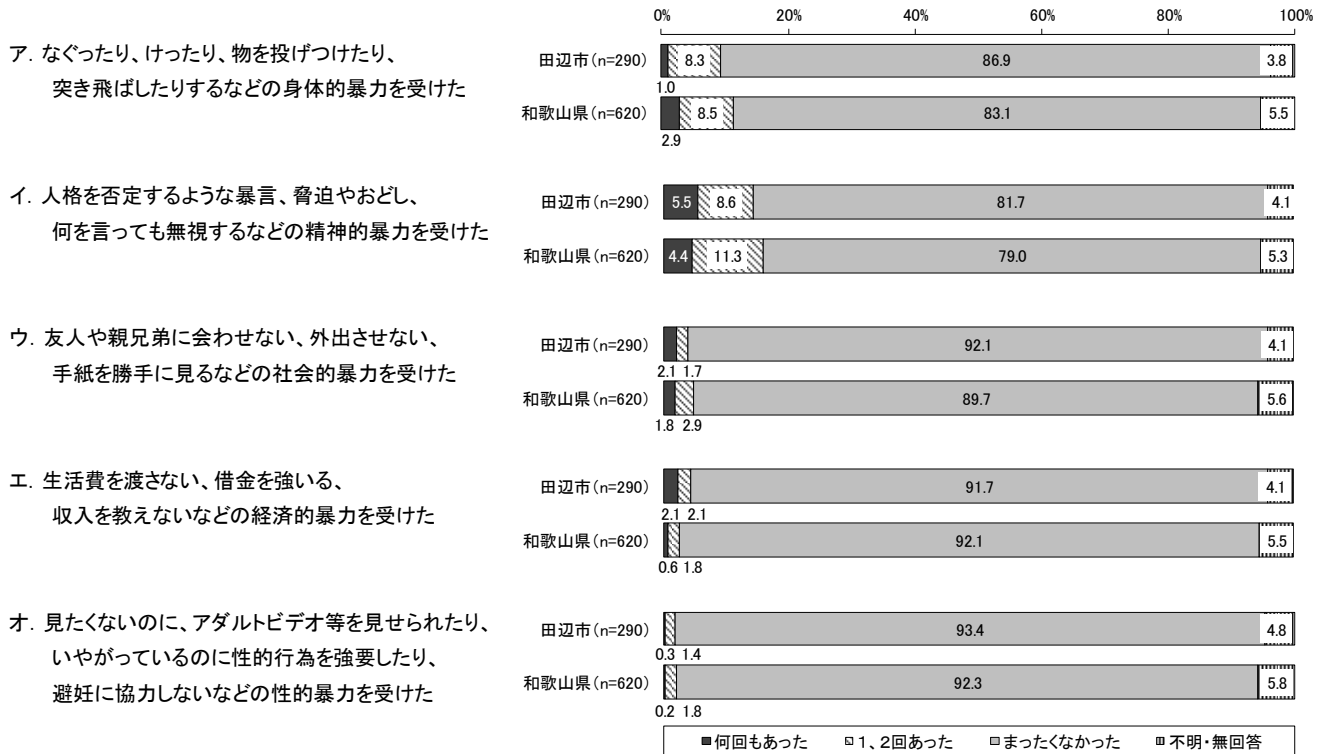
【女性】



暴力を受けた経験について県調査と比較すると、田辺市の女性では、『人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなどの精神的暴力を受けた』について、「まったくなかった」が6.2ポイント高くなっています。また、『生活費を渡さない、借金を強いる、収入を教えないなどの経済的暴力を受けた』について、「まったくなかった」が6.1ポイント高くなっています。

問 24. あなたは、これまでに、配偶者や交際相手から、次のようなことをされた経験はありますか。
 (ア～オそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

【男性】



暴力を受けた経験について県調査と比較すると、田辺市の男性では、『なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的暴力を受けた』について、「まったくなかった」が3.8ポイント高くなっています。また、『人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなどの精神的暴力を受けた』について、「まったくなかった」が2.7ポイント高くなっています。

問 24 で「何回もあった」「1、2回あった」と答えた方

問 25. 暴力があった時点でのあなたと相手との関係をお答えください。

(あてはまるものすべてに○)

全体では「配偶者」が 60.3%と最も高く、次いで「元交際相手」が 14.5%、「交際相手」が 12.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「配偶者」が最も高くなっています。

年齢別にみると、30歳代以上では「配偶者」が最も高くなっています。

単位：%		配偶者	元配偶者	交際相手	元交際相手	その他	不明・無回答
全体(n=179)		60.3	11.2	12.8	14.5	3.4	6.1
性別	女性(n=116)	61.2	12.9	16.4	14.7	2.6	3.4
	男性(n=58)	55.2	8.6	6.9	15.5	5.2	12.1
年齢別	18歳～19歳(n=3)	33.3	0.0	0.0	33.3	33.3	0.0
	20歳～29歳(n=4)	25.0	0.0	50.0	25.0	0.0	0.0
	30歳～39歳(n=34)	41.2	14.7	20.6	32.4	0.0	0.0
	40歳～49歳(n=38)	50.0	18.4	15.8	18.4	2.6	10.5
	50歳～59歳(n=35)	65.7	11.4	14.3	5.7	5.7	2.9
	60歳～69歳(n=38)	76.3	2.6	5.3	7.9	5.3	10.5
	70歳以上(n=24)	75.0	12.5	4.2	4.2	0.0	8.3

問 24 で「何回もあった」「1、2回あった」と答えた方

問 26. あなたはそのことを、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。

(あてはまるものすべてに○)

全体では「相談しなかった」が 48.6%と最も高く、次いで「家族」が 29.1%、「友人」が 25.7%となっています。

性別にみると、男女ともに「相談しなかった」が最も高くなっています。

年齢別にみると、40 歳代では「家族」、それ以外の年代では「相談しなかった」が最も高くなっています。

単位:%		家族	友人	警察	弁護士	医師・カウンセラー	市や県の窓口	学校・職場	その他	相談しなかった	不明・無回答
全体(n=179)		29.1	25.7	1.7	3.4	2.8	2.8	2.8	1.7	48.6	5.0
性別	女性(n=116)	37.1	29.3	2.6	2.6	3.4	2.6	2.6	0.9	42.2	2.6
	男性(n=58)	12.1	20.7	0.0	5.2	1.7	1.7	3.4	1.7	62.1	10.3
年齢別	18歳～19歳(n=3)	0.0	66.7	0.0	0.0	0.0	0.0	33.3	0.0	33.3	0.0
	20歳～29歳(n=4)	75.0	75.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	30歳～39歳(n=34)	20.6	35.3	0.0	5.9	2.9	0.0	0.0	2.9	55.9	0.0
	40歳～49歳(n=38)	36.8	31.6	2.6	7.9	0.0	5.3	7.9	2.6	31.6	10.5
	50歳～59歳(n=35)	34.3	31.4	5.7	2.9	2.9	2.9	2.9	0.0	45.7	0.0
	60歳～69歳(n=38)	26.3	10.5	0.0	0.0	5.3	2.6	0.0	0.0	55.3	7.9
	70歳以上(n=24)	25.0	8.3	0.0	0.0	4.2	4.2	0.0	0.0	66.7	8.3

問 26 で「相談しなかった」と答えた方

問 27. どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。（あてはまるものすべてに○）

全体では「相談するほどのことではないと思ったから」が 49.4%と最も高く、次いで「相談しても無駄だと思ったから」が 40.0%、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」「自分にも悪いところがあると思ったから」が 24.7%となっています。

性別にみると、女性では「相談しても無駄だと思ったから」、男性では「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高くなっています。

年齢別にみると、40 歳代では「相談しても無駄だと思ったから」、30 歳代、50 歳代以上では「相談するほどのことではないと思ったから」が最も高くなっています。

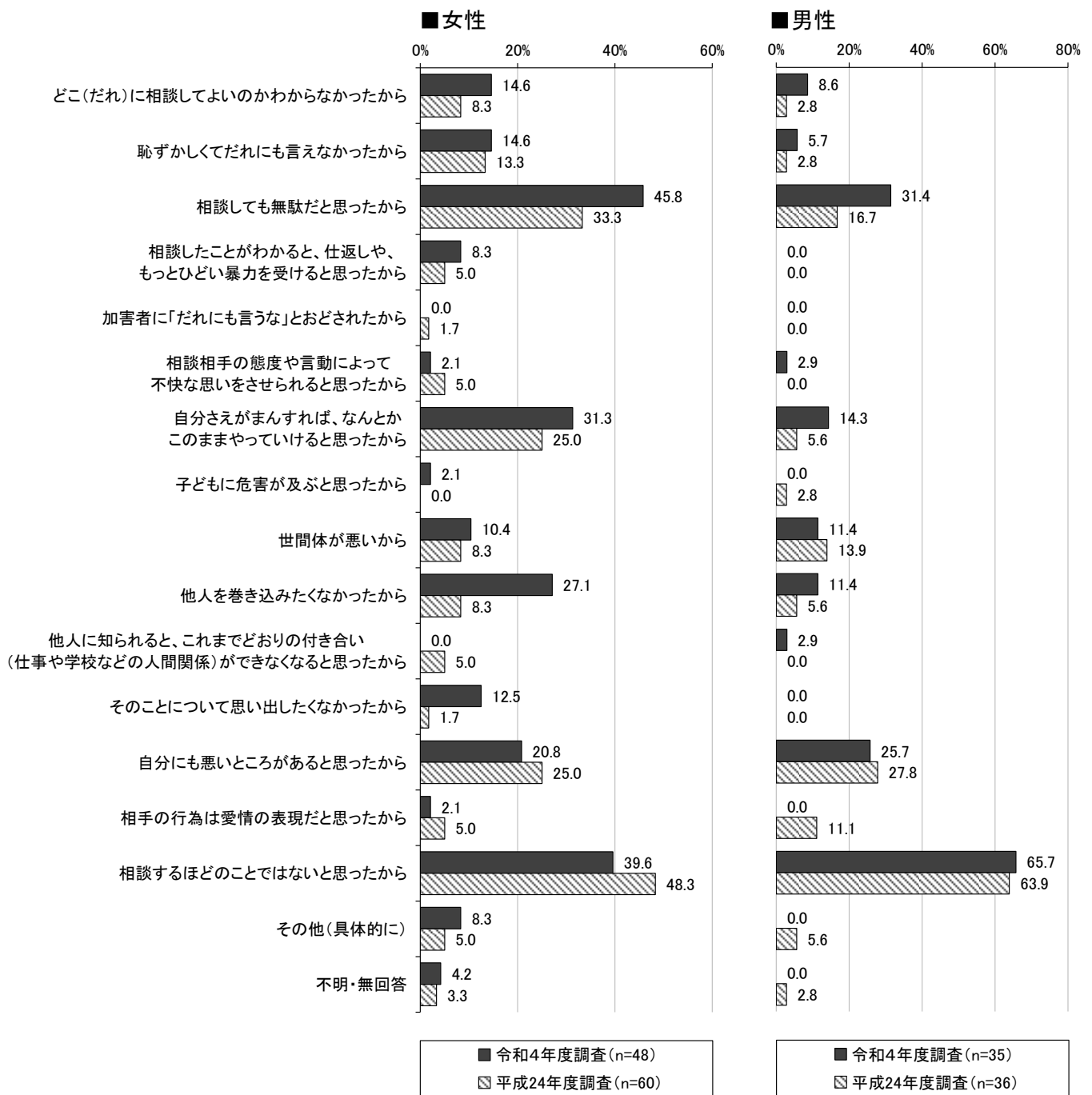
単位：%		どこ（だれ）にも相談してよいかわからなかったから	恥ずかしくてだれにも言えなかったから	相談しても無駄だと思ったから	相談したことがわかると、仕返しや、もっとひどい暴力を受けると思ったから	加害者に「だれにも言うな」とおどされたから	相談相手の態度や言動によって不快な思いをさせられると思ったから	自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから	子どもに危害が及ぶと思ったから	世間体が悪いから	他人を巻き込みたくなかったから	他人に知られると、これまでどおりの付き合いができなくなると思ったから	そのことについて思い出さなくなかったから	自分にも悪いところがあると思ったから	相手の行為は愛情の表現だと思ったから	相談するほどのことではないと思ったから	その他	不明・無回答	
全体	(n=85)	11.8	11.8	40.0	4.7	0.0	2.4	24.7	1.2	11.8	20.0	1.2	7.1	24.7	1.2	49.4	4.7	2.4	
性別	女性	(n=48)	14.6	14.6	45.8	8.3	0.0	2.1	31.3	2.1	10.4	27.1	0.0	12.5	20.8	2.1	39.6	8.3	4.2
	男性	(n=35)	8.6	5.7	31.4	0.0	0.0	2.9	14.3	0.0	11.4	11.4	2.9	0.0	25.7	0.0	65.7	0.0	0.0
年齢別	18 歳~19 歳	(n=1)	0.0	0.0	100.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0	0.0
	20 歳~29 歳	(n=0)																	
	30 歳~39 歳	(n=19)	21.1	15.8	42.1	15.8	0.0	5.3	15.8	0.0	10.5	21.1	0.0	15.8	5.3	0.0	57.9	0.0	0.0
	40 歳~49 歳	(n=12)	8.3	0.0	66.7	8.3	0.0	0.0	50.0	0.0	16.7	16.7	0.0	8.3	25.0	0.0	58.3	0.0	0.0
	50 歳~59 歳	(n=15)	0.0	6.7	26.7	0.0	0.0	0.0	13.3	0.0	6.7	13.3	0.0	0.0	20.0	0.0	53.3	0.0	6.7
	60 歳~69 歳	(n=21)	14.3	23.8	33.3	0.0	0.0	0.0	19.0	4.8	19.0	23.8	4.8	9.5	33.3	0.0	42.9	9.5	4.8
	70 歳以上	(n=15)	13.3	0.0	33.3	0.0	0.0	6.7	33.3	0.0	0.0	26.7	0.0	0.0	33.3	6.7	46.7	13.3	0.0

※20 歳~29 歳 (n=0) のため掲載していません。

その他の内容	件数
あやまれたから	1
その時の家庭の事情のときに・・・説明が難しい	1
酔っていたから	1
平手うちだったので平手打ちをやり返した。そしたら私に対して平手打ちをしてもなんの効果もないのがわかったのかそれ以来しない。暴力には屈しない姿勢を見せた	1

問 27. どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。
 (あてはまるものすべてに○)

問 27 前回調査 (平成 24 年度) との比較



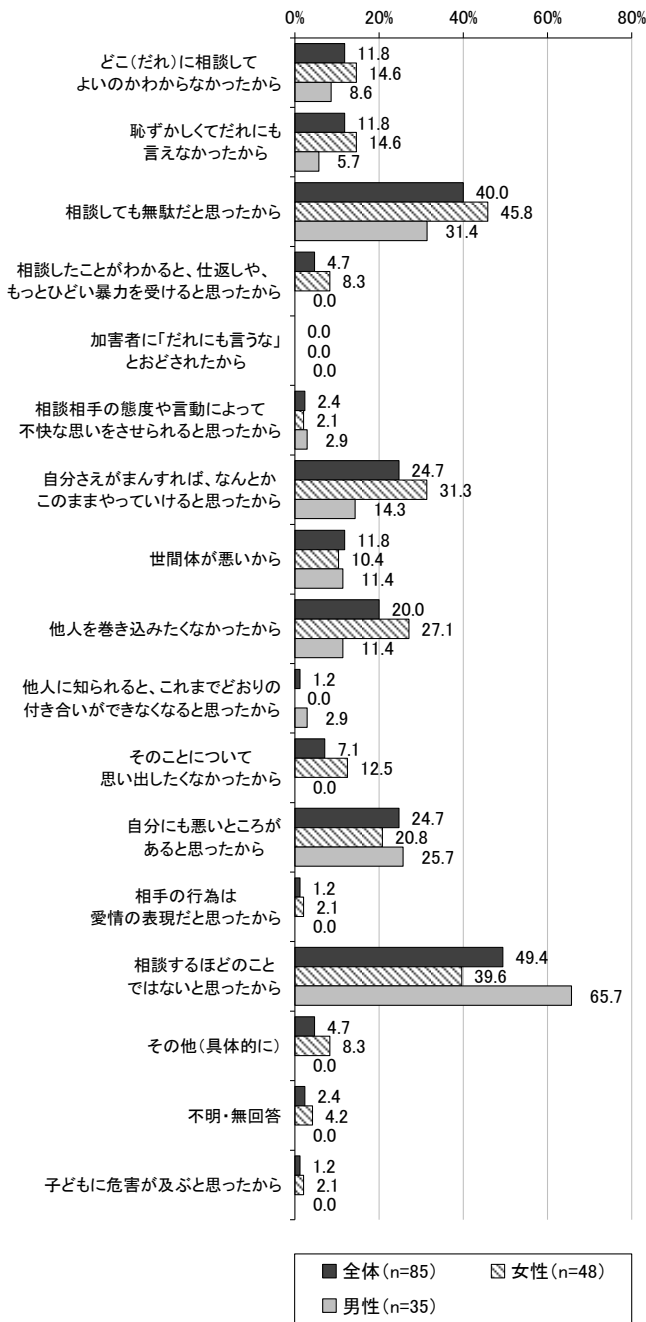
相談しなかった理由について前回調査と比較すると、女性では、「他人を巻き込みたくなかったから」が 18.8 ポイント上昇しています。また、「相談しても無駄だと思ったから」が 12.5 ポイント上昇しています。

男性では、「相談しても無駄だと思ったから」が 14.7 ポイント上昇しています。また、「自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから」が 8.7 ポイント上昇しています。

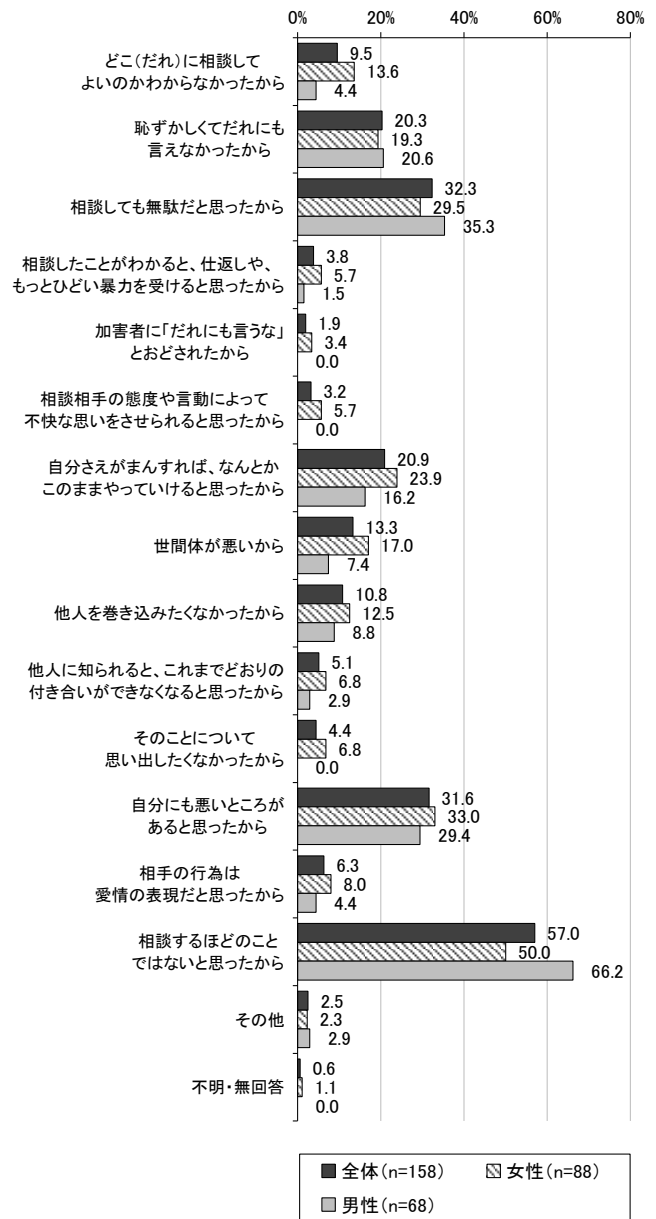
問 27. どこ(だれ)にも相談しなかったのは、なぜですか。
(あてはまるものすべてに○)

問 27 和歌山県調査 (令和 2 年度実施) との比較 (参考)

■ 田辺市調査



■ 和歌山県調査 (参考)



参考として、暴力を受けた際に相談しなかった理由について県調査と比較すると、田辺市では、全体で「他人を巻き込みたくなかった」が 9.2 ポイント高くなっています。

また、性別でみると、女性では「相談しても無駄だと思ったから」が 16.3 ポイント高く、男性では「恥ずかしくて誰にも言えなかったから」が 14.9 ポイント低くなっています。

問 28. あなたは、配偶者や交際相手などからの暴力の防止や被害者支援のために、特にどのようなことが必要だと思いますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では「加害者から逃げるための一時保護制度などの法的支援の情報提供を行う」が 69.8%と最も高く、次いで「被害者や悩んでいる人に対する相談体制を充実する」が 63.7%、「避難した被害者の移転先などの情報が加害者に伝わらないように情報の管理を徹底する」が 62.2%となっています。

性別にみると、男女ともに「加害者から逃げるための一時保護制度などの法的支援の情報提供を行う」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳～19歳、70歳以上では「被害者や悩んでいる人に対する相談体制を充実する」、それ以外の年代では「加害者から逃げるための一時保護制度などの法的支援の情報提供を行う」が最も高くなっています。

単位：%		加害者から逃げるための一時保護制度などの法的支援の情報提供を行う	被害者や悩んでいる人に対する相談体制を充実する	暴力を防止するための広報・啓発活動を積極的に行う	学校で児童・生徒に対し、暴力を防止するための教育を充実する	家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を充実する	加害者を近寄らせないようにする保護命令制度などの法的支援の情報提供を行う	避難した被害者の移転先などの情報が加害者に伝わらないように情報の管理を徹底する	公営住宅等を活用して被害者が住居を確保できるように支援する	被害者の自立のための経済的支援を行う	被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、啓発を行う	その他	特にない	不明・無回答
全体(n=672)		69.8	63.7	27.1	51.8	39.6	49.9	62.2	47.2	49.1	39.7	2.5	3.1	4.8
性別	女性(n=372)	73.7	66.1	26.3	53.5	41.4	51.6	67.5	54.3	54.6	41.4	2.4	1.6	5.1
	男性(n=290)	65.2	60.3	28.3	50.0	37.9	48.6	55.9	37.9	42.1	37.9	2.8	5.2	3.8
年齢別	18歳～19歳(n=44)	50.0	52.3	20.5	45.5	36.4	45.5	50.0	31.8	47.7	34.1	6.8	6.8	2.3
	20歳～29歳(n=53)	79.2	69.8	22.6	52.8	43.4	49.1	60.4	45.3	43.4	43.4	3.8	3.8	3.8
	30歳～39歳(n=102)	75.5	58.8	27.5	59.8	43.1	58.8	62.7	51.0	51.0	38.2	2.0	2.9	2.0
	40歳～49歳(n=106)	67.0	60.4	29.2	52.8	41.5	50.0	62.3	44.3	51.9	41.5	3.8	0.9	2.8
	50歳～59歳(n=118)	83.1	71.2	30.5	54.2	42.4	57.6	73.7	57.6	55.9	44.9	0.0	0.8	2.5
	60歳～69歳(n=143)	69.2	68.5	23.1	46.2	34.3	47.6	63.6	47.6	48.3	35.0	0.7	4.2	4.2
	70歳以上(n=99)	58.6	59.6	31.3	50.5	38.4	40.4	54.5	42.4	42.4	41.4	5.1	5.1	12.1

その他の内容	件数
処罰の厳格化	3
加害者、被害者へのアプローチ、カウンセリング	3
被害者の精神的ケア体制を充実する。	2
周囲にいる人間が声をかけやすい環境づくり。	2
社会が機能を	1
子どもがあたりまえの観念をつけれるような社会にする。男女平等などはもちろん賛成だが、歪んだ活動や一方的な啓発などによっておかしくなっている。ごく一部の悪事や不正を取り締まるための行動が社会で育っていく中で大切なものを多くだめにしている。	1
町内会、自治会、学校内の不必要な不開示。ある程度の個人の状況を共有しないと、早期発見できない。	1
孤独にならないようにする。	1

問 29. セクシュアルハラスメント、ストーカー行為、配偶者や交際相手からの暴力について、相談できる窓口としてどのようなところを知っていますか。(あてはまるものすべてに○)

全体では「警察本部（生活安全企画課）・警察署」が 80.2%と最も高く、次いで「弁護士」が 34.2%、「市役所の相談窓口」が 31.8%となっています。

性別にみると、男女ともに「警察本部（生活安全企画課）・警察署」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「警察本部（生活安全企画課）・警察署」が最も高くなっています。

単位：%		警察本部（生活安全企画課）・警察署	家庭裁判所	弁護士	法テラス和歌山	法務局、人権擁護委員	民生委員・児童委員	和歌山県配偶者暴力相談支援センター（子ども・女性・障害者相談センター）	性暴力救援センター和歌山「わかやまmine（メイン）」	DV被害者支援センター（紀南DVセンター）	和歌山県男女共同参画センター「りいぶる」	和歌山労働局 雇用環境・均等室	田辺市男女共同参画センター「女性電話相談」	市役所の相談窓口	民間団体（NPOなど）の相談機関	SNS相談「Curetime」	電話・メール・チャット相談「DV相談+」	その他	不明・無回答
全体(n=672)		80.2	19.5	34.2	10.7	10.4	20.7	16.5	7.0	19.9	8.2	3.3	14.4	31.8	4.8	1.3	4.0	0.7	6.0
性別	女性(n=372)	76.6	16.4	28.8	9.1	6.7	18.5	17.7	7.3	22.6	8.3	2.4	16.1	33.9	4.3	1.6	4.3	0.5	7.0
	男性(n=290)	85.9	23.8	42.1	13.1	15.2	23.8	15.2	6.9	16.9	8.3	4.5	12.8	30.0	5.2	1.0	3.8	1.0	3.8
年齢別	18歳-19歳(n=44)	79.5	22.7	36.4	6.8	2.3	6.8	15.9	9.1	20.5	4.5	2.3	4.5	20.5	6.8	6.8	11.4	4.5	6.8
	20歳-29歳(n=53)	83.0	15.1	30.2	13.2	5.7	5.7	11.3	3.8	18.9	0.0	0.0	7.5	30.2	5.7	0.0	1.9	1.9	5.7
	30歳-39歳(n=102)	85.3	16.7	32.4	13.7	2.0	12.7	14.7	4.9	19.6	5.9	2.0	13.7	32.4	4.9	1.0	6.9	0.0	3.9
	40歳-49歳(n=106)	82.1	15.1	35.8	13.2	3.8	16.0	18.9	7.5	23.6	9.4	0.9	15.1	27.4	4.7	1.9	5.7	0.0	4.7
	50歳-59歳(n=118)	82.2	25.4	46.6	16.1	16.9	25.4	22.9	11.0	24.6	16.9	8.5	17.8	38.1	2.5	1.7	3.4	0.8	2.5
	60歳-69歳(n=143)	81.1	23.1	32.9	5.6	15.4	27.3	12.6	6.3	16.8	5.6	4.2	12.6	35.7	4.2	0.0	1.4	0.7	3.5
	70歳以上(n=99)	70.7	17.2	24.2	7.1	18.2	32.3	17.2	6.1	17.2	9.1	2.0	22.2	31.3	7.1	1.0	2.0	0.0	14.1

その他の内容	件数
知らない・分からない	3

7. 性的少数者の方の人権について

問 30. 「LGBTQなどの性的少数者（セクシュアルマイノリティ）の方の人権」に関することで、人権上、どのようなことが問題だと思えますか。（あてはまるものすべてに○）

全体では「理解や認識が不足している」が69.5%と最も高く、次いで「侮辱やいやがらせがある」「性的指向・性自認について悩みを抱えていることを公表できる社会になっていない」が34.1%、「相談・支援体制が十分ではない」が33.0%となっています。

性別にみると、男女ともに「理解や認識が不足している」が最も高くなっています。

年齢別にみると、すべての年代で「理解や認識が不足している」が最も高くなっています。

単位：%		理解や認識が不足している	侮辱やいやがらせがある	就職の時や職場で不利な取り扱いをうける	相談・支援体制が十分ではない	アパートや公営住宅等への入居の際、同居親族にあたららないとして拒否される	パートナーが入院したが、家族等にあたらないため、付き添いや看護をさせてもらえない	性的指向・性自認について悩みを抱えていることを公表できる社会になっていない	アウティング（個人の性的指向や性自認について本人の同意なく暴露すること）がある	同性婚が認められていない	その他	特に問題のあるものはない	わからない	不明・無回答
全体(n=672)		69.5	34.1	24.1	33.0	20.4	26.0	34.1	17.6	32.0	2.1	1.6	17.1	6.4
性別	女性(n=372)	72.6	35.8	26.6	33.3	25.8	33.1	39.0	22.3	37.6	2.2	1.1	15.9	4.3
	男性(n=290)	65.9	32.1	21.4	32.8	13.4	17.2	27.6	11.4	25.2	2.1	2.4	19.0	8.3
年齢別	18歳~19歳(n=44)	54.5	47.7	25.0	31.8	27.3	22.7	40.9	27.3	40.9	2.3	2.3	15.9	6.8
	20歳~29歳(n=53)	81.1	35.8	28.3	37.7	20.8	22.6	32.1	20.8	50.9	0.0	1.9	11.3	1.9
	30歳~39歳(n=102)	80.4	51.0	29.4	27.5	27.5	36.3	37.3	22.5	45.1	4.9	2.0	5.9	1.0
	40歳~49歳(n=106)	77.4	36.8	27.4	36.8	25.5	31.1	38.7	22.6	36.8	2.8	2.8	12.3	2.8
	50歳~59歳(n=118)	69.5	33.9	22.9	35.6	19.5	31.4	37.3	17.8	28.0	0.8	0.8	20.3	3.4
	60歳~69歳(n=143)	70.6	25.9	19.6	37.1	14.7	21.0	32.2	10.5	24.5	0.0	0.7	17.5	9.8
	70歳以上(n=99)	50.5	19.2	21.2	25.3	13.1	14.1	23.2	11.1	15.2	3.0	2.0	33.3	14.1

その他の内容	件数
LGBTQ の子供への対応	1
人それぞれなので、あえて理解する必要はない。無関心。	1
今に始まったものではなく、人間関係の歴史とひもづけて考えをひろめるべき。	1
同性婚に対しての養子縁組はどうすればよいか	1
表面にはあらわさないが内心は理解していない。	1
高齢者の世代には理解されないので、法律で守ってあげることによって理解も進むと思う。	1
偏見が強い	1
そもそも人間として認めないから「人権」などと言う。男女の前に「人間」です。	1
わざわざはっきりさせられる。	1
古い考えの人が多すぎる！若い人でも、それ以上の人でも。	1
テレビや新聞等で知っている程度で、身近で感じた事がない。	1
戸籍（婚姻届）が受託されない。	1
政治を動かせる立場の人がいないから	1
残念ながら日本では同性婚や選択制夫婦別姓等法的に認められていないことが問題。	1

8. これから必要な施策について

問 31. 田辺市では、男女共同参画社会の実現をめざし、今後、どのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。(あてはまるもの3つまでに○)

全体では「子育て、介護に対する多様な支援を充実する」が49.7%と最も高く、次いで「男女の仕事と家庭との両立を支援する」が39.3%、「男女共同参画の視点から、慣習の見直しや啓発をすすめる」が31.7%となっています。

性別にみると、男女ともに「子育て、介護に対する多様な支援を充実する」が最も高くなっています。

年齢別にみると、18歳～19歳では「子育て、介護に対する多様な支援を充実する」「男女の仕事と家庭との両立を支援する」、40歳代では「男女の仕事と家庭との両立を支援する」、それ以外の年代では「子育て、介護に対する多様な支援を充実する」が最も高くなっています。

単位：%		男女共同参画の視点から、慣習の見直しや啓発をすすめる	政策や方針決定過程への女性の参画を拡大する	就労における男女の機会均等や就業環境の整備をすすめる	子育て、介護に対する多様な支援を充実する	男女平等の視点に立った教育や学習をすすめる	DV・デートDV（配偶者・交際相手からの暴力）を防止するための啓発を推進する	女性のための相談機能を充実する	男性のための相談機能を充実する	市の広報紙やパンフレットなどで男女平等と相互理解について啓発する	各種団体における男女共同参画をすすめる取組みを支援する	農林水産業、自営業において男女共同参画をすすめる	女性リーダーの育成をすすめる	男女の仕事と家庭との両立を支援する	男女共同参画を推進する条例を制定する	性的少数者に対するパートナーシップ宣誓制度を制定する	その他	わからない	不明・無回答
全体(n=672)		31.7	19.5	28.7	49.7	25.6	12.8	14.7	11.5	8.9	8.9	3.6	10.9	39.3	6.0	9.7	1.0	9.2	3.1
性別	女性(n=372)	28.8	17.7	28.2	55.4	23.9	13.2	13.7	8.9	8.3	8.1	2.4	9.1	45.7	6.2	12.4	0.5	8.9	3.2
	男性(n=290)	35.5	22.1	29.3	42.4	26.6	12.1	15.5	14.5	9.7	10.0	5.2	13.1	31.0	5.9	6.6	1.7	10.0	3.1
年齢別	18歳～19歳(n=44)	25.0	4.5	34.1	45.5	29.5	18.2	20.5	18.2	2.3	4.5	4.5	9.1	45.5	9.1	20.5	0.0	6.8	6.8
	20歳～29歳(n=53)	26.4	18.9	22.6	52.8	17.0	9.4	13.2	11.3	3.8	5.7	1.9	9.4	45.3	9.4	17.0	0.0	13.2	1.9
	30歳～39歳(n=102)	28.4	19.6	37.3	59.8	26.5	11.8	12.7	9.8	5.9	7.8	4.9	15.7	47.1	5.9	13.7	2.0	6.9	2.9
	40歳～49歳(n=106)	34.9	18.9	20.8	47.2	26.4	13.2	15.1	16.0	6.6	4.7	2.8	9.4	50.9	3.8	9.4	2.8	4.7	3.8
	50歳～59歳(n=118)	33.9	16.9	30.5	50.0	24.6	18.6	11.9	11.0	12.7	9.3	2.5	8.5	39.0	4.2	11.0	0.8	9.3	0.8
	60歳～69歳(n=143)	32.2	23.8	30.1	48.3	28.0	12.6	13.3	7.7	8.4	10.5	2.8	9.1	27.3	7.0	4.2	0.7	12.6	2.1
	70歳以上(n=99)	34.3	24.2	26.3	43.4	22.2	5.1	18.2	10.1	16.2	16.2	6.1	14.1	32.3	6.1	4.0	0.0	11.1	5.1

その他の内容	件数
必要があれば男女問わず識見のある人を任用すること。	1
女性の副市長をつくる	1
2 (施策や方針決定過程への女性の参画を拡大する)の政策や方針決定過程への女性の参画を義務化する。15(性的少数者に対するパートナーシップ宣誓制度を制定する)のパートナーシップ宣誓制度よりも同居親族とする法制度をつくる。	1
肉体的にちがいのある男女における平等とは？理解と事例が必要	1
理解ない人に啓発されても意味ないです。	1
職員が少なく余裕が無いのだから、中途半端な事はしなくても良い	1

IV 自由回答

①男女共同参画に関する意見や要望、性にまつわる課題について

内容	性別	年齢
同性婚が認められれば良いと思います。	女性	10 歳代
どんな性別でもパートナーになれるように制度を制定してほしい。	女性	20 歳代
男性は女性の立場に立って、家事、育児、介護を理解し、自発的に行動することが大切である。そして、家族、女性に感謝すべきである。	男性	20 歳代
この男女共同参画自体 年齢、性別問わず 色々な人が知るべき、見るべき、考えるべき。	女性	30 歳代
男女平等は大切だと思うが、性別によつての大きな枠での特性はあると思う。差別ではない「男性らしさ」「女性らしさ」は生かしつつ、個々の長所を生かせる社会になって欲しいが、とても難しい問題だといつも思うので、1人1人がこの問題に興味を持って考えていかなければならないと思う。	女性	30 歳代
男女共同参画って何ですか？現状を知らないのによくわからなかったです。	女性	30 歳代
生理の貧困に関して、特に学校などで子どもたちのために支援してほしい。学校で生理用品を配るなど。ただ単に経済的な問題で買えないだけでなく、親が生理用品を与えないということもあるよう。これも生理の貧困にあたるようだが、私は虐待だと思う。	女性	30 歳代
田辺市でも早くパートナーシップ制度を取り入れてほしいと思う。また、将来的には、同性でも結婚できるように進めてほしい。一時、テレビでもすごく話題にあがっていたが、また下火になっている気がする。早急に進めて行ってほしい。	女性	30 歳代
男女平等というが、年配の人と関わると、まだまだだとすごく感じる。	女性	30 歳代
日本では男女平等だと思う。どちらかと言うと女性の方が優遇されている様に感じます（レディースデイとか）。その上、女性枠の様な制度ができると、かえって「女性だからその役職につけたんでしょ？」みたいになってよろしくないと思う。	女性	40 歳代
女性が、参加をして意見を色々出して欲しいです。	女性	40 歳代
男女関係無く生きやすい町作りをお願いします。	男性	40 歳代
男女平等の定義を明確にして欲しい。そもそも、男女は平等ではない。無理やり全体主義のように平等を同調圧力をかけられるのは不愉快だ。平等とハラスメントの話と同列に扱うのはおかしい。ハラスメントは現に犯罪である。	男性	40 歳代
男性、女性で判断するのではなく、能力や、人物で判断するべきであると思います。	男性	40 歳代
無理に男女の共同参画する必要はない性別上、男には男の、女には女のいい所があるそれをお互い認めればいいだけの話、女性でも尊敬できる人はいる。お互い尊重しあえる社会になればいい	男性	40 歳代
男女とか分けて、全ての人がお互いを尊重して人として対等な関係を築いていける社会になればいいと思います。	女性	50 歳代

内容	性別	年齢
<p>社会は男性と女性とで成り立っているの、両者の間に対立などがあってはいけないと思います。女性にとってはまだまだ改善を希望するところがあるということは理解できます。その中の一つが家事を協力して行うことです。しかし、協力してもうまくいかない場合もあります。「もっと丁寧にして」などとさらに要求までされると夫としても嬉しくありません。このようなことが家庭の中ではたくさんあって、少しずつ夫婦の関係が冷めていくのではないのでしょうか。お互いの事情を理解して協力しあえるようになりたいものです。女性に対しても頑張ろうとする夫の努力を認めてあげようといった内容を啓蒙して頂きたいです。子育ての夫の参加はぜひとも進めていっていただきたいとおもいます。多くの男性も子育ての体験をしていくことが出来れば、よいと思います。LGBTQに関しては、自己の性に対する違和感や性的指向に関して、それを理由に差別することは良くないと思います。ただ、その議論に付随する同性婚を認めるという内容には疑問です。婚姻という形をとらなくても一緒に生活することは可能です。男と女が結婚し、子供と共に愛を育み家庭を形成していく。この素晴らしい伝統を無くさないようにしていただきたい。それを壊す可能性がある同性パートナーシップ条例に対しても、社会の風潮に流されることなくよく議論していただきたいと思います。</p>	男性	50 歳代
<p>女性が出やすいように、時間や他ととのえてほしい。</p>	女性	50 歳代
<p>男女の差別はダメだと思いますが区別は必要だと思います。</p>	女性	50 歳代
<p>本来は、男だからとか女だからとかではなく、1人1人の人間として、男女の区別でなく、仕事や生活ができることがいいと思います。そのようになれば、おのずと、LGBTQの方たちの問題も減っていくと思います。色々な人がいるのがあたりまえ。</p>	女性	50 歳代
<p>子供の頃から男女平等の波に振り回されて来た世代です。親世代と変化が劇的にあります。平等になるまであと2,3世代必要かと思います。それからトライ&エラーのくり返しではないでしょうか。</p>	男性	50 歳代
<p>お疲れ様です。男女意識の格差は大きいと思われませんが、男女と考える（分けて考える）方がおかしいのであって、もっと、個人の人格という広い視野で行動して欲しいものですね！</p>	女性	60 歳代
<p>今の世の中、だまっけていても生活ができます。男であれ、女であれ、もっとひとりひとりが、相手の話をきく、会話する力をつけ、互いに助け合うことができればいいと思います。</p>	女性	60 歳代
<p>男女平等とは言われてますが、実際にはなかなかそうはいかない場面が多いのが現状です。ただ、若い人達の考え方の中では、私達の時代とは少し違った男女の共同体制も見られたりすると思うので、今後の若い人達に期待したいと思います。大事なのは思ったことを堂々と発言できる社会の実現だと思います。</p>	女性	60 歳代
<p>男女全く同じ状況にするという狭い考えではなく、お互いに満足できる環境をそれぞれが作り出せる自由さ、寛容さが欲しい</p>	男性	60 歳代
<p>男性は女性を重んじる。女性は女性であることに甘えず自己の能力をのばすよう努力する。以上が重要だと考える。</p>	男性	60 歳代

内容	性別	年齢
待ったなしの少子高齢化対策との整合性のため、特定のイデオロギーに偏らないで、生物学的にも妥当な日本らしい男女のあり方を大切にしていきたい。時にはふり返ることも必要と考えます。行き過ぎたジェンダー平等等の思想は、本来大切にすべき男女のよき関係、健全な社会さえ破壊してしまいかねません。	男性	60歳代
平等を聞く時、いつも気になるのは男性と同じ働きをすることが平等の実現のように言われることです。それは男性優位の意識が根底にあるからこそで、勿論女性が見下されすぎた過去はありますが、男女に限らず身体に障害のある人等、夫々に持つもの、持たざるものが違えば、できることできないこと、得手、不得手は当然です。国会議員にむいている女性、家事にむいている男性など人はさまざまで、価値観を一律にしない、互いをなるだけ認めあうことが平等を実現する方法だと思えます。	女性	70歳以上
女性の意見を積極的に聞いてほしい。	女性	70歳以上
男女共同参画の催しはいつまでも女性参加が多く、男性の参加が少ないのもっと男性参加をすすめて下さい。男性の理解がもっと必要では。	男性	70歳以上

②保育・子育て・介護支援に関すること（仕事と家庭の両立のことを含む）

内容	性別	年齢
子育てしやすい町に仕上げるのが重要。お金をあげたり、お金がなきゃ子育てはきびしい。少子化になっちゃうよ。	男性	10歳代
保育料、給食費などを無償にするなど、教育・子育て支援をお願いします。	女性	20歳代
女性でも男性でも、子どもを育てやすいようにしてほしい。（育休を取りやすくするなど）	女性	20歳代
男性の育児休暇をとりやすい環境づくりは大切なのではないのでしょうか。	男性	20歳代
夫婦で妊婦教室へ行ったり、男女で、差がでないように、男性もやっていなかったことをあたりまえにできるように、そういう機会（2人で行ける教室など）あれば良いです。	女性	30歳代
・育休などは男性の方がとりにくい。・平等といっても、子どもをうんで育てるとなるとなかなか社会への参加はむずかしい。子どもが優先になる。	女性	30歳代
特に子育て支援の充実が必要だと思います。男女共同参画がさらに進むことによって子供を産みにくいという側面もあると思う。	男性	30歳代
乳児保育や医療・介護体制の強化、子供や高齢者をあずけて仕事をする。	男性	40歳代
出産育児支援をガッツリしないと若い人材（一番貴重な）がいなくなって田辺市がなくなってしまうと思います。	男性	40歳代
子育て支援の充実が必要。（特に保育。学童保育の対象学年を引き上げ）	男性	50歳代
もっと介護の事を男女平等に考えて行く時間を作ってほしい。今はほとんどが女性でまかなっていると思う。	女性	60歳代
私はもうリタイヤした人間だけど、現役で働いて子育てをしてきたことをふり返ると、忙しいばかりでした。「子育て、結婚」を肯定的に受けとめることができなかった。もう少し時間的経済的なゆとりが、日本社会全体にあればよいと思う。	女性	70歳以上

③学校や教育に関すること

内容	性別	年齢
私は今高校生ですが、女子もスラックスをはいても良くなりましたが、まだ少数です。中には男子でもスカートがはきたいという人もいます。なので、初めから男女共通の制服にして選択出来るようになればいいのと思います。	女性	10 歳代
昔からの慣習を改めるにはなかなか難しいとは思いますが。小さい子供の内から、教えていくのが重要だと思えます。	女性	50 歳代

④就労、経済的負担に関すること

内容	性別	年齢
賃金が低すぎて生活が安定しない。福利厚生を良くして欲しい。近隣の市町村と比べても田辺市は手薄な印象である。	女性	30 歳代
何回も書いたことですが、職場の上司がこのようなことを理解してくれたり実行してくれたりしたら、男女とも働きやすい社会になると思う。社長次第です！	女性	30 歳代
仕事の上では、性差や、男女限らず病気などによる体格や体力の差などを考慮したほうが効率的に業務に取り組めると思えます。	女性	30 歳代
職場に講演に来て。	男性	30 歳代
男性パート・女性管理職を増やすことで相互の理解が深まるのではないかと思う。週に1日でも6時間勤務の日を作る。午前、午後で2交代制にして実施する。女性議会議員に重要な仕事を任せるなど、市や議会から模範となる条例や制度をつくり、実行することで市民の啓発にもつながると思えます。追って企業や各種団体にも推進する。	女性	40 歳代
出産適齢期と仕事为重なり、少子化問題と重なること。	男性	40 歳代
企業誘致(大手工場)に働くところを増やしてほしい。(上富田町みたいに・・・)	男性	40 歳代
職業問わず、女性の賃金上げれば良いかと思う	不明・無回答	20 歳代

⑤相談・情報提供や行政に関すること

内容	性別	年齢
女性政治家の市長や議長等の登用	女性	10 歳代
まずは、市の職員が積極的に育児休暇を取ることで、男性も育児に参加する人が増えたらいいと思います。それを発信して、社会全体に広がることを願います。	女性	20 歳代
この地域では、女性が強いように思いますが、実生活に関わることに對しては、まだまだ男性優遇の環境がほとんどだと思います。ゆるく啓発しても「そんな考えもあるんだー。」とながされるので、条例の制定で女性やマイノリティの立場の人を守ることが大切だと思います。	女性	30 歳代
庶民が良くなったと実感できる施策をしてほしい。	女性	30 歳代
パンフレットやステッカーや不要な文具（啓発のロゴ入りなど）にお金を使わないでください。エコバッグ、文具、キーホルダー（ファイルなど）不要です、それより、NPO や、スタッフをして働いている方、保育、介護に関わっている方々の生活や賃金に当ててください。	女性	30 歳代
市会議員へのクオータ制導入！	男性	30 歳代
女性が積極的に社会活動を行えるように、40 代以上の男性の意識改革を促すような事業を実施してほしいです。（40 代以上の男性は、家事と子育てを女性の仕事と考えている人が多いので）	女性	40 歳代
なかなか難しいこととは思いますが、市役所で公務員の方から女性の上司を多くしてもらい、様々な問題とぶつかり、社会が変わっていくことで市民の生活も変わると思います。女性は寿命が長いので、もっと経済活動に参加でき、自己実現できる世の中になってほしいと思います。	女性	40 歳代
LGBTQ の当事者です。パートナーシップ制度があればいいとは思いますが、市役所の人に知られると思うと申請しにくいです。	男性	40 歳代
今や日本は貧困国です。中でも和歌山県は統計的に 50 年で財源がなく消滅すると言われています。日本人全てが金も心も「貧困」です。田辺市が「男女共同参画」をすすめたいのであれば、年寄りより若者に目を向けるべき、若者が都会に逃げなくてもよい環境が必要、「特区」を作り企業誘致等で雇用を増やすでもよいが、「特区」の内容、企画は若者にさせ、しっかり補助を出してやるべきだ。その後税収となれば必要な施策費となるだろう。何でも若者に考えさせよ、未来は彼らの為にある、全て。	男性	40 歳代
公平と平等のちがいをちゃんと理解して、施策を進めて下さい。	男性	40 歳代
施策の目的を明確にすべき、声の大きい人の意見が通るようでは意味がないため、権力とは関係なく公平に意見が述べられ、議論出来る場を設定すべき、匿名性が高いと無責任な発言も出やすいがそういった方法も取り入れてもよいと考える。	男性	40 歳代
田辺市は、県内でも、より多く施策を実施していると思います。コロナ禍ではあるが、男女共同参画社会の実現に向けた、教育や啓発を、これからも継続的に実施していただきたいと思います。	男性	50 歳代
男女共同参画社会推進条例の制定	女性	60 歳代

内容	性別	年齢
男女共同参画条例の早期制定を！又 ジェンダー問題に関してもっと国際情勢・社会情勢を敏感にキャッチし、即した対応を進めてほしいと思います。推進体制の充実と合わせプランなどの着実な実働・ステップアップを！男女共同参画社会の必要性であったり、理解推進を庁内全課 全職員に。	女性	70 歳以上
市議員の中で女性の割合を 1 / 3 位まで増やす必要がある。	男性	70 歳以上
小人数単位の地域を重要視することが・・・。(重要視→字・小字を)	男性	70 歳以上

⑥その他、全般に関すること（アンケートのこと、感想のみなど）

内容	性別	年齢
男女の平等は大切ですが、性別に関係なく、能力のある人が活躍できる社会になってほしいです。	男性	10 歳代
理想の言葉の羅列や計画書、パンフレットのみ作成して終わりの施策にしないほしい。	男性	20 歳代
アンケート大変でした。30 分以上かかりました。	男性	30 歳代
本アンケートは web で実施すべき。経費面で大きな問題かと・・・。	女性	40 歳代
狭小の思考しかない人を委員にすると施策が偏るので、公平に見れる人を委員にして進めていくこと。	男性	40 歳代
問 21～23 は当然なので、必要ないのでは。	男性	50 歳代
障害者であるので回答が難しい	男性	50 歳代
もう 70 才近いので少し考える問題がありました。自分が今、世間から離れている所で生活しているなと思いました。これからの生活を身近に考えたいと思います。	女性	60 歳代
細部まで考える事が出来ませんでした。70 歳の女性ですので、昔の考えや教育を受け育った者にはいろいろ考えさせられる事案がたくさんありました。	女性	60 歳代
アンケート問 21, 22, 23 については「1」に解答するのが普通なのに設問は必要なのでしょうか。ストーカー、セクハラには、こんなが該当しますよと啓発する目的ならわかりますが。	男性	60 歳代
う～ん。このアンケート調査結果がどう市政に活かされるのかが気になります。今より少しでもこの男社会が変われば日本の未来は明るくなるかも。	男性	60 歳代
非常にいい取り組みだと思いました。市の未来のために最大限に運用してください。	女性	70 歳以上
今回のアンケートの主旨を考えると、(問 1) 自体違和感を感じます。男女共同を推進するなら、男性か女性かと、必要ですか？人を対象として、発想されるべきと思います。男性か、女性かと質問される事自体、今回のアンケートの主旨から少々ずれて居ませんか？	男性	70 歳以上
女性向けなので男にとっては当てはまる事が少ないと思う。	男性	70 歳以上
アンケート調査依頼何度もあるので本当に無作為に選んでるのかと思う。暴力を受けている被害者が救いを求めた時の体制や支援が受けやすいように相談窓口へ行きやすくなるよう啓発活動をもっとしてほしい。	不明・無回答	50 歳代

V 調査票

第3次田辺市男女共同参画プラン策定に係る アンケート調査にご協力をお願いします

市民の皆さまにおかれましては、日ごろから市政にご理解とご協力を賜り、誠にありがとうございます。

さて、田辺市では、平成26年3月に「第2次田辺市男女共同参画プラン」を策定し、性別にかかわらず、人権が尊重され、男女がそれぞれの個性と能力を十分に発揮することができる男女共同参画社会づくりに取り組んでいます。

今回の調査は、プランの見直しにあたり、田辺市にお住まいの18歳以上の方2,000人を無作為に選び、市民の皆さまのお考えをお聞かせいただくために実施するものです。

お答えは、すべて無記名で統計的に処理いたしますので、個人が特定されることや、調査目的以外に使用するようなことはございません。

お忙しいところ大変恐縮ですが、調査の趣旨をご理解いただき、ご協力くださいますようお願い申し上げます。

令和4年10月
田 辺 市

ご記入にあたってのお願い

1. 回答は、あて名のご本人がお答えくださるようお願いいたします。
ご本人での回答が困難な際は、ご家族などのご協力により、ご本人のお考えをご回答ください。
2. 回答は、ボールペンまたは濃い鉛筆でご記入ください。
3. 回答は、各質問に対して、あてはまる番号を選んで○をつけてください。
また、「その他」にあてはまる場合は、() 内に、その内容をご記入ください。
4. ご記入後は、無記名のまま、同封の返信用封筒（切手は不要です）に入れ、10月31日（月曜日）までに、ご返送ください。

また、インターネットからご回答いただく場合は、調査票は返送せず、次のURLか、右の二次元コードから回答フォームにアクセスして、ご回答ください。

<https://logoform.jp/form/nAhC/117532>



<お問い合わせ> 田辺市 男女共同参画推進室

〒646-0028 田辺市高雄一丁目23番1号 田辺市民総合センター4階

電話：0739-26-4936 Eメール：danjo@city.tanabe.lg.jp

1. あなたご自身のことについておたずねします。

問1. あなたの性別をお答えください。

(自認する性別1つに○)

- | | | |
|-------|-------|---------------------|
| 1. 女性 | 2. 男性 | 3. どちらともいえない/答えたくない |
|-------|-------|---------------------|

問2. あなたの年齢をお答えください。

(令和4年10月1日現在の満年齢で、あてはまるもの1つに○)

- | | | | |
|------------|------------|------------|------------|
| 1. 18歳～19歳 | 2. 20歳～29歳 | 3. 30歳～39歳 | 4. 40歳～49歳 |
| 5. 50歳～59歳 | 6. 60歳～69歳 | 7. 70歳以上 | |

問3. あなたの一番下のお子さんにあてはまるものは、次のどれですか。

(あてはまるもの1つに○)

- | | | |
|--------------|----------------|----------------|
| 1. 就学未満 | 2. 小学生・中学生・高校生 | 3. 大学・専門学校等の学生 |
| 4. 就学を終えた子ども | 5. 子どもはいない | |

2. 男女平等についておたずねします。

問4. あなたは、次のような分野で男女の地位は平等になっていると思いますか。
(ア～クそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	優 遇 さ に お い て い る	非 常 に 男 性 の ほ う が	ど ち ら か と い え ば 優 遇 さ に お い て い る	平 等 で あ る	ど ち ら か と い え ば 優 遇 さ に お い て い る	優 遇 さ に お い て い る	非 常 に 女 性 の ほ う が	わ か ら な い
ア. 家庭生活では	1	2	3	4	5	6		
イ. 職場では	1	2	3	4	5	6		
ウ. 学校教育の場では	1	2	3	4	5	6		
エ. 地域活動の場では	1	2	3	4	5	6		
オ. 社会通念・慣習・しきたりなどでは	1	2	3	4	5	6		
カ. 法律や制度のうえでは	1	2	3	4	5	6		
キ. 政治の場では	1	2	3	4	5	6		
ク. 社会全体では	1	2	3	4	5	6		

問5. 「男は仕事、女は家庭」というような、性別によって男女の役割を決めるような考え方が社会の中にまだあると思いますか。

(あてはまるもの1つに○)

1. まだまだあると思う	3. どちらともいえない
2. 少しはあると思う	4. ほとんどないと思う

問5で「1. まだまだあると思う」「2. 少しはあると思う」と答えた方におたずねします。

問6. それは、どの分野ですか。

(あてはまるものすべてに○をつけ、具体的な内容をお書きください。)

1. 家庭生活 (内容))
2. 職場 (内容))
3. 学校教育の場 (内容))
4. 地域活動の場 (内容))
5. 社会通念・慣習・しきたりなど (内容))
6. その他 ()

すべての方におたずねします。

問7. あなたは、次の「ことば」をご存じですか。

(ア～サそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	知 よ く つ て い る	知 ん と な く つ て い る	知 ら な い
ア. 女子差別撤廃条約	1	2	3
イ. ジェンダー (社会的・文化的につくられた性差)	1	2	3
ウ. DV (配偶者等からの暴力)	1	2	3
エ. デートDV (交際相手からの暴力)	1	2	3
オ. エンパワメント (本人の内にもっている個性、能力を引き出す)	1	2	3
カ. ポジティブ・アクション (積極的改善措置)	1	2	3
キ. アンコンシャスバイアス (無意識の偏ったモノの見方)	1	2	3
ク. LGBTQ (レズビアン、ゲイ、バイセクシュアル、トランスジェンダー、クエスチョニングの頭文字をとった言葉で、性的少数者(セクシュアルマイノリティ)を表す言葉の一つ)	1	2	3
ケ. 生理の貧困 (経済的な理由で生理用品を購入できない女性や女の子がいるという問題)	1	2	3
コ. リプロダクティブ・ヘルス/ライツ (性と生殖に関する健康と権利)	1	2	3
サ. ダイバーシティ (多様性)	1	2	3

3. 家庭内の役割分担や子育てについておたずねします。

問8. 日常的な家事・仕事等の役割分担についておたずねします。

(ア～シそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

「A. 理想」は、すべての方がお答えください。

「B. 現状」は、家族や配偶者（パートナー）と一緒に住まいの方のみお答えください。
また、「B. 現状」の高齢者等の介護、子育てに関する項目（コ～シ）は、該当する方のみお答えください。

	A. 理想				B. 現状			
	主に男性	主に女性	男女共同・分担	その他	主に男性	主に女性	男女共同・分担	その他
ア. 食事のしたく	1	2	3	4	1	2	3	4
イ. 食事の後片付け	1	2	3	4	1	2	3	4
ウ. 日常の買い物	1	2	3	4	1	2	3	4
エ. 掃除	1	2	3	4	1	2	3	4
オ. 洗濯	1	2	3	4	1	2	3	4
カ. ゴミだし	1	2	3	4	1	2	3	4
キ. 大工仕事や電気製品の管理	1	2	3	4	1	2	3	4
ク. 生活費の確保	1	2	3	4	1	2	3	4
ケ. 町内会や自治会への出席	1	2	3	4	1	2	3	4
コ. 高齢者や病人の世話・介護	1	2	3	4	1	2	3	4
サ. 育児、子どもの勉強やしつけ	1	2	3	4	1	2	3	4
シ. 学校行事への参加	1	2	3	4	1	2	3	4



問9. 子育てについて、あなたのご意見に近いものはどれですか。 (ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)	そう思う	そう思う どちらかといえば	そう思わない どちらかといえば	そう思わない	わからない
ア. 子どもが小さいうちは、母親は育児に専念したほうがよい	1	2	3	4	5
イ. 子どもの世話の大部分は、父親にもできる	1	2	3	4	5
ウ. 親が仕事のために、子育て支援サービスを活用してもよい	1	2	3	4	5
エ. 子どもは、性別に関係なく個性を伸ばすほうがよい	1	2	3	4	5
オ. 男の子は男らしく、女の子は女らしくしつけるのがよい	1	2	3	4	5
カ. 男の子は家事ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
キ. 女の子は家事ができるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
ク. 男の子は経済的に自立できるように育てるのがよい	1	2	3	4	5
ケ. 女の子は経済的に自立できるように育てるのがよい	1	2	3	4	5

問10. 男性が家事、育児、介護に積極的に参加していくために必要なことは何だと思えますか。
(あてはまるもの3つまでに○)

1. 夫婦や家族間でのコミュニケーションを図ること 2. 社会の中で、男性も家事、育児、介護などをするのが当たり前だという考え方を普及させること 3. 労働時間短縮や休暇制度を充実させ、仕事以外の時間をより多く持てるようにすること 4. まわりの人が夫婦の役割分担意識等についての当事者の考え方を尊重すること 5. 男性が家事などについて関心を高めるような啓発や情報提供をすること 6. 仕事と生活の両立等の問題について、男性が相談しやすい窓口を設けること 7. 公民館や、男女共同参画センター等で講座等を開催し、男性が家事、育児、介護などの技術を習得できるようにすること 8. その他（具体的に 9. わからない

4. 社会活動・地域活動等についておたずねします。

問 11. あなたが現在、仕事以外に行っている活動と、今後新たに始めたい（続けたい）活動は何ですか。
（ア、イそれぞれについて、あてはまるものすべてに○）

	町内会・PTA・子どもクラブ活動	趣味・スポーツ・教養に関する活動	消費生活・環境・リサイクル活動	社会福祉活動	まちづくりなどの活動	職業技術や資格の取得	国際交流活動	その他の活動（	特になし
ア. 現在行っている活動	1	2	3	4	5	6	7	8	9
イ. 今後始めたい（続けたい）活動	1	2	3	4	5	6	7	8	9

問12. あなたが仕事以外の活動（社会活動・地域活動など）に参加しようとするうえで、どのようなことが問題になると思いますか。
（あてはまるものすべてに○）

<ol style="list-style-type: none"> 1. 時間の余裕がない 2. 家族の協力や理解がない 3. 子どもや高齢者等を預けるための施設やホームヘルパー制度などが充実していない 4. 身近な所に活動する場所がない 5. 参加したいが、どこでどのような活動をしているのかという情報が不足している 6. 経済的に余裕がない 7. リーダーや代表者になると責任が重すぎる 8. 健康や体力に自信がない 9. 職場の上司や同僚の理解が得られない 10. その他（具体的に 11. 特に問題はない 12. 活動自体したくない)
---	---

問13. あなたは、次にあげるような役職や公職に「女性がもっと就いた方がよい」と思いますか。

(ア～カそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	そう思う	どちらかといえばそう思う	どちらかといえばそう思わない	そう思わない
ア. PTA会長、子どもクラブ会長	1	2	3	4
イ. 職場の管理職	1	2	3	4
ウ. 町内会長、区長、自治会長	1	2	3	4
エ. 県や市町村の審議会や委員会のメンバー	1	2	3	4
オ. 国会議員、県議会議員、市町村議会議員	1	2	3	4
カ. 知事や市町村長	1	2	3	4



問14. もし、あなたが次にあげるような役職や公職への就任や立候補を依頼されたとしたらどうしますか。

(ア～カそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	引き受ける	状況により引き受ける	こじわる	わからない
ア. PTA会長、子どもクラブ会長	1	2	3	4
イ. 職場の管理職	1	2	3	4
ウ. 町内会長、区長、自治会長	1	2	3	4
エ. 県や市町村の審議会や委員会のメンバー	1	2	3	4
オ. 国会議員、県議会議員、市町村議会議員	1	2	3	4
カ. 知事や市町村長	1	2	3	4

問15. 防災・災害復興における次の事項について、女性に配慮して取り組む必要があると思いますか。

(ア〜クそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	特に必要 である	必要である	必要でない	どちらとも いえない
ア. 防災に関する方針決定に女性の参画拡大を行う (例：防災会議構成員への女性の積極的な登用)	1	2	3	4
イ. 女性消防職員・警察官を積極的に採用する (例：災害復興時における女性消防職員等の適正配置)	1	2	3	4
ウ. 避難所の設置・運営に配慮する (例：トイレ、更衣室の確保等)	1	2	3	4
エ. 避難所の運営に女性が関わる (例：避難所運営役員への女性の参画)	1	2	3	4
オ. 女性の相談窓口を設置する (例：女性相談員による専門の窓口設置)	1	2	3	4
カ. 備蓄物資に配慮する (例：医薬品、介護用品、生理用品の確保等)	1	2	3	4
キ. 医療体制に配慮する (例：診察室の確保等)	1	2	3	4
ク. 災害復興時における治安をよくする (例：夜間等の警備の強化)	1	2	3	4

5. 仕事についておたずねします。

問16. あなたの職業をお答えください。

(あてはまるもの1つに○)

1. 給与所得者（正社員）	7. 会社などの役員
2. 給与所得者（パート・アルバイトなど）	8. 学生
3. 自営業者（経営的立場）	9. 家事専従者（専業主婦・主夫）
4. 自営業者（家族従業員）	10. 仕事をしていない
5. 農林水産業従事者（経営的立場）	11. その他（具体的に
6. 農林水産業従事者（家族従事者）)

問16で「1. 給与所得者（正社員）」「2. 給与所得者（パート・アルバイトなど）」と答えた方におたずねします。

問17. あなたの職場で、性別による待遇の違いはありますか。 (ア～ケそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)	優遇されている 男性のほうが	平等である	優遇されている 女性のほうが	ない どちらともいえ
ア. 採用時の条件	1	2	3	4
イ. 賃金	1	2	3	4
ウ. 昇進・昇格	1	2	3	4
エ. 能力評価	1	2	3	4
オ. 仕事の内容	1	2	3	4
カ. 仕事に対する責任の求められ方	1	2	3	4
キ. 研修の機会や内容	1	2	3	4
ク. 有給休暇や育児休業・介護休業の取得のしやすさ	1	2	3	4
ケ. 結婚退職や出産退職などの慣習	1	2	3	4

すべての方におたずねします。

問18. 男女が対等に働くためには、どのようなことが必要だと思いますか。
(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|---|---|
| <ol style="list-style-type: none"> 1. 女性の職域を拡大する 2. 賃金、昇給の男女の格差をなくす 3. 組織運営を見直し、女性の管理職への登用を進める 4. 男女ともに、能力を発揮できる配置を行う 5. 女性の能力、チャレンジ意欲を向上させるための教育・研修機会を充実する 6. 女性の採用・登用・教育訓練などに目標を設けたり、女性の進出を促す計画を策定する 7. 結婚退職、出産退職の慣行を当然とする企業風土を改善する 8. 男女ともに育児・介護休業など休暇を取りやすいようにする 9. パートタイマー・派遣労働者の給与・労働条件を改善する 10. 職場において男女が対等であるという意識を普及させる 11. 女性自身の職業に対する自覚・意欲を高める 12. その他（具体的に 13. わからない |) |
|---|---|

問19. 子どもが生まれた場合の収入を得る仕事の継続について、あなたのお考えに近いものは何ですか。

(あてはまるもの1つに○)

- | | |
|---|---|
| 1. 子どもが生まれても、収入を得る仕事を続ける | |
| 2. 子どもが生まれたら、育児休業等を取得してから、収入を得る仕事に戻る | |
| 3. 子どもが生まれたら、一旦収入を得る仕事をやめ、子育てを終えてから収入を得る仕事に戻る | |
| 4. 子どもが生まれたら、収入を得る仕事をやめて、子育てが終わっても収入を得る仕事はしない | |
| 5. その他（具体的に |) |
| 6. わからない | |

問20. 育児や家族介護を行うために、法律に基づき育児休業や介護休業を取得できる制度があります。この制度を利用して、男性が育児休業や介護休業等を取得することについて、あなたはどのように思いますか。

(ア～ウそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	積極的に 取得した 方がよい	どちらか といえば 取得した 方がよい	どちらか といえば 取得しない 方がよい	取得しない 方がよい	わからない
ア. 育児休業	1	2	3	4	5
イ. 介護休業	1	2	3	4	5
ウ. 時短勤務	1	2	3	4	5



6. 男女の人権についておたずねします。

問21. あなたは、次のようなことがセクシュアルハラスメントにあたると思いますか。

(ア～キそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	どんな場合でも セクハラにあたる	セクハラの場合と そうでない場合がある	セクハラにあたる とは思わない
ア. スリーサイズを聞くなど身体的特徴を話題にする	1	2	3
イ. 食事やデートにしつこく誘う	1	2	3
ウ. 性的な噂を立てたり、性的なからかいの対象とする	1	2	3
エ. 「男のくせに根性がない」、「女には仕事を任せられない」、「女性 性は職場の花でありさえすればいい」などと発言する	1	2	3
オ. 性的指向や性自認を本人の承諾なしに第三者に漏らす	1	2	3
カ. 身体に不必要に接触する	1	2	3
キ. カラオケでのデュエットを強要する	1	2	3

問22. あなたは、次のようなことがストーカー行為にあたると思
いますか。

(ア～キそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	どんな場合でも ストーカー行為にあたる	ストーカー行為の場合と そうでない場合がある	ストーカー行為にあたるとは 思わない
ア. 行動先（通勤途中、外出先等）で待ち伏せする	1	2	3
イ. 「いつも見ているぞ」等と監視していることを告げる	1	2	3
ウ. 贈り物を受け取るように要求する	1	2	3
エ. 尾行する、つきまとう	1	2	3
オ. 電話をかけてくるが何も告げない（無言電話）	1	2	3
カ. 拒否しているにもかかわらず、何度もメッセージ等を送信してくる	1	2	3
キ. 名誉を傷付けるような内容を告げたりメールを送るなどする	1	2	3

問23. あなたは、次のようなことが夫婦や恋人の間で行われた場合、暴力にあたると思いますか。
 (ア～タそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)

	暴力にあたる どんな場合でも	暴力の場合と そうでない場合がある	暴力にあたるとは 思わない
ア. 刃物などを突きつけて、おどす	1	2	3
イ. 身体を傷つける可能性のある物で、なぐる	1	2	3
ウ. 平手でぶつ、足でける、物を投げつける	1	2	3
エ. なぐるふりをしておどす	1	2	3
オ. いやがるのに、性的な行為を強要する	1	2	3
カ. 見たくないのに、アダルトビデオやポルノ雑誌を見せる	1	2	3
キ. 何を言っても、無視し続ける	1	2	3
ク. 交友関係や電話、郵便物等を細かく監視する	1	2	3
ケ. 実家や友人との付き合いを制限する	1	2	3
コ. 「だれのお陰で生活できるのか」「甲斐性なし」などと言う	1	2	3
サ. 大声でどなる	1	2	3
シ. 生活費を渡さない	1	2	3
ス. 避妊に協力しない	1	2	3
セ. 中絶を強要する	1	2	3
ソ. 子どもに危害を加えると言っておどす	1	2	3
タ. 大事にしているペットに危害を加える、物をこわす	1	2	3

女性に対する暴力根絶のためのシンボルマーク



問24. あなたは、これまでに、配偶者や交際相手から、次のようなことをされた経験はありますか。 (ア～オそれぞれについて、あてはまるもの1つに○)	何回もあった	1、2回あった	まったくなかった
ア. なぐったり、けったり、物を投げつけたり、突き飛ばしたりするなどの身体的暴力を受けた	1	2	3
イ. 人格を否定するような暴言、脅迫やおどし、何を言っても無視するなどの精神的暴力を受けた	1	2	3
ウ. 友人や親兄弟に会わせない、外出させない、手紙を勝手に見るなどの社会的暴力を受けた	1	2	3
エ. 生活費を渡さない、借金を強いる、収入を教えないなどの経済的暴力を受けた	1	2	3
オ. 見たくないのに、アダルトビデオ等を見せられたり、いやがっているのに性的行為を強要したり、避妊に協力しないなどの性的暴力を受けた	1	2	3

問24で「何回もあった」「1、2回あった」と答えた方だけにおたずねします。

問25. 暴力があった時点でのあなたと相手との関係をお答えください。

(あてはまるものすべてに○)

1. 配偶者	3. 交際相手	5. その他
2. 元配偶者	4. 元交際相手	(具体的に)

問24で「何回もあった」「1、2回あった」と答えた方だけにおたずねします。

問26. あなたはそのことを、だれかに打ち明けたり、相談したりしましたか。

(あてはまるものすべてに○)

1. 家族	4. 弁護士	7. 学校・職場
2. 友人	5. 医師・カウンセラー	8. その他 ()
3. 警察	6. 市や県の窓口	9. 相談しなかった

問26で「9. 相談しなかった」と答えた方におたずねします。

問27. どこ（だれ）にも相談しなかったのは、なぜですか。

（あてはまるものすべてに○）

1. どこ（だれ）に相談してよいのかわからなかったから
2. 恥ずかしくてだれにも言えなかったから
3. 相談しても無駄だと思ったから
4. 相談したことがわかると、仕返しや、もっとひどい暴力を受けると思ったから
5. 加害者に「だれにも言うな」とおどされたから
6. 相談相手の態度や言動によって不快な思いをさせられると思ったから
7. 自分さえがまんすれば、なんとかこのままやっていけると思ったから
8. 子どもに危害が及ぶと思ったから
9. 世間体が悪いから
10. 他人を巻き込みたくなかったから
11. 他人に知られると、これまでどおりの付き合い（仕事や学校などの人間関係）ができなくなると思ったから
12. そのことについて思い出したくなかったから
13. 自分にも悪いところがあると思ったから
14. 相手の行為は愛情の表現だと思ったから
15. 相談するほどのことではないと思ったから
16. その他（具体的に

すべての方におたずねします。

問28. あなたは、配偶者や交際相手などからの暴力の防止や被害者支援のために、特にどのようなことが必要だと思いますか。

（あてはまるものすべてに○）

1. 加害者から逃げるための一時保護制度などの法的支援の情報提供を行う
2. 被害者や悩んでいる人に対する相談体制を充実する
3. 暴力を防止するための広報・啓発活動を積極的に行う
4. 学校で児童・生徒に対し、暴力を防止するための教育を充実する
5. 家庭で保護者が子どもに対し、暴力を防止するための教育を充実する
6. 加害者を近寄らせないようにする保護命令制度などの法的支援の情報提供を行う
7. 避難した被害者の移転先などの情報が加害者に伝わらないように情報の管理を徹底する
8. 公営住宅等を活用して被害者が住居を確保できるように支援する
9. 被害者の自立のための経済的支援を行う
10. 被害者を発見しやすい立場にある警察や医療関係者などに対し、啓発を行う
11. その他（具体的に
12. 特にない

問29. セクシュアルハラスメント、ストーカー行為、配偶者や交際相手からの暴力について、相談できる窓口としてどのようなところを知っていますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | | |
|--|------------------------------|
| 1. 警察本部（生活安全企画課）・警察署 | 9. DV被害者支援センター
（紀南DVセンター） |
| 2. 家庭裁判所 | 10. 和歌山県男女共同参画センター「りいびる」 |
| 3. 弁護士 | 11. 和歌山労働局 雇用環境・均等室 |
| 4. 法テラス和歌山 | 12. 田辺市男女共同参画センター「女性電話相談」 |
| 5. 法務局、人権擁護委員 | 13. 市役所の相談窓口 |
| 6. 民生委員・児童委員 | 14. 民間団体（NPOなど）の相談機関 |
| 7. 和歌山県配偶者暴力相談支援センター
（子ども・女性・障害者相談センター） | 15. SNS相談「Cure time」 |
| 8. 性暴力救援センター和歌山
「わかやまmine(マイン)」 | 16. 電話・メール・チャット相談「DV相談+」 |
| | 17. その他（具体的に) |

7. 性的少数者の方の人権についておたずねします。

問30. 「LGBTQなどの性的少数者（セクシュアルマイノリティ）の方の人権」に関することで、人権上、どのようなことが問題だと思えますか。

(あてはまるものすべてに○)

- | |
|--|
| 1. 理解や認識が不足している |
| 2. 侮辱やいやがらせがある |
| 3. 就職の時や職場で不利な取り扱いをうける |
| 4. 相談・支援体制が十分ではない |
| 5. アパートや公営住宅等への入居の際、同居親族にあたらなとして拒否される |
| 6. パートナーが入院したが、家族等にあたらなため、付き添いや看護をさせてもらえない |
| 7. 性的指向・性自認について悩みを抱えていることを公表できる社会になっていない |
| 8. アウティング（個人の性的指向や性自認について本人の同意なく暴露すること）がある |
| 9. 同性婚が認められていない |
| 10. その他（具体的に) |
| 11. 特に問題のあるものはない |
| 12. わからない |

8. これから必要な施策についておたずねします。

問31. 田辺市では、男女共同参画社会の実現をめざし、今後、どのようなことに力をいれていくべきだと思いますか。

(あてはまるもの3つまでに○)

1. 男女共同参画の視点から、慣習の見直しや啓発をすすめる
2. 政策や方針決定過程への女性の参画を拡大する
3. 就労における男女の機会均等や就業環境の整備をすすめる
4. 子育て、介護に対する多様な支援を充実する
5. 男女平等の視点に立った教育や学習をすすめる
6. DV・デートDV（配偶者・交際相手からの暴力）を防止するための啓発を推進する
7. 女性のための相談機能を充実する
8. 男性のための相談機能を充実する
9. 市の広報紙やパンフレットなどで男女平等と相互理解について啓発する
10. 各種団体における男女共同参画をすすめる取組みを支援する
11. 農林水産業、自営業において男女共同参画をすすめる
12. 女性リーダーの育成をすすめる
13. 男女の仕事と家庭との両立を支援する
14. 男女共同参画を推進する条例を制定する
15. 性的少数者に対するパートナーシップ宣誓制度を制定する
16. その他（具体的に _____)
17. わからない

◎田辺市が男女共同参画に関する施策をすすめる上で、市へのご意見・ご要望がありましたら、どんなことでも結構です。ご自由にお書きください。

質問は以上です。ご協力ありがとうございました。

記入もれがないか、もう一度ご確認のうえ、同封の返信用封筒に入れ、10月31日（月）までにポストにご投函ください。（切手は不要です）

第3次田辺市男女共同参画プラン策定
に係るアンケート調査
結果報告書
(市民アンケート調査)

発行:田辺市 男女共同参画推進室
TEL:0739-26-4936
市ホームページ: <https://www.city.tanabe.lg.jp/>

発行年月:令和5年3月